対馬丸記念館

〒900-0031
沖縄県那覇市若狭1丁目25番37号
tel: 098-941-3515
fax: 098-863-3683
e-mail: info@tsushimamaru.or.jp

対馬丸記念館20周年記念誌

2004-2024

対馬丸記念館20周年記念誌

対馬丸記念館20周年記念誌

2004-2024

発刊の辞

公益財団法人対馬丸記念会 代表理事

髙良 政勝

太平洋戦争中の1944年8月22日、沖縄から九州へ疎開する子どもたちを乗せた学童疎開船「対馬丸」が悪石島の沖合で米潜水艦の魚雷で撃沈されてから、2024年で80年が経ちました。

長年、遺族たちは子どもたちを海底に眠らせたままにしてはおけない、と船体引き揚げを国に要請してきました。1998年、国は880ｍの深海から沈没後50年余を経た老朽船を引き揚げるのは不可能と結論。遺族たちは「ならば、対馬丸事件を後世に伝える施設が必要だ」と国に要請し、2001年6月「対馬丸記念館」建設が決定しました。

遺族たちはその運営主体となるに当たり、同年7月4日、任意団体から移行し、財団法人対馬丸記念会を設立登記しました。設置場所については、那覇市の補助を得て小桜の塔のある旭ヶ丘公園内に決まりました。

私は遺族として、また生存者として出来ることがあれば、と参加した会合で、思いがけず理事長就任を仰せつかり、とまどいながらのスタートでした。

2004年の開館から早20年が経過しました。遺族たちの思いを何より大切に、対馬丸の子どもたちの死を無駄にせず、平和を訴え、発信していこうとの信念で活動してきました。お陰様でこの小さな記念館へ、2024年までに35万人の方にご来館いただきました。また、天皇・皇后両陛下、政府の要職に就かれている方、文化人、芸能人の多くのみなさまに心を寄せていただき、改めてお礼申し上げます。

これまで記念館の建設・存続に並々ならぬ情熱とご尽力をいただいたみなさまに最大限の感謝を申し上げるとともに、今後とも世界平和の発信基地として頑張る所存です。温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

開館20周年記念誌発刊に寄せて

沖縄県知事　玉城 デニー

対馬丸記念館の開館から20周年を迎えるにあたり、御挨拶申し上げます。

1944（昭和19）年８月22日、沖縄からの学童疎開者を乗せた対馬丸は、米潜水艦による攻撃を受けて海中に没し、現在、判明しているだけでも学童784名を含む、1,484名の尊い命が奪われました。

対馬丸記念館は2004（平成16）年８月に開館して以来、犠牲者の鎮魂と今を生きる子どもたちに平和と命の尊さを教え、対馬丸事件を正しく後世に伝えていくことを目的に、沖縄の平和教育の象徴の要所として、多くの方々に平和への願いを発信してこられました。

事件から80年という歳月が経過してもなお、御遺族の無念さと深い悲しみは癒えることはありませんが、この悲惨な事件を決して風化させず、語り継いでこられた関係者の皆様の努力に心からの敬意を表します。

展示された遺品や遺影等は、未来への希望を奪われた子どもたちの悲しみや平和の尊さを来館者に訴えかけるほか、とりわけ語り部の方々による自身の体験やその後の葛藤など貴重な証言の数々は、今も私たちの胸を締め付けます。

一方では、生存者の高齢化が進む中、戦争の記憶を直接語り継ぐ機会が徐々に少なくなってきており、悲惨な沖縄戦の実相と教訓を次の世代に継承していくことが大変重要となっています。

そのような中、対馬丸記念館では展示資料の充実、平和教育の実践、語り部活動の継承などに取り組んでおり、戦争の記憶を語り継ぎ、平和への願いを次世代へ伝える場として県民の期待が益々高まっています。

県としましても、対馬丸の悲劇の歴史を通して平和の大切さを発信し続ける対馬丸記念館の「存在意義」が益々高まり、引き続き多くの方々が訪れる記念館となりますよう、国や関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

結びに、対馬丸事件で亡くなられた全ての御霊の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、対馬丸記念館の平和への願いが多くの人々に届き、益々充実していかれますこと、並びに関係者の皆様の御多幸を心から祈念いたします。

対馬丸記念館開館20周年に寄せて

那覇市長　知念 覚

対馬丸記念館開館20周年にあたり、対馬丸撃沈による多くの犠牲者の方々並びにそのご遺族の皆様に、心から哀悼の意を表します。

沖縄県は、先の大戦において、国内唯一の地上戦の戦場となり、20万人余の尊い命とともに多くのものが焼失され、破壊されました。

昭和19年８月22日には、鹿児島県悪石島沖合で、疎開船対馬丸が米軍の潜水艦の魚雷攻撃によって、沈没の憂き目に遭い、一瞬の内に大勢の方々が犠牲になりました。その犠牲者の大半が親元を離れて疎開先に向かう15歳以下の子どもたちであり、戦時中においても「未来の夢」を持っていた子どもたちでした。その悲劇は、非常に悲惨で、痛恨の極みであり、ご遺族の皆様の悲しみは、どれほど深かったことかと拝察いたします。

平成16年８月に設立されました対馬丸記念館におかれましては、「悲しみを『希望』にかえ、憎しみの報復の連鎖を断ち切る」を基本理念として、長年にわたり、対馬丸事件の悲劇や戦争の悲しみを語り継ぐだけでなく、平和な世界の構築には、人々の「想い」と平和への強い「希望」が大切であると多くの来場者の方々に伝えてこられていることに深く敬意を表します。

戦後80年、焦土と化した本市は、多くの人々の労苦と努力によって、今では31万余の人口を擁する中核市となり、県都としてめざましい発展を遂げています。私たちは、この豊かで平和な社会が、先人の戦禍に奪われた尊い命を想う心と、平和を希求する心で幾多の困難を乗り越えてこられた上に成り立っていることを、決して忘れてはなりません。

本市では、目指すまちの姿として、「交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり」を掲げており、先の大戦での経験を継承し、平和を希求する市民の想いを受け継いでいくために、市内小中学校と連携し、対馬丸記念館等の場を活用した、平和学習の機会を創出しております。

戦後80年が経過した今も、世界各地で紛争が続き、子どもたちの命が失われていく中、対馬丸記念館の掲げる理念は、変わらず重要なものと考えております。

結びに、対馬丸犠牲者の御霊のご冥福をお祈りし、併せてご遺族の皆様のご健勝を祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

1944年~2004年~2024年

夢と希望に向かって——
対馬丸記念館

桜の季節の対馬丸記念館

小桜の塔　1959年6月9日移転改修

対馬丸慰霊碑（十島村悪石島）
1962年6月10日建立

對馬丸慰霊之碑（宇検村船越海岸）
2017年3月19日建立

古堅小学校の慰霊碑
1990年8月22日建立

垣花小学校平和のモニュメント
2022年7月13日建立

泊小学校平和のモニュメント
2024年8月26日建立

対馬丸記念館起工式　2003年10月22日

対馬丸の子どもたちと
今を生きる子どもたちが出会う場所

対馬丸記念館竣工　2004年5月

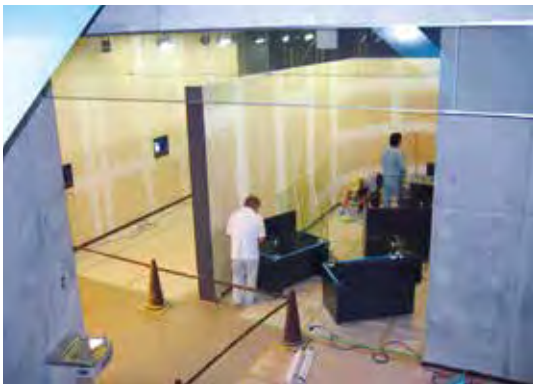
敷地内のガジュマルを移植、再移植

資料づくりのため、生存者から聞き取り、
証言のすり合わせ

玉串奉奠の儀（起工式）

地盤の地耐力を確保するため
ワインディングパイプを敷設した

展示作業



機器が運び込まれる

開館記念式典　2004年8月22日

髙良理事長から感謝状を贈られる
悪石島小中学校（現 悪石島学園）の代表

語り部のみなさま

中島高男
対馬丸元乗組員

大島安徳
宇検村の語り部

糸数裕子
生存者・元訓導

喜屋武盛守
生存者・遺族

儀間真勝
生存者

平良啓子
生存者・遺族

外間邦子
遺族・対馬丸記念会常務理事

未来へ伝えたい、
平和への想い

當間栄安
記念館協力者

髙良政勝
生存者・遺族・対馬丸記念会代表理事

花岡麗華
語り部講座修了生

上原清
生存者

嶋田玲子
遺族

上原妙
生存者・対馬丸遭難者遺族会第5代会長

照屋恒
生存者・遺族

渡口眞常
遺族・対馬丸記念会副代表理事

友寄賢吉
記念館協力者

その他の歴代語り部のみなさま

吉田董男	新崎美津子	高嶺初子	照屋清美
金城節子	齋藤勝	謝花奈津子	

天皇皇后行幸啓　2014年6月27日

小桜の塔へ献花

塔の前で両陛下をご案内する髙良代表理事

記念館の入り口でお出迎えする外間常務理事

対馬丸記念館を訪れたみなさま

秋篠宮文仁親王と佳子内親王

橋本龍太郎
第82・83代内閣総理大臣

小泉純一郎
第87代内閣総理大臣

鳩山由紀夫
第93代内閣総理大臣

岸田文雄
第100・101代内閣総理大臣

小池百合子
内閣府沖縄担当大臣・環境大臣

稲嶺恵一
第5代県知事

仲井眞弘多
第6代県知事

翁長雄志
第７代県知事

玉城デニー
県知事

鈴木宗男
元沖縄開発庁長官

下地幹郎
元沖縄開発政務次官

茅原南龍
書家

千玄室
茶道裏千家前家元

池辺晋一郎
作曲家

海老名香葉子
エッセイスト

菅原文太
俳優

ちゃーがんじゅう講座　2004年12月2日～現在

公益目的事業の一つに「講習会及び遺族と地域住民との交流促進」を掲げ、ちゃーがんじゅう講座を開催している。

1

2

3

4

1 第9回　沖縄の昔話
講師：宮沢貞子（むかしばなし研究者）
2008年9月4日

2 第10回　沖縄の不発弾で子どもの命を救おう
講師：具志堅隆松（沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」事務局長）
2008年12月7日

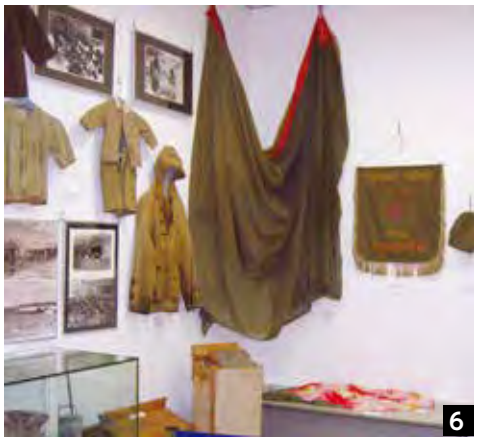
3 第11回　島人の肝心 ―沖縄の昨日、今日、そして未来―
講師：崎原真弓（カリスマ・スーパーバスガイド）
2009年12月6日

4 第27回　講談で語る対馬丸 ―恩師が教えた平和の大切さ―
講師：旭堂南照（講談師）
2015年6月20日

特別展　2004年8月26日～現在

2004年の開館当初から1階企画展示室にて定期的に開催している。

5


6

7

8

9

5 第2回 石田壽長崎原爆写真展
主催：石田穣一（ゆたかはじめ）
2005年3月1日～3月31日

6 第5回 沖縄戦後の復興 Part 2
2006年6月23日～8月30日

7 第16回 テレジン収容所にいた小さな画家たちパート2
主催：世界児童画展沖縄実行委員会
2011年11月18日～11月30日

8 第8回「沖縄戦時下の住民 ―かくして沖縄は戦場となった―」
2007年6月23日～8月29日

9 第26回　奄美大島と対馬丸 ―いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる―
2016年8月22日～10月2日

つしま丸児童合唱団の活躍

1 開館20周年シンポジウムでは宮城さつき（フリーアナウンサー）の指導で、紙芝居「2つのランドセル」を音楽と朗読で演じる。2024年6月1日

2 小桜の塔で鯉のぼりを揚げる合唱団の子どもたち

3 沖縄全戦没者追悼式に式典合唱団として参加。2017年6月23日

4 第1回ちゅらうちなー草の根平和貢献賞受賞式典にて。2019年12月26日

5 大城立裕・新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」に出演。2012年11月11日

6 髙里千穂子（つしま丸児童合唱団指導者）

那覇青少年舞台プログラムの慰霊の日イベント

7 対馬丸記念館エントランスにて

8 屋外演舞

9 奥平裕子（那覇青少年舞台プログラム会長）

目　次

発刊の辞 …… 髙良　政勝　公益財団法人対馬丸記念会代表理事

開館20周年記念誌発刊に寄せて …… 玉城デニー　沖縄県知事

対馬丸記念館開館20周年に寄せて …… 知念　覚　那覇市長

グラビア　1944年～2004年～2024年

対馬丸事件から80年　小桜の塔建立から70年　対馬丸記念館開館20周年
祈念事業　18

シンポジウム　「対馬丸」から学ぶ子どもと平和　～平和な未来をともに創るために～　18
慰霊祭／祈念式典／謝恩会／夜の慰霊祭他　24

通史編

第１章　対馬丸記念館前史（1944年～1998年） …… 30

第２章　対馬丸記念館をつくる（1999年～2004年） …… 34

第３章　対馬丸記念館奮闘す …… 42

第４章　出会いと対話 …… 52

第５章　今を生きる子どもたちへ …… 57

ひと・もの・こと編

〈ひと〉　64

新里 清篤　64　松浦 浅吉　66　喜屋武 盛榮　68　髙良 政勝　70　糸数 裕子　72
平良 啓子　74　上原　清　76　照屋　恒　78　浜崎 盛久　80　外間 邦子　82
大城 立裕　84　元田 信有　86　嘉数 昇明　88　當間 栄安　90　齋藤　勝　92
照屋　寛　94　島袋 貞治　96　上原 一路　98　浦崎 康華　100

〈もの〉　101

〈こと〉　113

資料編

歴代会長、理事長、代表理事 …… 120

対馬丸記念館キャラクター　キヨシくん、ケイコちゃん …… 121

歴代役員（2001年～2024年） …… 122

特別展一覧 …… 126

ちゃーがんじゅう講座一覧 …… 128

入館者推移（2004年～2024年） …… 130

語り部活動状況（2005年～2024年） …… 131

多額の浄財をお寄せいただいたみなさま …… 132

年表　対馬丸記念館の歩み（1997年～2024年） …… 133

対馬丸事件の伝承に携わった物故者のみなさま …… 151

『琉球新報』対馬丸記念館関連掲載記事一覧（2004年～2024年） … 152

20周年記念誌編纂作業を振り返って　159

凡例

1. 年号は主として西暦を用い、適宜元号を付した。
2. 文中の人名の敬称は略した。
3. 〈もの〉は、当記念館の印刷物のほか、開館後寄せられた書籍・ＤＶＤ・絵画・書などを中心に紹介した。

祈念事業　シンポジウム

「対馬丸」から学ぶ子どもと平和
～平和な未来をともに創るために～

対馬丸記念館が開館して20年の節目に、これまでの活動を振り返り、遺族や教育現場の皆様と対馬丸記念館の資料館・博物館としての役割や可能性を検証し、考える機会とした。

開催日時：2024年6月1日　**場所：**沖縄県立博物館・美術館３階講堂

総合司会：嶋田玲子（対馬丸記念会理事）

コーディネーター

平良 次子 たいら・つぎこ
対馬丸記念館館長

パネリスト

外間 邦子 ほかま・くにこ
姉二人が対馬丸事件の犠牲者、対馬丸記念会常務理事

渡口 眞常 とぐち・まさつね
兄二人が対馬丸事件の犠牲者、対馬丸記念会副代表理事

眞榮城 善之介 まえしろ・ぜんのすけ
那覇市立真和志小学校教諭、義祖母が対馬丸の生存者

島袋 貞治 しまぶくろ・さだはる
対馬丸記念会前事務局長、琉球新報暮らしグループ副グループ長

前田 比呂也 まえだ・ひろや
美術家、漆工房前田貝揃案代表
元沖縄県立博物館・美術館副館長、元中学校校長

普天間 朝佳 ふてんま・ちょうけい
ひめゆり平和祈念資料館館長

遺族の立場から　**外間 邦子**

遺族にとっての記念館の存在

５年生と３年生の姉二人が、対馬丸の犠牲になりました。私は当時幼稚園生で、学童疎開には参加できませんでした。一瞬にして娘二人を失った母が、毎朝、仏壇に手を合わせる、その後ろ姿を見て育ち、淋しい思いもしましたので、対馬丸に対するこだわりをずっと持ち続けてきました。

沖縄で戦争が起きて、子どもたちが犠牲になっては、という親たちの思いがあって、昭和19年の8月21日、那覇の港から対馬丸を含む３隻の船で九州へ向けて疎開をしました。22日の夜の10時過ぎにアメリカの潜水艦から魚雷が発射され、わずか10分間で悪石島の870mの深い海の底に、780人の子どもたちを含む、1,484人の命が沈められたのです。

子どもたちを海の底に眠らせておくことは、両親にとって、どんなに苦しく辛いことだったか。1,000人の子どもたち、みんなを迎える場所。それが必要だと思いました。それで、国や県へ何度も要請を繰り返し、やっと記念館をつくることができました。自分たちの代わりに、今の子どもたちが命を大事にして、夢と希望に向かって歩んでいけるよう、対馬丸の子どもたちから今の子どもたちにバトンを渡す場所、それが対馬丸記念館です。その存在は、遺族にとっても大きな拠りどころとなりました。

私たちの命はやがて尽き果てます。対馬丸の子どもたちの命は、平和の守り神として永遠に歩む。記念館よ、永遠なれ、と祈る気持ちです。開館から20年、つしま丸合唱団の活躍や、また、記念館を訪れた子どもたちから、展示の感想文や平和のメッセージ、絵や詩などが寄せられ、名実ともに、子どもたちみんなの記念館になったと思っています。

来賓祝辞を述べる
玉城デニー知事

「開館20周年を支える会」
呼びかけ人代表、稲嶺 惠一

記念館運営の立場から　**渡口 眞常**

課題や問題

対馬丸記念館は、狭小な建物ですが、ゾーンごとに整備されていて、調べ学習ができるようにワークブックも提供しています。展示は子ども目線で、子どもでも理解できるように工夫しています。

記念館ができたことで、生存者による積極的な語り伝えが行われてきました。現在、生存者は確認できるだけで14、5人ですが、事件から80年が経過して、語りができる現役はわずか２人となりました。語り部養成は希望する方にマンツーマンで、その人のペースで指導し、現在お一人ですが、立派に成果を上げています。

疎開当時の子どもたちの暮らしを追体験するという趣旨の「平和継承プログラム」は、前年度までは「疎開体験プログラム」という名称でしたが、未来志向の体験事業とするべく名称を募集中です。疎開体験が、疎開の予行演習にならないように、世論の平和に対する高まりが必要だと思います。

今年創立12年を迎えるつしま丸児童合唱団は、歌声を通した平和活動で、全沖縄戦没者追悼式等、いろいろなシチュエーションで活躍しています。

入館者数は2024年5月27日で35万人を達成しました。昨年（2023）の入館者数は18,815人で、語り部活動は7人で91回実施しています。展示は開館5周年の2009年に一部リニューアルしています。外国人の来館者のために、3年前にデジタルサイネージ（画面で翻訳された解説を見てもらう）を導入しました。それから情報発信として、ホームページやＳＮＳ、また開館当初から県内マスコミ向けに、ニュースリリースを作成・送付しています。

課題は、団体見学時の大型バス駐車場の確保です。また、20年が経過して機器の老朽化が進んでいます。

今後の展望としては、対馬丸の船体の一部でも入手できないか。せめて沈没位置を再調査して、最新の技術、３Ｄ等で見える化するという方策を進めていきたいと思っています。

最後にこれまで20年、多くの方にご支援をいただきまして、ここで改めて感謝を申し上げます。

教育現場の立場から　**眞榮城 善之介**

学校で記念館をどう生かすか

学校では記念館を、平和学習の一環として、見て学ぶ体験の場として活用しています。また、記念館の職員にゲスト・ティーチャーとして来校していただき、講話をしてもらう。聞いて学ぶということで情報の場を設定してもらっています。三つ目は記念館の主催する事業に賛同し、学校内で積極的に周知しています。

しかしながら、平和学習とか、命の尊さを学ぶ学習において、私を含め多くの教員が課題にぶち当たっています。子どもたちは命は大切であるということを、すでに知っています。知っていることを教えることはすごく難しいことです。ただし、実感を伴っているのかというところの課題。また命と死は表裏一体の部分があり、命を扱う授業は、どうしても重苦しい雰囲気になってしまいます。そして、平和学習で子どもたちの感想を読んでいると「戦争は怖い、平和でよかった」という、平和学習イコール戦争の怖ろしさを知る、に留まっ

左から、コーディネーターの平良次子、外間邦子（パネリスト）、渡口 眞常（同）

ているのではないか。命の尊さまでしっかり結び付けていかなければいけないのではないか、と考えています。

教員が、平和を次世代へ語り継いでいくという役目の重責を自覚して、記念館を今後どう生かしていくか。従来の見学、講師招聘、情報収集に加え、時代のニーズに合った地域教材を開発するなどの創意工夫が必要ではないか、と考えます。二つ目に、戦争を扱う教育や教材づくりは、「戦争は残酷だ、平和であり続けてほしい」という大切だけど、当然すぎる、一般的な考えに留まるのではなく、自分や身近な命の尊厳につながるような授業の工夫が必要だと考えています。そのためにも我々、教育現場の立場としては、今後も貴重な情報源の拠点として、記念館を継続させてほしいという願いを持っています。

教育現場の立場から　**前田 比呂也**

記念館活用例（展示キャプション英訳他）

私の学校経営の柱は、戦争は昔のことではなくて、今のことだということでした。上山中学校の校区に対馬丸記念館があります。慰霊の日に合わせて、髙良政勝先生に学校で講話をしていただきました。講話のあと、雑談している中で、記念館の近くにクルーズ船のターミナルができて、外国からのお客さんが来るようになったと聞きました。記念館は、基本的に情報展示の館ですけれど、残念ながらすべてが日本語だけの解説なので、なかなか外国の人に伝わらない。英語の解説をつけたいけれど予算の確保も難しく、どうしようもない、というお話をされていたので、では、生徒に英訳をさせてください、というお願いをしました。

（英訳が）出来上がるまで、とても時間がかかりました。まず、疎開、空襲などの単語を調べ、どのような文法を使えば、子どもたちの心情が伝わるのか、議論を重ねました。英語科の屋比久リカ子教諭は、思いの籠った訳にこそ、意味があると考え、基本的に生徒たちの英訳を採用したと話していました。生徒たちの英訳文と感想文を目にした髙良理事長は「犠牲になった子どもたちのことを先輩と呼んでくれた。遠いできごとではなくて、自分たちの問題として引き寄せてくれた」というふうにおっしゃっていただきました。また、子どもたちにとっては、英訳に携わったことが誇りになりました。

慰霊の日特設授業を継続していくには課題があります。たぶん風化ですよね。遠い昔のできごとと思われているからかも知れません。しかし、慰霊の日特設授業は、沖縄戦を教えるだけの授業ではないと考えています。平和を考える時間だと考えたいです。何故、大切ですか。それは私たちが戦後を生きているのではなく、私たちは今、戦前を生きているからです。平和は待っていては来ません。みんなで力を合わせてつくるものです。ですから、これから対馬丸記念館の役割というものは、とても大きなものになってくると思います。

博物館・資料館の立場から　**普天間 朝佳**

戦争を伝え平和を創造するとは

平和博物館の課題の一つに、学芸員の育成があります。私たちの資料館は、ひめゆり学徒隊の生存者と同窓生たちがつくって、運営してきまし

パネリスト　眞榮城 善之介

パネリスト　前田 比呂也

た。現在は、説明学芸員たちがその役割を引き継いでいます。説明学芸員たちは、現地解説とか講話だけでなく、資料を整理保存したり、調査研究をしたり、企画展や特別展を開催したり、博物館にとっては欠かせない存在です。もう一つは、戦争と平和を自分ごととして学ぶということです。今取り組んでいるのが、中高生が同世代に伝えるためのワークショップです。これは生徒たちに、資料館の貸し出しパネルを使って、同じ生徒たちに、展示ガイドをしてもらうためのワークショップです。生徒たちが沖縄戦を学ぶことにつながるし、また、伝える技術も身に付くし、何よりも自分たちが沖縄戦を伝えていくんだという自覚につながっていくのではないかと思います。それ以外にも、ひめゆりを伝える映像コンテストとか、フィールドワークと連携したワークシートを作るなど、いろいろな取り組みをしています。

もう一つ、今、力を入れているのが、海外への発信です。これまでに沖縄本島北部の今帰仁村や中部の読谷村で実施し、そして昨年（2023）は沖縄県の助成金をいただいて、ハワイで移動展をやってきました。昨日から、久米島で移動展をやっています。対馬丸記念館もハワイでの移動展をやられてはどうか。ハワイのパールハーバーには、対馬丸を撃沈したボーフィン号が展示されています。ハワイの人、アメリカの人にも、ボーフィン号がいかにたくさんの幼い命を奪ったか、知ってもらう。勝ち戦しか知らないアメリカの人に戦争が一体何をもたらすのか、知っていただきたい。ぜひ実現してください。

最後の課題としては、民営の平和博物館として、どうこれからあるべきか、があると思います。民営の博物館は、時の政治状況に左右されずに、設立の理念を貫きとおして運営ができる、ということがあると思います。また、対馬丸記念館や、私たちひめゆり資料館のような体験者の思い、そして犠牲になった方々への思いというものが、理念の柱になっているような施設では、スタッフの継続性が、とても大事ではないかなと思います。

とはいえ、民営は経営が厳しい。経営的努力が必要であるし、経営を担う人材を育成していくことが、対馬丸記念館の課題でもあるし、私たちの課題でもあると思います。

対馬丸報道の立場から　**島袋 貞治**

記念館を報道する意義について

対馬丸記念館の近くに、戦没新聞人の碑があります。この碑は沖縄戦で戦没された14人の新聞人の氏名が刻まれています。1961年に設置されました。戦時下の新聞がしたことは何だったのか、ということを考えることなのかなと思います。

対馬丸事件を伝えることのポイントを三つ提示したいと思います。生存者・遺族への箝口令、口封じですね。監視の目、戦後も続く負い目というのが、証言者の方から語られたことです。そして、疎開というキーワード。国策による疎開が実行された。足手まといにされた高齢者、女性、子ども、攻撃の怖れがある海域を通っての疎開だった。駐屯してくる日本軍の食糧確保などの目的もあったと言われますが、そういった軍の論理が優先されたということです。

沖縄戦というのは、地上戦に注目されがちですが、この海に囲まれた沖縄、海の戦争というのも

パネリスト　普天間 朝佳

パネリスト　島袋 貞治

かなり激しく展開されていたのですが、そういう歴史が伝わっていない。攻撃されたら船は沈んでしまう。海に沈んだら遺品すらない。海の戦争を伝えるのも、対馬丸事件の特徴の一つかなと思います。今、新たな国民保護計画が出ています。石垣島全員避難とか、航空機も約400機ほど必要だとか。あの時、海の戦争だったものが、空の戦争になっていくのではないのか。

これまで県内メディアは、記念館のいろいろな催し、それに係わる子どもたちの取り組みなどを紹介してきました。市内小学校の平和のモニュメントができる動きなども、戦争の悲劇を報道する責任として、今後伝えていければと思っています。

ガザとかウクライナで対馬丸事件のようなことは、今も起きています。記念館が発信する教訓をわれわれメディアも広く発信していけたらなと思っています。

会場から～質疑応答・意見・要望

1　対馬丸記念館の見学を学校行事に。

市内の児童生徒は、小中の９年間で最低２回は、学校行事として対馬丸記念館見学をした方がいいと考えます。子どもたちの学習面と、記念館の収入の面の両方で。市の教育委員会は各学校が判断することになっているという姿勢です。現場の教員にとって、優先順位は高くないのでしょうか。実行は難しいですか。

眞榮城　教諭の立場から賛成です。但し、大人数を連れていく場所としてキャパの問題がある。大体春の遠足を兼ねていくので、その後、子どもたちを原っぱで遊ばせるということを考えると、大体、平和祈念資料館に行くことが多いかと思います。でもその前に、１時間ほど時間をとって、対馬丸記念館に足を運んで、その後、平和祈念資料館に行くというコースも試したことはあります。

前田　うちの校区に対馬丸記念館があったということが重要です。その学校の周辺で、最もリアリティのあるところで、平和教育を進めていく、というのが大事なことだと思います。その積み重ねの上に、対馬丸に行こうとか、平和祈念資料館に行こう、ということが出てきてもいいと思います。

2　無関心な世代に関心を持ってもらうには。

今日の参加者を見ても、40代の私は若い方で、年配の方ばかり。同世代に沖縄戦や太平洋戦争に関心を持っている者は少ないように感じます。対馬丸記念館は、子どたちに向けて素晴らしい施設です。同じように保護者世代にも、戦争に関心を持ってもらうには、どうしたらよいか。なかなか答えが見つかりません。

外間　県外だと平和学習は８月15日の１日だけですが、沖縄は地上戦を体験しているだけに、６月のひと月、平和月間というのがあります。県外の方々から、あなた方は、平和学習に一生懸命取り組んでいるな、というようなことをよく言われます。沖縄は平和について真正面から取り組んでいると。やはり、戦争を体験したこの県が、平和についてどういうふうに取り組んでいくか、今日がその第一歩になればいいなと思っています。

3　子どもたち自身で考えるようにするには。

記念館の存続には、来館者数の確保が必須であると思います。子どもたち自身が館を情報源の拠点として位置づけ、自主的、自覚的に来館することが求められます。学ぶ側の主体性を考えるとき、これまでの伝える、伝えられる、という教育学習の在り方を問い直す必要性がないでしょうか。

平良　学校の先生方が一生懸命取り組んでくださっていると思います。沖縄戦を伝えたい、でも、追悼の気持はもちろん湧いてきますが、悲しい、かわいそう、ということから一歩踏み出したい、という先生方が多く、平和学習が最近進歩しているのではないか、と感じます。人権問題や差別の問題に繋げていったりとか、そういうことの集大成が本当に戦争だったのではないか、ということに気づくと、もっともっと身近に子どもたちが感じていけないかなというふうにも思います。

眞榮城　今、子どもたちの学びのスタイルは、自ら学ぶというふうに教育がシフトしています。先生はあくまでもサポート役で、子どもたちが主体的に課題を見つけ、自分で学んでいくという授業になってきています。また、今６年生の担任ですが、きっかけ作りは、学校、先生かも知れませんが、ある程度、きっかけをつかんだら、子どもたちが自分で問いを持って、どうして沖縄戦は始まったのだろうか、とか、どうして対馬丸は沈没しなければいけなかったのだろうか。自分たちなりに課題を持って、それに取り組んでいる最中です。それは今、ICT を使いながら調べ学習もしますし、実際に記念館に連れていくのは、親御さんたちには難しいので、遠足で行って、中では自分の問いにあうコーナーで自分で探すとか、そういうふうにあくまでも先生方が全てお膳立てをするのではなく、きっかけを作って主体的に学ぶというスタイルに変ってきているとは思います。

これからの対馬丸の役割 ―――― 平良次子

対馬丸記念館が開館して20年が経ちました。これまでを振り返り、これからの課題もたくさん見えてきました。少し希望も見えてきたような気がしています。今日のタイトルは「『対馬丸』から学ぶ子どもと平和～平和な未来をともに創るために～」です。私は個人的に、平和という言葉を連呼されるときに、ちょっと不安になってくるんですね。どうも戦争の陰りを隠そうとしているような気がしてくるときがありまして、本当に平和だったら、みんな平和がいい、って言わないんじゃないか。

でも、学校教育、子どもたちのためにということであれば、考えさせるということでしたら、やはり方向性というのも大事かなと思います。この子たちが、見たいことを見なさい、感じたいことを感じなさい、でも（平和は）深くて、やはり先生方のサポートが必要になるのかもしれません。博物館資料館としての役割。先ほどありましたように、情報源の拠点、というふうに言われると、いろいろ役割が見えてくるかなという気がしました。

本日は長時間ありがとうございました。（了）

祈念事業　慰霊祭

80年目の誓い
――忘れません

対馬丸が米潜水艦に撃沈されてから80年を迎える2024年8月22日、小桜の塔で慰霊祭が開催された。高齢の参列者のために対馬丸記念館1階企画展示室に席を設け、慰霊祭会場の様子を生中継する取り組みも行われた。

慰霊祭は午前11時から始まり、生存者や遺族ら400余人が汗笛に合わせて黙祷した。玉城デニー知事、自見英子沖縄担当大臣、知念覚那覇市長、県遺族連合会の我部政寿会長が来賓として弔辞を述べた。

小桜の塔の前で焼香をする参列者

（上）対馬丸記念館では慰霊祭の様子が生中継で映しだされた

（下）スクリーンを見つめる、対馬丸記念館の参列者

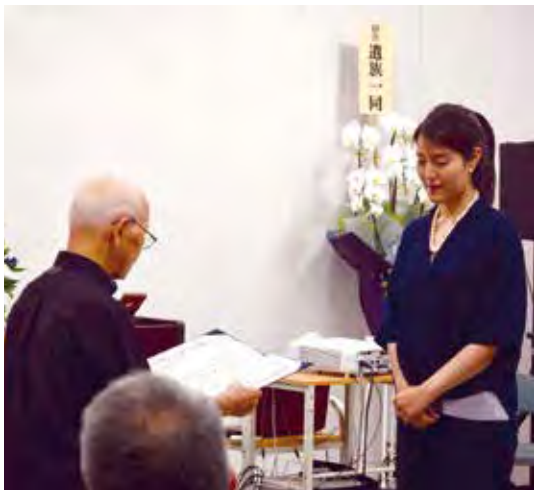
弔辞を述べる来賓の自見英子沖縄担当大臣

語り継ぐ拠点
――これからも

慰霊祭の後、対馬丸記念館1階企画展示室にて同日午後2時から祈念式典が開催された。祈念事業実行委員会の稲嶺恵一名誉会長や来賓のあいさつの後、対馬丸事件の継承や記念館存続に尽力した23個人・団体に対馬丸記念館平和活動貢献賞と感謝状が贈られた。

その後の謝恩会では、記念館の20年の歩みをまとめた「ヒストリービデオ」が紹介された。

祈念式典に非戦を訴えるメッセージを寄せる、演出家の宮本亞門



感謝状を授与される慶田盛さつき（記念館元学芸員）

謝恩会で開館20周年を祝う参加者

対馬丸慰霊碑のある悪石島より参加した悪石島学園の生徒たちと宇検村の元山公知村長を囲んで

祈念事業　夜の慰霊祭

追悼の汽笛が記念館を包む ――夜の慰霊祭

同日午後10時から対馬丸記念館の屋上で、開館以来６度目の追悼の集いが開催された。生存者や遺族、関係者ら約50人が、撃沈された午後10時12分に、汽笛の合図と共に黙祷を捧げ、その後祭壇へ一人ひとり白い折り鶴を手向けた。

80年前の、対馬丸が沈んだ悪石島沖に思いをはせる参列者。記念館屋上

祈念事業　ロゴ、切手シート

対馬丸記念館
https://www.tsushimamaru.or.jp e-mail info@tsushimamaru.or.jp

ロゴ（令和６年度制定）

2024年２月３日発売
/200シート

通史編

第1章 30
対馬丸記念館前史（1944年~1998年）

第2章 34
対馬丸記念館をつくる（1999年~2004年）

第3章 42
対馬丸記念館奮闘す

第4章 52
出会いと対話

第5章 57
今を生きる子どもたちへ

第1章 対馬丸記念館前史（1944年～1998年）

1 米軍、対馬丸へ魚雷攻撃

1941（昭和16）年12月8日、真珠湾（ハワイ・オアフ島）に停泊していた米艦隊を、日本軍が奇襲したことを機に太平洋戦争が勃発した。当時、日本は中国との間で始めた戦争が泥沼化しており、追い詰められた末の戦況の拡大であった。しかし、日本軍が優位に立っているかのように見えたのは束の間で、米軍との圧倒的な軍事力の差にじりじりと敗退していった。

1944（昭和19）年7月7日、日本軍の占領下にあったマリアナ諸島のサイパン島が陥落した。サイパン島の陥落は、米軍の最新鋭爆撃機B29による日本国内の主要都市への空襲が可能となったことを意味し、かねてより本土防衛策として沖縄での地上戦の準備に取り掛かっていた日本軍は、ここに来て食糧確保のためと戦時の足手まといになる老幼婦女子の疎開に着手した。

サイパン陥落に先立つ同年6月30日、閣議において国民学校（現在の小学校）の生徒を対象とした「学童疎開推進要綱」が決定された。縁故疎開を原則とし、縁故疎開が難しい場合は国民学校3年以上6年までの児童については保護者の申請に基づき実施されることになった。この時点では沖縄県は対象外であった。

7月7日、緊急閣議で南西諸島から老幼婦女子を本土及び台湾に疎開させることを決定した。その規模は「沖縄県から九州へ8万人、台湾へ2万人の合計10万人を7月中に」というもので沖縄県庁ではその対応に追われた。

その頃から南西諸島の海には米軍の潜水艦が出没し、九州への船旅が決して安全なものではない、という情報が巷ではささやかれていた。また、沖縄にいては危険、ということがわかっていても家族が離れ離れになることに二の足を踏む親もいた。一方で、祖先崇拝の根強い沖縄では、家系を絶やさないことが重要であり、後継ぎだけでも疎開させよう、という考え方もあった。それでも県の指導の下、各国民学校では疎開勧奨を積極的に進め、その結果、公務員の子弟を中心に経済的に余裕のある家庭の子どもたちが疎開に応じるようになっていった。

親の心配をよそに、子どもたちは「九州に行けば雪が見られる、汽車にも乗れる」と修学旅行気分でわくわくしながらその日を待ったという。

1944（昭和19）年8月21日夕方、貨物船・対馬丸は、第4次学童疎開船として那覇市の8つの国民学校（那覇・甲辰・天妃・垣花・泊・久茂地・松山・上山）の生徒を中心に、県内各地から集まった人々を乗せて、那覇港を出航した。そして出航して2日目の22日午後10時12分ごろ、トカラ列島の悪石島近海で米軍の潜水艦ボーフィン号により撃沈された。疎開学童と引率教員、一般疎開者、船員、砲兵隊員からなる乗員乗客1,788人（推定2021年現在）のうち1,484人（2021年8月22日現在）の命が失われ、奇跡的に救助された人々も過酷な経験を胸に秘めて生きていかなければな

対馬丸　貨物船（戦時中は陸軍徴用船・学童疎開船）
総トン数6,754.31トン　航海速力12ノット（時速22.2km）
1914（大正3）年12月22日竣工

らなかった。

対馬丸が米軍潜水艦により撃沈されたという報せは、厳しい箝口令が布かれていたにも関わらず、那覇の巷を駆け巡った。対馬丸にわが子を乗せた親たちは、子どもの無事を確かめる手立てもなく、居ても立ってもいられない日々を送っていたが、追い打ちをかけるように同年10月10日のB29による那覇大空襲（十・十空襲）で焼け出され、終戦まで命からがら逃げ惑うことになる。

当時、すでに敗色の濃い日本軍であったが、米軍の九州上陸を遅らせようと沖縄での持久戦が選択された。米軍は1945（昭和20）年3月26日、慶良間諸島に上陸し、4月1日、沖縄本島へ上陸すると住民を巻き込んでの地上戦を繰り広げた。豊かな緑、首里城をはじめとした琉球王国の史跡もろとも多くの県民が命を落とした。

2　悲しみから立ち上がろうと

敗戦により、沖縄は1972（昭和47）年5月15日の日本復帰まで27年間、米軍施政下に置かれることになる。対馬丸が撃沈されてから6年後の1950（昭和25）年10月15日、奄美大島宇検村での遺骨収集を実施するに当たり、那覇市壺屋小学校で、対馬丸遭難者遺族大会が開催された。大会では、対馬丸遭難者遺族会が結成され、会長に浦崎康華が就任した。今後、合祀、建碑の実現に努力することになった。浦崎は沖縄県庁に在職中、対馬丸に乗船した二男を亡くしていた。

初めての遺族大会から3年後の1953（昭和28）年8月22日、慰霊祭の後の遺族総会で、今後、毎年8月22日に慰霊祭を執り行うこと、対馬丸の沈没で亡くなった人たちを「祖国防衛の尊い犠牲者としての処遇」を本土政府に請願することなどが決まった。

対馬丸遭難者遺族会の当初からの念願であった「合祀、建碑」は、図らずもほどなくして実現することになる。1954（昭和29）年5月、波上山護国寺の境内に沖縄戦戦没学童慰霊のための「小桜の塔」が建てられた。護国寺住職の名幸芳章の

1954（昭和29）年5月5日、沖縄戦戦没学童慰霊碑「小桜の塔」建立除幕式。当初は護国寺境内に建てられた。右は名幸芳章住職

1959（昭和34）年、護国寺に隣接する現在地に移転改修された小桜の塔。設計：玉那覇正吉

縁で、愛知県丹陽村（現一宮市）のすずしろ子供会の会長河合桂と同会顧問の松浦浅吉（県会議員）が、「沖縄戦で犠牲になった子どもたちのための慰霊碑を立てたい」として、愛知県内学童から一円募金を呼びかけ、資金を造成したものである。

1954（昭和29）年5月5日、小桜の塔の序幕式が行われた。新聞、ラジオを通じての呼びかけに集まった人々のほとんどが対馬丸の関係者であったという。以後、今日にいたるまで毎年8月22日には小桜の塔（1959年に現在地に移転）で慰霊祭が執り行われている。

1958（昭和33）年、疎開船対馬丸遭難学童遺族会の会長に選出された新里清篤は、就任後、沖縄遺族連合会（復帰後沖縄県遺族連合会）の事務

局長、金城和信とともにたびたび上京し、粘り強く陳情を重ねた。その結果、1962（昭和37）年9月、学童犠牲者の遺族に対し1柱2万円の見舞金が支給される。

1966（昭和41）年10月17日、学童犠牲者が靖国神社に合祀される。

1973（昭和48）年9月26日、学童犠牲者に対し勲8等瑞宝章の勲記勲章が授与される。

さらに1977（昭和52）年の遭難学童の父母、祖父母に対する特別遺族支出金支給に漕ぎつけるまで20年の歳月が流れた。

3 海上慰霊祭を挙行

疎開船対馬丸遭難学童遺族会は、遭難学童の戦闘参加犠牲者に準ずる処遇を訴える一方で、対馬丸の船体を引き上げ、遺骨を収集したいという切なる願いを陳情し続けていた。しかし、沈没現場が水深800m余の深海であり、引き上げは不可能とされたため、次善の策として遭難現場での日本政府主催の慰霊祭の開催を陳情した。

陳情が実り、1975（昭和50）年8月22日、第1回海上慰霊祭が、沖縄協会、日本遺族会、沖縄県遺族連合会、対馬丸遭難者遺族会（会長・新里清篤）の主催、沖縄県、鹿児島県、沖縄開発庁の共催により、悪石島沖海上で、撃沈された時刻の午後10時12分を期して執り行われた。その日は、撃沈された当日のように南方海上に発生した低気圧の影響で海は荒れていたが、満月が海上を照らしていた。

第2回海上慰霊祭で式辞を述べる新里清篤（第2代対馬丸遭難者遺族会会長）

遺族代表として対馬丸遭難者遺族会から55人が参加した。その日は親元へ遂に帰って来なかった子どもたちの三十三年忌に当たり、慰霊祭の挙行は遺族たちにとって大きななぐさめとなった。

その後も、1977（昭和52）年9月4日、第2回海上慰霊祭（日本映像記録センター後援）、撃沈されてから40年後の1984（昭和59）年8月27日に第3回海上慰霊祭、1988（昭和63）年8月9日に第4回海上慰霊祭が執り行われた。

第2回海上慰霊祭は、日本映像記録センターによりドキュメンタリー映像作品『死者はいつまでも若い　沖縄学童疎開船の悲劇』に収録された。構成は大島渚監督。1977年文化庁芸術祭参加作品。同慰霊祭の一部始終と参列した遺族・関係者らのインタビューで構成されている。

4 対馬丸海底調査ドキュメント

沈没付近での海上慰霊祭は実現したものの、遺族の最後の望みはやはり遺骨の収集であり、沈没地点を特定してほしい、という陳情が続けられていた。戦後50年の1995（平成7）年8月2日、除幕間もない「平和の礎」を訪れた天皇・皇后両陛下に、対馬丸遭難者遺族会会長の喜屋武盛榮は「遺族の希望といたしましては船体の引き上げと遺骨の収集でございます」と訴えた。また、1996（平成8）年に当選した地元選出の下地幹郎衆議院議員の仲介で、同遺族会の生存者代表である上原妙が国の担当部署へ熱心に働きかけていた。事態は硬直していたが、1997（平成9）年、第35代沖縄開発庁長官、鈴木宗男の代に動きがあった。対馬丸遭難者遺族会の陳情に「遺族の思いを実現させたい」と沖縄開発庁長官より科学技術庁長官へ調査を依頼し、科学技術庁では沈没地点の絞り込みに取り組んだ。

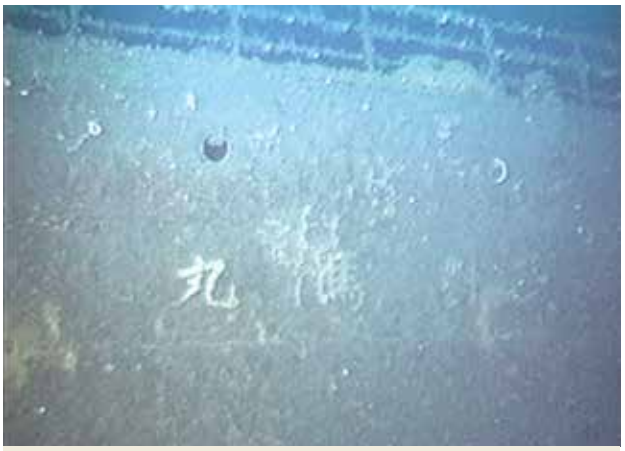
同年12月3日、海洋科学技術センターの深海調査研究船「かいれい」（4,628t）が悪石島西方沖の沈没地点調査海域に到着した。するとそれまで降っていた雨が上がり、まるでこの調査を歓迎

するかのように大きな虹が上がったという。対馬丸の犠牲者へ船上から献花を行い、黙祷を捧げた後、調査を開始した。船に装備された精密音響深度測定機（マルチナロービーム）による海底地形調査を、明けて4日朝まで実施したところ、調査対象海域のほぼ中央に位置する北緯29度31.93分、東経129度32.90分（水深約880m）に音波の反射強度が周辺の海域より明確に強い特異点が一か所みつかった。さらに深海探査機「かいこう」を潜航させ探査したところ、長さ約110m、高さ約20mの物体の存在が確認された。しかし、音波探査によるものであり、船体であるかどうかは不明であった。

海洋科学技術センターでは引き続き調査を実施することにした。現場海域に支援母船「なつしま」を派遣し、新たに深海探査機「ドルフィン3K」を投入した。同月12日、潜航した「ドルフィン3K」の高性能カラーテレビカメラが、先に「かいれい」「かいこう」の音波探査により確認された特異点の物体に近づいたところ、同日午後2時33分、モニターに船首部分の「對馬丸」の3文字が映し出された。

テレビのニュースで海底の「對馬丸」の文字が目に飛び込んできた瞬間、遺族の外間邦子（当財団常務理事）は思わず「あっ！」と声を上げたという。

調査を終了した「なつしま」は一路那覇に向かい、14日、船上に集まった遺族らに調査結果を報告した。



水深880mの海底で鮮やかに映し出された対馬丸の船体文字

5　対馬丸記念館建設へ

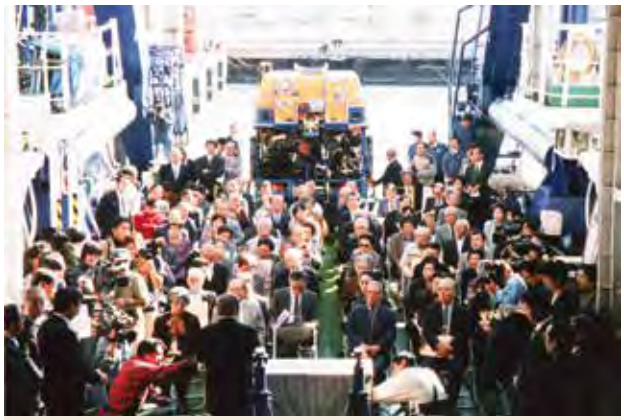
対馬丸の沈没地点が確認されたことは、対馬丸遭難者遺族会にとってはステップの途上であった。次は船の引き上げ、そして遺骨収集、という当初からの願いが再燃した。「引き上げてほしい」という遺族会の動きが活発化する中、1998（平成10）年10月、政府の対馬丸船体引揚げ可能性調査検討専門家会議が、引き上げは「不可能」との結論を出した。

引き上げに関する検討書には「船が巨大であること、船の眠る海域が海の難所〈七島灘〉であること、水深が深すぎること、船齢が古いことや魚雷攻撃による損傷で引き上げに耐えきれるだけの船体強度が期待できないこと」が理由として述べられている。

外間邦子は「『（引き上げの際、船体に）ワイヤーをかけたら、水圧で船もろとも遺骨が散乱してしまう』と言われ、『遺骨の散乱』という言葉の前に遺族は断念せざるを得なかった」と当時を回想する。

政府は、引き上げを望んだ遺族の心情を汲み、1998（平成10）年3月7日に政府主催の第1回海上慰霊祭を、同年11月28日に第2回海上慰霊祭を実施している。

遺族会が「断念」の先に行き着いたのが、「亡くなった子どもたちを迎える場所であり、対馬丸事件の事実を後世に伝える記念館の建設」であった。



支援母船「なつしま」船上で、調査結果を遺族・関係者に報告する喜屋武盛榮（第4代対馬丸遭難者遺族会会長）

第2章 対馬丸記念館をつくる（1999年～2004年）

1 国庫補助による建設決定

1999（平成11）年8月16日の『沖縄タイムス』は「対馬丸記念館建設へ」の見出しで、「政府は国の慰藉事業として、『対馬丸戦没者記念館（仮称）』建設を検討している。施設整備費を国が県に全額補助し、記念館の位置づけや運用については県が中心となって検討することとし、近く県に建設計画の意向を伝える」と報じた。

厚生省は、2000年度予算に調査・設計費を、2001年度予算に建設費を盛り込むとした。対馬丸遭難者遺族会（第5代会長・上原妙、2001年4月就任）は「当初500人近くいた遺族も今では80人ほどに減っている。記念館建設は遺族、会員の長年の夢を実現するもの」と喜びを語ったが、その後、2004年の開館までさまざまな事態に遭遇することになる。

外間邦子（当財団常務理事）は、「素人集団の遺族会が執念で作った」と当時を回想する。

上原妙（第5代対馬丸遭難者遺族会会長）

2 県からの財政的支援ゼロで船出

国から提案された対馬丸戦没者記念館建設構想は、その後、沖縄県からの予算要求がなく、調査・設計費の3,000万円は宙に浮いたままになっていた。2000（平成12）年12月7日の沖縄県議会第4回定例会で、大城一馬議員が県側から国への予算要求がなされていないことへの質問が出た。平良健康県福祉保健部長は「記念館の管理運営については、その運営方法、内容、財源等種々検討すべき課題があり、予算計上を見合わせた」との回答があった。

年が明けて2001（平成13）年3月27日の平成13年度予算特別委員会では、「平成13年度沖縄県一般会計予算」に対する附帯決議も含め、全会一致で可決された。

（別紙）

甲第1号議案に対する附帯決議

対馬丸遭難者慰藉事業費の対馬丸記念館調査設計費については、下記の事項が確認できた段階で予算執行すること。

記

1　事業実施主体となる財団法人の設立
2　記念館建設用地の確保
3　管理運営費など健全な収支計画が確立されること
4　同記念館の管理運営に当たっては、設立された財団法人の責任において対処し、県からの財政的支援は行わないこと。

管理運営費については、2000（平成12）年11月21日付で対馬丸記念会より「沖縄県に助成を請うものではなく、あくまで法人の責任において対処する事項である」との意向が示されていた。

3 対馬丸記念館基本構想

対馬丸遭難者遺族会は記念館開館に向けて、会の名称を対馬丸記念会とし、附帯決議に課された4つの事項に取り組みながら、当初、建設に関しては遺族の謝花寛営理事を中心とした

第1次ワーキングチームにより基本構想が練られていった。

2001（平成13）年7月4日、財団法人対馬丸記念会が設立登記された。

2002（平成14）年1月16日、対馬丸記念会の第1回建設検討委員会が開催された。「疎開学童767人を含む1,484人が遭難死した事実を正しく伝え、未来に向けて子どもの視点に立った平和と命のメッセージを発信する施設」という基本構想の下、2003（平成15）年の開館をめざすとした。

建設予定地は那覇市若狭の、樹齢を重ねたガジュマルがうっそうと茂る旭ヶ丘公園内の一角で、敷地は約264㎡。「公園法」により公園内に建物を建てることは禁じられていたが、親泊康晴前那覇市長の政治的な決断により条件がクリアされ、無償で提供された。建物は地下1階（その後、地盤の問題が浮上し断念する）、地上2階の延べ760㎡。常設展示室、企画展示室、管理事務所、図書・研修室、多目的室などを設けることとし、地域に密着した開館運営を目標に掲げた。

建設予定地の決定に際しては、「海に沈んだ子どもたちが帰ってきたらすぐわかるように、海に近いところがよい」という意見の他、「子どもたちが沈んだ海を見たくないから、海の見えないところがよい」という意見もあったが、最終的に対馬丸が出航した那覇港にほど近い、前者となった。

敷地は狭小だが、周辺に小桜の塔、海鳴りの像、戦没新聞人の碑などさまざまな慰霊碑や記念碑が立つ旭ヶ丘公園の施設の一部ととらえ、記念館独自の構想として糸満市摩文仁のような平和の杜構想を打ち出した。

一帯は昼夜人通りが少なく寂しい場所であったが、開館後は常時人が集う場所となり、地元自治会から歓迎された。

対馬丸記念館設計パース

4 財団法人対馬丸記念会理事長に高良政勝就任

2001（平成13）年7月、財団法人対馬丸記念会が設立されたが、法人としての基盤がぜい弱とされ（議会資料より）、予算執行が危ぶまれていた。早急に組織固めをする必要があり、その先頭に立つ人材が内からも外からも求められていた。

白羽の矢が立ったのが、歯科医師の高良政勝であった。高良は、4歳で家族と共に対馬丸に乗船して奇跡的に救助された生存者であり、同時に家族9人を亡くした遺族でもあった。撃沈された当時の記憶はまったくなく、慰霊祭に参加する程度で、遺族会とも特に関わることなく、それまでの人生を歩んでいた。還暦を迎える高良にとって、まさに晴天の霹靂の理事長就任依頼であったが、「これは私の義務だと思った」という。また、「『何の心配もいらない、金の心配もないし、人事の心配もない』と外間常務理事が言うので、そのつもりで入ってみたら、金はないし、金だけじゃなくて全部ない、というありさまだった」と苦笑する。

当時、管轄部署の県福祉保健部長であった新垣幸子は「前年（2000年）に沖縄県平和祈念資料館が開館し、ひめゆり平和祈念資料館も既にある。世論の『箱もの行政』という批判も気になった。なにより建てた後の運営継続への懸念が大きかった。関係者が集まった席で、『3年目の今年、みなさんが造らなければ（記念館は）二度と作れない。県もそれなりの覚悟を持って取り組むので、みなさんも覚悟して取り組

開館20周年記念シンポジウムで記念館着工までの経緯を語る新垣幸子（当時沖縄県福祉保健部部長）

むように』と話した」と回想する。

2002（平成14）年5月、髙良政勝が理事長に就任し、対馬丸記念会は2年後の2004（平成16）年8月22日の開館に向け、加速していった。

取り組まなければならないことが山積していた。

5 対馬丸記念館に込められたもの

2002（平成14）年5月15日、対馬丸記念館企画検討運営委員会（座長・石原昌家）が設置された。同委員会は①企画検討業務と②展示資料業務で構成され、当初のワーキングチームによる基本構想を基に、新たなワーキングチームが動き出した。

■ **対馬丸記念館企画検討委員（設立まで）**
石原昌家（座長）／仲田美加子／田名真之／野里洋／上江洲安昌／糸数武／親泊仲眞／渡口眞常

■ **対馬丸記念館資料収集委員（設立まで）**
上原清／上原妙／喜屋武盛守／瑞慶山良和／平良啓子／津波古ヒサ／又吉治子

開館直前に製作されたA4判三ツ折リーフレット「対馬丸記念館開館します」の「展示に込められた思い」の項では、「対馬丸記念館は『対馬丸の子どもたち』と『今を生きる子どもたち』が出会い、戦争や平和について対話できる空間でありたい」とし、当時を語ってくれる「もの」を探したが、遺品や遺影は沖縄戦や戦後の混乱の中でほとんど失われ、わずかながらもそれらを所有していたはずの遺族は戦後60年が経過して、多くの方が他界しているという現実があった。「わずかな一次資料や遺品・遺影を集めながら、同時進行させたのは生存者・遺族の証言を記録すること」で、少ない資料（遺品）を最大限に理解してもらえるよう証言を活用する手法を取った、と記されている。展示計画に当たっても、乏しい資料をカバーするため、生存者の記憶のすり合わせを丹念に行い、対馬丸に装備されていた数種類の筏や船倉に設けられた蚕棚を思わせるベッドの再現を試みた。

開館前に製作・配布されたリーフレット（左）、小冊子（右）が記念館のビジョンを伝えるのに大いに役立った

遺影の収集には積極的に取り組み、沖縄県遺族連合会へも呼びかけを行った。2003（平成15）年12月の時点で、犠牲者の遺影は約60枚（開館時は97人の遺影85枚）で、犠牲者総数1,484人（推定）のわずか4%であった。

6 友の会をスタート

記念館の運営資金を確保するため、開館を機に友の会（後に協力会に改称）の会員を募った。会員並びに賛助会員には、記念館が発行する『対馬丸通信』を送付し、企画展、その他行事の開催を通知するとし、年会費は会員2,000円、賛助会員（法人10,000円）。また、ボランティアを希望する会員には、毎月第2土曜日の午前7時から実施している清掃活動（記念館周辺、ビーチなど）

『対馬丸通信』第3号。遺影・遺品の寄贈を広く呼びかけた

未来のために

元対馬丸記念館専門員、沖縄国際大学非常勤講師
吉川由紀

2003（平成15）年5月から専門員として財団に加わった私は、最初の数か月間、対馬丸事件や戦時中に撃沈された船舶全般、疎開に関する書物や論文を読み漁り、まずは注釈に記されている文献・資料を片っ端から手に入れようとしていました。そんな私の姿を見て、ある理事に、「吉川さん、あなたの知っている（知ろうとしている）『対馬丸』は本でお勉強したそれでしょう。私にとっての対馬丸は生活、人生そのものなのよ」と言われました。確かにおっしゃるとおりで、私の中で対馬丸は歴史の中の出来事であり、それをいかに客観的に、展示解説するかが一番の課題としてありました。生活や人生と呼ぶにはあまりに遠い事柄だったのです。

しかし4か月目、対馬丸慰霊祭を目前にあるご遺族が一つの遺品を財団に持ってこられたことで変わります。「弟の服に付いていた名札です。九州にいたおばが、対馬丸を出迎えようと長崎港へ行ったところ、本人は届かず、他船に乗っていた荷物だけを受け取ることになりました。物のない時代ですから、弟の服は、胸の名札だけを剥ぎ取ってほかの学童にあげてしまったようなのです」。

名札は薄い小さな布きれで、住所や氏名が記されていました。ひと回り大きな厚紙に貼り付けてあり、少し汚れたその厚紙が、60年という年月の長さを感じさせました。「弟は当時11歳でしたが、おばが持っていた3歳の頃の写真と一緒に額縁に入れて、今日まで大事に保管してきました。私の家は沖縄戦で全て焼けてしまったので…」。初めて手にした遺品と遺影。対馬丸事件に人生を翻弄された方たちの暮らしが凝縮されていました。この遺品は、事件の様々な実相を示したものだと感じ、地元紙で大きく報道してもらいました。遺品を手にした衝撃を記者に話す私は興奮していました。そうか、理事はきっと、こういう感覚を知ってほしかったんだ。

その後、展示資料の収集や解説原稿の執筆と並行して、遺品と遺影のお預かり、ご遺族からの聞き取りを行いました。午前中に伺ったお話をお昼時間にまとめ、午後は次のお宅へ行き、夕方から夜にかけてまとめの作業をする、ということもありました。あの家のあの部屋で、こんな表情で、とご遺族の姿が積み重なり、街の見え方が変わっていきました。

開館まであと1か月。深夜1時も過ぎると那覇の喧騒はおさまり、静まり返った館内は完全に対馬丸犠牲者と私たち記念館スタッフだけの時間になります。時々、髙良政勝理事長が某有名店の丸焼きチキンを差し入れてくれました。展示準備が進む館内にニンニクの香りが満ちて、気持ちが高ぶっている私たちをより一層元気にさせました。見えないけれど大きなエネルギーに操られるように仕事をしていました。対馬丸犠牲者のために、そのご遺族たちのために、これからの未来のためにという思いでした。

国庫事業の取り扱いに戸惑い、不見識から間違うこともありました。しかし関わった人全員が「素人集団の執念」（外間邦子常務理事）という言葉どおり、対馬丸事件で人生を奪われた方々の悔しさを自分事として受け止め行動してきました。これからも多くの人が記念館につどい語り合いながら、何十年もこの空間があり続けることを願っています。

や特別企画展の会場案内・監視補助などを呼び掛けた。

2003（平成15）年6月1日、対馬丸友の会会報『対馬丸通信』（A4判4ページ）が創刊された。創刊号では創刊のあいさつ、「対馬丸記念館」（仮称）オープンに向けての計画報告会開催の記事、報告会での石原昌家企画検討委員会委員長の基調講演「いま、なぜ対馬丸事件か」要旨、今後の活動予定などが紹介されている。

創刊当初の「通信」では、開館前ということもあって「遺影及び遺品探し」に力を入れ、誌上で関係者に広く呼びかけた。

会報は不定期で年2回の発行、最新号の第48号が2024（令和6）年3月10日に発刊されている。

7 悪石島・奄美大島へ

記念館建設計画を進めるに当たり、資料収集のため2003（平成15）年11月21日～27日、髙良政勝理事長、渡口眞常理事、吉川由紀専門員が鹿児島県十島村悪石島と奄美大島宇検村を視察した。

悪石島は対馬丸が撃沈された地点に一番近い島であるが、鹿児島港と奄美大島間を往復する村営船を利用して、那覇からだと最短でも3泊4日の行程を組む必要があった。島には1962（昭和37）年6月10日、東京在住の僧侶、佐藤日建師によって慰霊碑が建てられていた。資料収集班が島を訪問時、慰霊碑の管理は悪石島小中学校に委ねられ、同校では月に一度、あおぞら活動と称して慰霊碑及び周辺の清掃維持活動を行っていた（2024年現在継続中）。公的資料に慰霊碑建立の経緯やその後の保全に関する記述は見当たらず、今日に至るまで島の人々の厚情で守られてきたことに一行は深い感慨を覚えた。残念ながら、撃沈されてから59年が経過しており、対馬丸犠牲者の遺体が悪石島に漂着した事実は確認できず、対馬丸が撃沈されるのを目撃したという方にも出会えなかった。

翌2004（平成16）年8月16日付『南日本新聞』

開館前年の悪石島調査で島の長老である肥後政次郎（右）に取材

は「同島（悪石島）にも遺体が流れ着いたという」「おばあちゃんは対馬丸が沈むのを見た。爆発がすごくて」との証言を紹介している。

奄美大島宇検村の焼内湾は対馬丸犠牲者の遺体が多く漂着したところである。遺体を丁寧に埋葬した経緯は『宇検部落郷土誌』（1996年刊）に記されているが、ここでも当時のことを知る方はすでに物故しており、新たな証言は得られなかった。

この時、電話での事前連絡だけで訪れた一行を出迎え、つききりで案内いただいた宇検村教育委員会の元田信有は、後に宇検村村長となり、在任中の2017（平成29）年、船越海岸に「對馬丸慰霊之碑」を建立している。

8 ハワイで潜水艦・ボーフィン号を視察

展示用資料の収集に当たり、対馬丸を撃沈した米潜水艦ボーフィン号に関する資料も重要視していた。2004（平成16）年2月22日～28日、髙良政勝理事長、渡口眞常理事、外間智子事務局員がハワイ・オアフ島の真珠湾にボーフィン記念館を訪問した。

ボーフィン号は太平洋戦争が始まった翌1942（昭和17）年12月に建造され、戦時中はフィリピン周辺海域や南シナ海、日本近海で44隻（うち軍の艦船は4隻）の艦船を撃沈し、「真珠湾の復讐者」の異名をとった。全長95m、1,525t、最高速度20ノット。

対馬丸の生存者として、また遺族としての初の公式訪問で、髙良理事長、渡口理事の心境は複雑であったに違いない。

『対馬丸通信』第4号（2004年3月20日発刊）に掲載された所感文（抄録）を紹介する。

> 対馬丸事件をミクロ（対馬丸事件そのもの）とマクロ（世界史的な流れの中で）の観点から伝えなければならないと感じた。
> 日本軍による真珠湾奇襲攻撃は、わずか1時間ほどの間に戦艦アリゾナを含む12隻の船を撃沈または座礁、2,388名の死者、1,178名の負傷者、航空機164機を大破した。戦争の傷痕は国、人種を超えていつまでも癒えることはない。
> 対馬丸事件は突然に起こったわけではない。来館者が対馬丸事件を歴史の中でしっかりとらえることにより「世界に平和を発信する」という記念館の趣旨がかなえられるのではなかろうか。（髙良政勝）

> 艦内に一歩足を踏み入れると、潜水艦は忌まわしい兵器であるということに改めて気づいた。人知れずそっと忍び寄り、一撃を加えて走り去る卑怯な兵器であるということ。このような性格の兵器が自らの戦果を誇らしげに掲げるのが戦争の狂気であり、悲しさ、むなしさである。だが、戦争がもたらす悲しみや怒りは憎悪を産み、憎悪や報復が戦局を拡大していく。
> われわれ平和な時代に生きるものは、その連鎖を断ち切らなければならない。それ故にわれわれは、ボーフィン号や戦時の日米両政府を糾弾するのではなく、事実を事実としてありのままに語り、月並みの言葉であるが平和の尊さを伝えたいと思った。（渡口眞常）

その後、ボーフィン号に関して、当時の通信傍受記録の入手など、また当時の乗組員から聞き取りができれば、と2004（平成16）年11月6日、NPO法人琉米歴史研究会の喜舎場静夫理事長に当館の資料収集委員に就任していただいた。

喜舎場収集委員のコーディネイトで、『天王山沖縄戦と原子爆弾』（1995年刊）の著者であるジョージ・ファイファーと対馬丸の生存者が対面する機会を得、その折、ボーフィン号の乗組員が

ボーフィン号の魚雷発射管の前で説明を受ける髙良理事長ら

喜舎場静夫（NPO法人琉米歴史研究会理事長／当館資料収集委員、中央）の仲介で対面する上原清（対馬丸生存者）とボーフィン号元乗組員、ジョセフ・ノックス

2004年現在、25人生存していることがわかった。

同年12月、米フロリダで、対馬丸生存者の上原清とボーフィン号元乗組員との対面が実現した。また、同行する琉米歴史研究会のメンバーがワシントンの国立公文書館やハワイのボーフィン記念館などで調査を行い、乗員名簿などの貴重な資料を入手した。

上原清は「以前ならとても会う気にはなれなかっただろう。乗組員に恨みはないが、多くの子どもたちが乗っていたことを知っていたのかどうか、状況を聞きたい」と対面した。対面後は「恨みは湧いてこなかった。（今が）平和だから、今回の対面ができたことを子どもたちに伝えたい。平和はお互いを理解し合うところから始まるのだと思う」と話した。

髙良理事長らのボーフィン号視察から17年後の2021（令和3）年8月、一人の退役軍人の設置

運動が実を結び、ボーフィン記念館に対馬丸に関する説明パネルが新たに設置された。展示文には「疎開船として民間人約1,600人が乗船し、そのうち800人は子どもや学生であったこと」が記されている。

9 対馬丸記念館着工

2003（平成15）年10月22日、待ちに待った起工式が行われた。工事が始まるとまもなく、敷地内から次々と不発弾、人骨、貝塚等が出土し、そのたびに工事は中断を余儀なくされ、関係者をやきもきさせた。

外観は、屋上までの高さを対馬丸の甲板から海面までの高さと同じ約10mとし、館内入口を2階に設け、タラップから館（艦）に乗船するかのようなエントランスにした。建物内部には大きな吹き抜けを設けて、船内の雰囲気をつくった。2階の第1展示室から1階の第2展示室への階段は船倉へ下りるイメージである。

■ **建物概要**

敷地面積：930.41㎡
建築面積：429.86㎡
構造：RC造2階建
延床面積：768.88㎡
建設工事費：180,000,000円
（諸経費・消費税含む）
建築設計：沖縄県建築設計監理協同組合
建築施工：株式会社屋部土建

展示構想：対馬丸遺族会開館プロジェクトチーム
展示設計・施工：株式会社内田洋行
展示原稿作成：対馬丸記念会事務局・専門員
吉川由紀

総事業費：230,000,000円

2004（平成16）年6月9日に落成すると、8月22日の開館に向け、ただちに内部展示にとりかかった。2階入り口には犠牲者姉妹の二つのランドセルが置かれ、1階の展示室は当時の教室を再現した。吹き抜け部分には漂流するいかだが配置された。

展示室は、①対馬丸撃沈事件とは？　②みんな、おかえりなさい　③楽しかった学校　④最後にすごした場所　⑤生きていたきみを忘れない　⑥「対馬丸」を平和のみちしるべに――の6つの

開館記念式典で乾杯の音頭をとる親泊康晴前那覇市長

2004年3月、建築中の対馬丸記念館（正面より）

コーナーに分かれ、別にテーマ映像空間「対馬丸の悲劇」を設けた。

入札により建築施工は株式会社屋部土建、建築設計は沖縄県建築設計監理協同組合（実施設計/泉設計）、展示設計施工は株式会社内田洋行に決まった。

開館まで1週間を残した8月15日、60年目の終戦記念日に遺族説明会と内覧会が開催された。

翌16日の『琉球新報』では内覧会の様子を「ずっと忘れない」の見出しで「展示された遺品に生存者や遺族が見入り、涙をぬぐった。子や孫に当時の状況を語る高齢者や、遺影を指さしてすすり泣くなど、60年前の『あの日』と対面する光景が見られた」と報じた。

開館後の年間運営費は15,000,000円を超えると見込まれ、遺族説明会の席上、髙良理事長は今後遺族だけが参加する遺族会ではなく、対馬丸記念会の趣旨に賛同した方たちも広く参加する会にしたいと、「対馬丸記念会協力会」の設立を提案し、引き続き同会設立総会を開催した。

第3章 対馬丸記念館奮闘す

1 対馬丸記念館開館時の高良理事長あいさつ（抄）

あれから60年がたってしまいました。遺族の皆様にとっては何年たっても亡くなられた当時のままのあの姿が脳裏に焼きついていることでしょう。

私たちは何年たっても対馬丸の悲劇を忘れることはできません。いや忘れてはならないのです。そのために私たちは対馬丸記念館を作りました。今日グランドオープンです。

私たちは対馬丸の悲劇を忘れることなく、世界に平和の尊さを発信し続けることが、なくなった方々への最大の弔いになると信じております。

1階常設展示室には犠牲者の名前が、学んだ学校や地域の写真を背景に記されています。「60年間長かったですね。ごめんなさい。どうぞ思い出の学校、町、村に帰っていらっしゃい。そして自分たちのなしえなかったことを今の子どもたちに語りかけて、ともに平和な世の中にしてください」というメッセージを込めたつもりです。

なくなった方々の命は帰ってきません。残された私たちの悲しみも消えることはありません。しかし今でも世界では報復の連鎖が子どもたちから新たな夢と希望を奪っています。この報復の連鎖を断ち切る努力を一人一人がすること、これこそが対馬丸犠牲者から私たちに指し示された「課題」だと思います。

私たちはこの記念館に新たな命を与え、世界平和の発信地にしていきたいと念願するものです。

2 対馬丸記念館開館

2004（平成16）年8月22日、那覇市若狭1丁目25番37号に対馬丸記念館が開館した。運営は財団法人対馬丸記念会。

犠牲者1,484人の氏名を掲示するほか、遺影101枚、遺品の教科書やランドセル、衣服など40点を展示した。子どもたち775人の名前は学校別に校舎の写真を背景に配し、対馬丸の船倉の蚕棚と呼ばれた木製ベッドや漂流中に使ったいかだ、救命胴衣、戦前の教室などは実物大で復元した。証言VTRも視聴できるようにして、少ない展示物への理解を深める工夫をした。

オープン記念イベントとして「対馬丸の子どもたちへおくる“平和のやくそく”」を全国から募集し、世代を問わず、寄せられたメッセージ1500点はすべて館内に展示された。

8月22日当日は、午後1時から小桜の塔で慰霊祭を催し、午後2時から記念館のグランドオープンセレモニーが行われた。慰霊祭には約400人が参加した。午後4時から9時半まで一般公開した後、午後9時50分から記念館の屋上での追悼式典には100人以上が参列した。対馬丸が撃沈さ

開館当日のテープカットに臨む、遺族代表、国・県・市の来賓及び関係者

れた午後10時23分、予め協力を依頼していた停泊中の船舶からの汽笛に合わせ、犠牲者へ黙祷を捧げた。夜間の慰霊祭は1周年、2周年と行われたが、以後、高齢の遺族の負担が大きいとして、10周年、15周年の節目に実施された。

記念式典には、撃沈現場に近い悪石島で慰霊碑の清掃を続ける悪石島小中学校の代表2人が招かれた。2人は小桜の塔に同小中学校の在校生13人で折った千羽鶴とメッセージを寄せ書きした色紙を供えた。

開館後、遺族から遺影の提供が相次いだ。遺影はついに帰ってこなかった子どもが生きていた証であり、平和学習の場で永遠に人々の記憶に残ってほしい、という思いとなった。開館1周年には開館当初101枚だった遺影が218枚（242人）に増えた。

3 対馬丸平和基金

2008（平成20）年10月11日、株式会社山田養蜂場（岡山在）の山田英生社長以下社員が当記念館を訪れ、平和活動に役立てて欲しい、と前年暮れの1,000,000円に続き、10,000,000円の寄付があった。山田社長は同社の経営理念「常に一人のために」と当記念館の活動が一致するとして支援を決めたとのこと。「戦争は容赦なく命を奪う。対馬丸の話は日本・世界にとっても後世に語り継ぐべき重要な史実」と訴えた。

山田養蜂場の山田英生社長より寄付目録を受け取る高良理事長

同社は研修旅行として全社員を沖縄へ派遣し、当記念館を見学し、平和や沖縄の歴史・文化の学習を深めている。

高良理事長は、「開館5周年に向けて一部リニューアルや証言者DVDの製作費に山田養蜂場平和基金として大切に使いたい」と謝意を述べた。

その後も記念館の窮状を救う寄付をいただいている。

4 開館5周年リニューアル

2009（平成21）年8月22日の開館5周年に向け、いくつかの事業を立ち上げた。まず、館内展示の一部のリニューアルである。開館までに十分な資料収集と展示内容の精査の時間が確保できなかったため、また、追加・訂正などをその都度続けていたことで不具合が生じていたため、その解消と見直しを進めることにした。

1. 遺影掲示と船倉ベッド

開館当初101枚だった遺影が、2009（平成21）年3月現在、237枚（262人）に増えたため、遺影展示スペースを拡大する必要が生じていた。隣接する船倉ベッド（通称・蚕棚）を1階階段側の踊り場スペースに移動して、展示遺影スペースとし、船倉ベッドは入館者が腰掛けられるなど体験できるようにした。

2. 刻銘板

当初の刻銘板は、1978（昭和53）年に発刊された『記録と証言　あゝ学童疎開船対馬丸』の名簿より転載したが、開館後、遺族や友人などの申し入れがあり33人分が修正された。また、開館5年の間に一部破損した箇所もあったため、新たにデータを印刷しなおし、全面張り替えとした。

3. 十・十空襲

十・十空襲の展示は最終展示コーナーに移動した。新たに遺族に対し沖縄県庁発行（島田叡知事の署名入り）の「戦時災害ニ因ル危害証明書」と那覇市歴史博物館より市内8校の国民学校被害状況などの資料を展示する。十・十空襲の映像は、沖縄戦記録フィルム一フィート運動の会より借り受けて放映することにした。

4. 学童疎開

学童疎開の資料展示を充実させ、疎開先で子どもたちが淋しさと空腹と寒さで苦労した様子を加筆するなどした。

5. 生存者の苦悩

新たに、対馬丸の生存者たちが戦後数十年も黙していた苦悩と、それぞれの戦後の歩みを、ビデオブースの壁面を使い、犠牲者の刻銘と対峙す

るかたちで展示した。

6. 箝口令

開館後に発見された、遺族の髙良政弘が祖父母に宛てた手紙を抜粋し、2階展示コーナーの出口側面に展示し、箝口令の実態を紹介した。

7. メッセージ

「対馬丸の子どもからあなたへ」のメッセージは出口前の感想文を書くデスクの壁面に小型パネルで展示した。

5 対馬丸65周忌悪石島慰霊の旅

開館5周年を記念して、遺族や生存者、語り部の方を対象に参加を募り、「対馬丸65周忌悪石島慰霊の旅」を実施した。海上慰霊祭を行い、悪石島の慰霊碑の清掃並びに65年目の慰霊祭を島の人々と挙行し、島の人々への感謝と共に交流を図った。上原清を団長に、儀間真勝、喜屋武盛守、渡久地政吉、名城悦子、外間邦子らが参加した。

開館5周年の2009（平成21）年8月22日には、小桜の塔、悪石島の慰霊碑前に加え、沈没地点の悪石島海上の3か所で慰霊祭が行われた。

対馬丸沈没地点の海上に花束を投げ入れる外間邦子理事（遺族）と上原清（生存者）

小桜の塔で行われた慰霊祭でオオゴマダラを放蝶する子どもたち

小桜の塔では、遺族や関係者400人が参列した。「首里城下に蝶を翔ばそう会」（会長・高良鉄夫）の協力でオオゴマダラを放蝶した後、対馬丸を題材にした混声合唱組曲「海のトランペット」（作詞：車木蓉子、作曲：池辺晋一郎）を浦添少年少女合唱団と神戸市役所センター合唱団が歌い上げた後、慰霊祭が執り行われた。

悪石島では、この日に合わせて訪れた生存者と遺族ならびに支援者6人が、沈没地点の悪石島海上で慰霊祭を行った。持参した菓子や玩具、水などを海に捧げたあと、海底の犠牲者の保護を祈願して、壺屋で制作されたシーサー一対と那覇市立壺屋小学校の児童たちが作った子シーサー、また、那覇市内の小学校から託された千羽鶴を海に投じた。

対馬丸65周忌悪石島慰霊の旅の団長を務めた上原清の報告より

> 魂たちが海面に顔を出してきたのか、海が一段と輝き始めた。私は海に向かって立ち、「魂たちよ、海水とボトルに入れよ」と念じて二つのボトルに魂の海水をいれた。私はその「魂の海水」を魂の故郷、沖縄へ持ち帰った。

上原清が持ち帰った「魂の海水」は、翌2010（平成22）年の対馬丸慰霊祭で、名幸俊海護国寺住職により小桜の塔に魂をお迎えするという儀式「開眼の儀」が執り行われ、上原清をはじめ慰霊の旅参加者や遺族代表の手により犠牲者刻銘碑にかけられた。

6 日本平和博物館会議に加盟

開館5周年の節目の年の2009（平成21）年12月18日、当記念館が日本平和博物館会議の第16回会議において加盟承認を受けた。同会議は「戦争の惨禍を人々に伝え平和の実現に資することを目的とする博物館が協力して調査・研究等を行う

開館5周年を機に行われた展示リニューアル

ことにより、相互の連携を図りつつ平和推進事業の一層の発展を期することを目的」として、1994（平成6）年に結成された。当記念館は、沖縄県平和祈念資料館の推薦を受けて申請していた。県内の加盟はひめゆり平和祈念資料館と合わせて3館になった。

2018（平成30）年12月7、8日、国内10館で構成される日本平和博物館会議が沖縄県で開催された。初日は開催館の沖縄県平和祈念資料館で協議、情報交換及びフィールドワーク、2日目は対馬丸記念館及び不屈館の視察が行われた。

7 入館者数の低迷

2011（平成23）年6月の定例県議会に「対馬丸記念館に係る管理運営費の補助に関する陳情」を提出したところ継続審議となり、9月定例県議会において全会一致で採択された。それを受けて翌2012（平成24）年2月24日の県議会答弁で、仲井眞弘多県知事は「平成24年度当初予算案において、（対馬丸記念館への）来館促進支援事業費770万円の計上」を表明した。

「沖縄県学童集団疎開」は国策のもと、沖縄県が半ば強制的に実施した経緯があり、当記念会では沖縄県に対馬丸記念館維持費1,000万円（人件費、修繕積立金）の補助をお願いしていた。

これまで篤志家からの寄付に頼ってきたが、平成22年度は社会経済情勢の悪化から寄付が激減しており、管理運営に係る一般会計は、単年度収支で約26万円の赤字となった。このままでいくと平成26年度には予備費を使い果たす見通しであり、早急に抜本的な財源対策に取り組まなければ、存続が危ぶまれる事態が迫っていた。

資料：「対馬丸記念館に係る管理運営費の補助について（補助）」平成23年6月24日付

（以下、陳情書の抜粋）

3　国庫補助等

国は、学童集団疎開による犠牲者の遺族に特別支出金（昭和52年度から平成22年度までに60億円余）を支給し、洋上慰霊祭の実施、対馬丸船体の発見を行っております。

さらに、対馬丸記念館の建設に際して調査設計費3,000万円、建設費の全額約2億4,000万円、展示経費として6,000万円を負担しました。さらに、毎年、企画展等の事業費として国庫補助金（約1,100万円）を交付しております。

記念館の建設に際し、国は、記念館建物は10分の10国庫補助とし、「土地の確保、維持管理費・運営費等は県が負担すること。」を方針としておりましたが、県の負担は未だ実現しておりません。

一方、那覇市は、対馬丸記念館敷地の占有料（年間約30万円）を免除し、更には固定資産税（年間約100万円）を免除しております。その他にも、植樹祭の花木の提供、館周辺の整備など様々な便宜を図っております。

4　公益法人制度改革

（略）

記念館の管理運営費については、一般会計として計上されており、国の補助金等の交付はありません。その収入は入館料約400万円、協力会員費約100万円、篤志家からの寄付金約800万円となっており、支出の光熱水費、職員の給料、展示経費その他の管理運営費として約1,300万円を賄っております。

公益財団法人に移行する認定条件の一つとして、経理的基礎を有すること、いわゆる「財政基盤の明確化」があります。当会が財源として大きく依存してきた篤志家からの不定期な寄付は、この条件には該当しないことからこの基準が大きな課題となります。

また、社会経済情勢の悪化から寄付が減少する傾向にあります。この二つの情勢変化は、当会の存亡に関わるものとなっております。

5　将来展望と管理運営費の補助

展示資料を見てもらい、二度と悲しみをくりかえさない「学びの場」となること、未来

を担う子供達に平和の種をまき、それを育むために対馬丸記念館を開館しました。子供だけの平和記念館は全国でも当館だけであります。

犠牲になった子供達の慰霊だけではなく、子供達がより良く生きていけるよう、未来の平和創造の場として活用していきます。

（略）

ところで、波の上は大型旅客船の接岸、ビーチの整備など那覇港ウォーターフロントとして整備中であり、交流の場として賑うことが予想されます。当館の存在意義も一層大きくなり、平和学習・修学旅行への対応など観光振興にもより貢献するものと存じます。

（略）

戦前とはいえ、県が学童集団疎開を強力に推進しました。この原点をご賢察下さり、対馬丸記念館が永続できるよう、（略）管理運営費の県補助を切にお願い申し上げます。

8 公益財団法人へ組織を移行

2012（平成24）年から国の公益法人制度改革が行われ、対馬丸記念会は2017（平成29）年11月までに公益財団法人または一般財団法人への移行を選択しなければならなかった。

公益財団法人は、社会的信頼面で一般財団法人より有利であり、税務上の優遇措置が受けられる。また、税金控除の対象団体になることから寄付が集まりやすい、と言われ、対馬丸記念会としては公益財団法人を目指すべきであるが、認定基準の一つである財政基盤の明確化が大きな課題となっていた。寄付を財源とする場合は、毎年、大口寄付者上位5人の個人又は団体の名簿を示す必要があるが、対馬丸記念会は篤志家の不定期な寄付を大きな財源としているのが現状である。開館当初より国からの補助金が下りているが、光熱費や職員の報酬などの運営費には使えず、入館料と協力会員費と寄付金で賄っていた。早急に財源確保を図らなければ、解散という事態に追い込まれかねない状況であった。

以後、新公益法人制度に対応すべく移行準備を進めた。

2012（平成24）年3月17、24日の評議員会において、次の5人の委員が選任された。

外部委員　尚　弘子（公益財団法人沖縄県文化振興会理事長／文化振興分野）
比嘉正詔（公益財団法人沖縄協会理事／平和発信分野）
嶺井政治（財団法人対馬丸記念会評議員／産業経済分野）

内部委員　又吉治子（財団法人対馬丸記念会監事／公益法人分野）
宮城清志（財団法人対馬丸記念会事務局職員／平和発信分野）

内部委員の宮城清志は、県庁職員時代の経歴が評価され、財団法人対馬丸記念館特命アドバイザーとして公益法人移行への業務を担当した。正式な着任は同年6月1日。

同年6月13日、平成24年度第1回理事会が開催され、公益財団法人移行に係る議案を提案し、原案通り承認された。

同年7月25日、最初の評議員選定委員会が開催され、次の7人の委員が選任された。

安次富長昭（琉球大学名誉教授）
上原　清　（元与那城町立与那城小学校校長）
津嘉山朝祥（元沖縄県教育長）
糸数昌和　（株式会社だるま商事代表）
嘉数昇明　（元沖縄県副知事）
野里　洋　（株式会社琉球新報社専務取締役）
座喜味和則（元沖縄県遺族連合会会長）

同年12月5日、平成24年度第2回評議員会（臨時会）が開催され、公益財団法人移行に係る議案を提案し、一部修正を加えること及び県との調整で発生する軽微な修正については、対馬丸記念会理事長に一任することも含めて承認された。

また、公益財団法人移行後の理事及び監事の選任を行い、理事7人及び監事2人が選任された。

代表理事／髙良政勝（たから歯科院長）
理事／渡口眞常（グラフィックデザイナー）・

外間邦子（元沖縄県栄養士会会長）・渡久地政吉（元那覇市教育委員会教育長）・瑞慶山良和（那覇市民生委員）・上原廣保（那覇市若狭2丁目自治会長）・比嘉正詔（公益財団法人沖縄協会理事）

監事／又吉治子（公益財団法人沖縄女子一高女ひめゆり平和祈念財団理事）・渡名喜元嗣　（元沖縄県監査委員事務局監査課副参事）

同年12月22日、沖縄県に対して公益財団法人移行認定申請書を提出し、その後、補正・修正の調整を行った。2013（平成25）年3月18日、第三者機関である公益認定審議会に県から諮問し、その答申を受けて公益財団法人への移行認定が行われた。同年3月22日付けで認定を受けた。

9 天皇皇后両陛下の行幸啓

2014（平成26）年6月27日、天皇皇后両陛下の行幸啓が実現した。天皇陛下は、1997（平成9）年12月に開館の契機となる対馬丸の船体が海底で発見された折、天皇陛下と同世代の犠牲者を悼み、「疎開児の命いだきて沈みたる　船深海に見出されけり」の御製を詠まれていた。御製は歌碑となり、海洋研究開発機構本部に建立されていることを開館の翌年に来館された橋本龍太郎参議院議員より知らされた。以来、宮内庁宛てに何度か対馬丸に関する資料を送るなど、行幸啓の実現を待っていたがなかなかその機会は訪れなかった。

小桜の塔で献花される両陛下

遺影や遺品を熱心にご覧になる両陛下

同年3月18日、NHKのニュースで報道された「天皇皇后両陛下のご来館」は寝耳に水であった。翌19日、宮内庁で打合せを終えてきた県職員が記念館を訪れ、具体的な報告があった。その日を境に館の内外があわただしくなった。一般来館者の急増に加え、宮内庁からの指示を受けた県庁職員の下、御休み所のレイアウトに始まり、空調の温度設定、照明、奉迎スタッフの履歴書、分単位のタイムスケジュールの確認等、緊迫した日々が続いた。さらに行幸啓の日が近づくと警察庁（東京）や九州管区警察局（福岡）がマイクロバス2台で乗り付け、徹底したセキュリティ・チェックが行われた。

当日は、まず小桜の塔で翁長雄志那覇市長、安慶田光男那覇市議会議長と当館髙良代表理事の3人がお迎えした。その後、髙良代表理事の案内で記念館を訪れ、展示をご覧になった後、別室に控えていた遺族8人、生存者7人との懇談が行われた。予定時間を大幅に超えて、一人ひとりの話に耳を傾け、お言葉をかけられていた。

対馬丸の生存者、遺族の中でも行幸啓の受け止め方はさまざまであるが、天皇が犠牲者への慰霊と鎮魂、また遺族・生存者との懇談のため来館されたことは、子どもの戦争記念館としての当館の使命を再確認するものであった。

今回の行幸啓をそれぞれの立場で関わった方たちに寄稿してもらい、『対馬丸記念館行幸啓記念誌』（A4判、30ページ、平成27年3月31日刊）をまとめた。

10 対馬丸70回忌追悼式

対馬丸が米潜水艦ボーフィン号に撃沈されてから70年、小桜の塔建立から60年、当記念館開館から10年の節目の2014（平成26）年8月22日は、慰霊祭の後、追悼セレモニーを実施した。記念館の屋上で撃沈された時間に合わせ、悪石島の方向に向かって手を合わせた。

追悼イベントとして同年8月23日、「対馬丸事件から70年、祈念対談　今、伝え継ぐ対馬丸」（対馬丸70年祈念対談実行委員会主催、琉球新報社・那覇市教育委員会共催）が那覇市民会館で開催された。芥川賞作家で新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」作者の大城立裕と、作家で元外交官の佐藤優が対談した。県内の高校生約1200人が来場し、対馬丸事件について、また沖縄の歴史文化を学ぶことの重要性について語る2人の話に耳を傾けた。

翌24日には浦添市のてだこホールで、対馬丸と人間魚雷『回天』の2つの悲劇を描いた合唱構成「二つの海～海に消えた二つの航路～」（主催・同実行委員会、神戸市役所センター合唱団、共催・対馬丸記念館）が上演された。指揮は作曲家の池辺晋一郎、ナレーションは那覇市出身の俳優、津嘉山正種が担当、県内の複数の合唱団も参加し、総勢140人余で「十万人の疎開命令」「奪われし初恋」など計9曲が歌われた。

11 1950年以来の資料をデジタル化

開館10年を機に所蔵資料の整理に着手した。遺族から提供された犠牲者の学用品等の遺品の他、当記念会の前身である対馬丸遭難者遺族会時代からの「海上慰霊祭」や「処遇問題」に関する資料、また開館までの関係資料など約1,000点が未整理のまま保管されていた。そこで目録作成からホームページでの公開まで、資料のデジタル化作業を2014年度より5年計画でスタートさせた。

1950年から2014年度までの資料の分類とカメラ撮影を行い、3年目の2016年度には1,296点（対馬丸遭難者遺族会関連資料495点、対馬丸記念会関連資料666点、展示物・戦時関連資料135点）の目録が完成した。

ホームページ上で公開されている記念館の所蔵資料

次年度からホームページでの目録検索に向けた作業を開始し、2018年に終了した。

12 琉球新報特別賞受賞

2015（平成27）年8月13日、琉球新報社（富田詢一社長）より戦後70周年にあたり、当記念館が「青春を語る会」（中山きく代表）と共に琉球新報特別賞を受賞した。

13 視聴覚施設の充実

開館から13年目の2017（平成29）年、一階の展示室の証言映像ブースがリニューアルされた。映像機器の入れ替えに伴い、新たに沖縄戦に関す

る12映像を収集・収録し、証言だけでなく広く沖縄戦について学べるようにした。また、これまで1モニターを2人までしか視聴できなかったが、3台のモニターで同一映像を流し、音声は外部スピーカーから聞けるという、団体見学の利用にも対応できるようにした。

2022（令和4）年8月10日、海外から訪れる人たちにも充実した館内見学ができるように、大型TVモニターを使った展示案内を各階に設置した。モニターの大きさ縦115cm、横69cm、大型液晶パネルになっており、誰でも簡単に操作することができる。展示内容をコンパクトにまとめた説明が、日本語、英語、中国語、韓国語に対応している。

リニューアル後、明るく視聴しやすくなった証言ブース

14 開館15周年記念

2019（令和元）年、開館15周年に当たり遺族会や記念館活動の中で顕著な功績を挙げた27人と5団体に感謝状を贈呈し、その功績を称えた。

阿嘉宗徹、池宮城晃、伊志嶺豊和、糸数裕子、上原清、上原徹、遠藤昌孝、大嶺正次郎、親泊良子、金丸剛造、久高將吉、斉藤幸江、謝花寛営、新里朝子、平良啓子、髙里千穂子、玉城祐子、照屋寛、當間栄安、名幸俊海、西岡利美、真栄城修、又吉治子、宮城清志、宮城淳、村吉正行、山里典子、（以下団体）垣花奉頌会、泊先覚顕彰会、那覇市立上山中学校、那覇市立上山中学校剣道部、医療法人陽心会大道中央病院（50音順）

15 沖縄県功労賞受賞他

令和元年度沖縄県功労賞〈平和・人権推進部門〉において、当記念会代表理事の髙良政勝が、対馬丸の遺族・生存者として17年の長きにわたり平和発信に貢献してきたことが評価され、受賞した。

また、復帰50年の節目の年の2022（令和4）年、復帰の日の5月15日に開催された復帰50周年記念式典で、髙良政勝代表理事が県民代表あいさつを行った。コロナ禍での式典で、沖縄コンベンションセンターとグランドプリンス新高輪（東京）の2か所と皇居を結んだオンラインにて開催された。髙良代表理事は「平和を希求する県民の心」を、対馬丸記念館の建設理念にも触れながら、全国民へ平和と命の尊さを訴えた。

復帰50周年記念式典で県民代表あいさつをする髙良政勝代表理事

16 コロナ禍で来館者の減少

沖縄県内では2020（令和2）年2月14日、初めて新型コロナウイルスの感染者が確認された。その後、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、同年4月7日、緊急事態宣言が7府県に出され、4月16日に対象地域を全国に拡大した。その後も断続的に第4回（令和3年5月23日～9月30日）まで実施された。当記念館では、内外

の事情から4度の休館を余儀なくされた。

2020（令和2）年4月10日～5月20日、8月2日～9月6日（ただし、第34回特別展「―未来を奪われた子供たち―石川宮森小学校米軍ジェット機墜落事件写真展の開館時期〈8月22日～9月22日〉は特別展会場のみ開放された」

2021（令和3）年5月24日～6月20日

2022（令和4）年1月12日～1月20日

2020（令和2）年8月22日の慰霊祭は規模を縮小し、来賓あいさつや、つしま丸児童合唱団による合唱などを割愛した。三密を避けるため、焼香時間を当日午前10時半から午後4時までと幅を持たせた。コロナ禍での慰霊祭の規模縮小は2022（令和4）年まで続き、2023（令和5）年8月22日の慰霊祭は4年ぶりに、遺族や一般参加者を含めた通常開催となった。

コロナ禍で、活動が停滞しないよう管理・運営費の寄付を県内外に広く呼びかけたところ、多くの人たちから支援が寄せられた。また、SNSを通して多くの方に情報を伝えることができた。

臨時休館中、遺影の並べ替えと英訳文の追加などを実施した。遺影の並び替えは親子や兄弟を並べて展示してほしい、という遺族からの要望に応えた。

また、来館のキャンセルが相次ぐなか、学校現場からの要請に応えて、生存者で遺族でもある髙良政勝代表理事が平和学習用の映像収録に臨んだ。

17　県が語り部に感謝状

沖縄県は戦後75年の節目の年を迎え、2020（令和2）年10月17日（6月を予定していたが新型コロナ感染拡大のため延期）、沖縄戦などを生き延び、戦争の語り部として活動してきた118人に感謝状を贈呈した。当記念館からは平良啓子、上原清、照屋恒、マリア宮城・バートラフ、髙良政勝の5人が選ばれ、糸満市摩文仁の沖縄平和祈念堂で開催された贈呈式には、当記念館を代表して平良啓子が出席した。

第4章 出会いと対話

1 首里城下に蝶を翔ばそう会

対馬丸記念館のある旭ヶ丘公園は、小桜の塔や海鳴りの像（戦時遭難船の犠牲者を祀る）をはじめとする慰霊碑が立っている。対馬丸記念会では、当初より同公園を平和の発信拠点とする「平和の杜」構想を抱いていたところ、上原妙前対馬丸遺族会会長より旭ヶ丘公園にオオゴマダラを翔ばそう、という企画が持ち込まれた。「平和の杜」のシンボルに蝶はうってつけであり、「首里城下に蝶を翔ばそう会」（高良鉄夫会長）の大城安弘幹事長の指導の下、2007（平成19）年5月27日、公園内に蝶の食草、ホウライカガミ、トウワタ、ギョボク、シークヮーサーなど621本を植栽した。植栽当日は、「首里城下に蝶を翔ばそう会」の会員、若狭1丁目自治会（糸数武会長）をはじめ若狭地域の方々・子どもたち、遺族・生存者の方、ガールスカウト第36団など200余人が参加した。

翌2008（平成20）年8月22日の小桜の塔での慰霊祭には、「首里城下に蝶を翔ばそう会」の協力でオオゴマダラ100頭が放蝶され、平和への想いを新たにした。

オオゴマダラの食草であるホウライカガミ等を植栽後の記念写真

2 小桜の塔周辺整備

那覇市は2012（平成24）年12月21日から翌13（平成25）年2月15日にかけて、小桜の塔への通路舗装工事及び水道整備工事を実施した。塔までの通路は砂利道で歩行しづらかったが、雨水を通す浸透性のある白色系のアスファルトが敷かれ、歩行しやすくなった。また、通路整備と合わせ、塔周辺の4か所に水道が設置された。周辺の雑木を伐採したことから塔の側で気根を何本も下ろし、岩を抱いて生きるガジュマルが姿を現した。そのたくましい姿はどんな困難な中でも諦めずに生き抜く力強さを表しているとして、宮里聖音により「ふんばるガジュマル」と命名された。

当記念館では、2013（平成25）年4月1日の公益財団法人発足を記念して、塔の左右と通路入り口の両脇に計4本の桜を植樹した。花が白色からピンクに変化する「クメノサクラ」で、久米島で発見されたことからその名がある。桜の木は久米島町役場から寄贈された。桜の植樹とあわせて沖縄県緑化推進委員会の緑の募金公募事業でヒガンバナ科のハマユウが植栽され、季節が来る

鬱蒼としていた小桜の塔周辺が整備された。右手の岩を抱いたガジュマルも剪定され、「ふんばるガジュマル」と命名された。

とそれぞれ花を咲かせ、「平和の杜」にふさわしいたたずまいを演出している。

その後、子どもの慰霊碑である小桜の塔に鯉のぼりを掲揚しようと、家庭で眠っている鯉のぼりの寄付を呼びかけ、集まった鯉のぼりを「こどもの日」に先立つ2014（平成26）年5月3日、塔に掲揚した。これは小桜の塔の竣工式典が1954（昭和29）年5月5日に開催され、当日塔の両脇に鯉のぼりが翻っていたことに由来する。掲揚後の5月29日にはつしま丸児童合唱団が小桜の塔で「こいのぼり」の歌等を奉納合唱した。以後、毎年恒例の行事となった。

3 犠牲者の遺族に卒業証書

2008（平成20）年8月22日、小桜の塔での慰霊祭の後、対馬丸に乗船し、犠牲となった甲辰国民学校6年生の遺族へ卒業証書の授与式が行われた。那覇市久茂地（現在のパレットくもじ付近）にあった同国民学校は、校舎が日本軍の兵舎として接収され、卒業式が行われないまま沖縄戦が始まり、戦後は廃校となった。

卒業証書は、1945（昭和20）年3月に卒業予定であった同窓生が、46年後の1991（平成3）年、有志で卒業式を行った際に作製していた。対馬丸で犠牲になった33人の卒業証書が2007（平成19）年末に当記念館に託されたことから、名乗り出た16人の遺族へ63年の時を経て手渡された。

4 新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」上演

2012（平成24）年11月11日、琉球新報ホールにて新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」の昼夜2公演が上演された。芥川賞作家の大城立裕が発表した新作組踊十番の一つで、幸喜良秀演出。本土復帰40周年記念・平和推進公演で、主催は同公演実行委員会。

組踊の八八八六の琉歌のリズムに乗せた唱えや抑えた所作、琉球古典音楽の調べによる心情表現に加え、沖縄芝居のつらね、和箏なども融合させ、対馬丸事件の悲劇を効果的に表現した。

新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」制作発表会であいさつする大城立裕

組踊上演の前に、つしま丸児童合唱団（髙里千穂子指導）の歌と、創作舞踊「てぃんさぐぬ花」（玉城節子作舞・指導）が披露された。

初演から7年後の2019（令和元）年10月13日、「海鳴りの彼方」を小中学生の演じる作品としてリメイクした組踊「対馬丸」が、北谷町のちゃたんニライセンターで上演された。同町の平和推進事業で、主催は北谷町自主文化実行委員会。対馬丸遭難から75年、組踊初上演から300年となることを踏まえた企画である。原作・大城立裕、演出・女流組踊研究会めばな代表の山城亜矢乃。町内の小中学生12人とプロの役者の総勢24人で演じられた。

その後、同公演の成功を受け、当記念館主催で那覇公演を北谷町教育委員会に願い出たところ同意と支援を得て、2020（令和2）年1月19日に琉球新報ホールで再演された。

大城立裕と当記念館（前身の対馬丸遭難者遺族会・会長新里清篤）との出会いは1960（昭和35）年に遡る。新里会長が対馬丸の悲劇を後世に伝えねば、と大城、嘉陽安男・船越義彰に執筆を依頼し、生存者からの聞き取りを重ね、共著『悪石島―疎開船学童死のドキュメント』（文林書房）が1961（昭和36）年に上梓された。その後、大城がドキュメントとして再構築し、書名も『対馬丸』に変更して版を重ね、2015（平成27）年には講談社より文庫化された。1982（昭和57）年に公開されたアニメーション映画「対馬丸―さようなら沖縄―」の原作。

氏は対馬丸記念館設立時に発起人の一人として設立趣意書を作成していただき、設立後も折に触れ、協力を惜しまなかった。2020（令和2）年10月27日逝去。享年96。

5 語り部交流

〈熊本県水俣市より〉

2012（平成24）年1月28日、熊本県水俣市立水俣病資料館の「語り部の会」の緒方正実副会長ら7人が来沖し、「水俣病を伝える講演会」（主催・同資料館語り部の会、共催・対馬丸記念館）が記念館で開催された。語り部の川本愛一郎さんは「沖縄には戦後67年経った今でも米軍基地があり、命どぅ宝の言葉が生きている。国策の失敗を押し付けられた点で沖縄と水俣はつながっている。共に命の大切さを次世代に語り続けるべきである」と話した。

講演後、記念館の生存者（語り部）と意見交換会が行われた。

〈愛知県名古屋市へ〉

2013（平成25）年6月、対馬丸生存者の上原清が、愛知県の「戦争と平和の資料館ピースあいち」で講演を行った。同施設は毎年6月23日前後に沖縄戦に関する特別展を開催しており、同年の「対馬丸沈没展」関連イベントとして実施された。

戦後まもなく愛知県内の有志が浄財を募り、戦争の犠牲になった子どもたちの霊を慰めようと小桜の塔を建立したという経緯があり、愛知県の訪問は対馬丸の生存者と遺族にとって特別な語り部活動であり、実りある交流の機会となった。

〈宮崎県都城市へ〉

2013（平成25）年10月、対馬丸の生存者で、その後疎開先である宮崎県の高崎国民学校で教鞭を執った糸数裕子が、宮崎県都城市立高崎中学校へ語り部として派遣された。同中学校では校庭にある「沖縄高崎会来訪記念碑」と刻まれた石碑から、戦時中沖縄から学童が疎開していたことを知り、それを機に対馬丸事件のこと、さらに地元での戦争被害を明らかにしていったという経緯があった。

会場で当時の教え子との再会もあり、疎開先での聞き取り調査の必要性と手ごたえを感じた交流であった。

6 なは群星の会（現・那覇青少年舞台プログラム）平和イベント

2014（平成26）年の慰霊の日（6月23日）と対馬丸慰霊祭（8月22日）に、なは群星の会（現・那覇青少年舞台プログラム、会長奥平祐子、2005年創設）のメンバーが平和イベントを実施した。演じるのは那覇市とその近郊の小中高校生で、記念館前の広場と階段、屋上を使って劇と詩の群読を、歌と踊りを交えてダイナミックに繰り広げた。

以後、6月23日の慰霊の日の恒例となった。メンバーはまず対馬丸記念館前広場周辺の清掃をし、海鳴りの像と小桜の塔へ参拝後、詩の朗読と平和劇を披露している。若い世代が沖縄戦に思いをはせながら力強い踊りや歌で平和を訴えるという、演劇の要素も取り入れた独特の舞台が注目されている。

宮崎県都城市立高崎中学校の生徒たちと糸数裕子（疎開時訓導、生存者）

記念館前の広場で群舞を披露する「那覇青少年舞台プログラム」のメンバーたち

7 宇検村に對馬丸慰霊之碑建立

2017（平成29）年3月19日、奄美大島宇検村の船越海岸で對馬丸慰霊之碑の建立式典が開催された。式典には沖縄県から浦崎唯昭副知事をはじめ遺族や生存者26名が参加した。

対馬丸が撃沈されてからほどなくして、宇検村には100人近くの遺体が岸に流れ着き、住民たちが丁重に埋葬していた。箝口令が敷かれていたため、被害規模など正確な記録は残っていない。戦後70年に当たる2015（平成27）年1月、宇検集落区長が慰霊碑建立の要望書を村に提出し、同年10月19日に慰霊碑建立実行委員会が同村役場で開催され、委員長に松井富彦副村長が就任した。慰霊碑建立の要望書は歴代の宇検集落区長により提出されていたという。慰霊碑建立に当たっては、村議会の承認を得るまでに元田信有宇検村長や慰霊碑建立実行委員長他有志の方々の尽力があった。慰霊之碑の周辺には沖縄からクロキ2本とフクギ30本が植栽された。

碑文には「ここフノシ（船越）海岸や枝手久島をはじめ、周辺一帯には多くの遺体が漂着しました。あまりの無残さにとても正気では埋葬できず焼酎を煽り、感覚を麻痺させながら浜に横穴を掘るなどして、手厚く埋葬しました」と記されている。

2年がかりで宇検村船越海岸に建立された「對馬丸慰霊之碑」

同建立式典で式辞を述べる元田信有村長

宇検村では慰霊碑建立を記念して対馬丸慰霊碑建立記念企画展「奄美大島と対馬丸」が2017（平成29）年3月1日～31日、宇検村湯湾の村生涯学習センター「元気の出る館」で開催された。同企画展は、前年の2016年8月22日～10月2日に当館で開催した特別展「奄美大島と対馬丸―いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる―」の移動展として行われた。

以後、宇検村との交流が続いている。

8 広島、愛知との交流

広島県広島市南区の比治山公園内に旧陸軍墓地がある。同墓地に立てられた「大東亜戦争」慰霊碑には「戦歿乗船将兵の霊三〇万柱」の隣に「対島（ママ）丸乗船沖縄疎開学童之霊」と刻まれている。この慰霊碑の文言は元船舶砲兵で、対馬丸の生存者であった故吉田董夫の発案と思われる。対馬丸には護衛のために船舶砲兵41人が乗船していた。

2018（平成30）年8月22日、慰霊碑の存在を知った広島経済大学岡本貞雄教授のゼミナールの学生たちにより、同地で対馬丸事件の慰霊祭が初めて開催された。慰霊祭は小桜の塔の慰霊祭の開始時刻と同じ時間に始まり、沖縄の方角へ向けて呉海洋少年団による「平和の祈り」の手旗信号、対馬丸に関する紙芝居の朗読なども行われ、船舶砲兵部隊遺族、関係者ら120人が参列した。

その後、海洋船舶画家・上田毅八郎による「対馬丸」が当館に贈られた。

2021（令和3）年10月14日、愛知県一宮市の葵公園（一宮市本町2丁目4-57）にカンヒザクラ1本の植樹と対馬丸事件の案内板1基が設置された。一宮市の市制100周年を記念して、一宮ロータリークラブが寄贈したもので、案内板には、対馬丸事件や小桜の塔の概要等、一宮市と対馬丸の繋がりについて記されている。

愛知県一宮市の葵公園に設置された対馬丸事件の案内板

広島市比治山公園内の「大東亜戦争」慰霊碑には、対馬丸事件で犠牲になった子どもたちの霊も刻まれている。

来場者35万人めのセレモニーで保育園児と記念撮影に納まる髙良代表理事と外間理事

9 感想文集『対馬丸の記憶』発刊

当記念館では、記念館を見学した方や語り部の講話を聴いた方に感想文を書いていただいており、折々にそれらをまとめて感想文集『対馬丸の記憶』を発刊してきた。

第1集は開館8周年記念として2013（平成25）年3月に発刊された。A5判256ページ。第1章／開館時に募集した「『平和の約束』公募メッセージより」、第2章／「対馬丸記念館を訪れて」、第3章／「語り部の話を聴いて」で構成されている。表紙には当記念館に寄せられた、染色家の神谷順子による海を背景に咲くハマユウのタペストリーが使われている。

その後も定期的に発刊され、2023（令和5）年12月20日に第6集（A5判、108ページ）が発刊された。

10 来場者、35万人めを迎える

開館20年目の2024（令和6）年5月27日、対馬丸記念館の来場者が35万人を超えた。35万人目は、団体で訪れた那覇市の社会福祉法人郵住協福祉会あじゃ保育園の園児たちで、髙良代表理事から記念証や対馬丸の絵本などが贈られた。

安次富長昭元理事逝去

琉球大学名誉教授
安次富長昭

2020（令和2）年8月10日、安次富長昭当記念館元理事の逝去の報が届いた。対馬丸事件で泊国民学校での同級生を7人亡くしたことから、当記念館に格別の想いを抱かれ、理事に就任し、2006（平成18）年の企画展「沖縄戦後の復興展part2―私たちはこのようにして立ち上がった―」では総合プロデューサーを務めた。常設展の遺品（資料）も氏の協力で集まったものが多くあり、中でも沖縄にいる同級生が対馬丸に乗船した弟の安否を問い合わせた手紙は貴重な展示品である。氏に手紙を出した友人は沖縄戦で亡くなっている。自身も2年間の疎開を体験しており、さまざまな思いを胸に当記念館を支え続けた。

館内の1944年当時の教室を模した教壇の上に掲示された、パブロ・ピカソ作「平和の鳩」のリトグラフは氏より寄贈されたもの。享年91。美術家。琉球大学名誉教授。

パブロ・ピカソ作「平和の鳩」のリトグラフ

第5章　今を生きる子どもたちへ

1　語り部養成

開館以来、生存者や遺族以外の語り部の養成が懸案事項であった。開館から2年後の2006（平成18）年に館内及び県内外の教育・行政機関等において、平和に関する「語り部活動」を行うことができるボランティアを募集した。応募者には無料で所定の講座を受講してもらい、全講座修了者に認定証を授与し、「対馬丸記念館ボランティア友の会」として活動してもらおうというもの。募集に応じた受講者5人に対し、2007（平成19）年10・11月に4日間かけて全11講座が、髙良政勝理事長をはじめ記念館の役員や語り部を講師に実施された。当館事務局が作成したプログラムに沿ってテーマごとに学習した後、受講者の感想と決意表明があり、髙良理事長より修了証が授与された。

4年後の2011（平成23）年7月13日、観光バスガイドや観光タクシーの運転手など観光サービス業従事者を主な対象とした「対馬丸記念館の語り部養成講座」が開講した。約1カ月の研修期間を終え、30人が語り部として認定された。これまで生存者や遺族が語り部として活動していたが、高齢化などさまざまな理由で継続が困難になっていた。修了式では、髙良理事長が認定証を交付し、「研修を生かして、平和教育の語り部として頑張っていただきたい」と激励した。

語り部養成講座終了後、講話を行う花岡麗華

2023（令和5）年9月20日、新たな語り部の認定式が行われた。約半年にわたる講習を経て、認定書を受け取った花岡麗華は、認定式の後、受講の成果発表として関係者が見守る中、講話を行った。花岡はつしま丸児童合唱団の保護者として当記念館に関わってきた経緯がある。

2　対馬丸平和杯

1955（昭和30）年に創設された全琉音楽祭（主催・沖縄タイムス社、県沖縄音楽教育研究会）は、1981（昭和56）年の第26回より、音楽を通して平和の尊さを感じてほしい、として「小桜平和杯」を設け、毎年、合唱で素晴らしい歌声を発表した小中学校に贈呈していた。対馬丸記念館開館後は名称を「対馬丸平和杯」と変更し、実施されている。

3　平和学習に取り組む

2009（平成21）年8月6日、那覇市教育委員会平成21年度第4回校長連絡協議会が当記念館企画展示室を会場に開催された。那覇市内小中学校の校長に対馬丸記念館を知ってもらい、平和学習に役立ててもらおうと那覇市教育委員会が企画した。

2012（平成24）年7月20日、平成24年度より内閣府の国庫補助金事業を活用して、学校現場と当記念館が連携して取り組むための「平和学習推進連携事業」委員会が設置された。委員は那覇市教育委員会指導主事、市立中学校教諭2人、

財団法人沖縄県平和祈念財団の主査、当記念館の髙良理事長の5人。8月8日、11月28日の2回にわたり委員会を開催し、平和学習推進連携事業計画と対馬丸記念館ワークブックの仕様書が原案通り承認された。

平和学習推進連携事業計画で取り上げられた事業は次のとおり。

1　平和学習推進連携委員会の開催
2　対馬丸記念館に関するワークブックの作成
3　平和学習担当教師の研修計画の実施
4　つしま丸児童合唱団活動を通しての平和学習活動

4 那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会

開館後、県内の小中学校の利用が少なく、平成25年度（2017）に来館した那覇市内の小中学校は全53校中、小学校8校、中学校2校の計549人であった。当記念館は「県内の多くの小中学校生が実際に見て学んでほしい」と見学を呼びかけ、25年度より那覇市教育委員会と共催で、那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会を開催している（平成28年度より年2回開催。令和元年度より、8月に行われている研修会を那覇市内全小中学校平和教育初任者研修会と名称変更）。各学校の平和教育担当教師向けの研修会で、「対馬丸の事件や沖縄戦への認識が深まれば」と同研修会へ期待を寄せている。教員を対象にした平和研修会は全国的にも少なく、関係者から注目されている。

2013（平成25）年8月7日、平和教育担当者研修会が行われ、生存者の平良啓子と県平和祈念財団の平田守の２人が講演した。講演後、館内見学や周辺にある慰霊碑等を巡った。

令和2年度（2020年）は講習会と館内外見学の2部構成で行われたが、以後コロナ禍で実施されず、コロナ感染症が5類に移行した2023（令和5）年から再開している。

平和教育担当者研修会の様子

5 平和学習成果展

平成24年度（2012）に刊行した『対馬丸記念館ワークブック』を活用した平和学習推進連携事業が始まった。同書は、事前学習や館内見学時に子どもたちが対馬丸事件や疎開生活の概要、沖縄戦についての基礎知識を習得することを目的に製作された。

各学校では対馬丸記念館で学んだことを伝える取り組みが行われ、那覇市立安謝小学校6年生は徒歩で来館し、見学した。同校では2014（平成26）年6月16日、校内平和集会で対馬丸を題材にした平和劇を演じ、その際舞台の背景絵として、幅6.5mの対馬丸疎開乗船者1,661人の人型を張り付けたタペストリー（現在、当記念館企画展示室の壁に縮小版を展示中）を制作した。

沖縄市立島袋小学校の上級生は、見学の後、対馬丸事件について下級生に分かりやすく伝えようと、紙芝居や壁新聞を作製した。

当記念館では、第1期（2013〈平成25〉年11月29日～12月20日）、第2期（2014〈平成26〉年1月25日～3月）に分け、平和学習成果展を開催した。企画展示室を「平和の約束ひろば」と命名し、那覇市立安謝小学校、同天妃小学校、沖縄市立島袋小学校の子どもたちの作品を展示した。

2014（平成26）年12月1日、那覇市内の小学校に通う子どもたちが在学中に一度は当記念館へ足を運んでもらおうと、那覇市へ陳情を行った。また、那覇市立小学校の5年生、6年生が対馬丸記念館や小桜の塔の立つ旭ヶ丘公園を訪問する際

那覇市立安謝小学校の全生徒で制作したタペストリー（横6.5m）

の交通費と入館料を市が負担する「平和の道しるべ教室」の創設を那覇市議会（金城徹議長）へ陳情した。

6　つしま丸児童合唱団

2012（平成24）年6月9日、歌を通じて未来の平和な世界を担う子どもたちの豊かな心を育もうと、つしま丸児童合唱団（主宰・財団法人対馬丸記念会）が結成された。合唱や英語遊びの活動をとおして友だちの輪を広げ、平和の響きを広く発信していく。団員は対馬丸の沈没で犠牲になった子どもたちが通っていた学校を中心に呼びかけ、約40人が集まった。対馬丸で犠牲になった子どもたちの奪われた夢や希望を、今の子どもたちが表現できる居場所づくりを目指している。

毎年8月の対馬丸慰霊祭に出演し、平和を願う歌声を披露する。また、結成したばかりの2012（平成24）年11月11日には、新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」（大城立裕作）に出演し、第一部の明日を担う子どもたちによる「歌と踊り」で「平和の歌」を歌った。

合唱指導は髙里千穂子、ヴォイス・トレーナーは友利あつ子、新垣真由美、ピアノ伴奏は小橋川知美、長嶺かん奈、英語遊びの指導は春山幸子、平良直美。

2016（平成28）年6月23日、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式において、つしま丸合唱団が献花式の式典合唱団として参加し、「ねがい」「大切なふるさと」「BELIEVE」「翼をください」「月桃」の5曲を歌った。翌2017（平成29）年の追悼式でも那覇少年少女合唱団と共に奉唱した。

2019（令和元）年12月26日、つしま丸児童合唱団が那覇少年少女合唱団と共に、第1回ちゅ

第1回沖縄県美らうちなー草の根平和貢献賞を受賞後、玉城デニー知事を囲んで記念撮影

らうちなー草の根平和貢献賞を受賞した。同賞は、県内において平和につながる身近な社会貢献活動に取り組む方々を対象に2年に1度表彰している。平和で豊かな地域社会の実現に寄与すること、及び平和に関する県民意識の高揚を図ることを目的として、同年8月に創設された。

選考理由は「学校という枠を超え、幅広い年齢層の児童・生徒が、地域での活動や歌を通して平和を学び、沖縄全戦没者追悼式や対馬丸慰霊祭など多くの平和を求める行事で成果を披露しています。（略）地域に根差した息の長いこのような活動は、全ての人々が、平和の大切さを改めて考える契機となり、少年少女が行う草の根平和活動として評価できます」というもの。

2022（令和4）年4月2日、当記念館企画展示室にて、つしま丸児童合唱団創立10周年記念の発表会が開催された。発表会では紙芝居「2つのランドセル」を使った朗読も行われた。現在、各地の慰霊祭やイベントで活動を続けている。

7 全琉図画・作文・書道コンクール

2012（平成24）年11月16日～28日、第19回特別展として、沖縄タイムス社主催の第60回全琉小・中・高図画・作文・書道コンクール那覇秀作展が開催された。当記念館では今を生きる子どもたちの表現活動を応援しようと、那覇地域の対馬丸に乗船した児童にゆかりのある学校を対象に秀作（優良賞以上の図画と書道のみ）を選抜展示した。

館内1階展示室に掲示された子どもたちの力作

2013（平成25）年12月25日～翌14（平成26）年1月19日の2度目の開催時には、前年に展示できなかった作文をコピーしたものを合冊し、閲覧スペースを設けた。以後毎年開催してきた。

2023（令和5）年の那覇秀作展は、県学びをつくる研究会・県中学校社会科教育研究会・琉球新報社主催の琉球新報学校新聞コンクール（沖縄県中学校社会科新聞コンクール）とのタイアップで、同コンクールで特別賞と金賞を受賞した作品191点を展示した。以後、沖縄タイムス社主催の全琉図画・作文・書道コンクールと隔年で実施されることになった。

8 対馬丸平和学習交流事業

奄美大島宇検村に對馬丸慰霊之碑が建立されたことを機に、沖縄県は2017（平成29）年に「奄美沖縄平和交流事業」を立ち上げ、奄美大島の児童生徒との交流が2018（平成30）年から2年間実施された。2018年8月、第1回対馬丸平和学習交流事業への参加者を対象に、沖縄戦や対馬丸事件への知識を深めるため、事前学習が行われた。株式会社がちゆんの主導によるワークショップ、参加型演劇と合わせ、当記念館学芸員による館内の説明及び応答形式で生存者である平良啓子の講話があった。

第2回は沖縄県から小中学生16人、保護者14人の計30人が参加し、宇検村側からも小中学生5人、保護者2人が参加した。

9 記念館の説明パネルに英訳

2018（平成30）年、髙良政勝代表理事が当記念館から徒歩で約5分の距離にある那覇市立上山中学校で平和講話をしたことを機に、同校の前田比呂也校長より「生徒に説明パネルの英訳をさせ

たい」という提案があった。館内の多言語表記は課題の一つであったため、異存はなく、同校3年生が当記念館の見学、映像鑑賞などの学習を通して理解を深め、グループで英訳作業に取り組んだ。当記念館内の案内キャラクター「キヨシくん」と「ケイコちゃん」のナビゲーションに英訳が付され、同年12月19日、完成品が記念館に贈られた。

翌2019（平成31）年3月1日、英訳に取り組んだ3年生が来館し、英訳パネルの掲示作業が行われた。

那覇市立上山中学校生徒が取り組んだ英訳文を受け取る高良代表理事

10　紙芝居制作

2021（令和3）年、対馬丸事件を子どもたちに語り継ごうと学習教材用の紙芝居を制作した。那覇市内の小学校教諭を対象に「対馬丸事件を子どもたちにより身近に感じてもらうには」とアンケートを取ったところ、最も要望の多かったのが紙芝居であった。

低学年向けの『2つのランドセル　海に沈んだ対馬丸』（文／池宮康子・絵／和田瑞希）は、記念館のシンボルとなっている、当時泊国民学校5年生の外間美津子と3年生の悦子姉妹の遺品のランドセルを中心に、戦争のこと、学童疎開のこと、そして対馬丸沈没の状況が描かれている。

高学年向けの『対馬丸へのいのり～宇検村　対馬丸いれいひをたずねて～』（文／池宮康子・絵／磯崎主佳）は、奄美大島の宇検村にある船越海岸に多くの犠牲者の遺体が流れついたこと、村人が遺体を丁寧に埋葬したこと、その地に慰霊碑が建てられたことなどが、現地の小学生の視点で描かれている。

いずれも16枚組で5セットずつ制作し、希望する小学校などに貸し出している。DVDでの貸し出しも行われている。

同年11月12日、髙良政勝代表理事が宇検村を訪れ、紙芝居を贈呈した。

11　小学校に平和のモニュメント

2022（令和4）年7月13日、那覇市立垣花小学校で「平和のモニュメント」の除幕式が行われた。対馬丸事件で犠牲になった子どもたちの慰霊と平和の尊さを伝える同モニュメントには、垣花国民学校に在籍していた学童101人と訓導3人、世話人5人の名前とメッセージ「平和の約束」が刻まれている。当日は建立に携わった関係者、犠牲となった子どもの遺族、垣花小学校の子どもたちが参加した。

那覇市立垣花小学校に建立された「平和のモニュメント」。同様のモニュメントが泊小学校にも建立された

伊志嶺豊和（全国郵便局長会沖縄地方会会長）を中心に設置の働きかけがあり、実現した。

2024（令和6）年、対馬丸事件から80年、対馬丸記念館開館20周年の記念事業の一環として、那覇市立泊小学校内に二基めの「平和のモニュメント」が設置された。8月26日に除幕式が行われ、建立事業に関わった「とまり会」（浦崎唯昭会長）や対馬丸の関係者、同校の子どもたちが出席した。モニュメントには、泊国民学校に在籍していた学童

「平和のモニュメント」除幕式で、あいさつを述べる那覇市立泊小学校生徒代表。

84人、同校卒の那覇国民学校高等科の生徒42人、訓導ら計130人の名前とメッセージ「平和の約束」が刻まれている。

12 学童疎開体験事業

2022（令和4）年12月26日～28日、渡嘉敷村で学童疎開体験事業が実施された。子どもたちに「疎開」という言葉の意味を実感してもらおうと企画され、那覇市内の小学校に通う5、6年生20人が参加した。事前研修、渡嘉敷島での本研修、事後学習の後、発表会が行われた。

本研修では、やーさん体験メニュー（サツマイモやダイコンなどを使い、疎開当時の食事を再現）や現地ガイドによる講話、集団自決跡地見学、映画鑑賞会などのプログラムをこなした。

2023（令和5）年12月27日～29日、沖縄から最も多くの学童が疎開した宮崎県で同事業が実施された。沖縄本島内の小学校に通う5、6年生10人が参加し、本研修の2泊3日を挟んで事前学習と事後研修が各3日実施され、対馬丸事件や学童疎開の実情について学んだ。学習発表会では一人ひとりが戦争と平和について考えたことを壁新聞にまとめ、発表した。

令和6年度（2024）より、同事業は対馬丸平和継承プログラムと改称して継続・実施されることになった。同年8月13日～15日、県内の小学5、6年生15人が事前研修を経て、奄美大島への本研修に臨んだ。那覇港から奄美大島向け出港し、悪石島の沈没地点付近では菊の花を手向けた。奄美大島では、対馬丸慰霊碑の建つ宇検村の船越海岸を訪問し、慰霊碑建立事業に携わった元田信有元宇検村村長や、奄美大島在住の遺族から話を聞いた。帰沖後、参加者による報告会が開催され、報告書がまとめられた。

戦時中、沖縄から疎開した人が多く住む宮崎県宮崎市波島地区で当時の話を聴く子どもたち

奄美大島宇検村への航路で洋上慰霊祭に臨む子どもたち

疎開当時の食事を再現した献立と食事風景

ひと・もの・こと編

ひと 64

新里 清篤
松浦 浅吉
喜屋武 盛榮
髙良 政勝
糸数 裕子
平良 啓子
上原 清
照屋 恒
浜崎 盛久
外間 邦子
大城 立裕
元田 信有
嘉数 昇明
當間 栄安
齋藤 勝
照屋 寛
島袋 貞治
上原 一路
浦崎 康華

もの 101

館内配布資料
基礎資料
記念館刊行物
証言・体験集
パンフレット・
ポスター 他
一般書籍
（絵本・マンガ含む）
CD、DVD他
受賞・表彰
絵画
書
メッセージ
短歌
工芸品

こと 113

新里 清篤 しんざと・せいとく

対馬丸遭難者遺族会第２代会長（在任期間・1958年８月～1986年3月）。1909年生まれ、大宜味村根路銘出身。氏の編・著による『記録と証言　あゝ学童疎開船対馬丸』（A5判、405ページ。1978年刊、発行・対馬丸遭難者遺族会）は、対馬丸記念館建設の際も、それ以後も、バイブル的存在として関係者を支えている。享年86。

悲しみと怒りの行動

――― 新里清篤氏の想い出を娘の新里眞美子氏にご執筆いただきました。

対馬丸撃沈から今年80年を迎えるに当たり、対馬丸と共に戦後を歩み出した父、新里清篤の思いと足跡の一端を振り返って見る。

「学童集団疎開準備に関する件」として緊急通牒が発せられた昭和19年、父は本部国民学校の教頭として校長の下、全職員必死に勧誘を努めたが応募者がなかなか集まらず、悩んだ末に率先して自分の家族を送り出すこととした。こうして自身の５人の家族を奪われたことと教職にあったという責任感が父の歩みの原点であった。

「遭難学童の御霊を慰めたい。そして御霊に代わって平和を訴えたい。又、あとに残された遺族の方を励ましたい」と昭和34年、対馬丸船出の港にほど近い旭が丘に学童慰霊碑「小桜の塔」を移転改修した。

又、この学童疎開船対馬丸の沈没の事実を知れば知るほど国家としてもぜひ何らかの措置が講じられるべきだ。家族としてはせめて遭難現場で日本政府による海上慰霊祭を執行していただきたいと新たな運動を展開した。

昭和50年８月22日の三十三年忌を機に皇太子殿下、同妃殿下からの美しい供花が飾られた、海上保安庁巡視船「宗谷」の後部甲板上の祭壇で慰霊祭が挙行された。

更に、遭難学童の遺族への見舞金の交付、特別支給金の名による年金交付である。この実現には、実に昭和35年からおよそ60回もの上京を重ねた陳情が為されている。

昭和52年、父は遭難者が流れ着いた奄美大島の村々を訪れ、遺体が埋葬されていた海辺に花束と供物を捧げ、生存者の救護、遺体の埋葬、供養に当たられた関係者の方々へのお礼を述べている。私は平成29年、奄美大島宇検村での慰霊碑建立除幕式に参列する機会を得たが、かの地でも父の幅広い行動の一端を知ることとなった。

悲しみと怒りから発せられた父の行動には多

小桜の塔慰霊祭にて新里清篤（左端）

くの人々の協同、支援があった。要請行動を共にした金城和信氏※1、中央における茅誠司東京大学学長ら、『あゝ学童疎開船対馬丸』発行に際しての座喜味和則氏※2ら、多くの人々を感謝すべき人々と、思い出で語っている。私はそれら多くの人々の一人に母、朝子の名も挙げたい。

父は戦後程なく恩師の勧めで私の母と再婚したが、「あの人の頭には前の家族しか居ない。私達は居ないと思った」と後年、母は私に呟いた事がある。父は晩年「朝子で良かった」と母に述べたそうだ。ガムシャラに駆け回った日々を無言で支えた母への感謝の一言であろう。

この夏は「お父さんの思いが詰まった『対馬丸記念館』が20周年を迎えましたよ」と仏間の父に報告しよう。　（新里眞美子）

※1　財団法人沖縄県遺族連合会会長
※2　財団法人沖縄県遺族連合会事務局長

『記録と証言　あゝ学童疎開船対馬丸』

松浦 浅吉 まつうら・あさきち

戦後の沖縄に子どものための慰霊塔がなかったことから、愛知県のすずしろ子供会（会長・河合桂）の呼びかけに、同顧問で愛知県議会議員であった松浦浅吉が中心となり、児童の1円募金で資金を集めた。1954年に小桜の塔が建てられ、以来、対馬丸で子どもを亡くした人々は、毎年8月22日に小桜の塔で慰霊祭を行っている。松浦氏は1902年生まれ、愛知県犬山市出身。1959年逝去。

戦いのない平和な世界へ

――― 松浦浅吉氏について、孫の水田光氏にご執筆いただきました。

私たち兄妹は父母から沖縄旅行に行く機会があれば、祖父、浅吉の建立した「小桜の塔」を見学する様に言われていました。

20数年前、従弟が旅行に行き、「小桜の塔」を探したそうです。草むらの中に慰霊碑があったと聞きました。

私も３度沖縄に出かけましたが、計画に入れていませんでした。

７年前、妹が家族旅行で沖縄に行く際、事前に「小桜の塔」を調べているうちに、対馬丸記念館がある事を知りました。記念館訪問の折、壁の一角に浅吉の名前があるのに気づき、当時の学芸員さんに孫である事を伝え、館長にもお会いできたそうです。

旅行から帰り、母や私たちに対馬丸記念館での出来事を話してくれました。

すでに父は他界しておりましたので、母が大変喜びました。

奇跡的な出会いにより親交が深まり、記念館の関係者の方に愛知県犬山市の実家まで、来て頂きました。

その後、私と妹で改めて対馬丸記念館に出向きました。いろいろと資料に目を通し「小桜の塔」が建立されたきっかけを知りました。

愛知県議会の副議長を務めていた当時、選挙区にあった「すずしろ子供会」の河合桂会長から浅吉に相談があり、慰霊碑建立のため一円募金を始め、活動へと広がりました。

浅吉は「小桜の塔」の建立に尽力した他、1953年には「大成塾」を創設し、若い人たちの育成にも力を入れました。大成塾では音楽、珠算、習字教室等、浅吉の門下生の方々が教育の場を広め、引き継いで学習の場を広められました。

私たち孫４人も大成塾の生徒でした。

残念ながら現在閉塾となっていますが、生涯学習の教育場を開き、多くの人材を育てた祖父を誇りに思っています。

南部戦跡に故國の櫻
小櫻の塔 除幕に河合氏ら來島

写真は松浦（右）河合の両氏カナ空紙にて

松浦・河合両名の来沖を伝える「沖縄タイムス」（1954.5.1）

また、「犬山市の年寄り学校」を開設し、祖母・父母と共に生涯学習の場を作る活動にも取り組みました。浅吉没後は、祖母、母が引き継ぎました。

最後まで、大成塾を守り続けた母も、2022年10月他界しました。

2021年10月、愛知県一宮市の葵公園に市制100周年を記念して一宮ロータリークラブより寄贈され、カンヒ桜が記念植樹されました。対馬丸事件の説明板も設置されております。

また、一宮ロータリークラブは、一宮市内の小・中学校に対馬丸事件のマンガ「今を生きるきみたちへ」を冊子にして生徒さんに配布されました。

一宮市の中学生代表の方々が「小桜の塔」を訪問され、記念館で平和学習されたと聞きました。

こうして一宮市の子供たちにも対馬丸事件を伝える事ができました。

戦後80年。今現在も多くの未来のある子供たちの命まで奪う戦争が続いています。報道を聞くたびに胸を痛めます。一日も早く戦いのない平和な世界が戻ってくる事を祈ります。

（水田光）

松浦浅吉胸像前にて、ご遺族と外間常任理事

ひと

喜屋武 盛榮 きゃん・せいえい

第4代対馬丸遭難者遺族会会長（1987年7月～2001年3月）。1916年生まれ、沖縄市泡瀬出身。対馬丸で母と姉妹を亡くす。2021年逝去。

遺族会会長としての13年８か月

私が第4代会長に就任する頃には、対馬丸の諸問題について、初代会長の浦崎康華、第２代会長の新里清篤、第３代会長の外間宏榮により大半の事業を成し遂げることができていたと思います。

会長時代（昭和62年～平成13年）の思い出深い事業やできごとをいくつか、紹介させていただきます。まず、小桜の塔の横に、一般・引率犠牲者刻銘碑を建立いたしました。小桜の塔は、対馬丸遭難学童の慰霊碑として、昭和29年5月、波之上護国寺境内に建立され、昭和34年6月に那覇市若狭に移転・改修されました。その後、「是非、一般遭難者の刻銘碑も建ててほしい」という要望を受け、戦後50年の平成7年６月、小桜の塔の向かって右側袖に、引率教員及び同世話人を含む一般遭難者の刻銘碑が建立されました。製作は関ケ原石材K.K.に依頼。８月22日の慰霊祭当日、除幕式を挙行しました。

また、同年８月２日、慰霊のため来沖された天皇陛下にお声がけをいただいたときのことは、強く心に残っています。天皇・皇后両陛下は、摩文仁の平和祈念堂で挙行された慰霊式典にご臨席されていました。式典終了後、私のところにお出でになられ、天皇陛下が「対馬丸の皆さん、ご苦労さん」と仰せられました。私は「誠に有難うございます。遺族の希望と致しましては、船体の引揚げと遺骨の収集でございます」と申し上げました。

在任中に特に印象に残るのは、何と申しましても、対馬丸の船体発見です。

同年10月19日、対馬丸乗組員で船舶砲兵隊の吉田董夫（ただお）氏及び乗組員の中島高男氏と生存者代表の上原妙さん、津波義次さんら４人とともに、午後２時から沖縄開発庁、３時から科学技術庁へ、対馬丸の沈没地点の調査を陳情しました。それまで、長い長い年月をかけて繰り返し、沈没地点の調査を政府に陳情してきましたが、何の音沙汰もないままでした。やっと遭難後53年振りに海洋科学技術センター所属の船舶による調査が実施され、平成9年12月4日に対馬丸の船体らしき物体を発見し、同12日午

1998年3月７日、政府主催の第１回海上慰霊祭。右から来賓の小泉純一郎厚生大臣、鈴木宗男沖縄開発庁長官、大田昌秀沖縄県知事

後２時33分、高性能TVカメラにより対馬丸の船体であることが確認され、沈没地点が公認されました。

同年12月18日、全国戦没者遺族大会終了後午後１時より首相官邸に橋本総理大臣を訪問し、対馬丸の船体確認のお礼と洋上慰霊祭の実施方について陳情を行ないました。その後、厚生省主催による洋上慰霊祭が平成10年３月７日と同年11月28日の２回に亘って、執行されました。

平成10年7月26日、愛知県海部郡美和町（現・あま市）の文化会館で開催された財団法人倫理研究所主催の「対馬丸運動について」という集会に出席し、挨拶をしました。

対馬丸の船体引揚げについては、沖縄開発庁主導で検討された結果、平成10年12月24日、

① 大正３年に建造された貨物船で、84､5年も経て腐朽度がひどい。

② 船体の底の部分にワイヤーを掛けても浮上できない。

③ 現場は黒潮の関係で流れが速い。

以上の理由で引揚げは無理、との説明がありました。

平成13年３月、私は第４代会長を退任いたしました。同年６月には、「対馬丸記念館」の建設が決定し、対馬丸遭難者遺族会は、財団法人対馬丸記念会へ権限を委譲することとしました。

対馬丸船体確認の調査が実施されるにあたっては、当時の沖縄開発庁長官の鈴木宗男氏及び県出身で比例代表の下地幹郎衆議院議員の並々ならぬご尽力の賜であった事に対し感謝申し上げる次第です。

尚、財団法人倫理研究所の皆様方はじめ対馬丸関係者の方々、今は亡き渡口眞明様、具志清繁様、島静夫様等の皆様方のご協力に対し厚くお礼を申し上げるとともに故人の方々のご冥福をお祈り申し上げ失礼いたします。

★本稿は、平成15年８月22日の日付で本人がまとめた『五十有余年に亘る対馬丸遭難者遺族会（略歴）』から抜粋したものです。

ひと

髙良政勝 たから・まさかつ

公益財団法人対馬丸記念館代表理事（2002～）。1940年、那覇市牧志生まれ。4歳で対馬丸に乗船し、両親と兄弟姉妹7人を亡くす。理事長就任以来、記念館の運営に尽力する傍ら、語り部活動にも取り組み、生存者として、遺族として、戦争の理不尽を訴えてきた。2022年5月15日、復帰50周年式典では県民代表としてあいさつに立つ。歯科医。

父からもらった命を生きて

私は84歳になりました。対馬丸に乗船したのは４歳のときです。その頃の記憶はあまりありません。牧志（那覇市）で、両親と祖父母、10人兄弟で暮らしていました。家はチーチ屋（牛乳屋）で、牛を５、６頭飼っていたそうです。両親は早く疎開したかったようですが、牛を置いていくわけにはいかず、どうにか買い手が見つかって、乗ったのが対馬丸でした。これも運命だったということになるのでしょうか。長兄の政弘は19歳で、鹿児島で獣医学を学んでいましたから、両親と兄弟９人が乗り、助かったのは私と17歳の長姉、千代の2人だけです。最初に姉が、沈んだ翌日に助けられています。私は３日めに助けられました。

船に乗ったことは覚えていますが、その次のシーンはもう海に浮いているという状態で、筏か何かに掴まっていました。ちょうど台風が発生していたので、波が荒く、目や鼻に塩水が入って、非常に痛かったのですが、拭こうとすると沈んでしまう。今から思うと、塩水で苦しかったから、それが気付け薬になったのかなとも思います。私の記憶では、一人でがまんしていたと思っていました。ところが、ずいぶん後になって、兄の手紙が見つかり、それによると、親父が後ろから抱えていたみたいです。たぶんその間に、「かっちゃん、がんばれよ。もうすぐ助けが来るからな」というような会話があったのではないかと思いますが、全く覚えていません。父は救助船に私を渡すと、そのまま沈んでしまったそうです。おそらく、もう歯を食いしばって、食いしばって耐えていた。そうして、「政勝は助けられた。ああ、よかった」と思った瞬間、沈んでいったのだと思います。だから僕の命はお父さんからもらった命だと思って、感謝しています。

対馬丸が沈んでから10日も経たない8月31日の日付で、兄から沖縄の祖父母宛てに手紙が届いています。手紙には宛先はなく、「御祖父母様」とだけ書いてある。当時は軍の検閲がありますから、手紙が検閲官に見つかると、対馬丸が魚雷でやられたことがわかってしまうので

没収されてしまう。そうなることがわかっていたので、兄は那覇と鹿児島を行き来しているうちに知り合ったボーイ（船員）に、その手紙を託し、直に届けてもらったのだと思います。

手紙は最初にマル秘とあり、ノート３枚を使って、裏表にぎっしり書かれています。

「さて、今度両親をはじめ弟妹ら9人疎開のため沖縄より出発したとのこと。（略）驚いて県庁に行き、事情を聴きましたところ、千代がただ一人助けられて旅館にいるとのこと。早速千代の方へ行きました。泣いている妹より聞きましたところ、その晩は家族11名、みな浮袋をつけて甲板に上がり、１か所にいたそうです。１発、次いで2発め、船は傾いたそうです。千代はすぐ波にのまれてしまったとのこと。朝、5時に港に行きました。（略）自分の親や弟、妹はいないかとじっと一人一人見ていますと、ボーイに抱かれた裸の子が下りてきました。よく見ると政勝でした。ああ、政勝よ、助かってくれてありがとう。かっちゃん、生きていたのか、ありがとう、と泣きながら言って、走ってかっちゃんを受け取りました。（後略）」

兄は、両親と弟妹を亡くしましたが、手紙の中で、「政弘が生きております間は、どうしても家を再興してみせます。私が生きております間は、落胆しないでください。石にかじりついてでも勝ちましょう」と逆に祖父母を励ましている。本当に自分の兄ながら、偉かったなと思います。

鹿児島では、17歳の姉が働いて暮らしを助けていました。炊事のお手伝いのようなことをしていましたが、私はいつも姉のモンペを掴んで付いて回っていました。

子どもの時は、「母の日」が一番嫌いでした。作文を書きなさいと言われても、母のことは覚えていない。実際、何と書いたのかも覚えていません。

対馬丸記念会の理事長に就任するまで、毎年の慰霊祭には参加していましたが、会の活動には関わっていませんでした。ある年、家内のミチ子が対馬丸遭難者遺族会の評議員の役を仰せつかり、役員会の席で「うちの主人も対馬丸に乗っていたんですよ」と口にしたことから、私にも声がかかりました。遺族会にはいろいろお世話になってきたので、少しでも役に立てばという思いで参加したその日に、対馬丸記念会の理事長に選ばれてしまいました。その日が５月８日で私の誕生日だったこともあり、「ウレーナー（これはもう）、そういう運命になっているんだ」とお引き受けしまして、今に至っています。

糸数 裕子 いとかず・みつこ

生存者。1924年生まれ、那覇市出身。19歳のとき、那覇国民学校の引率訓導として同校生徒と乗船。２日間の漂流の後、漁船に救助される。戦後、教え子を亡くした悲しみを抱えながら教壇に立ち、退職後は語り部として活躍した。享年98。

対馬丸に乗った母のこと

――― 糸数裕子氏の想い出を娘の福原保子氏にご執筆いただきました。

今回、学童疎開引率教諭として対馬丸に乗船した母糸数裕子のことを書いてくださいとの依頼を受け、書くにあたって先ず母の手記を読み返した。船の撃沈から奇跡的に生き残り、鹿児島宮崎での疎開生活を経て再び沖縄の地を踏むまでの壮絶な体験を記録したものである。

１万3000字に及ぶなかなかに読み応えのある手記で、読中思わず込み上げてくるものを抑えきれない場面が数か所あった。

母は私たち兄妹が子どもの頃、対馬丸の話をよく語って聞かせた。その話は何度聞いても私たち兄妹の心を捉えて飽かせることがなかったのは、母自身の体験に基づくリアルだった所以である。

母は疎開地では生徒たちの今日明日の食べ物に心を砕き、寒い地で生徒達の衣類を調達するために知恵を絞った。その勤勉さとつましさは、母の一生を貫いていた。

中学校で教鞭をとりながらも、広い庭畑で野菜を植えて自給自足をし、家計を支え、私たち４人の子どもを育てあげた。私たち子どもにとっては普通の働く婦人であり良き母親であった。しかし、その母の背中には常に対馬丸の子どもたちの姿があった。

元旦に護国寺に初詣をする風潮の世にあって、早朝に母が私たち4人の子どもを連れてお参りに行ったのは小桜の塔であった。海の底に沈んだ子ども達の記念碑の前で祈りを捧げるのが、家族の習わしであった。

日曜日などの穏やかな午後の日に、私はよく母に「対馬丸の話をして。」とせがんだ。母は身ぶり手ぶりを入れて語り、私たちは食い入るようにして聞いた。

ある時、その母にNHKから取材の申し出があり、受ける覚悟をしたものの、当日の母は緊張のせいかいつになく表情が硬かった。

自分の生徒は一人も助からず、生徒やその親族に罪の意識を持っていたのである。決して公

対馬丸疎開体験事業（現・平和継承プログラム）の宮崎研修で学んだことを学校で報告する眞榮城百恵（糸数裕子の曾孫）

の場で語ることをしなかった母が取材を受ける決め手となったのは、昭和50年に芥川賞作家、大城立裕氏らによって出版された『悪石島　学童疎開船対馬丸の悲劇』を読んだことである。「なるほど歴史とはこのようにして残すのか」と悟り、それからの母はマスメディアで、小中学校の平和教育の授業で、教会で、対馬丸沈没と疎開先の事を語るようになった。

母は2022年９月に98歳で他界した。

昨夏（2023年）、対馬丸記念館が20周年を迎え、その記念事業の一環で県内の10人の小学生が宮崎を訪れ、学童疎開を追体験するという企画が行われた。奇しくも母の曾孫にあたる眞榮城百恵（当時小５）が参加の恵みに与り、彼女は当時の子どもたちが置かれた悲惨な状況と、今は亡き曾祖母に想いを馳せていた。母が生きていたら、この企画にさぞ驚愕したに違いない。戦争の絶えないこの世界で、少しでも母の体験を次世代に繋げていきたい。（福原保子）

天皇陛下行幸啓の折、ご休憩室のサイドテーブルに飾られた糸数裕子の手編みのテーブルセンター

平良 啓子 たいら・けいこ

生存者。1934年生まれ、国頭村出身。家族6人で乗船し、6日間の漂流の後、奄美大島の無人島に漂着。戦後は小学校教師のかたわら、対馬丸の生存者として積極的な語り部活動を行い、平和を訴え続けた。1984年、『海鳴りのレクイエム ──「対馬丸そうなん」の友と生きる』を出版。享年88。

生き残ったひとりとして

──── 平良啓子氏の想い出を娘の平良次子氏にご執筆いただきました。

あの対馬丸事件から80年という年を目前に、前年の2023年7月29日、生存者としてその役割を果たそうとしていた母平良啓子は急逝した。

子どもの頃に体験した「対馬丸」からの生還の強さと、野性味あふれる強運な人でも寄る年にはかなわない。友人には「最後まであっぱれな母さんだね」と言われた。

思えば、娘としてやり尽くせなかったことは多々あるにせよ、本人にとっては人生の最後の最後まで、やり尽くしたような、思い残すことなく「あとはよろしく、ではさらば」と言わんばかりの生き方であったのではないかと、その人生を称賛したいと思っている。

母は、ありがたいことに自身の「対馬丸」体験を各地で話す機会に恵まれ、本になり、映画にも登場し、たくさんのマスコミにも取材していただいた。まだほかの生存者やご遺族の皆さんのそれぞれの体験が記録にも残されず消えていったのではないかということを思うと、本当に恵まれていたと思う。

私たち家族にとって、母の「対馬丸」体験は、時系列的にまとめて詳細に講話のように聴いていたのではない。断片的で関わった人たち、お世話になった方々のこと、漂流時の奄美での生活の様子、沖縄に帰ってからの戦中、戦後の詳細を事細かに聞いて記録を取らねば、と考えていた矢先でもあっただけに、やり尽くせなかった悔いはどっしりとのしかかった。これからは、残された証言記録をつなぎ合わせ確認できるところは確認しながら母の稀有な体験は自分なりの理解と言葉で繋いでいくしかない。

対馬丸で九死に一生を得て、助けていただいた奄美大島の皆さんにはたいへん恩義を感じ、父親や夫、娘を連れて5回ほど訪問していた。

また、戦後は小学校教員として各地に転勤をくり返しながら、私たち子ども5人を産み育ててくれた。教え子たちとも実に楽しい学校生活を送る傍ら、対馬丸体験講話や教職員組合の復帰運動、米軍統治下における事件事故での子どもたちの犠牲に対する要請行動など、忙しい

奄美大島にて
大島安徳さんを囲んで

日々を送っていた。

85歳の生年祝いだったか、子や孫を集めてお祝いをすることになった。「あまり大げさに派手にするな」と言いながら、されるままに大勢の家族に囲まれ楽しそうにしていた。しかしふと、暗い表情で一点を見つめて静かになることがあったので、「どうしたの？」と聞くと「ここにお父さんもいたらよかったのに」と言った。その時はっとした。いつも顔には出さなかったが、父が他界しての十数年間、本当は寂しく、その時増えていく孫やひ孫に囲まれた楽しそうな生活も、父には申し訳ないような気持でいたのかもしれないと思った。楽しい人生を送っているように見えた母だが、対馬丸の体験の記憶は消えることはなく、兄や祖母、従妹を亡くして自分が生き残った申し訳なさも消えることはなかったのだと思う。

母を送る49日間、あるいは亡き後、たくさんの方々が母のことを語ってくれた。特に昔の教え子の皆さんが訪ねて来られた時に本当に悲しそうにやってくるのだが、話をしているうちに思い出話が笑い話になって大声で笑って帰っていった。姉と「お母さんはいなくなっても人を笑わせる人だね」と話した。

そんな母の亡き後、私は対馬丸記念館に勤務することになった。悩みに悩んだ末、事件から80年、記念館の20周年の節目に何か役に立つことがあればという気持ちと、母の声も聞こえる気がして引き受けた。これまで献身的に携わってきた方、たくさんのご遺族や協力者の皆さんには心から感謝したい。これからの記念館を考えると「記憶」から「記録」の時代になることを踏まえ、博物館・資料館としての役割を強めつつ、本当の平和を創造するための教育施設になっていくべきではないかと感じ、多少なりともできることをできる時に果たせればと感じている。

世代はいやおうなしに代わっていく。過去、現在、未来をしっかり見つめ、私たちの社会をよりよくする力をつけるための大切な施設になるよう内外から記念館に協力していきたいと思う。

（平良次子）

上原 清 うえはら・きよし

1934年那覇市生まれ。垣花国民学校４年生のとき対馬丸に乗船。６日間の漂流後生還。琉球大学卒後、中学校教諭となり、1995年、与那城町立与那城小学校校長を最後に退職。2006年、自身の体験を綴った『対馬丸沈む』を出版。対馬丸記念館の評議員を務め、語り部としても活動。

清先生

――― 上原清は体調を崩され、寄稿が叶わぬことから、渡口眞常（公益財団法人対馬丸記念会副代表理事）が筆を執った。後半は、平成天皇皇后の行幸啓後に、当記念館の内部記録として制作した小冊子に掲載された本人の寄稿文を再構成した。

対馬丸生存者で語り部の上原清さんのことを、親しみを込めて清先生と呼ばせて頂いている。

最初にお会いしたのは、開館1年前のイベント「60年目の出航」の会場だったから22年前だ。当時先生は長い教員生活を終え、現役時代に語ることが出来なかった対馬丸事件を記録に残すことに精力的に取り組んでいらした。後に出版した『対馬丸沈む』のダイジェスト版を、琉球新報紙上で10回にわたり連載している頃である。

以後、語り部として各地に赴きながら対馬丸記念会の役員も務めてこられた。

先生の書かれた『対馬丸沈む』に詳しく書かれているが、帰郷後に憲兵から課せられた箝口令（かんこうれい）がトラウマとなり、現役時代には自らの体験を語ることは無かった。その反省から、記憶のあるうちに事件のことを残さなければと、自ら絵筆をとり、144枚余りの事件の記録画を描いた。作品は当記念館に寄贈され、展示や語りに貴重な資料となっている。

開館５周年には沈没地点で犠牲者の慰霊をしようと提案され、壺屋焼の小橋川清正陶工に指導を受け、一対のシーサーを作り上げた。また、那覇市の壺屋小学校の児童たちと共に、一人一体の小さなシーサーを作った。それらを抱え、慰霊訪問団を組織して悪石島を訪問、沈没地点での洋上慰霊祭でシーサーを海に投下し、犠牲者を弔った。その折りに現場の海水を沖縄に持ち帰り、翌年の慰霊祭に小桜の塔と刻名碑の碑面にかけ、「開眼（かいげん）の儀」を執り行った。その後、漂着の地である奄美大島宇検村を訪問し、漂着地点を洋上から探すなど、終始慰霊に努められ、そのひたむきな姿は、私たち戦後生まれの遺族にとって大きな支えとなった。

戦後を生き抜いた自らの足跡を『続・沈む』として執筆中というお話も伺っていたし、幻の

左から3人目、
両陛下を迎える上原清

対馬丸が毎年8月22日に姿を現し、平和を訴えるというファンタジーをマンガとして発表するアイデアも温めていらした。

清先生のことはまだまだ書くべきエピソードがあるが、先生の慰霊と平和への強い想いをこの22年間、身近で学ばせていただいたことに感謝し、筆をおく。　（渡口眞常）

『行幸啓記念誌』より

両陛下来館に思う

平成26年6月6日の朝刊に「慰霊、一つのけじめに」「両陛下来県　生存者ら複雑な心境も」との見出しの文字が躍った。

悲惨な沖縄戦を体験した沖縄の人々は、天皇に複雑な感情をもっている。生存者の感情も賛否にわかれる。

私とTは別々の竹の筏にのり、のまず食わずの漂流、また漂流。飢えに苦しみ、喉の渇きに苦しむ。その過酷な漂流を6日間も続け150kmも離れた奄美大島に漂着。ついに私とTは生還を果たす。その私とTが賛否にわかれる。

朝刊の記事は言う。

「天皇陛下は私たちと同じ疎開世代。純粋にいのりをささげるための来館なので、人間として温かくお迎えしたい。」と私。

「危険な海の中を疎開させられた……皇民化教育を受けた末に海に沈んだ子どもたちを思うと……」と出席拒否のT。

両陛下が対馬丸記念館に来館の日。対面は遺族代表8名から順に生存者代表7名へと進んでいく。

いよいよ私との対面の時が来た。両陛下はいたわりあうように寄り添って私の前に進み立たれた。その時、皇后様が陛下の耳元で「『対馬丸沈む』の本を書かれた方よ」と囁くと、やさしい笑顔を私に向けた。

両陛下からいろいろと質問を受ける。私はていねいに答える。最後に、奄美大島に上陸生還した時の生き抜いた喜びを語る。岩の上に大の字に寝て空を見上げた時、「僕はもう沈むことはない。助かったぞ！」と心の中で叫んだ。青空は命の光に満ちて輝いていた

そして、こぶしを上げて「私は生きています！」と叫ぶと、両陛下はうれしそうに微笑まれた。ほんとうに、やさしい微笑みであった。私は両陛下と対面してよかったと心から思った。

（上原 清）

ひと

照屋 恒 てるや・ひさし

生存者、遺族。1940年生まれ、那覇市泊出身。４歳で泊国民学校2年生の姉と母と3人で対馬丸に乗船し、1人だけ救助される。その後、大阪・宮崎と各地を転々とし、戦後６歳で沖縄に戻る。現在、語り部として活動。

早80年、今思うこと

語り部を始めてから14年余、対馬丸事件の真実を末永く人々に周知し、戦争行為がいかに不毛であるかを認知してもらうための活動をどこまで広げていけるか、危惧している。しかし、最近20代の若者が対馬丸事件について、いかに同世代の若者に関心を持ってもらえるか、模索している、との話を聞き、心強く思った。

人は十人十色で、大勢の人に対馬丸事件を我が事として受け止めてもらうには組織的に活動していくしかない。その中心となる組織が、対馬丸記念会だと思っている。簡単ではないが努力するしかない。その為にも、次のバトンを受け取る人々には風通しのよい組織づくりを心掛けてほしい。なによりも一人でも多くの人々に対馬丸事件の話を聞いてもらい、理解を深めてもらいたい。

1944年、大阪で働いていた父に召集令状が届いたので、家族（父・母・姉・私）でいったん沖縄に帰った。父の出征を沖縄で見送ってからまもなく、沖縄が戦場になるというので、姉は学童疎開の一人として、4歳の私と母は一般疎開として別々に対馬丸に乗船した。

対馬丸が攻撃されたときの記憶は断片的だが、私は寝ぼけ眼をこすり、母に手を引かれて甲板に上がった。混乱の中で「早く海に飛び込め、飛び込んだら船から離れろ」と声が聞こえ、母といっしょに10メートルの高さから海に飛び込んだ。船上からはボートやいかだ、その他浮きの代わりになるものが海上に投げ込まれていた。私たち親子は目の前を流れてきた、縄が十字に巻かれた醤油樽にしがみついた。

船が沈み、辺りが静まりかえった頃、母は「しっかりつかまっていて、お姉ちゃんを探してくるから」と言って、私から離れていった。夜の暗く広い海で、姉を探しに行くなど通常では考えられないことである。台風が接近していて波が高く、つかんでいた樽が上下していた感覚がある。16時間の漂流の間、多くの見知らぬ人が私の面倒を見てくれたようだが、記憶にはない。

やがてカツオ漁船「開洋丸」の通信長である奥田一雄さんに救助された。衰弱していた私を通信室で寝かせていたそうだ。奥田さんは出来るだけ多くの人を乗せるため、釣り上げたカツ

乗船前の家族写真。
母・シゲ、姉・美津子と

オを捨て、船を軽くしたようだ。開洋丸は私たちを乗せて鹿児島に向かった。鹿児島では、一緒に救助された中島さん親娘が、鹿児島県庁の職員の依頼で私のめんどうを見てくれていた。

対馬丸が撃沈されたことは箝口令（かんこうれい）がしかれていたが、沖縄で教師をしていた親戚の有銘シズが、私が生存しているという情報を得、連絡を受けた大阪のおじが鹿児島まで迎えに来てくれた。大阪では、ただでさえ物資が不足する中に転がり込んできた私におば（おじの妻）は困惑していたようだ。

大阪での私の暮らしぶりを耳にした有銘シズの配慮で、今度は宮崎県高原町に疎開していたおばが迎えにきてくれた。おばは学童疎開の子どもの世話をする手伝いをしていた。宮崎での暮らしはひもじい思いばかりで、ある日、おばから釜の底に残ったご飯のおこげをもらったら、それを見ていた年上の子に後で殴られた。

いつも一人でいた。部屋の隅に積まれていた布団にもたれて、ぼうっとしていた。

戦後、6歳のとき沖縄に戻り、沖縄戦を生き延びた祖父母とおばの4人の暮らしが始まった。しかし、生活を支えていた祖父が激しい労働の無理がたたって病を得、さらに、息子が抑留先のシベリアで亡くなったことがわかると失意のままこの世を去った。その後は祖母とおばが働き、私は祖母に支給された父の遺族年金で高校を出て、就職した。

子どものころ、祖母と歩いていて知り合いや親戚に会うと「この子が対馬丸で助かった子ね」と言われることがあった。悲劇のヒーローのように扱われるのが嫌で、学校や職場で対馬丸事件を口にすることはなかった。対馬丸に関することから背を向けて、「語り部をしないか」という依頼も「覚えていない」と断っていた。

70歳になって、政勝さん（対馬丸記念会代表理事）からの依頼がきっかけで語り部を始めた。対馬丸事件の体験者が減っている現状に危機感を抱き、語り継いでいかなければ、との思いが強くなった。

4歳の体験で記憶が断片的であり、それを補うために自分なりに他の体験者の証言を読み、資料を調べて、当時の状況や疎開するまでの経緯を語っている。戦争がいかに理不尽であるか、を伝え、戦争だけは絶対にしない、という気持ちを持ってほしい。

ひと

浜崎 盛久 はまさき・せいきゅう

遺族。1935年生まれ、那覇市高橋町出身。対馬丸で4歳上の兄・比嘉盛雄を亡くす。

兄の姿を求めて

私は戦時中の那覇の街に思いを馳せますと、何故かすぐに「塵まみれなる街路樹に／哀れなる五月来にけり／……」。

という出だしの、佐藤春夫の「望郷五月歌」の一節を思い浮かべるのです。

物資不足で木切れ板切れ、紙屑おが屑に至るまで、あらゆる物が家庭の燃料となった時世、街を汚す塵などなかったはずなのに。

アスファルトのない時代、沖縄では砕いた珊瑚礁を敷き詰めた簡易舗装、即ち石粉道（イシグー道）で、そこを木炭を燃料にして走る木炭バスや軍用トラックが行き交う度に舞い上がる粉塵で、街路樹が塵まみれになっていた。そうした記憶によるものなのかも知れません。

昭和19年７月、一学期終了の日に「学校を軍隊が使うことになったので、みんなは自分の机と椅子を持ち帰り、しばらくお家で勉強するように」と担任の先生に言われまして、低学年生もそれぞれの机と椅子を引きずるようにして家へ運びました。しかしそれ以後、二度と登校することはなくなりました。

それからは日常の生活の場で、軍隊の高射砲や大砲、戦車の隊列の移動を頻繁に見るようになりました。

その頃、沖縄から本土への集団疎開の話が急に広まってきました。

私の家では早々に家族疎開を決めていたようでした。一方、国民学校３年生以上の就学児童を対象に学童疎開もあるとの伝達に、私は当然４歳上の盛雄兄と一緒の学童疎開だと自分で勝手に決めていました。

ところが８月になったばかりのある日、「臆病者のお前は学童疎開などには遣れない」と突然母に言われ、私は地団駄踏んで泣きました。当時、自分が臆病者であることは認めていたものの、諦められず、母と兄が密かに学童疎開の出発準備をしているのを覗き見しては、悔し泣きしました。

８月21日、船名も知らされなかった学童疎開船の出港の日、兄は黙して語ることもなく、早朝、母と二人で家を出ました。疎開学童の中では年長であった兄も未だ13歳、不安ばかりが募って言葉も出なかったのだと思います。

「見送りは少人数で静かに」という政府から

のお達しがあったようで、母が一人で見送りに行き、日暮れに疲れ切って帰って来ました。

「埠頭に積まれた軍需物資の陰で、盛雄と二人きりで弁当を食べたが、随分遅い出港だったよ」とだけ言った。母の目が悲しそうに潤んでいたのを覚えています。

あとに残った家族は、１週間ほど後に家族疎開で九州へ向かいました。

船団が奄美大島のあたりを過ぎる頃、私どもの船を護衛していた２隻の護衛艦が米潜水艦を発見し、機雷投下で攻撃する様子を、大人用の救命具を着けたまま、怖さも知らず甲板で夢中になって見たのを覚えています。そして機雷の爆発で上がる大きな水柱の間を縫うようにしてやっとの思いで鹿児島港に辿り着きました。

そこでは先に那覇港を出航した学童疎開船対馬丸が撃沈された事が人伝(ひとづて)に聞こえて来ました。少数の生存者が市内の旅館に分散して収容されているらしいことを知り、灯火管制の布(し)かれた真っ暗な鹿児島の夜の天文館通りを東へ西へと、母と共に必死に兄の姿を探し回りました。しかし兄の姿はどこにもありませんでした。ようやく会えた幾人かの生存児童も、軍からの箝口令(かんこうれい)のもと口を噤(つぐ)んで語ってくれませんでした。

「一発目の魚雷が当たったあと、一緒に海に飛び込もうと君の兄、盛雄君と甲板に立っていたが、その後はわかりません」と言う兄の級友らしい人の話をやっと聞き出せたのですが、その翌朝、私たち家族疎開団は熊本への移動命令で鹿児島を離れてしまいました。

対馬丸が撃沈された当時の海は、熱帯低気圧とかち合って大荒れで、救命筏に乗れない人は４日も５日も筏の周囲の縄を握ったまま荒海に浸(ひた)っていたようです。戦後、生き残った上級生の話では、救命筏の縄を握っていた級友の一人が幻覚状態になって「俺、もう家に帰るよ、又明日遊ぼうな」と言うなり、握っていた筏の縄を手離して笑って海底に消えて行ったのが忘れられない。と云っていました。

「万一戦争で家族が全滅しても、学童疎開の盛雄だけは生き抜いて、家系を継いでくれるものと思って送り出したのに」と、年老いた母はその後何年も事ある毎に言い続けていました。12人の子を産み、既に夫と５人の子を送っていた母は、沖縄に根強くある家系存続の意識に特別な思いがあったのかも知れません。思えばあの日、那覇港埠頭で出発時刻も知らされないまま、対馬丸への乗船を待った長い時間を、親子は何を話したでしょうか。母は繰り返し健康についての注意をした上で、「強く生きて万が一の時は我が家を頼むよ」とも兄盛雄に言ったかも知れません。

母は84歳で他界するまで海を見るたびに悲しく目を潤ませていました。私は対馬丸が撃沈された当時の話になると、生存している事をひたすら願い兄の姿を求めて、灯火管制の布かれた真っ暗な鹿児島の夜の天文館通りを、年老いた母と東奔西走したことを思い出します。

海山へ
どこまでもぼく
連れてった
兄は一人で
天国へ行き

この一首は先の天皇皇后が当記念館にお出で頂いたとき、美智子妃殿下から直接お褒めのお言葉を頂いたものです。

ひと

外間 邦子 ほかま・くにこ

当時6歳で両親と共に沖縄に残り、姉2人を対馬丸事件で失う。疎開学童のシンボルとして展示されている２つのランドセルは、姉たちのものである。遺族として対馬丸記念館の立ち上げ時から積極的に関わり、現在、対馬丸記念会の常務理事を務める。

平和のバトンを渡す場所

対馬丸事件で姉たちが亡くなるまで、わが家はとても明るく、賑やかな家庭でした。姉たちが悪石の海の底に沈んでしまってから、一変しました。母が姉たちの名前を口にすることは一切なかった。母はいつも憂いのある顔をしていて、笑顔の写真がないんです。

姉たちの三十三年忌のとき、母は父や私に一言も言わずに、姉たちの写真を写真館で大きく引き伸ばして、それを仏壇に飾りました。それから、姉たちが残していったランドセルを初めて、押し入れの奥にしまってあった箱から出した。私はその時に、姉たちが残していったランドセルと初めて出会いました。

三十三年忌が終わって、ほっとしたのか、それから半年も経たないうちに、母は姉たちの元へ旅立っていきました。その時初めて、私は母の気持がわかったような気がしました。それから私も、母から受け継いだ御茶湯と朝ご飯の仏壇へのお供えを、当たり前のこととして続けていて、そこから一日が始まるという感じです。

私たちの命はいつか果てるわけですけれど、対馬丸の子どもたちは、平和の守り神として、ずっと生き続けていく。そう思ったときに、やっと、ああ、忌まわしい戦争で命を失ったけれど、こんなに多くの方々が、あなた方のことを忘れないで来てくれる。あなた方は平和の守り神として、この記念館にいて、修学旅行生や小学生たち、いろいろな子どもたちが会いに来てくれる。この記念館は、対馬丸の子どもたちが今の子どもたちに平和のバトンを渡す場所、と思っています。無念の死、悲しい死ではなくて、守り神としてまた生れ変ったと考えると、それが遺族にとっての一番の慰め、思いになっています。

疎開のとき、姉たちと姉たちの荷物は別々の船でした。たまたま母の親戚が引率教員で宮崎に行っていて、別の船に乗っていたランドセルを持ち帰ってくれました。三十三年忌が過ぎて、当時、那覇の教育委員会にいらした島袋先生という方が、このランドセルの話を聞いて、泊小学校の門をくぐらせてくれたんです。「ただいま」って。みっちゃん、えっちゃんの代わりにランドセルが小学校の門をくぐっています。私

はそれを聞いて、姉たちのランドセルを沖縄県の平和資料館に寄贈しました。その後、対馬丸記念館を作ることになって、事情を話して引き取らせてもらい、今記念館に展示されています。

今後、リニューアルする際には、「みっちゃん、えっちゃんのランドセル」ではなく、対馬丸の子どもたち、みんなのランドセルとして展示したいと思っています。二人のランドセルは、もう私たち家族だけのものではなくなっています。

対馬丸は悪石島の870mの深い海の底に沈んでいます。船体の引揚げが難しいことを知ったときに、記念館を作ることを考えました。この記念館は対馬丸を模しています。乗船するときにタラップを昇るように、入り口を2階にしました。場所も海の近く、港の近くを選びました。対馬丸を再現することで、みんな迷わずに帰ってこれて、「おかえりなさい」と迎えることができる。

この記念館は、順風満帆でできたものではありません。やっと国から建設のための予算が下りたと思ったら、今度は、高齢の遺族に記念館の運営はできないのではないか、ということで、県の許可が下りるまで3年かかりました。そういう紆余曲折があったからこそ、しっかり運営していかなければならないという思いでいます。記念館は旭ヶ丘公園の中にあり、地域の福祉施設の役割も担っています。若狭の地域の皆さんのご協力、ご理解があってここまで歩んでこれたことを、深く感謝しています。

今、世界の動きを見ていると、安穏としていられません。私は子どもたちに平和の心を学んでもらいたい。そのために各学校に出かけていって、いろいろ話し合いをしています。平和の種を蒔いて、育てていってほしい。社会としっかり向き合うことができる、時代に向き合うことができるようになってほしい。

対馬丸の亡くなった子どもたちから渡されたバトンを繋げていくことが、記念館の使命だと思っています。未来の子どもたちが、平和な未来を歩むことが、一番大事なことです。私たち体験した者が忘れずに、これから歩む子どもたちへ、対馬丸の子どもたちからのメッセージを伝えていきたいと思っています。

乗船前の姉2人（左から美津子、悦子）

大城 立裕 おおしろ・たつひろ

小説家。1925年生まれ、中城村出身。琉球政府に勤務するかたわら小説を執筆し、「カクテル・パーティー」で第57回芥川賞を受賞する。1961年に対馬丸関連図書のさきがけとなる『悪石島―疎開船学童死のドキュメント』を共著で世に出す。2012年、自身の新作組踊十番の一つ、「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」を発表。享年96。

写真提供：琉球新報社

大城立裕先生の組踊への想いを引き継いで

―― 大城立裕氏について、琉球舞踊家で女流組踊研究会めばな代表の山城亜矢乃氏にご執筆いただいた。

2012年、本土復帰40周年記念の平和推進公演『海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～』（作・大城立裕／演出・幸喜良秀／音楽・西江喜春）で、主人公武志の母役、玉城トシを演じました。新報ホールで公演を終えた際「もう一度この組踊を上演してほしい。子どもたちを多く登場させ、学童疎開の様子を描いてほしい」と演出の幸喜良秀先生がおっしゃいました。考えてみますと返事をしましたが、それからというもの私にはそのことが課題のように感じられ、いつかこの課題をやり遂げなければと思っていました。

その後、私は北谷町でホールプランナーとして働き、自主文化事業を担当。平和推進に係わる事業を提案する中で、対馬丸事件から平和を考える場を提起しようと、改めて『海鳴りの彼方』の台本を読み返し、幸喜先生の要望する、疎開の子どもたちの場面（対馬丸船上の場・死後友達との再会の舞）を組み込みました。全体的な物語の内容は変えず、対馬丸乗船の子どもたちと沖縄の大人たちの様子を合わせた内容の台詞に変更し、劇中の音楽を再構成（喜納吏一氏）し、また「時の主」を登場させて時間経過や出来事の詳細を説明する工夫等を行いました。結果、大幅な変更となった為、前作のリメイク版として組踊『対馬丸』と改題しました。

台本と企画書を持って大城立裕先生の元へ行き、事業趣旨を説明し、その台本を見ていただきました。台本を読む先生の表情は今でも覚えています。とても真剣な眼差しで目を通していました。その無音の時間、私はかなりの緊張で過ごしたことは言うまでもありません。その先生から出たお言葉は「その趣旨や台本はわかった。良いことだと思うので、少し台本を預からせてほしい」とのことでした。それから数日後、朱書きで修正が入った台本と激励のお言葉が返ってきました。とても嬉しく、その台本を持って、組踊『対馬丸』がスタートしたのでした。

立裕先生は、対馬丸事件を組踊として描く際、海難現場を表現する至難を突破するには、そこ

は回想で収め、生き残った者の悲しみや悔恨を組踊の形式で十分に描き切れば、思想的な目的をも十分に果たせるのではないかと思いついたそうです。しかし「海に放り出された子どもたちのうち、大海原で溺れ死んでゆく子どもたちの気持ちを書けなかったことがいちばん悔しい」ともおっしゃっていました。私はそのことを十分に配慮しながら組踊としての演出を心がけ、子どもたちの心象表現の指導を行いました。また先生は、標準語励行の時代を描くということからウチナーグチのみのセリフは無理があると先に説いていましたが、『対馬丸』では古典組踊に使用される言葉とウチナーグチをおり混ぜました。のちに「全部方言のたくさんの台詞を児童たちがこなすことに、まず驚きを禁じえません」と先生はおっしゃり、子どもたちが古典の言葉とウチナーグチで演じることにも意義があると納得しておられました。

幸喜先生は『海鳴りの彼方』について、「沖縄戦の悲劇を過去のものとして忘却の彼方に葬り去ってはならない。シンプルな詩劇として組踊が醸し出す想像の世界ではありながら、虚構を超えた厳粛な真実の歴史的体験記」と書いています。また『対馬丸』については「沖縄戦に真摯に向き合う若者、その力、発信力に大きな期待を持っている」と激励していただきました。

私たちは、沖縄戦を過去の事、歴史の１ページと安易に捉えがちです。それは今が十分に生きやすい時代と思っているからです。でもそれは先達が、毎日が平和であるようにと願い、しっかりと平和や反戦について提起してきたからだと思います。戦争体験者の声や記録を先達と同じように今度は私たちが、未来が平和の世であるよう働きかけ、思いを繋いでいくことが責務だと感じています。

私は芸能や芸術には人々の心を動かす力があると信じています。立裕先生や幸喜先生の思いを引き継いで、命の尊さや平和を希求する思いを、組踊や琉球舞踊をとおし提起し、その場に居るみんなで「共有する時間＝思いを繋ぐ」を作っていきたいと思います。

結びに、数々の組踊作品を手掛け、組踊の発展に貢献された大城立裕先生、その功績にあらためて敬意を表し、先生との出会いに感謝致しております。　（山城亜矢乃）

組踊『対馬丸』初演時のキャストと大城立裕

組踊『対馬丸』2024年版のキャストと筆者（後列左端）

ひと

元田 信有 もとだ・のぶあり

前宇検村村長（在任期間：2011年1月～2019年1月）。1950年生まれ、宇検村湯湾出身。村長在任中の2017年、対馬丸の遺体が多く流れ着いた船越海岸に「對馬丸慰霊之碑」を建立。以後、宇検村と対馬丸記念館との交流が続いている。

対馬丸との係わりと慰霊碑建立について

平成29年３月19日、焼内湾の北側に位置するフノシ海岸に、沖縄の遺族や関係者など村内外から多くの方々が集い、遺族の皆さんや地元の方々が長年、待ち望んでいた「対馬丸慰霊碑建立式典」が開催されました。

私が対馬丸を認識したのは、息子が小学生の時借りてきた『あゝつしま丸－儀間少年　啓子ちゃんたちのものがたり－』（新里清篤／著・玉那覇正吉／絵）を読んだ事が最初でした。それから数年後、宮古島での研修で平良啓子さんの娘さんとお会いする機会があり、「私の母は戦時中、宇検村で助けられました」とあいさつを受けた時、対馬丸事件を身近に感じるようになり、更に対馬丸記念館オープン前の平成15年11月には、渡口眞常さんと二人の職員が事前調査に来村し、平成17年には沖縄県知事公室平和推進課と沖縄県平和祈念資料館の職員が、「対馬丸」の調査で宇検村を訪れ、当時の宇検集落の方々から聞き取りを行いました。担当者として案内をしながら、当時を知る宇検集落の方々の話を聞くなか、記憶をたどりながら遺体の流れ着いた当時の海岸の惨状や、救助をする集落の人々の奮闘を、涙ながらに話す姿に、悲惨な戦争の出来事が自分たちの足元でおきていた事に、大きなショックを受け、初めて聞く語り部の生々しい体験談に、驚きと恐ろしさを感じたものでした。

毎年、８月が近くなるとマスコミで先の大戦に関する記事が掲載され、対馬丸についても必ず記事になります。平成26年８月22日付けの地元新聞に『「悲惨な歴史を語り継ごう」対馬丸事件から70年＝宇検村にも慰霊碑を＝』の記事が掲載され、併せて平成27年１月20日に、宇検集落から慰霊碑建立の要望書が村当局と村議会に提出されました。当時村長職にあった私は、これまでの対馬丸との関係から「このことは私の任期中に実現すべき案件」と決意し、早速庁舎内で検討委員会を立ち上げ、準備に入りました。同年５月に初めて対馬丸記念館を訪ね、髙良政勝理事長や外間邦子さん達、館の関係者と上原清さん、當眞秀夫さん、平良啓子さん３人の生存者の皆さんともお会いする事が

平和継承プログラムで訪れた子どもたちに
慰霊碑建立について語る筆者（2024年）

出来、多くの情報を頂き「奄美にも犠牲者に手をあわせる場所を」とのことばに、改めて宇検での慰霊碑建立の必要性を決意したものでした。

慰霊碑建立式の当日、式典に先立つ数時間前、遺族の方々がフノシの浜に下り立ち、お菓子や千羽鶴などを波打ち際にお供えし、涙ながらに海の彼方の犠牲者に語りかける姿に感涙しました。

朝から空模様が怪しく、式典が始まると大粒の雨が降りだす中で式典は進行されました。式典には、浦崎沖縄県副知事や髙良理事長をはじめ多くのご遺族の方々及び、奄美で救出された平良啓子さん、上原清さん、今は亡き新里八重さんのご家族の方たちも出席されました。しかし平成27年５月に対馬丸記念館で初めてお会いし、慰霊碑の建立を約束した生存者の一人、當眞秀夫さんは、式の４ヶ月前に帰らぬ人となり、待ち望んでいた建立式に出席する事はかないませんでした。私の議会対策のまずさで、完成が大幅に遅れた事を申し訳なく思うところです。

建立後は、翁長沖縄県知事が慰霊碑を訪れ献花され、沖縄と奄美の親交、特に未来を担う青少年の交流事業を提唱されました。現在「対馬丸平和学習交流事業」として、沖縄と奄美の児童生徒が毎年、交流を通して平和学習を行っています。

21世紀の今日、世界のどこかで、紛争やテロにより尊い命が失われ、特に子供たちの未来が脅かされています。

戦争の体験者が少なくなり、悲惨な体験を語り伝える方々がいなくなっていく中、対馬丸の事件を風化させることなく、いつまでも語り継いで行くためにも、対馬丸記念館の取り組みや活動はこれからますます重要になります。

この度の、対馬丸記念館創立20周年に当たり、職員及び関係者の方々の日頃のご尽力に対し、衷心より敬意を表すると共に、記念館の活動が世界平和の礎になりますことを祈念し、あらためて対馬丸で犠牲になられた多くの御霊の、安らかなご冥福とご家族の皆様方の限りないご多幸を、心からご祈念申し上げます。

ひと

嘉数 昇明 かかず・のりあき

元沖縄県副知事、元沖縄県議会議員。公益財団法人対馬丸記念会評議員。
1942年生まれ、那覇市出身。

対馬丸との深いご縁と平和への想い

対馬丸事件から80年・小桜の塔建立から70年・対馬丸記念館開館20周年の節目に際し、「対馬丸」から学ぶ子どもと平和～平和な未来をともに創るために～とのタイトルの下、記念事業として、シンポジウムが県博講堂で2024年６月１日に開催された。（詳しい紹介は18～23ページを参照のこと）。

さて、「対馬丸事件」とは、1944年８月22日に学童疎開の子供たちを含む乗船者1661名を乗せた対馬丸が、米潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃によって、トカラ列島悪石島沖合で撃沈され、疎開学童780人（15才以下の子どもたち1000人余）を含む1480人余りの尊い命が犠牲となった。

多くの乗船者たちが船と共に海底へ沈んでしまった。また脱出できた人も接近した台風の影響で、翌朝までに多くの人たちが力尽きて海底に没した。漂流者たちは流された方向によって、救助される時間と場所に差が生まれ、悲惨な体験をすることになった。

南の方へ流された人たちの中には、およそ１週間漂流の末、奄美大島の宇検村、大和村、実久村の海岸線に多くの遺体とわずかの生存者が流れ着いたようである。

村では予期せぬ事態に、鐘を叩いての大騒動となり、若い働き手を戦争にとられての中、村民による懸命の救護や捜索活動、遺体の埋葬、供養が行われた。憲兵によって箝口令（かんこうれい）がしかれ、真相はふせられたが、当時の方々の献身的な行動の記憶と言い伝えが今に受け継がれていることはありがたいことである。

実は、この対馬丸の悲惨な出来事は、私自身２才の幼子の時、疎開先の大分県竹田で亡くなった母と姉たちと一緒に九州への疎開船に乗り、海を渡った身として、全く他人事には思えないのである。振り返ると、これまでの人生において対馬丸との縁が多々ある。

中学生（寄宮中）の時、学校代表の一人として、当時、美栄橋にあった教職員会館での慰霊祭に参加し、元対馬丸遺族会長、新里清篤先生とのご縁が生まれた。以後毎年、小桜の塔慰霊祭への出席は欠かさないようにしている。

2017年、宇検村の「對馬丸慰霊之碑」建立式典に参列した遺族・関係者らと共に（後列左から4人目）

かつて自民党県連会長として、政治の場にあった時、当時、対馬丸遺族会会長の喜屋武盛栄氏から要請を受け、鈴木宗男沖縄担当大臣に「対馬丸の沈没地点を政府の責任において特定してほしい、遺族も高齢化しているので、ぜひ大臣在職中に一日も早く日の目を見せてほしい」と強く要請した。その事がアメリカ公文書館を通じての情報入手や科学技術庁の深海探査船による「対馬丸船体発見」、さらに悪石島沖での政府主催の「洋上慰霊祭」につながったのである。

かねてより犠牲者の方々が、嵐の海からどのようにして、はるか南の奄美大島に辿り着いたのか、そうして漂着の状況はどうだったのか、私の中にずっと宿題として残っていた。2017年、奄美大島宇検村に対馬丸慰霊碑が建立された機会に、これまで頭の中で空白になっていた漂流のルートと漂流地の把握と共に、お世話になったゆかりの地を訪れ、ゆかりの方々に県民の一人として、心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと、特別の想いを抱いて、建立記念の慰霊の旅にお伴させていただいた。

除幕式に先がけて、生存者、遺族関係者一同は、多くの遺体が漂着した砂浜に降り、東シナ海につながる寄せ返す波打ち際から、生存者、ご遺族の胸に去来する沈痛な思いを海に向かって呼びかけ、犠牲者の霊を悼んだ。

私は、ハワイのパールハーバーを訪れた際、対馬丸を撃沈した米潜水艦ボーフィン号の係留展示場所に足が向かわなかったことが思い出された。

最後に悲願の慰霊碑建立に幾多の困難を乗り越え、村民の先頭に立って多大のご尽力をいただいた宇検村の元田信有元村長、川渕昌春※1実行委員長、慰霊碑建立の流れを作った大島安徳氏※2を忘れてはならないと思う。

※1　慰霊碑建立実行委員会委員長。字宇検自治会長。
※2　80年前、対馬丸の漂流者の救助や埋葬に当たり、その体験を語り部として伝えた。

ひと

當間 栄安 とうま・えいあん

1931年浦添市沢岻に生まれる。1944年、浦添国民学校在学時に学童集団疎開で宮崎県日向市平岩国民学校へ編入した。戦後、帰沖。琉球大学文理学部物理科を卒業後、県立高校で教鞭を執る。1992年、定年退職。

真相究明への執念

対馬丸事件から9日後の1944年8月31日の22時過ぎ、敵潜水艦から魚雷攻撃を受けた浦添国民学校学童130名を乗せた「運天丸」は、船長の機転であやうく難を逃れた。魚雷は船首の目前を左から右へ通過していった。その潜水艦こそ対馬丸を撃沈させたボーフィン号であり、乗船していた学童の一人が私であった。

私と対馬丸記念館との関わりは、米軍・敵潜水艦艦長の「航海日誌」に記された日々の戦闘記録に出会ったことに始まる。1978年8月4日の沖縄タイムス紙上に、ボーフィン号艦長の「航海日誌」の一部が掲載された。潜水艦の時々刻々の位置や船団の態勢などが詳細に記録されており、これが対馬丸事件の真相を究明したいという私の執念の始まりであった。以来、47年の月日が流れたが、その間、遺族会の会長も喜屋武氏、上原氏、対馬丸記念会の髙良代表理事へと代替わりをした。遺族ではない私は、遺族会や慰霊祭へ孫を連れて参加し、対馬丸の船員で生存者の中島氏の後ろの席に座して、質問を繰り返し、情報を集積していった。さまざまな方に質問し、中には新鮮な証言も、また誤解とおぼしき証言もあった。

こつこつ資料を集めていると、真相に近づいているという手応えを感じ、あれこれ思いを巡らせているうちに閃きが浮上し、修正や追加、削除等を経て完成へと一歩一歩迫っていった。

真相究明には物理学・数学・幾何学・航海学・作図手法・経緯度等の知識を要し、それらを駆使して、『対馬丸遭難の軌跡の真相究明』と題して冊子第１号を出版した。その後、体験者や船舶関係者からの指導を受けて、2001年に『続・対馬丸の軌跡の真相究明』を出版し、世間の人々の意見や質疑を待った。が、非売品であり、教育機関や図書館等の一部の配付に留まったため、人々の目に留まる機会が限られ、世間の反応はゼロであった。なんとか流通に乗せたいと可能性を探ったが、「難解な論文形式では売れない」「人物の登場しない叙述文では……」という返事ばかりで落胆の日々を送った。

そのようなときに私の冊子が「沖縄タイムス」の記者の目に止まり、新聞にでかでかと紹介さ

筆者による最新版の「対馬丸遭難の軌跡」図（第106号、部分）

れ、大いに励まされた。

その後も対馬丸事件の真相究明作業は続き、遂に真相へと完璧なる集大成編、作図第96号が仕上がった。2023年、第４号版の『対馬丸遭難の真相究明で解った事　250余点の集大成』（380頁）を自費出版した。

第一章／対馬丸遭難の真相　第二章／対馬丸遭難の真相の脚本－演劇やＤＶＤ、動画作成や映画作成用　第三章／対馬丸遭難の真相究明中に解った事項は250余点

内容は対馬丸遭難の真相は70％が日本軍の暗号の漏洩であり、それにより船舶遭難の頻度が増大したということ。さらに日本軍の飛行機の損害、戦闘区域前線での将兵らの戦死、日本列島への空襲被害等、夥しい損害が引き起こされた。

43年間、よくあきらめもせずに、巷からの対馬丸関係の記事拾いに没頭することができたのは、段々と真実に接近しつつあるという予感や、時間や場所を問わずに浮かぶ寸時の閃きがあったからで、修正や追加、削除等をくり返していった。

2024年には第106号作図が出来上がり、達成感も満点である。対馬丸記念館の皆様には開館前の仮事務所時代からご尽力いただき、お世話になりました。

深海に眠れる子らの冥福を祈りて幕を閉づ。

ひと

齋藤 勝 さいとう・まさる

映画監督・演出家・俳優・作家。1959年生まれ、大阪府出身。対馬丸事件を描く写実映画『銀の鈴〜対馬丸より、今を生きている君たちへ〜』の監督・脚本を手掛ける。

お前たちが戦(いくさ)をこの島に持ち込んだ

対馬丸記念館開館20周年おめでとうございます。また、このようにして20周年記念誌に拙文を掲載してくださることを光栄に思います。

思い返せば、対馬丸と出会ったのは大阪で『蒼き道標』という舞台を上演したことに端を発します。これは私の父親の齋藤喜輝の弟である喜隆の物語です。喜隆は昭和19年９月に召集され、門司から上海へ向かう兵員輸送船に乗りましたが、翌日に撃沈されてそのまま帰らぬ人となりました。この実話をもとにして創作劇を制作しました。いろいろと調べていくうちにある事実に直面したのです。喜隆の乗った船は「江田島丸」でした。その僚船に「暁空丸」と「和浦丸」「赤城山丸」があり、「江田島丸」とともに「暁空丸」が撃沈されました（その年の暮れには「和浦丸」「赤城山丸」は撃沈されます）。ある時、対馬丸の資料を読んでいて「対馬丸」の僚船が「暁空丸」と「和浦丸」であることを知り愕然としました。そこに不思議な縁のようなものを感じ、「対馬丸」を題材とした舞台を制作することにしました。最初は気楽に始まったかのような執筆でしたが、調べれば調べるほど大変な物語に出会ったと感じました。なぜなら、「対馬丸」を知るには戦前の沖縄を知らなければならず、戦前の沖縄を知るには琉球処分を知らなければならず、琉球処分を知るには薩摩の侵攻を知らなければならず……。知れば知るほどあまりにも深いものであることが分かってきて、「えらいもんに手をつけた」という思いで一杯でした。一旦は時系列に沿った物語を書き上げました。しかし、「対馬丸」の生存者の方がおられることを知り、沖縄でお会いしてお話をお聞きする機会を得ました。おおよそ、本で読んだような乗船から攻撃、漂流などのお話をお聞きしました。一連のお話が終わってから、「助かってよかったですね」と私が言うと、「そこからが大変だったのよ」とその後の疎開生活から沖縄へ戻るまでのお話をしてくださいました。どの本にも書いていないことです。疎開先で何があったのか、沖縄生まれの子供たちを待っていたのは何だったのか、戻った沖縄はどうだったのか。強烈な印象の中で再度執筆を行わざ

るを得ませんでした。しかし、限られた時間と空間での表現である舞台でそこまで描くことができませんでした。最終的に出来上がった脚本は時系列がめちゃくちゃになり、「対馬丸」で亡くなった人たちが、疎開を奨めた渡瀬という本土出身の教師のところに現れては消えるという幻想的な物語となり、舞台『銀の鈴』は2000年７月、大阪で初演を迎えることになります。『銀の鈴』はその後、2004年、2007年、2011年と計４回の上演を行います。そして2007年、限られた空間内での表現ではなく、映像による表現手法なら「対馬丸」その後が描けることが分かり、映画『銀の鈴』製作を決定。大阪・京都・滋賀・沖縄でロケを行います。そして2009年に完成し、沖縄と大阪で初上映を行い、その後、いくつかの小中学校で上映され、完成したDVDは図書館にも置かれています。

舞台『銀の鈴』は上演を繰り返すたびに書き直しを繰り返し、映画の脚本の書き直しも20回を超えています。なぜなら「これでいいのか」という自身への問い掛けが常にあったからです。それは、「やまとんちゅである自分が、うちなんちゅの物語を作るということに自己満足になっていないのか？」という自身への問題提起です。沖縄出身の作家の本を読みあさりました。結果、己自身に刃を向けなければいけないことに気がつき、そこで生まれてきた台詞は、本土出身の渡瀬に向かって、うちなんちゅの教師である竹原が放つ台詞。

「お前たちが戦をこの島に持ち込んだんじゃないか。そんなに沖縄のことを想うのなら、持って帰ってくれ。沖縄はいつまで苦しめばいいんだ。お前たち、日本のために！」

毎年、対馬丸慰霊祭に参加させていただいています。初めて小桜の塔に行ったのは1999年の暮れ。そこにある名前は会ったこともない知らない名前ばかりですが、その後何度も訪れるようになり、初めて見た名前は何度も見る名前に変わり、「また来たで」と挨拶をするほどになりました。しかし、やまとんちゅである私自身に突きつけられている言葉「お前たちが戦をこの島に持ち込んだ」はいつまでも変わることがありません。拙文を書くにあたり、あらためてこの言葉を、私自身へ突きつけています。

対馬丸とともにお亡くなりになられた方々のご冥福を祈るとともに、そのご遺族の方々、生き残ってからも苦しみを背負って生き続けてこられた方々のご安寧をお祈りしながら、この筆をおきます。

映画「銀の鈴」製作中の筆者（左上）

製作発表の記者会見に臨む筆者（中央）

ひと

照屋 寛 てるや・ひろし

元沖縄県福祉保健部次長。元財団法人対馬丸記念会監査役。

対馬丸記念館との行政での関わり

平成14年３月～

1 対馬丸記念館建設にあたっての管理、運営主体の問題

建設の話で最初に出た基本的な問題は、「どういった組織で国や県そして那覇市側に話を進めて行くか」ということであった。

その中で出てきたのが、既存の組織である「沖縄県遺族連合会」の下部組織の一つとして動いてはどうかというのが、当時の幹部職員からの助言だった。

しかし、対馬丸遭難者遺族会で中心になって動いていた上原妙さんや外間邦子さんらから、沖縄戦で兵隊としての戦死や、住民で戦禍で亡くなった方々の中での取り扱いでは、「学童疎開」という特殊性が、戦後生まれの戦争体験者でない国民や沖縄県民に訴えにくいことや、遺族の方々の思いが伝えにくいということで、あくまで「独立した単独の組織」で会館の建設と運営を進めていきたいという考えだったと記憶している。

最終的には財団法人という独立した組織を立ち上げ、進めることになった。

2 建設場所の選定の際の出来事

当初、場所選定では対馬丸が出航した那覇港の近くとか、いろいろ出てきたが、港から船が出ていくのが見えるところが望ましいという考えが強くなった。それを受けて出てきた候補地が、波上宮の近くで東側に那覇市の市有地があり、空き地になっていた今の記念館の設置場所であった。

ところが話を進めていくうちに、崖の下あたりから人間の頭骨が出てきた。事件性（殺人等）のありなしも含めて、誰の遺骨か特定されるまで時間を要することが懸念された。

戦前から戦後にかけての戦死者や病死者であっても、新聞や官報等での手段で「広く国民に呼びかけて関係者が名乗り出るまで」１年位はかかるかもしれないということだった。

市側とも相談して、発見された場所を「建物の基礎部分にしないような方法」で進めた経緯があったと記憶している。

平成15年３月～

3 沖縄県議会での建設にあたっての付帯決議について

建設費用や事業費の支援は、国（建物は総理府で、事業を通しての支援は厚生省で）や沖縄県での対応の予算計上の目処がついてきた。

そして沖縄県議会で取り上げることになった。県での予算化にあたっては、執行部が過去２年に亘って諸般の事情で流れてしまっていた。

３年目の予算計上で、今回流したら実現が遠のく状況になった。そこで議員の与党系の一部から問題提議がなされた。

財団の設立や役員構成そして運営費を、会費収入や入館料と一般の方々からの寄付に頼る体質の状況では、脆弱でいずれ赤字決算が目に見える。そこで沖縄県に支援要請が出てくる可能性が高いということだった。

最終的には、県議会で与党の立場で反対できないので「附帯決議をつけて承認する」ことで進展し、その後記念館の建設が始まった。

平成22年６月～

4 財団法人対馬丸記念会の理事会の状況

建物が完成し、会館の展示も徐々に充実していくことになるが、安定して対馬丸記念館を運営、経営して行くために入館者の継続した確保の取り組み等が話し合われたと当時監査役だった私は記憶している。

県内・県外からの入館者を増やすため県民や教育機関への呼びかけ、県外からの修学旅行や観光客へのPR等が話し合われ、問題提議として、

○会館の駐車場が狭く、近くに有料も含めて広場がなく、特に観光バス等の待機場所がないこと。

○那覇市・南部方面での観光コースに組まれていないこと。

○一度入館したら、再度の利用が減る傾向にあること……などが挙げられた記憶がある。

振り返れば様々な問題に立ち向かいながら設立20周年を迎えられたことは、関係者の努力の賜物であり、敬意を表する次第である。

対馬丸記念館がこれからも平和のメッセージを伝える場であり続けるよう、祈念いたします。

ひと

島袋 貞治 しまぶくろ・さだはる

琉球新報暮らし報道グループ副グループ長、元公益財団法人対馬丸記念会事務局長。

箝口令（かんこうれい）とフェイクニュースの果てに

対馬丸記念館の正面入口の階段から旭ヶ丘公園内を時計回りに進んでいくと、対馬丸事件で犠牲になった児童たちの名を刻む小桜の塔にたどり着く。毎年８月22日の慰霊祭をはじめ、館と小桜の塔を往き来する来館者らを見かける。だが、その間にある「戦没新聞人の碑」で足を止める人は少ない。

戦没新聞人の碑は、1945年の沖縄戦で亡くなった当時の新聞人14人の名と次の文が刻まれている。

「1945年春から初夏にかけて沖縄は戦火につつまれた。砲煙弾雨の下で新聞人たちは２カ月にわたり新聞の発行を続けた。これは新聞史上例のないことである。その任務を果たして戦死した14人の霊はここに眠っている」

1961年9月、当時の新聞人らが設置した。日本の敗戦から16年が経過し、米占領と焦土から復興のさなか。刻まれた文言からは設置された当時、新聞社そのものが依然として戦争責任に向き合えていない節もうかがえる。

碑文にある「任務」とは、沖縄戦までの日本政府や日本軍の主張を喧伝することに他ならなかった。戦況が厳しい実態を読者に伝えず、根拠もないままに日本は必ず勝つとうたい、「一人十殺」「軍神」「英霊」などと戦争を美化し、戦意高揚を図る言葉を新聞に載せた。対馬丸事件から80年後の言葉で表すなら、フェイクニュースそのものだった。

1937年の日中戦争が始まり、翌38年には国家総動員法により暮らしの中の軍事色は濃くなっていった。沖縄では1940年12月、『沖縄朝日新聞』『沖縄日報』『琉球新報』が『沖縄新報』に統合され、日本政府・軍部による統制の下、言論の自由はなかった。対馬丸事件で多くの児童が犠牲になりながらも、「箝口令（かんこうれい）」で口封じされた人々は事件を語ること、書くことを許されなかった。箝口令を破ると、処罰の対象になった。

フェイクニュースの果ては、対馬丸事件や沖縄戦の悲劇などに集約される。「あの時、引き返すことができていたら」。沖縄戦体験者の聞き取りを続けていると、そんな後悔の言葉を聞

いたこともある。二度と同じ悲劇を繰り返さないでほしいという体験者の願い。それは対馬丸記念館の理念そのものだ。

2025年の現在、「新たな戦前」と危ぐされる動きが沖縄県内外で顕在化している。「有事」が盛んに言われ、再び沖縄での軍事強化が進む。疎開と重なる住民の避難計画が「国民保護」の名の下で進められている。80年前、政府は沖縄の戦場化と軍隊の食料確保を見据え、子どもや女性らを足手まといとみなし実質強制的に疎開させ、死の海へ出航させた。今、同じような悲劇が再び起こりえる懸念がぬぐえない。

2024年8月22日に開催された対馬丸事件の慰霊祭。慰霊祭であいさつした自見英子沖縄担当相（当時）は「疎開」の文言を用いなかった。「沖縄戦の悲劇の象徴である対馬丸事件の記憶や教訓を、今を生きる同じ年代の子どもたちにも自分事として感じてもらい、遭難学童等への哀悼や世界の恒久平和への願いを発信し続けることは非常に重要」と述べた。疎開を推進した政府は遺族からすれば加害側と言える。疎開を直視しないなら文字通り「自分事」ととらえているのか疑問が残った。

現在、ほかの政治家や行政の長たちからは「戦う覚悟」「一戦を交える覚悟」などの発言が放たれている。対馬丸記念館の理念と対極にあることは言うまでもない。

対馬丸記念館１階の出口近くには「対馬丸のこどもからあなたへ」と題したメッセージが展示されている。

「ああ、でも海の底にいるとよく聞こえるのです　今も世界中のあちこちで子ども達が悲鳴を上げています　なぜ　なぜ　なぜ」

80年の年月を経て、対馬丸事件を直接知る人々は少なくなった。だからこそ、メディアはかつて戦争に荷担した過ちと責任を決して忘れず、その問いかけに応えなければならない。

記念館と小桜の塔、戦没新聞人の碑のそれぞれの設置経緯を踏まえると、これらが近接したのは偶然だろう。だが、メディアの当事者の一人として必然として受け止めたい。対馬丸事件に荷担した事実を直視し、後進につなぐ。「戦争の悲劇を二度と起こさせない」。対馬丸の犠牲者や遺族たちの願いを共に発信していきたい。

2024年6月23日の慰霊の日、戦没新聞人の碑にて。この日平和の礎を訪れた県民の様子などを伝える特別号の新聞を戦没新聞人の碑にも届けた

ひと

上原 一路 うえはら・ひろ

つしま丸児童合唱団卒団生。2005年、那覇生まれの糸満育ち。立命館大学文学部在学中。第９回石橋湛山平和賞受賞。

今は平和だといえる世の中に

平和の歌にのせて
沖縄の青空を
オオゴマダラが舞う
今は平和といえますか？
と問いながら

これは私が小学校６年生のときに書いた「今は平和といえますか？」（第27回児童・生徒の平和メッセージ）の詩の最後の部分です。私は小学校１年生の時につしま丸児童合唱団に１期生として入団しました。最初の頃、私は記念館や慰霊祭の雰囲気があまり好きではありませんでした。館内で流れている音楽や映像、亡くなった子ども達の写真から、戦争の恐怖を感じていたのだと思います。そのせいか、通うことが少し嫌だったことを今でも覚えています。しかし、私達合唱団が活動していた１階の部屋はいつも明るく、元気な声が響いていて、ハロウィンのイベントなど楽しい活動もたくさんあり、２年、３年と経つうち、通うのが楽しみとなっていました。

小学校２年生で糸満市に引っ越したことをきっかけに、授業で戦争体験を聞いたり、平和学習をする機会が増えました。この沖縄戦の学習から、つしま丸児童合唱団の団員である意義と合唱という形で平和を伝えられる喜びを感じるようになったと思います。また、外間理事が「あなた達の歌声で対馬丸の子ども達もきっと喜んでいる」とよく言ってくださっていたのが印象に残っています。私達の歌声が対馬丸の子ども達や遺族の方々にも元気を与えているのだと思うと私も嬉しく思いました。

冒頭の詩は８月22日の対馬丸慰霊祭のとき、オオゴマダラを飛ばす様子から書いたものです。友達をつくり、英語を学んだり、歌を歌えて笑顔でみんなで遊べること、合唱団では平和を感じることがたくさんありました。しかし、それとは裏腹に米軍による事件・事故は絶えず、自然を破壊してまで米軍基地が作られていく現状がありました。そこで、今は本当に平和といえるのか。平和とは何なのかを考えてほしくてこの詩を書きました。

この詩を書いてから７年。世界では戦争も起こっています。沖縄では米軍基地だけでなく、

第27回「児童・生徒の平和メッセージ展」最優秀賞（2017年）

自衛隊基地の拡大、ミサイル配備、有事の際の訓練など、戦争の準備をしているとしか考えられない状況です。私はつしま丸児童合唱団での経験から、中学生、高校生と平和活動に取り組んできました。中学生の時には糸満市平和ガイド育成事業に参加し、高校生では沖縄高校生平和ゼミナールを立ち上げて、核兵器廃絶を全国の高校生と訴えてきました。大学生になり、沖縄を離れてから沖縄の基地問題や沖縄戦は自分から調べないと情報が届かなくなりました。このままではいけないと思っています。つしま丸児童合唱団での経験から平和を考えるようになり、学芸員になりたいという夢もできました。小学生のころに歌で広げた平和を、将来は学芸員という形で様々な国や地域の人に広げていきたいです。今は平和だといえる世の中になるように。

平和の礎の広場中央にある「平和の火」の前でガイドを務める筆者

ひと

浦崎　康華　うらさき・こうか

対馬丸遭難者遺族会初代会長

1897（明治30）年、那覇市泊にて出生。1912（大正元）年、父、康久が移民先の米国で病死したため泊尋常小学校を卒業後、働きながら独学の日々を送る。1915（大正４）年、九州逓信局通信生養成所の試験に合格し、電信係として恩納、首里、那覇郵便局で勤務後、琉球新報社の記者を経て1921（大正10）年上京。1932（昭和７）年帰郷し、沖縄日日新聞、沖縄朝日新聞に勤務。1938（昭和13）年、当時の蔵重知事に請われて県庁に入庁。1944（昭和19）年7月、住民の県外疎開が決定すると疎開第2陣で妻と次女、三男が那覇港を出発した。8月、先に学童集団疎開に申し込んでいた10歳の次男、康信（国民学校3年）は対馬丸に乗船し、遭難。康華は戦時業務に追われて見送りに行くこともかなわず、伯父に見送られての出立であった。

1950（昭和25）年10月15日、対馬丸遭難遺族会を結成し、同会会長に選任される。

若き日より短歌をつくり、1994（平成6）年、96歳のときに歌集『春夏秋冬』を刊行。

「対馬丸遭難の回想」

米船に撃沈されし対馬丸　箝口令しきて葬り去らる
おろかしきことと思えど逝きし子の　齢いまなお指折りかぞえる
疎開に行き対馬丸もろとも亡くなりし　康信の霊位母と並べる
サイパンの玉砕伝わり沖縄も　戦場になるらし疎開はじまる
疎開船敵の魚雷に船体と　千余のいのち一瞬に消ゆ
泊校学童付添え疎開に出し　遭難のうわさに大騒ぎせり
「康信の消息知らせ」と疎開地の　妻より電報しきりにきたる
疎開地の穆佐村より宮崎市へ　妻は毎日行きつ戻りつ
幼な子をふたりかかえて泣きながら　七里を走りし妻よ痛まし
いとし子の生死たずねて半狂乱　妻は飲まず食わずに駆けめぐりけり
年ふれどまぶたに浮かぶ逝きし子も　今はかくやと姿おもいみる
いとし子は反戦平和のいしずえに　捧げしものと耐えて生き抜く
八月二十二日悪石島などわが脳裏に　深くきざまれむびにも忘れず

歌集『春夏秋冬』浦崎康華より

もの

館内配布資料

館内配布用パンフレット　B6判変型(日・英・韓・繁体)

「対馬丸記念館について」　A5判(日・英・韓・繁体)

対馬丸記念館学習資料
「“対馬丸”平和な未来への出航」

「対馬丸記念館ワークブック」
対象学年　小学校高学年以上

「旭ヶ丘公園平和の杜
―対馬丸記念館と慰霊碑・
顕彰碑めぐり」A4判

リーフレット
「対馬丸記念館と
旭ヶ丘公園を歩こう！」
A3判4ツ折

もの

基礎資料

「記録と証言　あゝ学童疎開船対馬丸」
1978年8月22日発行
編著・新里清篤
対馬丸遭難者遺族会刊

公式ガイドブック
対馬丸記念館
2005年3月31日発行
財団法人対馬丸記念会刊

公式ガイドブック
対馬丸記念館2015
（一部改訂）
2015年10月31日発行
社団法人対馬丸記念会刊

「対馬丸船体引揚げ可能性の調査検討結果報告書」
1998年12月発行
対馬丸船体引揚げ可能性
調査検討専門家会議刊

平成25年度
平和学習推進連携事業
「対馬丸平和創造の杜事業調査報告書」
2014年3月発行

「対馬丸事件及び平和学習アンケート調査報告書」
2015年4月発行

「対馬丸記念館　行幸啓記念誌」
平成二十六年六月二十七日

記念館刊行物

対馬丸記念館感想文集
「対馬丸の記憶」第１集～第６集

「対馬丸通信」
創刊号（2003年6月1日発行）～第48号（2024年3月10日発行）

第26回対馬丸記念館特別展
「奄美大島と対馬丸」
2017年3月19日発行

宇検村「對馬丸慰霊之碑」建立記念
「奄美大島　慰霊の旅の記録」
2018年3月30日発行

2022、2023年度学童疎開体験事業報告
2024年度対馬丸平和継承プログラム報告
2022～24年度　学童疎開体験事業報告は、2024年度より対馬丸平和継承プログラムに改称し、継続実施

紙芝居「２つのランドセル
海にしずんだ対馬丸」
2021年8月発行
文／池宮康子・絵／和田瑞希

紙芝居「対馬丸へのいのり
～宇検村　対馬丸いれいひをたずねて～」
2021年8月発行
文／池宮康子・絵／磯崎主佳

もの

証言・体験集

「学童疎開船対馬丸 引率訓導たちの記録」

2010年2月22日発行
編著／対馬丸疎開学童　引率訓導証言記録プロジェクト
B5判

『ビルマ戦線を語り継ぐ 沈没「対馬丸」遭難救助』

2009年7月発行
編集／恒川利雄　マイブック出版刊
A5判

「学童疎開船対馬丸 疎開学童の手記」

2015年3月15日発行
著／眞栄城嘉訓
B5判

パンフレット・ポスター 他

本土復帰40周年記念
平和推進公演
新作組踊「海鳴りの彼方 ～対馬丸の子ら～」

2012年11月11日
作／大城立裕　演出／幸喜良秀
場所／琉球新報ホール

対馬丸事件から70年、
祈念対談
今、伝え継ぐ対馬丸

2014年8月23日
大城立裕・佐藤優

対馬丸記念館開館15周年記念
組踊上演300周年記念企画
新作組踊「対馬丸」

2020年1月19日
作／大城立裕　演出／幸喜良秀
場所／琉球新報ホール

対馬丸平和のモニュメント
―「平和の約束」と那覇市立垣花小学校児童メッセージ―

2022年7月発行

一般書籍（絵本・マンガ含む）

「沖縄の民」
1956年11月30日
発行
著／石野径一郎
角川小説新書

「疎開船　対馬丸
ー沖縄の民ー」
1975年8月25日発行
著／石野径一郎
旺文社文庫

「悪石島
疎開船学童死のドキュメント」
1961年7月5日発行
著／大城立裕、嘉陽安男、船越義彰
文林書房刊

「悪石島
学童疎開船対馬丸の悲劇」
1975年7月10日発行
著／大城立裕、嘉陽安男、船越義彰
おりじん書房刊

「対馬丸」
1982年7月発行
作／大城立裕
絵／長新太
理論社刊

アニメ絵本「対馬丸
さようなら沖縄」
1982年９月初版発行
原作／大城立裕
理論社刊　A5判

「対馬丸」
2015年3月13日
発行
著／大城立裕
講談社文庫

「海に消えた対馬丸と
741人の学童たち」
疎開学童の体験「滋子さんの手紙」
1972年3月10日発行
編著／金津正格
三共出版社刊

「あゝつしま丸」
1982年6月23日発行
著／新里清篤
画／玉那覇正吉
沖縄教育出版刊　A5判

『海鳴りのレクイエム
「対馬丸そうなん」の友と生きる』
1984年3月30日発行
著／平良啓子
民衆社刊

「学童疎開船
対馬丸の悲劇」
2000年1月15日発行
著／マリア宮城・バートラフ

「満天の星
対馬丸真実の証言」
2008年6月15日発行
対馬丸事件取材班
文芸社刊

もの

一般書籍（絵本・マンガ含む）

「対馬丸　沈む
一垣花国民学校四年生
上原清　地獄の海より生還す一」
2007年8月1日発行
著／上原清（挿絵も）
琉球プロジェクト刊

「海に沈んだ対馬丸
一子どもたちの沖縄戦」
2008年6月20日発行
著／早乙女愛
岩波ジュニア新書

「対馬丸遭難の真相」
2023年発行
著／當間栄安

「紺碧の海から」
共著／翁長ツル・新崎美津子・上野和子

「ケーイ
命がおしえてくれたもの
一つしま丸・沖縄戦」
2000年6月10日発行
文・絵／金城明美

「どうして　ぼくたち
海の底にいるの」
2014年8月15日発行
作／入江幸子
絵／友利悠太朗、島袋伊代、森川杏

「悲しい対馬丸の話
一命こそ大切一」
2009年7月発行
文／久野登久子、山本和昭
英文／松平恒忠　絵／佐藤八重子
フレーベル館刊

「対馬丸沈没」
2018年8月22日発行
作画／与勝海星
沖縄文化社刊

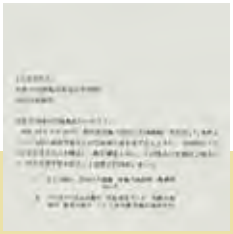
「今を生きるきみたちへ
一対馬丸事件を忘れない一」
2022年3月30日発行
作画／田中久志
一宮ロータリークラブ刊

「蕾のままに散りゆけり
対馬丸から生還した教師の魂を娘が辿る」
2024年6月3日発行
著／上野かずこ
悠人書院刊

「対馬丸とボーフィン」
2024年8月22日発行
文／池澤夏樹
絵／黒田征太郎
スイッチ・パブリッシング刊

CD、DVD他

「海の子守唄」
歌／伊波智恵子　作詞／上原清
作曲／普久原恒勇



「ああ対馬丸」
琉歌／石川盛亀（対馬丸引率訓導）
作曲／大城政明

「あゝ対馬丸」
1984年6月23日
石坂真砂

「対馬丸哀歌」
作詞／宮城マリア
作曲／海勢頭豊

対馬丸より
「撃沈」「死とたたかう」

「対馬丸
—さようなら沖縄—」

「赤い花」
唄／透

「ワダツミ
—対馬丸に寄せて—」
唄／琉智

「雨の岬に／
あぁ対馬丸」
唄／宮園ゆう子

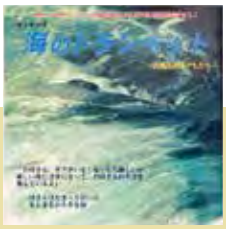
「生命」
民謡鶯組

「二人の微笑み」
作詞／知念幸子　作曲／八花らんま

「海底の友へ」
PMK

「那覇市
旧八校校歌集」
2018年6月
公益社団法人
対馬丸記念会

「海のトランペット」
カセット版
神戸市役所センター合唱
団25周年記念作品



「海のトランペット」
CD版

「海のトランペット」
DVD版
神戸市役所センター合唱団
創立45周年記念

もの

CD、DVD他

ドキュメンタリーアニメーション
「対馬丸 ― さようなら沖縄 ― 」

舞台「銀の鈴」
2007年
作・演出／齋藤勝

映画「銀の鈴」
監督／齋藤勝

対馬丸生存者の証言
「対馬丸へ」DVD版
監督／齋藤勝

「対馬丸のお友達へ」
DVD版

平和学習講演会「対馬丸沈没から73年目の今、伝えたいこと」
2017年7月21日
講師／大嶺正次郎
えびの市加久藤中学校体育館

「髙良政勝さんの
戦争体験の語り継ぎ」
2012年9月15日

「宇検村立小中学校学芸会」
久志っ子エイサー・口説「対馬丸よ、ともに平和へ」
令和4年度文化部宇検村立小中学校

那覇市立小学校の
学芸会（DVD）

受賞・表彰

琉球新報特別賞

沖縄タイムス賞 社会活動部門

ちゅらうちなー草の根平和貢献賞

絵画

昇天浮上の図　大見謝 文･作

中島高男・作

中島高男・作

無題　在米画家･作

もの

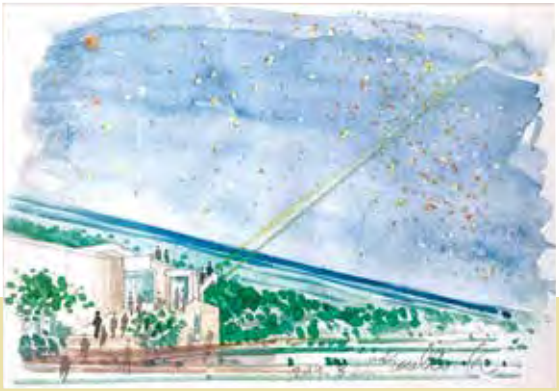
絵画

夢の帰還（法輪）
棚原佳子・作

神意の花群
上原妙心・作

十一面観音菩薩
小林正道・作

外洋航路時代の対馬丸　高橋健一・作



対馬丸75年　ローゼル川田・作

浜木綿タペストリー
神谷順子・作

儀間朝健・作

前田比呂也・作

対馬丸
久保舎己・作

対馬丸　上田毅八郎･作

書

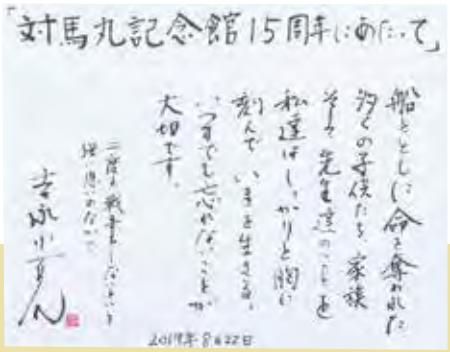
豊平峰雲

嘉手納秀子

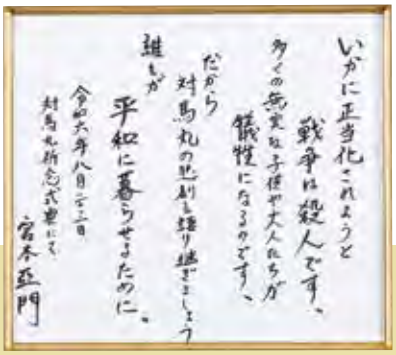
和田静月

稲嶺法子
悪石島学園体育館掲示

メッセージ



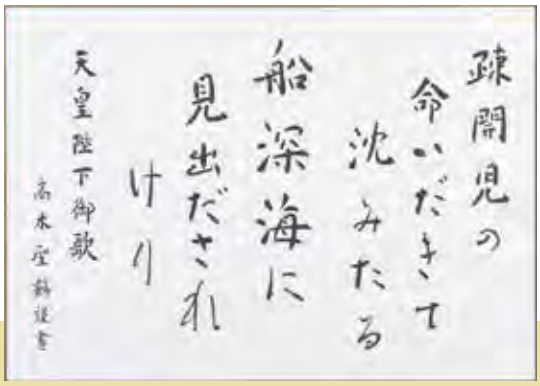
吉永小百合



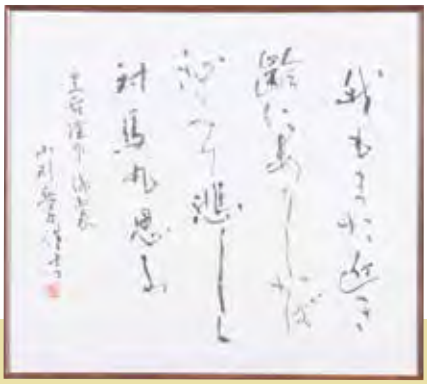
宮本亞門

もの

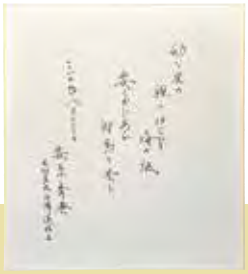
短歌



天皇御製



皇后御歌



安原秀典
対馬丸次席通信士

我喜屋芳子

弔歌・山崎敏夫
書・渡口美子

島袋俊子

安原秀典

工芸品

折鶴
材・アルミシルバー
昭和電工株式会社・寄贈

梟（不苦労）
西岡利実・作

六地蔵
内原貞子、羽太勝子・作

鯉のぼり
沖縄本島南地区
郵便局長夫人会・寄贈

銅板千羽鶴
鹿児島県板金工業組合・
寄贈

こと

2004
平成16年

8月22日
対馬丸記念館開館

8月22日
開館記念奏上
琉球古典音楽
(県芸OB)

10月13日
看板設置、揮毫・茅原南龍

2008
平成20年

3月5日
対馬丸記念館
チャリティコンサート
しますえよしお
シャンソンの夕べ

2004 2005 2006 2007 2008

2005
平成17年

3月　原爆写真展、
石田穣一(ゆたか はじめ)講演

2006
平成18年

1月13日
入館３万人達成

2007
平成19年

8月11日
いしがき児童合唱団
平和コンサート

こと

2009
平成21年

開館5周年に向けて展示の
一部をリニューアル

4月5日
第12回ちゃ―がんじゅう講座
ビーチクラフト作成中

8月　悪石島沖への鎮魂シーサー
贈呈式(壺屋小学校)

8月22日　対馬丸事件65周忌洋上慰霊祭
シーサーを沈める

2009 2010 2011 2012 2013

2010
平成22年

8月15日
クリスタル・コール合唱団による「海のトランペット」

2012
平成24年

11月11日
大城立裕作、新作組踊
「海鳴りの彼方」公演

2013
平成25年

4月1日
公益財団法人
対馬丸記念会、
登記

2014
平成26年

6月27日
天皇皇后行幸啓

3月8日　第１回子ども平和会議、沖縄尚学高等学校にて

8月22日
悪石島小中学校洋上慰霊祭

2017
平成29年

3月19日
宇検村に對馬丸慰霊之碑
建立・除幕式

2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020

2015
平成27年

8月13日
沖縄戦継承の功績により
琉球新報特別賞受賞

8月5日
上原清、宇検村海上巡礼

2016
平成28年

3月1日
入館20万人達成

2018
平成30年

12月19日　那覇市立上山中学校、英訳贈呈式

2019
令和元年

11月3日
沖縄県功労者表彰、平和・
人権推進部門で髙良政勝
代表理事が表彰

こと

2022
令和4年

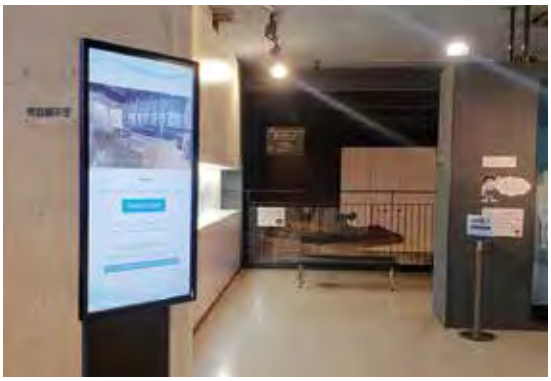
5月15日
復帰50周年記念式典にて沖縄県を
代表して髙良政勝代表理事が挨拶

6月
来館した常盤泰代さん、
地元宮崎県へリモート
授業

6月30日
山田ちず子さん
紙芝居講話(埼玉)

2021　2022

7月13日
那覇市立垣花小学校に
「平和のモニュメント」
建立



8月10日
デジタル
サイネージ設置

2023
令和5年

1月　沖縄県奄美交流事業成果展

2024
令和6年

2月17日
対馬丸記念館の
20周年を支える会

2023

2024

11月26日
黒田征太郎ワークショップ

12月2日
石坂美砂、
ちゃーがんじゅう
講座

3月22日
平和教育担当者研修

こと

2024
令和6年

5月27日
入館35万人達成

7月1日
タイムス賞受賞記念撮影、
支援者の方々とともに

8月26日
泊小学校
「平和のモニュメント」
除幕式

2024

7月18日
自見英子沖縄担当大臣へ、対馬丸水中調査並びに生存者・遺族と宇検村の住民との交流等の実施を要請

7月21日、8月4日、8月10日
平和継承事業
（2024年事前研修）

8月22日
悪石島学園生徒と面談

資料編

歴代会長、理事長、代表理事

対馬丸記念館キャラクター
キヨシくん、ケイコちゃん

歴代役員（2001年～2024年）

特別展一覧

ちゃーがんじゅう講座一覧

入館者推移（2004年～2024年）

語り部活動状況（2005年～2024年）

多額の浄財をお寄せいただいた
みなさま

年表　対馬丸記念館の歩み
（1997年～2024年）

『琉球新報』対馬丸記念館関連
掲載記事一覧（2004年～2024年）

対馬丸事件の伝承に携わった
物故者のみなさま

20周年記念誌編纂作業を振り返って

歴代会長、理事長、代表理事

初代
1950年4月 - 1958年7月
浦崎康華

第 2 代
1958年8月 - 1986年3月
新里清篤

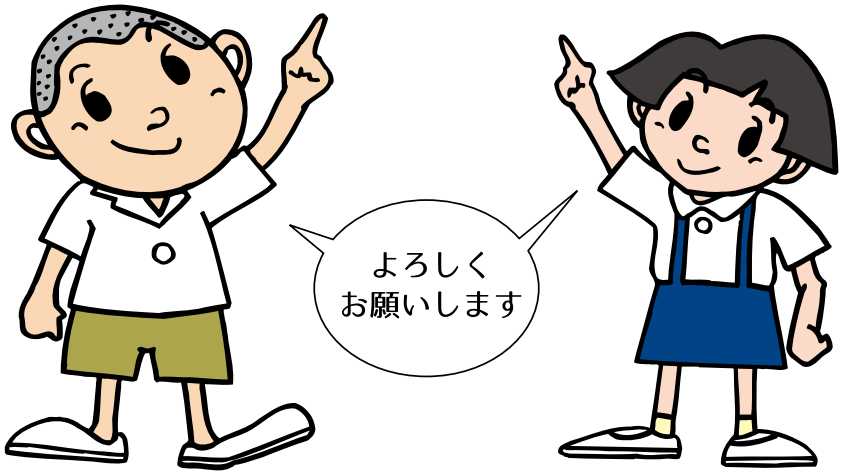
第 3 代
1986年4月 - 1987年6月
外間宏榮

第 4 代
1987年7月 - 2001年3月
喜屋武盛榮

第 5 代
2001年4月 - 2002年4月
上原　妙

第 6 代
2002年5月 - 現在
髙良政勝

対馬丸記念館キャラクター



キヨシくん　　ケイコちゃん

小学校低学年の子どもたち向けのワークブック制作に当たり、館内順路案内係としてケイコちゃん、キヨシくんが誕生しました。二人の名前は、語り部の平良啓子と上原清からいただきました。

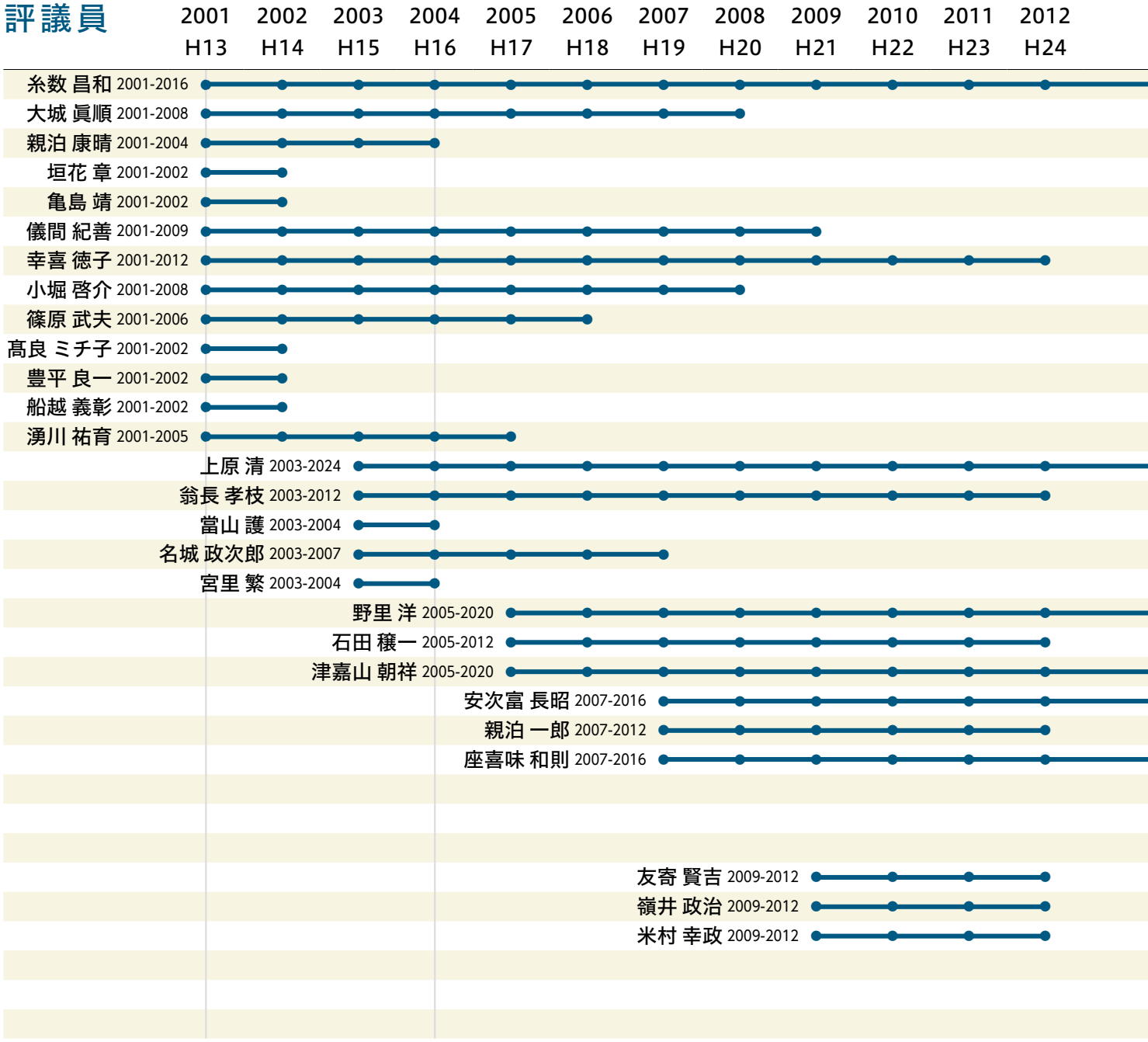
館内のところどころに、二人を登場させ、セリフで解説しています。

歴代役員 2001-2024

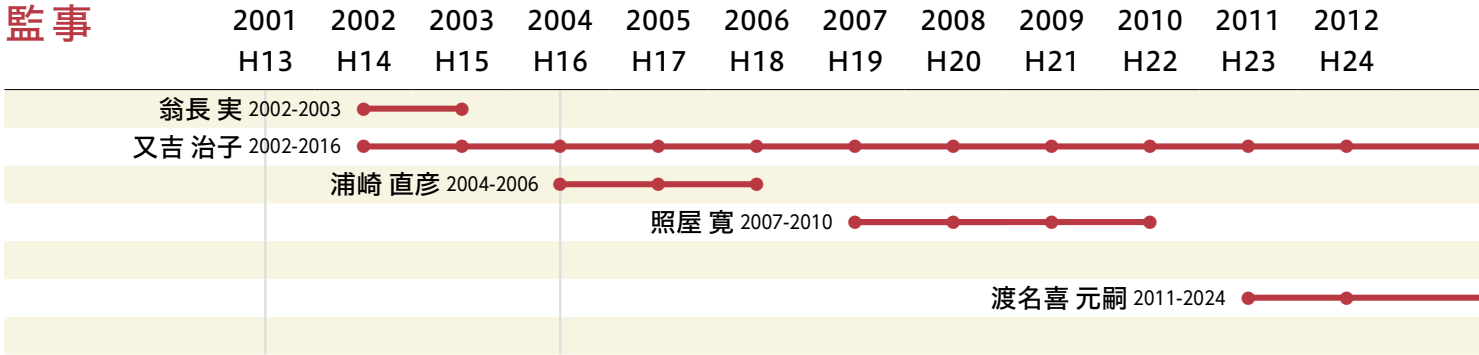
H13年(2001年)7月4日 財団法人対馬丸記念会設立

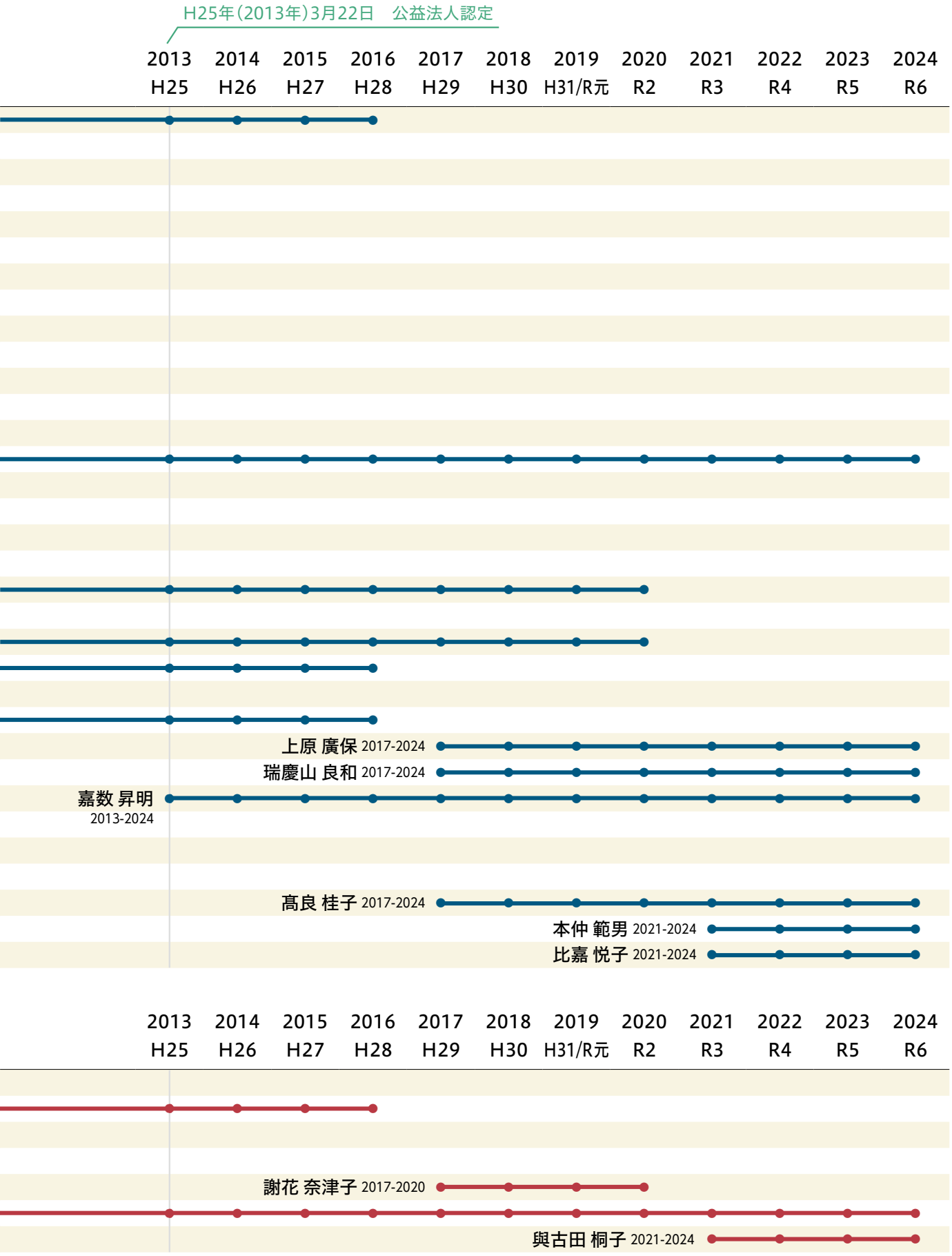
H16年(2004年)8月22日　対馬丸記念館開館　事務所を記念館へ移転

評議員



監事

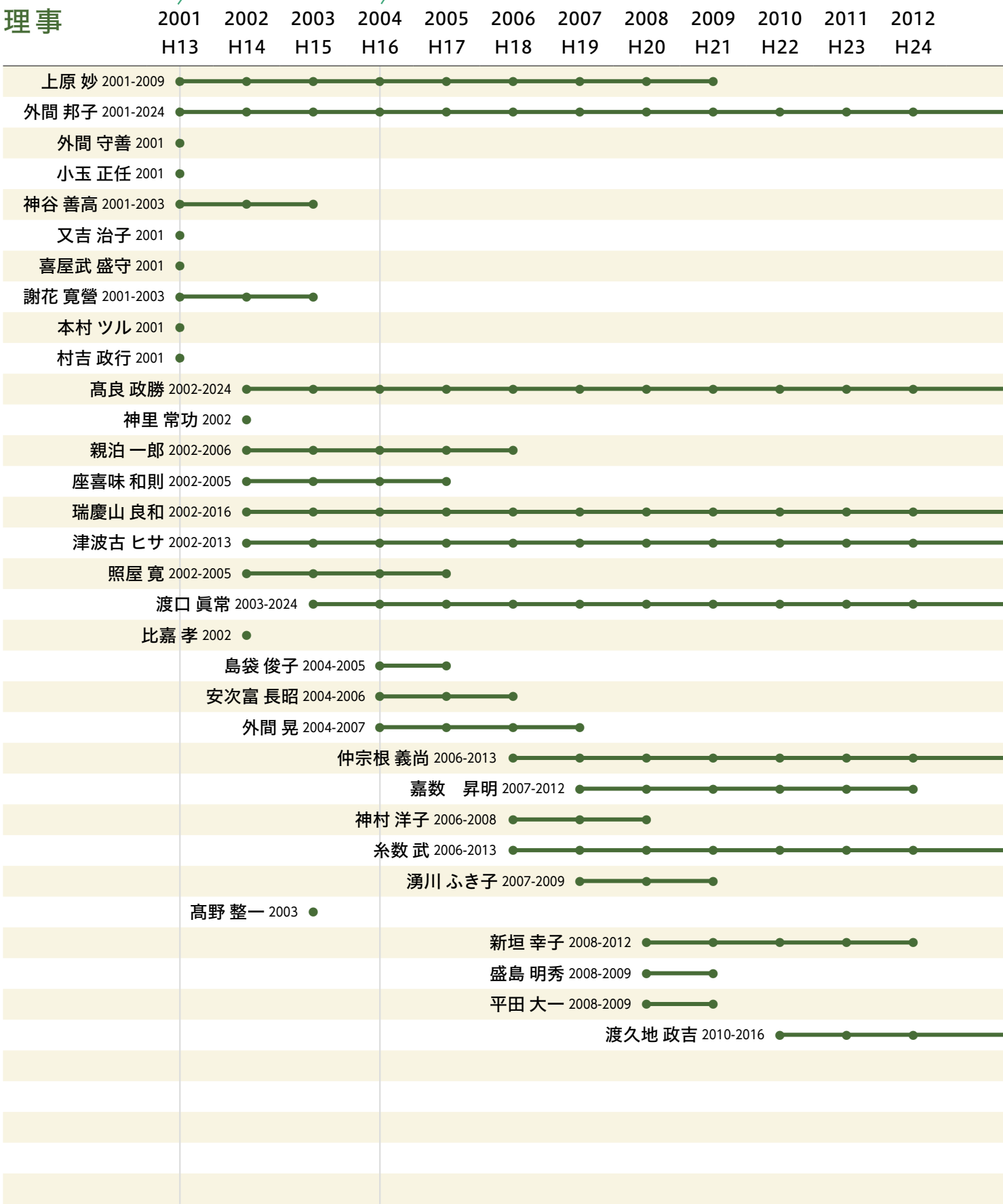


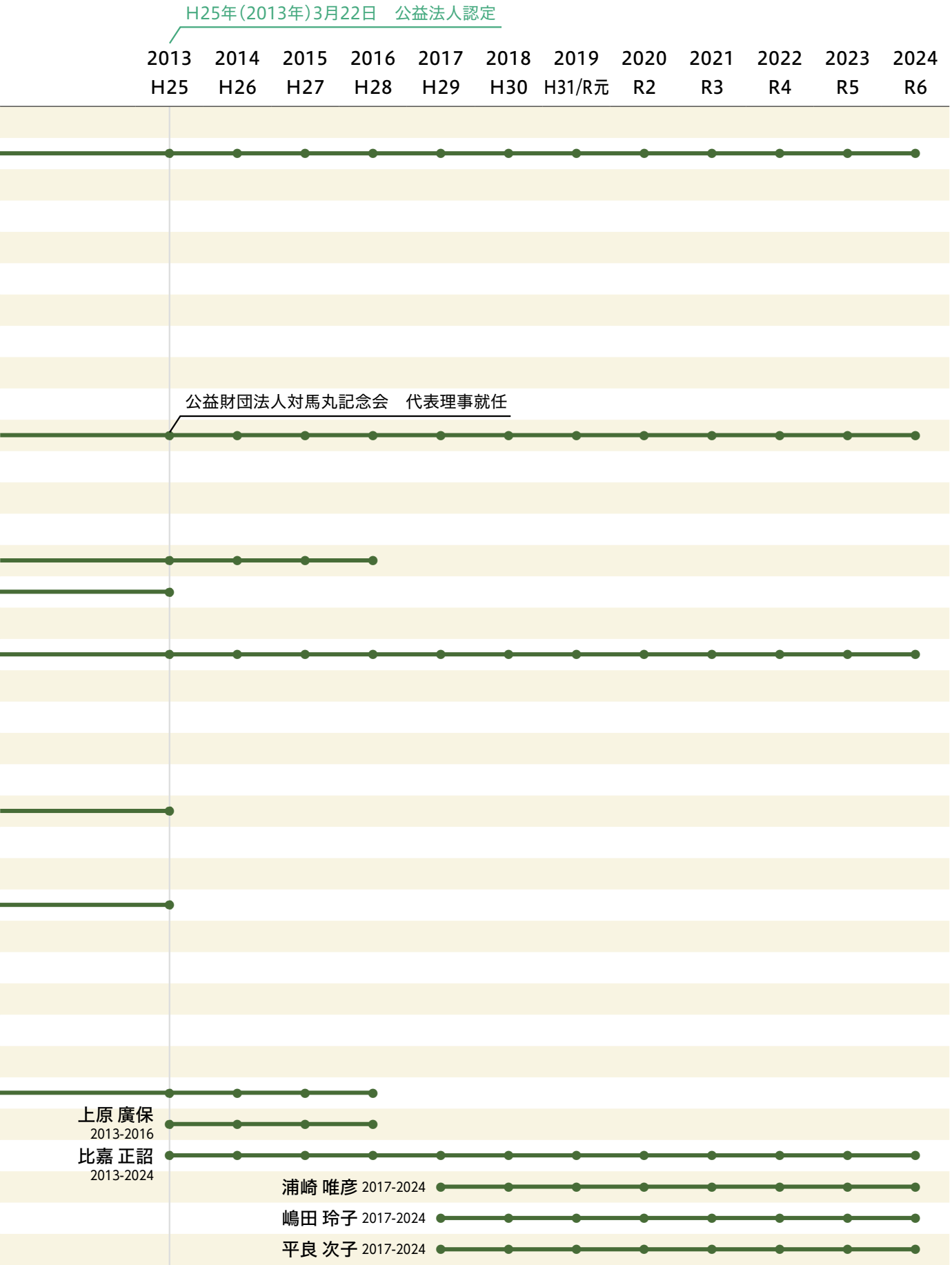

H25年(2013年)3月22日　公益法人認定
2013 H25
2014 H26
2015 H27
2016 H28
2017 H29
2018 H30
2019 H31/R元
2020 R2
2021 R3
2022 R4
2023 R5
2024 R6
上原 廣保 2017-2024
瑞慶山 良和 2017-2024
嘉数 昇明 2013-2024
髙良 桂子 2017-2024
本仲 範男 2021-2024
比嘉 悦子 2021-2024
謝花 奈津子 2017-2020
與古田 桐子 2021-2024

H13年（2001年）7月4日 財団法人対馬丸記念会設立

H16年（2004年）8月22日　対馬丸記念館開館　事務所を記念館へ移転

理事




H25年(2013年)3月22日　公益法人認定
2013 H25
2014 H26
2015 H27
2016 H28
2017 H29
2018 H30
2019 H31/R元
2020 R2
2021 R3
2022 R4
2023 R5
2024 R6
公益財団法人対馬丸記念会　代表理事就任
上原 廣保 2013-2016
比嘉 正詔 2013-2024
浦崎 唯彦 2017-2024
嶋田 玲子 2017-2024
平良 次子 2017-2024

特別展一覧

開催日	展示名	主催／企画／協力
2004年8月26日	第1回 「平和の約束」	小・中・高の子どもたち
2005年3月1日 ～3月31日	第2回 「石田壽長崎原爆写真展」	石田穣一（ゆたかはじめ）
2005年6月23日 ～8月31日	第3回 企画展「対馬丸調査と深海の神秘展」	独立行政法人 海洋研究開発機構 他
2006年3月1日 ～4月30日	第4回 「沖縄戦後の復興Part1」	琉米歴史研究会
2006年6月23日 ～8月30日	第5回 「沖縄戦後の復興Part2 ―私たちはこのようにして立ち上がった― 1945年～1965年」	沖縄県立博物館、うるま市石川歴史民俗資料館、壺屋焼物博物館、諸見民芸館、久手堅憲俊、安次富長昭
2006年7月29日	第6回 「対馬丸撃沈―水に流せない過去―」	名護市立中央図書館（移動展）
2007年3月18日 ～3月25日	第7回 「尚学高等学校　対馬丸追体験ツアー展」	
2007年6月23日 ～8月29日	第8回 「沖縄戦時下の住民 ―かくして沖縄は戦場となった―」	独立行政法人 海洋研究開発機構
2007年12月15日 ～2008年1月9日	第9回 「世界の平和児童画展 ～対馬丸学童に捧ぐ～」	世界児童画展沖縄実行委員会
2008年7月20日 ～9月15日	第10回 「対馬丸と疎開 ―やーさん・ひーさん・しからーさん展―」	琉球新報社
2008年12月16日 ～2009年1月15日	第11回 「世界の平和児童画展 ～対馬丸学童に捧ぐ～」	沖美協、ぺんてる福岡
2009年10月4日 ～11月23日	第12回 「対馬丸と疎開 ～対馬丸の航跡と疎開資料展～」	講師・當間栄安
2009年12月16日 ～2010年1月15日	第13回 「世界の平和児童画展」	世界児童画展・沖縄地区巡回展・ 実行委員会
2010年7月23日 ～8月31日	第14回 「対馬丸によせる平和のメッセージ展 ―僕の、わたしの対馬丸」	
2010年12月17日 ～2011年1月15日	第15回 「世界の平和児童画展～対馬丸学童に捧ぐ～」	世界児童画展・沖縄地区巡回展・ 実行委員会
2011年6月13日 ～6月26日	第16回 「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート1」	埼玉県平和資料館
2011年11月18日 ～11月30日	第16回 「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート2」	埼玉県平和資料館
2011年8月19日 ～8月26日	第17回 「昭和の暮らし ～激動の時代、人々は何を思い感じたのか。～」	東京／昭和館
2012年8月18日 ～8月25日	第18回 「絵日記に見る戦時疎開の子供たち ―東京の子供たちの600日の記録－」	平和祈念プロジェクト21
2012年11月16日 ～11月28日	第19回 「第60回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2013年8月10日 ～9月10日	第20回 「戦争と動物たち―ぎせいになった動物たちと 生きのびた動物たちの物語」	
2013年12月25日 ～2014年1月19日	第21回 「第61回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社

開催日	展示名	主催／企画／協力
2014年8月22日 ～9月30日	第22回 「収集資料が語る〈対馬丸〉と〈小桜の塔〉パート1 ―新聞資料から、事件後70年と慰霊碑建立60年をたどる―」	
2014年12月26日 ～2015年2月1日	第23回 「第62回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2015年8月22日 ～9月30日	第24回 「収集資料が語る〈対馬丸〉と〈遺族たち〉パート2 ―対馬丸船体発見から、対馬丸記念館開館までを 新聞資料からたどる―」	
2015年12月25日 ～2016年1月31日	第25回 「第63回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2016年8月22日 ～10月2日	第26回 「奄美大島と対馬丸―いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる―」	
2017年1月7日 ～2月12日	第27回 「第64回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2017年8月11日 ～9月3日	第28回 「ヒロシマ・ナガサキ原爆パネル展 ―核兵器も戦争もない平和な世界を願って」	広島平和記念資料館
2017年12月23日 ～2018年1月28日	第29回 「第65回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2018年8月15日 ～9月9日	第30回 「かくして沖縄は戦場になった」	沖縄県平和祈念資料館
2018年12月21日 ～2019年1月27日	第31回 「第66回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2019年8月22日 ～9月29日	第32回 「対馬丸75年の想い 対馬丸撃沈～対馬丸記念館開館～そして現在」	
2019年12月21日 ～2020年1月26日	第33回 「第67回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2020年8月22日 ～9月22日	第34回 「―未来を奪われた子どもたち― 石川・宮森小学校米軍ジェット機墜落事件写真展」	NPO法人 石川・宮森630会
2020年12月19日 ～2021年1月24日	第35回 「第68回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2021年8月18日 ～9月20日	第36回 「沖縄原風景展～疎開前の暮らしと民俗～」	神山清政、沖縄市諸見民芸館 他
2021年12月21日 ～2022年1月23日	第37回 「第69回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2022年9月9日 ～10月2日	第38回 「比べてみよう！沖縄の疎開と本土の疎開」	京都市学校歴史博物館 他
2022年12月21日 ～2023年1月25日	第39回 「第70回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社
2023年8月22日 ～9月22日	第40回 「写真で見る（知る）戦争と子ども達 ～過去と未来を見つめて～」	日本赤十字社、石川文洋 他
2023年12月22日 ～2024年1月21日	第41回 「学校新聞コンクール・沖縄県中学校社会科 新聞コンクール那覇秀作展」	琉球新報社
2024年8月22日 ～9月22日	第42回 「おかえりなさい！対馬丸の子どもたち 対馬丸記念館20年の歩み～」	
2024年12月21日 ～2025年1月19日	第43回 「第71回全琉図画・作文・書道コンクール 那覇秀作展」	沖縄タイムス社

ちゃーがんじゅう講座一覧

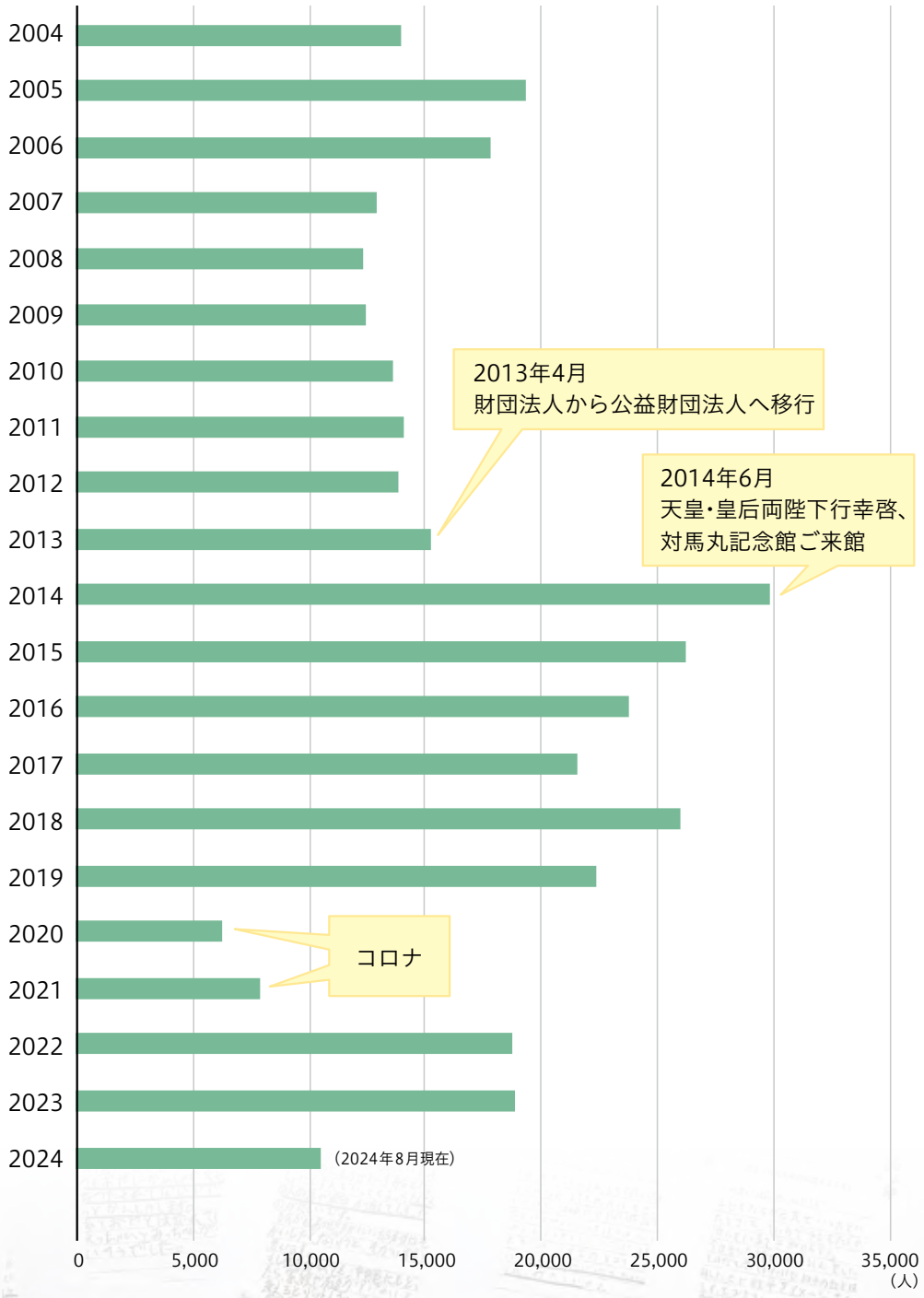
開催日	講座名	講師
2004年 12月2日	第1回「歯周病と入れ歯」	山川修(南部地区歯科医師会会長)
2005年 12月15日	第2回「肺癌専門医としての体験から―長寿県・沖縄に赤信号点灯―」	源河圭一郎(国立沖縄病院名誉院長)
2006年 1月5日～ 3月30日 毎週木・土	第3回 無料歯科健康相談	協力:社団法人南部地区歯科医師会
2006年 5月21日	第4回「ストレス解消について」	福地孝(沖縄女子短期大学教授)
2007年 1月25日	第5回「ちぃーちぃーかぁーかぁー」	城間健(さわやか歯科医院院長)
2007年 11月8日	第7回「認知症の予防」	金城博(博愛病院院長)
2008年 2月28日	第8回「体のしくみから健康を考える」	金城博(博愛病院院長)
2008年 9月4日	第9回「沖縄の昔話」	宮沢貞子(むかしばなし研究者)
2008年 12月7日	第10回「沖縄の不発弾で子どもの命を救おう」	具志堅隆松(沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」事務局長)
2009年 2月15日	第11回「島人の肝心―沖縄の昨日、今日、そして未来―」	崎原真弓(カリスマ・スーパーバスガイド)
2009年 4月5日	第12回「水中TVカメラロボットの操縦体験とビーチコーミング」	GODAC(国際海洋環境情報センター)
2009年 12月6日	第13回「島人の肝心」	崎原真弓(カリスマ・スーパーバスガイド)
2010年 2月21日	第14回「地球から戦争が消える日」	Janne(起業家、ドキュメンタリー制作)
2010年 10月3日	第15回「幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだよ～ 体の健康、心の平和」	伊是名夏子(コラムニスト)
2010年 12月5日	第16回「他人を喜ばせる力　他喜力」	久高学(マンマ家クリニック院長)
2011年 2月20日	第17回「素敵に暮らすために～元気になれる食事の話」	伊是名カエ(管理栄養士・健康運動指導士)
2011年 10月30日	第18回「目からウロコ！肉食ダイエット～琉球豚肉料理で長寿の源～」	渡辺信幸(沖縄徳洲会こくらクリニック院長)
2011年 12月15日	第19回「薬の話ありんくりん」	宮城敦子(薬剤師)
2012年 3月2日	第20回「艦砲ぬ喰ぇーぬくさーに込めた想い」	でいご娘(民謡グループ)
2013年 1月19日	第21回「健康になる食生活」	又吉亮二(又吉内科クリニック院長)
2013年 3月9日	第22回「嬉しゃ、愛しゃ、苦しゃ―歌やびら、語やびら、島人の肝心」	民謡鶯組
2013年 9月14日	第23回「響け平和の肝心　あふれる歌声、ひろがる笑顔」	クリスタルコール合唱団、栄光メイツ少年少女合唱団
2014年 2月22日	第24回「タバコが奪う沖縄の未来」	山代寛(沖縄大学人文学部福祉文化学科教授)

開催日	講座名	講師
2014年 10月18日	第25回「響け平和のふるさとへ―対馬丸の子らへ贈る思い出の歌―」	小波津美奈子、屋良ありさ、銘苅涼子、金武町少年少女合唱団、つしま丸児童合唱団
2015年 2月21日	第26回「きれいな歯でいきいき人生―いつまでも人として生きること 食べること―」	髙良政勝(たから歯科院長)
2015年 6月20日	第27回「講談で語る対馬丸―恩師が教えた平和の大切さ―」	旭堂南照(講談師)
2016年 3月5日	第28回「超高齢社会における健康管理について」	田名毅(首里城下町クリニック第一・第二理事長)
2016年 11月19日	第29回「舞台朗読で知る対馬丸」	石井順子、真栄里勝枝(沖縄可否の会)
2017年 3月4日	第30回「心臓突然死と心筋梗塞―沖縄の現状を踏まえて―」	砂川長彦(県立南部医療センター・こども医療センター　循環器内科部長)
2017年 12月9日	第31回 ちゃーがんじゅう講座 「食べる力は生きる力　全身と歯周病との深い関係」	髙良政勝(たから歯科院長)、新城美由紀(同歯科医師)、石垣奈々恵(同歯科衛生士)
2018年 2月24日	第32回「広みらな沖縄(ウチナー)グチ」	楚南光子、嘉数美津子(NPO法人沖縄県沖縄語普及協議会理事)
2018年 11月24日	第33回「発声上手は長生き上手～喉を鍛えてながいき長生き～」	小波津隆(声楽家)
2019年 3月2日	第34回 ちゃーがんじゅう講座「骨を丈夫にして若々しく生きる 転ばぬ先の骨密度～自分の骨密度知っていますか？～」	大湾一郎(整形外科医)
2019年 11月30日	第35回 ちゃーがんじゅう講座 「治せる認知症？～脳外科医の立場から」	髙良英一(沖縄赤十字病院名誉院長)
2020年 3月7日	第36回 ちゃーがんじゅう講座「楽しい折り紙講座で脳活しましょう～ 手先を動かして、脳と一緒に心も活き活きで楽しく創作～」	金城和美(日本折紙協会認定講師)
2020年 11月21日	第37回「新型コロナウイルス感染症～知ることから始まる感染症対策」	赤嶺盛和(沖縄赤十字病院副院長・呼吸器内科部長)
2021年 3月13日	第38回 ちゃーがんじゅう講座 「シニア生活をICTで賢く豊かに」	渡口眞常(特定非営利活動法人シニアネットNAHA理事長・シニア情報生活アドバイザー)
2021年 11月27日	第39回「島の恵みと先人の知恵～島野菜を知ろう～」	長崎信子(若狭自治会婦人部長)
2022年 3月12日	第40回「沖縄の訓言(うちなーぬゆしぐぅとぅ) ～いちたらん くとぅや ちゅい たれいだれい～」	比嘉正詔(琉歌研究家)
2022年 6月17日	第41回「講談で語る対馬丸～今こそ平和への願いを込めて～」	旭堂南照(講談師)
2022年 11月5日	第42回「長寿を支えた伝統的な琉球料理は沖縄の宝」	安次富順子(琉球料理研究家)
2023年 12月2日	第43回「対馬丸で亡くなった人たちの想いをシャンソンにのせて歌います」	石坂美砂(シャンソン歌手)
2024年 2月17日	第44回「ペインクリニックって知ってますか？」	太田敏久(大浜第一病院ペインクリニック部長)
2024年 9月28日	第45回「どうする？波の上エリアの津波避難」	稲垣暁(防災士・社会福祉士)

※第6回の詳細不明

入館者推移（2004年～2024年）

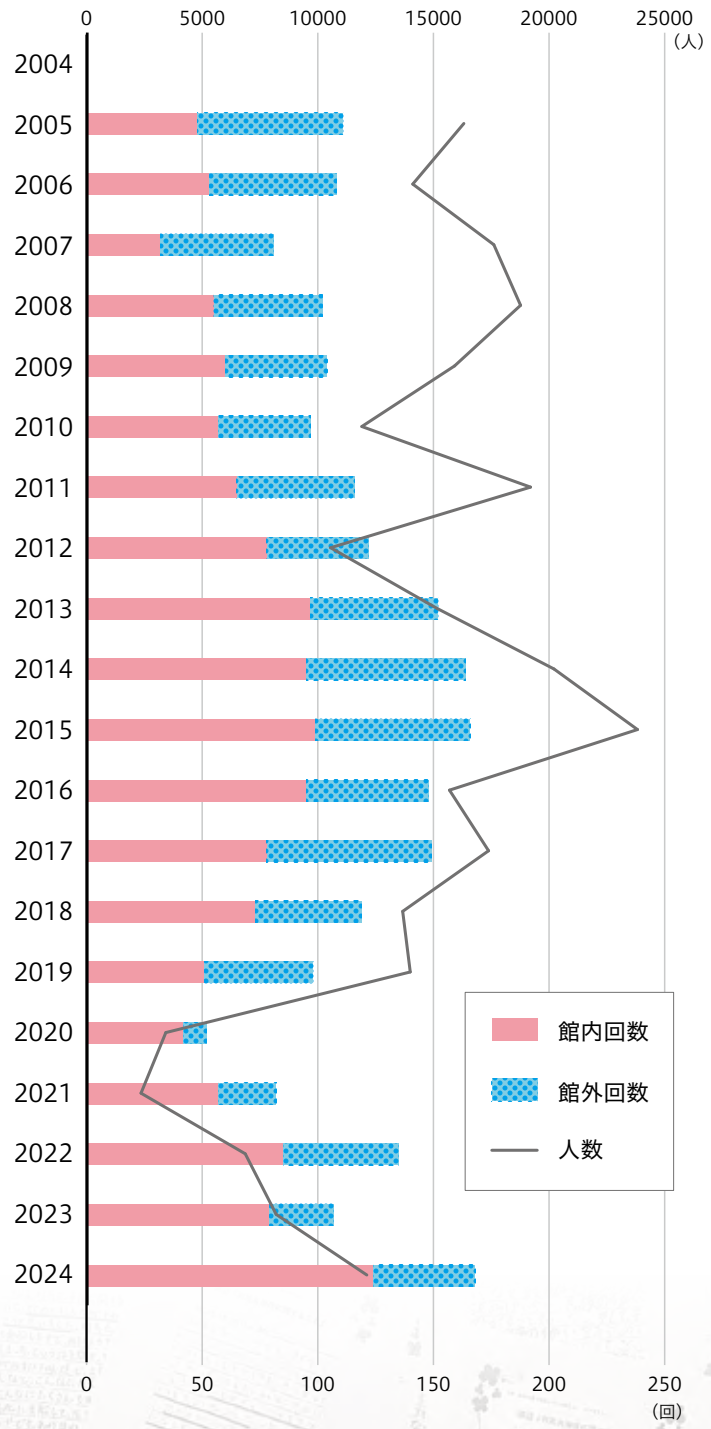
年度	西暦	入館者数
平成16	2004	14,023
平成17	2005	19,385
平成18	2006	17,759
平成19	2007	12,939
平成20	2008	12,342
平成21	2009	12,456
平成22	2010	13,594
平成23	2011	14,042
平成24	2012	13,850
平成25	2013	15,236
平成26	2014	29,857
平成27	2015	26,265
平成28	2016	23,802
平成29	2017	21,541
平成30	2018	25,971
令和元	2019	22,333
令和2	2020	6,319
令和3	2021	7,866
令和4	2022	18,777
令和5	2023	18,815
令和6	2024	10,476 （2024年8月現在）



語り部活動状況（2005年～2024年）

年度	西暦	人数	館内回数	館外回数	合計回数
平成16	2004	—	—	—	—
平成17	2005	16,276	48	63	111
平成18	2006	14,068	53	55	108
平成19	2007	17,571	32	49	81
平成20	2008	18,727	55	47	102
平成21	2009	15,875	60	44	104
平成22	2010	11,866	57	40	97
平成23	2011	19,157	65	51	116
平成24	2012	10,517	78	44	122
平成25	2013	15,111	97	55	152
平成26	2014	20,169	95	69	164
平成27	2015	23,780	99	67	166
平成28	2016	15,655	95	53	148
平成29	2017	17,344	78	71	149
平成30	2018	13,632	73	46	119
令和元	2019	13,959	51	47	98
令和2	2020	3,395	42	10	52
令和3	2021	2,323	57	25	82
令和4	2022	6,828	85	50	135
令和5	2023	8,165	79	28	107
令和6	2024	12,082	124	44	168
合計		276,500	1,423	958	2,381

（2005年4月1日～2025年3月31日）



※語り部活動は、財団設立以前より行われている
※館外は、学校やホテルでの講演である

多額の浄財をお寄せいただいたみなさま

愛楽園・里山つる
㈲RKST
㈱アールジェイエステート
㈱東江建設
代表取締役 東江丈二
新垣美枝子
新崎照子
㈱アレックス
伊佐文子
石坂美砂
石塚之香子
伊藤洋久
糸数昌業
糸数裕子
上地安智
上原隆
海のトランペット（神戸市役所合唱団センター）
「海のトランペットをうたう」沖縄実行委員
㈲APセンター
大島英世
大城純市
太田計
太田敏久・恭子
太田敏之
太田斉
大野裕
大畠由貴
小野善弘・美意子
OBC平和社会委員会
大森節子
沖縄県教科書供給㈱
㈶沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会
沖縄歯科インプラント研究会
沖縄歯科研修同好会
沖縄尚学高等学校生徒会
沖縄タイムス販売店会
沖縄特定免税店㈱
沖縄兵庫県民有志一同
㈱沖縄物産企業連合
代表取締役　羽地朝昭
沖縄ライオンズクラブ
小野善弘
嘉数昇明
垣内富貴子
加藤麻美
神谷朝雄・嘉代子
喜納優子・美優
儀間幸子
喜屋武盛榮・一男
喜屋武延子
金城竹治
金城文子
國吉永康
国吉昇
久場富子
久保應子
久保光子
㈱鋼新・大林哲也
光文堂コミュニケーションズ㈱
国際ソロプチミスト神戸
㈱国際パーキング
㈱国際ビル産業
小坂井政子
小波津巌
斉藤幸江
座安勝憲・大畠弘丈・尚軍
さわやか歯科クリニック
重田辰弥
信ヶ原千恵子
自治労新潟県本部
柴田一郎
嶋田要二
島袋侑哲・則子
㈱秀拓　米原恭淳
ジョイネス沖縄
女性歯科医師の会
シロマミキコ
真言宗豊山派仏教青年会
新里朝子・眞美子
新里叡
㈱真宣組
代表取締役 眞栄城嘉史
砂川毓雄
瀬底さん家族
（遺族・ハワイ日系）
瀬底孝枝
瀬嵩マサ子
ダイキンオーキッド
平良啓子
平良次子
平良輝子
平良基
髙良英一・聡
髙良英三
たから歯科
髙良博
髙良文子
髙良政勝
田澤秀子
玉城節子琉舞道場
津嘉山信行
津波剛
照屋恒
土井信博之
當間栄安
當山健次
渡口進一
匿名
渡名喜よし子
泊こがね会
泊先覚顕彰会
㈱富益 富山健次
内藤啓子
仲井間宗利
中川健二
長嶋和人
中田昌宏
那覇空港ビルディング㈱
那覇市垣花奉頌会
那覇市垣花奉頌会会長
西澤清文
西林弘子
服部千弥子
林賢正
比嘉祐子
兵庫県沖縄友愛運動県民の会
外間邦子
㈲外間建築設計事務所
外間宏榮ご遺族
堀内雪子
本田秀純
前島塩神保存会
真栄城修
眞榮城隆・裕・修
真栄城徳秀
真志取兼政
又吉嘉伸
源啓祐
宮城初枝
宮城マリア
宮園ゆう子
望月美恵子
本村昌一
本村ツル
山加恵津子
山口ミチ子
山田英生
㈱山田養蜂場
山村彰義
㈱陽心会
㈱陽心会大道中央病院
吉岡奈津子
吉永小百合・坂本龍一
読谷村職員労働組合結成60周年記念事業実行委員会
琉球新報読者（無記名）
琉智
琉智歌謡スタジオ
若谷政樹
湧川秀子・祐一

五十音順　（「対馬丸通信」より）

元宝塚トップスター、大浦みずきの姉、内藤啓子（中央）

垣花奉頌会

泊先覚顕彰会

銅板千羽鶴受領

山田養蜂場（山田英生社長）へ平和活動貢献賞を授与

戦史関連書籍 島袋常宏

車椅子、浜崎盛秀

対馬丸記念館の歩み

1997-2024

1997　平成9

04.01　消費税３％から５％へ
04.02　故屋良朝苗元琉球政府行政主席・県知事県民葬
07.01　香港がイギリスから中国に返還
12.12　悪石島沖、北西10㎞、水深880mで対馬丸船体発見。JAMSTECのリモート深海探査機による［写真1～5］
12.21　海上ヘリ基地建設の是非を問う名護市の住民投票実施

1998　平成10

01.06　長野オリンピック聖火リレー糸満市「平和の礎」からスタート
03.07　政府主催第１回海上慰霊祭
10.09　地球温暖化対策推進法制定
10　対馬丸遭難者遺族会の船体引き揚げ要請に、国は不可能の結論
11.28　政府主催第２回海上慰霊祭
12.10　稲嶺恵一、県知事に就任

1999　平成11

01.01　欧州連合(EU)の単一通貨「ユーロ」が11カ国に導入
04.04　沖縄尚学高校野球部春夏通じて県勢初の「甲子園制覇」
08　国が「対馬丸記念館」調査設計費を計上
11.22　県は普天間飛行場移設先として名護市辺野古沿岸域を正式決定
年越しではコンピュータの2000年問題の対応に追われる

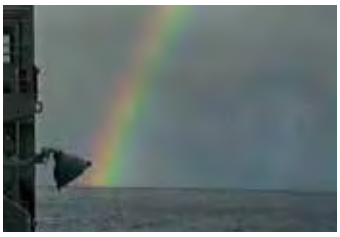
2000　平成12

03.29　新沖縄県平和祈念資料館開館記念式典
04.01　介護保険制度施行
07.21　九州・沖縄サミット首脳会合(～07.23)
07　舞台「銀の鈴」監督：齋藤勝、大阪で初演
08.18　伊豆諸島・三宅島で大規模噴火
12.02　琉球王国のグスク及び関連遺産群(9カ所)が世界遺産に登録

2001　平成13

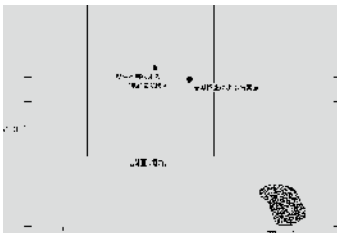
03.27　県議会予算特別委員会で記念館調査設計費について附帯決議が行われる
04.02　NHKの連続ドラマ「ちゅらさん」放送開始
06　「対馬丸記念館」全額国家補助での建設決定
07.04　財団法人対馬丸記念会設立登記。任意団体から財団法人へ
09.01　歌舞伎町ビル火災発生。翌年消防法が改正される

［1］船体文字


［2］虹

［3］献花式

［4］KAIKOU1


［5］area map

[6]

[7]

[8]

[9]

[10]

[11] ボーフィン号

09.11　米同時多発テロ事件、世界貿易センタービルに旅客機が激突

10.19　米中枢同時テロの影響で観光客減少、緊急観光キャンペーン「だいじょうぶさ～沖縄」を展開

2002　平成14

01.16　第１回建設検討委員会が開催

04.01　学校の完全週5日制スタート

05.15　対馬丸記念館企画検討運営委員会（座長・石原昌家）が設置

05　髙良政勝、財団法人対馬丸記念会理事長就任

10.15　拉致被害者5人が24年ぶりに北朝鮮から帰国

11.01　沖縄美ら海水族館オープン

2003　平成15

03.20　イラク戦争勃発

03　対馬丸記念会のホームページ開設

05.30　個人情報保護法公布

06.01　対馬丸友の会会報『対馬丸通信』創刊号発刊。制作：パズル

06.19　記念館設計業者入札

07.19　展示設計業者プレゼンテーション［写真6］

08.10　沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業

08.15　開館プレイベント「～60年後の出航に向けて」県立郷土劇場にて［写真7］

10.15　第４回臨時理事会。たから歯科3階ミーティングルームにて

10.22　対馬丸記念館起工式。建築施工：㈱屋部土建［写真8］

10.28　生存者座談会（船内の様子、蚕棚・3種類の筏他）、沖縄県女性総合センターているる（現沖縄県男女共同参画センターているる）にて［写真9］

11.05　企画検討運営委員会（展示等）。たから歯科3階ミーティングルームにて［写真10］

11.17　第１回収集委員会。対馬丸記念会別室（上山中校門真向かい、謝花寛営副会長宅賃貸）にて

11.21　悪石島・奄美大島資料収集。肥後氏にヒヤリング（～11.27）。髙良会長、渡口、謝花氏事務所職員、吉川、内田洋行、NHK

12.01　テレビ地上デジタル放送開始

12.10　第１回語り部の会

平成14年度は８人の生存者に聞き取り取材を実施

12　沖縄の男性の平均寿命が全国4位から26位に急落、「２６ショック」

この年、対馬丸記念館周辺清掃の取り組みスタート。関係有志で毎月第２土曜日午前７時から１時間程。関連して環境美化調査のため水俣市立水俣病資料館と水俣市総合もやい直しセンター「もやい館」視察

記念館開館に向けてのプロモーションビデオ完成。ナレーション／吉永小百合

2004　平成16

01.18　国立劇場おきなわ開場

02.22　ハワイ、ボーフィン潜水艦記念館視察・資料収集（～02.28）［写真11］

05.21　事務局が記念館へ事務所移転。展示作業開始

06.09　対馬丸記念館竣工式典

07.11　菅原文太来館。小桜の塔参拝

07.12　ラジオ「菅原文太の“日本の底力”」(ニッポン放送)の収録に高良会長と生存者上原清が出演、対馬丸記念館の開館と来館を呼び掛ける

08.13　沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落、炎上

08.15　遺族説明会および内覧会

08.21　悪石島小中学校の生徒2人と引率の先生1人、慰霊祭と開館式典に招待(～08.23)

08.22　対馬丸記念館開館

平成16年度対馬丸慰霊祭。以後毎年開催

対馬丸夜間追悼式。午後10時12分、記念館屋上にて

第1回企画展「平和の約束」(～08.31)。6月より募集した対馬丸の子どもへ贈る「平和の約束」、全メッセージを展示[写真12]

08.23　悪石島児童代表・稲嶺法子より「命どぅ宝」扁額贈呈[写真13]

08.25　安冨祖流絃声会による古典音楽「十七八節」慰霊演奏[写真14]

08　アテネ五輪開幕

09.15　内閣府大臣官房会計課の大森雅夫課長他2人、来館視察

10.13　記念館表札掲示。揮毫:茅原南龍(茅原書藝會主宰)[写真15]

11.06　琉米歴史研究会と情報・資料収集の協力提携

12.02　第1回ちゃーがんじゅう講座

12.12　遺影追加掲示(61枚、67人分)

12.13　訪米調査(～12.23)。15日に生存者上原清、ボーフィン号元乗員ジョセフ・ノックスと面談。協力:琉米歴史研究会[写真16]

12.26　インドネシア・スマトラ沖地震、津波発生

2005　平成17

02.13　宮里藍が、第1回女子ワールドカップ初代チャンピオンに

02.16　地球温暖化防止条約京都議定書発効

03.01　第2回特別展「石田壽長崎原爆写真展」協力 長崎原爆資料館、ゆたかはじめ(～03.31)

04.08　橋本龍太郎元総理来館。厚生大臣当時議員会館にて遺族年金の件で2度ほど面会

04.30　琉球朝日放送制作の米国調査ドキュメンタリー『記憶の扉～対馬丸の悲劇60年目の真実～』放送

05.06　稲嶺恵一沖縄県知事視察

05.21　小池百合子内閣府沖縄担当大臣・環境大臣視察

05.22　対馬丸記念館公式ガイドブック発行

05　千玄室来館

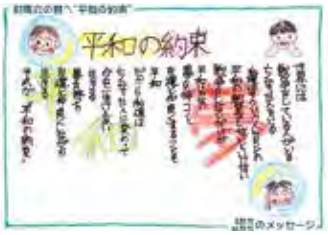
06.23　第3回特別展「対馬丸調査と深海の神秘展」天皇御製受領。企画:独立行政法人海洋研究開発機構・国際海洋環境情報センター(～08.31)

06.23　小泉純一郎内閣総理大臣、小桜の塔と対馬丸記念館視察

08.22　平成17年度慰霊祭。開館1周年記念行事として追悼コンサート

対馬丸夜間追悼式。午後10時12分、記念館屋上にて

09.24　大見謝文の絵画「対馬丸の児童」2点が寄贈



[12] 平和の約束

[13]

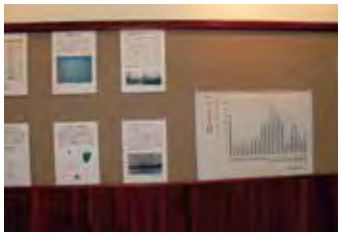
[14]

[15] 茅原南龍(中央)

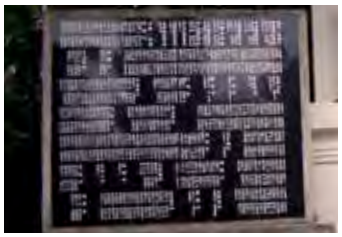
[16] ジョセフ・ノックスと上原清

[17]

[18]


[19] 名護移動展

[20]


[21]

[22]「学童疎開の悲劇を伝える」企画展にて（秋篠宮家ご一家）

09.28　ボーフィン号乗員より新資料を入手。アルバムを借り受ける

09.28　歌手の琉智、CD「ワダツミ―対馬丸に寄せて―」を寄贈

09.30　生存者、マリア宮城・バートラフ作詞の『対馬丸哀歌』を寄贈。作曲：海勢頭豊

09.30　東京那覇会来館、寄付金寄贈

10.21　郵政民営化関連法公布

2006　平成18

01.13　入館3万人達成。3万人めの内田優花（岐阜県）［写真17］

01.15　那覇市立天妃小学校４年生が、バザーの売上金を寄付

03.11　第4回特別展「沖縄戦後の復興展 Part1～私たちはこのようにして立ち上がった～」　協力：琉米歴史研究会（～04.30）

04.01　入館料改定。小学生100円、中・高校生300円、大学生及び一般500円に。新たにファミリー割引（定額1000円）を導入

05.01　日米両政府が米軍再編最終報告について合意

06.23　第５回特別展「沖縄戦後の復興 Part2～私たちはこのようにして立ち上がった～　1945年～1965年」。共催：琉球新報社、資料提供：沖縄県立博物館、うるま市石川歴史民俗資料館、壺屋焼物博物館、諸見民芸館、久手堅憲俊、安次富長昭 他［写真18］

07.29　名護市立中央図書館で初の館外展示。主催：名護市教育委員会［写真19］

08.07　徳之島豆記者団来館、沖縄市文化協会来館（08.21）

08.13　八重山商工が離島勢で初の春夏連続甲子園に出場

08.20　沖縄尚学高校国際交流クラブが「疎開船対馬丸・追体験調査ツアー」実施（～08.24）　09.23、24にパネル展示［写真20］

08.22　平成18年度対馬丸慰霊祭

対馬丸夜間追悼式。午後10時12分、記念館屋上にて

08.22　対馬丸生存者上原清著『沈む』発刊

12.10　仲井眞弘多、県知事に就任

この年、那覇高等学校放送部制作の対馬丸をテーマにした「忘れないで消さないで」が第53回NHK杯全国高校放送コンテスト沖縄県大会テレビドキュメント部門で最優秀賞受賞

2007　平成19

01.19　小桜の塔刻名、氏名部分をホワイトペイントで補修（中園博文より寄付）［写真21］

04.20　鈴木宗男視察

05.27　対馬丸記念館周辺の旭ヶ丘公園に蝶の食草約600本植栽に協力。主催 首里城下にチョウを飛ばそう会（高良鉄夫会長）

06.23　第8回特別展「沖縄戦時下の住民～かくして沖縄は戦場となった～」協力：沖縄県平和祈念資料館（～08.29）

07.20　裏千家青年部によるチャリティーお茶会

07.29　参院選、自民党が歴史的惨敗。民主党が参院で第１党に

08.11　いしがき児童合唱団による平和コンサート「祈り」（指揮 砂川富貴子）。企画展示室にて

08.16　「学童疎開の悲劇を伝える」企画展。新宿文化センターにて。主催：子供王国　首脳会議全国豆記者交換会［写真22］

08.22　平成19年度対馬丸慰霊祭

09.29　教科書検定意見撤回を求める県民大会（宜野湾市に11万6000人）

10　対馬丸記念館「語り部養成講座」開講～11月。毎週土曜・日曜、全11回

11.01　沖縄県立博物館・美術館が那覇市おもろまちに開館

11.02　山中伸弥教授らがiPS細胞（人工多能性幹細胞）の開発に成功

11.07　映画「銀の鈴－対馬丸へのレクイエム－」制作発表。監督：齋藤勝／製作：劇団ARK・銀の鈴製作委員会［写真23］

12.15　岸田文雄沖縄担当大臣来館視察

12.15　饒波正博（ホテルザ・ナハテラス）、対馬丸船体模型寄贈

12.15　第９回特別展「世界の平和児童画展」（～08.01.01）

この年、三枝万祐の対馬丸劇「ぬち・どぅ・たから」、国立劇場おきなわで上演。その後、改編され、東京・新宿、関西などでも上演

［23］

2008　平成20

01.24　日米両政府は航空管制システム「嘉手納ラプコン」の返還に合意

03.05　対馬丸記念館チャリティーコンサート「しますえ・よしおシャンソンの夕べ」浦添市てだこホールにて。主催：対馬丸チャリティーコンサート実行委員会（尚弘子会長）

04.01　後期高齢者医療制度開始

03.09　「平和の舞台」対馬丸公演～海底の友へ～。企画展示室にて。脚本・演出・音楽・出演：ピースメッセンジャー肝高（PMK）／監修：平田大一

04.12　友寄賢吉、新聞記事と湯出国民学校附属鶴泉寮門札寄贈［写真24］

07.20　第10回特別展「対馬丸と疎開～やーさん・ひーさん・しからーさん～」（～08.30）

07.20　茶道裏千家青年部チャリティーお茶会

08.08　北京五輪開幕

08.16　秋篠宮ご一家来館。「学童疎開の悲劇を伝える」企画：全国豆記者交換会

08.17　上山中学校剣道部、沖縄ベンチャークラブが小桜の塔清掃

08.22　平成20年度対馬丸慰霊祭。「首里城下に蝶を翔ばそう会」の協力でオオゴマダラ100頭放蝶

08.22　甲辰国民学校6年の犠牲者の遺族へ、卒業証書の授与式

09.15　リーマン・ブラザーズ・ホールディングスが経営破綻（リーマンショック）

10.11　㈱山田養蜂場（山田英生社長）より記念館運営に役立ててと1,000万円寄付。（開館以来、初の多額の寄付金）

12.16　第11回特別展「世界の平和児童画展」（～09.01.15）

［24］友寄賢吉（中央）

2009　平成21

05.21　裁判員制度がスタート

06.01　改正道路交通法施行。高齢運転者に認知機能検査を義務付け

07.26　宮里藍、米女子ゴルフツアーで初優勝

07.27　石堂徳一、貸与中の戦前の教科書等展示資料を寄贈［写真25］

08.01　第２回平和コンサート。いしがき児童合唱団（指揮：砂川富貴子）

08.06　那覇市教育委員会平成21年度第4回校長連絡協議会、当館で開催

［25］

[26] 開館当時の船倉ベッド（1階奥左隅）

[27]

[28] 65周忌悪石島慰霊祭新報記事

[29] シーサー作り

[30] 開眼の儀

08.08　金城明美、絵本「ケーイ」「つるちゃん」寄贈

08.13　財団法人一沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会より、リニューアル資金として寄付

08.15　映画「銀の鈴 ― 対馬丸より、今を生きる君たちへ ―」上映

08.22　開館5周年にむけて、展示の一部リニューアル（蚕棚ベッド移動、十・十空襲他）完了 [写真26]

08.22　平成21年度対馬丸慰霊祭。オオゴマダラ放蝶 [写真27]

08.22　開館5周年悪石島慰霊祭 [写真28]

悪石島沖にて対馬丸事件65周年洋上慰霊祭。参加者：外間邦子（遺族）、儀間真勝、上原 清、喜屋武盛守（以上生存者）、渡久地政吉、名城悦子（以上協力者）

08.22　浦添少年少女合唱団と神戸市役所センター合唱団が「海のトランペット」を奉納合唱

08　壺屋小学校児童が悪石島洋上慰霊祭の鎮魂シーサーを作製、贈呈 [写真29]

09.03　大城立裕作「対馬丸」朗読CD発売。「おきなわおーでぃおぶっく」シリーズ第1弾

10.04　第12回特別企画展「対馬丸の航跡と疎開資料展」

10.10　神戸大学付属海事博物館、絵画「対馬丸」複製寄贈。ゆたかはじめが仲介

11.08　辺野古への新基地建設の県内移設に反対する県民大会（宜野湾市）

12.16　第13回特別展「世界の平和児童画展」

12.16　竹沢正明沖縄総合事務局長視察

12.18　日本平和博物館会議に加盟承認

2010　平成22

02.20　内藤啓子が大浦みずき（宝塚トップスター）の香典返し

03.31　県、「沖縄21世紀ビジョン」策定

04.25　TBSテレビ23対馬丸特番。女優綾瀬はるか、糸数裕子へ取材と小桜の塔参拝（高良理事長案内）

04.25　普天間飛行場の県内移設反対を訴え約9万人が集結（宜野湾市）

05.23　鳩山由紀夫総理視察

06.01　宮城清志（財団法人対馬丸記念会特命アドバイザー）着任。公益法人移行等への業務を担当

07.23　第14回特別展対馬丸に寄せる平和のメッセージ展「僕のわたしの対馬丸」

07.28　美ら島沖縄総体2010開催（～8.20）

08.15　対馬丸の悲劇をしのぶ「いのちの歌コンサート」。共催：混成合唱団「クリスタルコールおきなわ」、対馬丸記念会

08.20　新たに判明した54人の犠牲者名を館内刻銘板へ追加

08.21　興南高校、夏の甲子園で優勝、春夏連覇を果す

08.22　平成22年度対馬丸慰霊祭。上原清、開眼の儀を行う [写真30]

08.22　第14回特別展「僕のわたしの対馬丸」

08.22　伊波智恵子、追悼歌「海の子守歌」（上原清作詞、普久原恒勇補作詞、作曲）CD寄贈

08.26　志位和夫共産党委員長視察

09.07　尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突

10.05　安次富長昭（琉球大学名誉教授）、リトグラフ「鳩」（パブロ・ピカソ作）寄贈

11.07　「花いっぱい蝶舞う未来公園まつり」。那覇市旭ヶ丘公園にて。翁長雄志市長来賓として来館［写真31］

11.15　銅板千羽鶴、鹿児島県板金工業組合より贈呈。同時にケース入り銅板折鶴が遺族・生存者、協力者に贈呈される［写真32］

12.17　第15回対馬丸記念館特別展「世界の平和児童画展～対馬丸学童に捧ぐ～」(～11.01.15)

［31］翁長雄志市長

2011　平成23

03.11　東日本大震災発生。東電福島第一原子力発電所で爆発

05.28　照屋寛監事が退任し、渡名喜元嗣が監事就任

06.13　第16回特別展「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート１」(～06.26)

06.24　県議会へ「対馬丸記念会に係る管理運営費の補助に関する陳情」提出、継続審議となる

07.18　サッカー女子ワールドカップで日本初優勝

08.03　第２回対馬丸語り部養成講座終了(個人タクシー乗員対象)。7月13日開始。30人が語り部認定される［写真33］

08.19　第17回特別展「昭和の暮らし」資料貸出:東京/昭和館(～08.26)

08.22　平成23年度対馬丸慰霊祭

08.29　県内初の海底トンネル「那覇うみそらトンネル」開通

09.04　「2011年 いのちの歌コンサート」共催:混成合唱団クリスタルおきなわ［写真34］

09.17　那覇市制施行90周年事業の舞台劇「命どぅ宝―対馬丸の悲劇」上演。３公演［写真35］

10.14　県議会で継続審議となっていた「対馬丸記念会に係る管理運営費の補助に関する陳情」採択される

11.01　沖縄科学技術大学院大学(OIST)開学

11.18　第16回特別展「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート２」(～11.30)

11.18　仲井眞弘多知事視察

この年、ＮＨＫインターネット・ウェブサイト「戦争証言アーカイブス」で、証言記録市民たちの戦争「海に沈んだ学友たち～沖縄対馬丸～」(2009.12.13放送)が視聴可能に。その後、対馬丸会館受付前のパソコンで常時視聴可能に

［32］

［33］

［34］

［35］

2012　平成24

01.28　水俣市立水俣病資料館「語り部の会」７人来県、対馬丸記念会で講演会、語り部交流

02.24　仲井眞弘多知事「対馬丸記念会に係る管理運営費の補助」県議会答弁で表明

03.01　生存者で語り部の儀間真勝逝去

03.03　沖縄振興二法が衆参両院で可決

03.17　第２回理事会・第２回評議員会①公益財団法人への移行②最初の評議員の選任方法③最初の評議員選定委員会委員の選任。外部委員／尚弘子・比嘉正詔・嶺井政治、内部委員／又吉治子・宮城清志

05.22　東京スカイツリーが開業

06.09　つしま丸児童合唱団結成［写真36］

06.13　平和イベント。なは群星の会主催。記念館前の広場と階段、屋上が舞台。８.22にも実施

［36］つしま丸児童合唱団結成説明会

06.13　平成24年度第１回理事会

06.16　平成24年度第１回評議員会

07.06　県から「最初の評議員選定委員会の設置・運営規定」の認可証を受理

07.20　学校現場と連携して取り組む「平和学習推進連携事業」委員会設置

07.25　最初の評議員選定委員会開催。７名の評議員選任。安次富長昭・上原清・津嘉山朝祥・糸数昌和・嘉数昇明・野里洋・座喜味和則

08.08　第１回「平和学習推進連携事業」委員会

08.18　第18回特別展「絵日記に見る戦時疎開の子供たち―東京の子供たちの600日の記録」

08.18　合唱イベント「復帰40周年・命と平和・魂ゆさぶるコンサート」。クリスタルコールおきなわ

08.21　今年度の遺影の掲示と犠牲者の追加刻銘。平成24年8月22日現在の指名判別刻銘者数1482名（追加６名）遺影285枚・313名（追加４名）

08.22　平成24年度対馬丸慰霊祭

09.09　オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会に10万人（宜野湾市）

09.11　尖閣諸島、国有化

09.13　㈱山田養蜂場より再度寄付金（1,000万円）

09.22　新作組踊「海鳴りの彼方」実行委員会、プレス発表［写真37］

11.04　ハワイ御冠船歌舞団、小桜の塔にて奉納演奏［写真38］

11.11　大城立裕作、新作組踊「海鳴りの彼方」公演。琉球新報ホールにて［写真39］

11.16　第19回特別展「沖縄タイムス社主催第60回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」（～11.28）

11.19　熊本県沖縄県人会会長と、ご当地キャラ「くまもん」来館

11.28　第２回「平和学習推進連携事業」委員会開催

12.05　平成24年度第２回評議員会（臨時会）。理事と監事を選任。理事：髙良政勝・渡口眞常・外間邦子・渡久地政吉・瑞慶山良和・上原廣保・比嘉正詔、監事：又吉治子・渡名喜元嗣

12.21　那覇市が小桜の塔への通路舗装工事及び水道整備工事を実施

12.22　県に公益財団法人移行認定申請書提出

この年、『対馬丸記念館ワークブック』作製（平成24年度）

［37］

［38］

［39］

2013　平成25

03.07　「南ぬ島」石垣空港が開港

03.22　沖縄県より公益財団法人への移行認定される

03　感想文集『対馬丸の記憶』第１集発刊、A５判、256ページ

04.01　公益財団法人対馬丸記念会へ移行、発足

04.01　公益財団法人対馬丸記念会代表理事髙良政勝で登記される

04.01　小桜の塔周辺整備

04.06　小桜の塔前につしま丸児童合唱団によりクメノサクラ４本植樹

06.01　平成25年度つしま丸児童合唱団結団式

06.16　那覇市立安謝小学校校内平和集会

06.23　「平和の詩朗読会」（正面広場）主催：なは群星の会

06　語り部の上原清、愛知県の「戦争と平和の資料館　ピースあいち」で講演

07.24　沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会より清算残余財産の寄付［写真40］

08.07　那覇市内小中学校平和教育担当者研修会。共催：那覇市教育委員会。以後記念館の来館促進と、現役教師の平和教育教材として対馬丸事件の認知度アップを図るため毎年の定例行事となる

08.10　第20回特別展「戦争と動物たち―ぎせいになった動物たちと、生きのびた動物たちの物語―」（～9.10）

08.18　小桜の塔清掃。協力：なは群星の会、那覇市立上山中学校剣道部。以後慰霊祭の定例清掃として定着［写真41］

08.22　平成25年度対馬丸慰霊祭

09.09　高良レコード店、「バスガイドが歌う沖縄の歌」カセットテープと売上金寄付

10.23　平成25年度平和学習推進連携事業第１回委員会

10　語り部の糸数裕子、宮崎県の都城市立高崎中学校へ派遣

11.29　平和学習成果展「私たちの平和学習」第１期展示（～12.20）

12.06　特定秘密保護法が成立

12.25　第21回特別展「第61回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇習作展」

12.27　仲井眞弘多県知事が辺野古埋め立てを承認

12.29　修正遺影の入れ替え（55枚）

［40］

［41］

2014　平成26

01.25　平和学習成果展「私たちの平和学習」第２期展示

03.05　外間邦子、岡山県へ。中学校２校で語り部活動、山田養蜂場表敬訪問（～03.08）

03.05　慶良間諸島が国立公園に指定

03.08　第1回子供平和会議（主催：公益財団法人対馬丸記念会、協力：学校法人尚学学園、後援：沖縄県教育委員会、県内マスコミ各社）［写真42］

04.01　消費税が5％から８％へ

04.19　与那国島で陸上自衛隊配備に向けた施設造成工事の起工式

05.03　つしま丸児童合唱団が小桜の塔へ鯉のぼり掲揚

05.11　対馬丸遭難救助者の杉本寛の遺族、救助時の手記と写真を寄贈［写真43］

06.13　小桜の塔お化粧直し。㈳日本塗装工業会沖縄県支部（稲嶺恒行支部長）、沖縄県左官業組合連合会（道鬼正二会長）によるボランティア作業［写真44］

06.19　那覇市立天妃小学校６年生、小桜の塔清掃

06.23　ピースあいちにて「対馬丸沈没展」

06.23　平和イベント、なは群星の会

06.24　「二つの海～海に消えた二つの航跡～」コンサート

06.27　天皇皇后両陛下行幸啓、対馬丸記念館で遺族・生存者と懇談

07.01　集団的自衛権の行使容認を閣議決定

07.13　上野和子（生存者の娘）、吉田桂子（生存者）、奥田一雄（救助者）、崎濱フミ子（大阪つしま丸をしのぶ会・生存者）の証言聞き取り調査（～07.14）

08.06　ドキュメンタリー「対馬丸へ－今を生きる私たちから－」完成試写会。監督：齋藤勝

08.07　平成26年度平和教育担当教員研修会

08.14　那覇市内小中学校平和教育担当教員研修会

08.17　那覇市立上山中学校剣道部、なは群星の会が小桜の塔清掃

［42］

［43］

［44］

[45] 奉納エイサー

[46]

[47] 七十回忌洋上慰霊祭

[48] 糸数裕子と高崎中学校の生徒たち

[49]

08.17 奉納エイサー及びぶくぶく茶献茶会。平敷屋エイサー保存会、NPO法人「あけしのの会」[写真45]

08.22 平成26年慰霊祭、七十回忌夜間追悼式[写真46]

08.22 那覇青少年舞台プログラムのメンバーが当館前の広場で平和イベントを実施

08.22 悪石島小中学校、島民による慰霊祭、青空活動、洋上慰霊祭[写真47]

08.22 第22回特別展「収集資料が語る『対馬丸』と『小桜の塔』Part 1 ―新聞資料から、事件後70年と慰霊碑建立60年をたどる―」(～09.30)

08.23 創立10周年記念イベント「対馬丸事件から70年、祈念対談　今、伝え継ぐ対馬丸」大城立裕、佐藤優

08.24 合唱構成「二つの海～海に消えた二つの航路～」上演

09.27 長野・岐阜県境の御嶽山が噴火。戦後最悪の被害

10.18 宮崎県都城高崎中学校、えびの市加久藤小学校で語り部活動。語り部：糸数裕子、外間邦子、慶田盛さつき[写真48]

12.01 那覇市議会へ「平和の道しるべ教室」陳情書提出

12.10 翁長雄志、県知事に就任

12.26 平成26年度遺影追加掲示並びに順序変え

12.26 第23回特別展「第62回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」～本（平成26）年度より資料のデジタル化作業スタート

2015　平成27

01.14 「平和の道しるべ教室」陳情に関しての視察とヒアリング(那覇市議会教育福祉常任委員会)

01.31 伊良部大橋開通(全長3,540m)

03.07 第２回子ども平和会議(沖尚、那覇、那覇西、那覇国際、興南、開邦、各高校有志)[写真49]

03.15 大城立裕著『対馬丸』講談社より文庫化

03.15 第２回チョウの食草植栽(首里城下にチョウを翔ばそう会)

03.31 『対馬丸記念館行幸啓記念誌』発刊

05.30 つしま丸児童合唱団、平成27年度団結式

06.17 公職選挙法改正案成立。選挙権年齢を18歳に引き下げ

07.07 平成27年度第３回那覇市立小・中学校校長連絡協議会

07.28 那覇市立松島中学校教員研修会

08.01 第３回平和コンサート。いしがき少年少女合唱団(指揮：砂川富貴子)

08.04 平成27年度那覇市立小・中学校教員研修会

08.04 生存者上原清、奄美大島慰霊の旅へ(～08.07)

08.05 遭難海上で海上慰霊祭。宇検村から元田信有村長、松井富彦副村長、藤貴文総務企画課主幹同行

08.06 平成27年度第３回那覇市立小・中学校平和教育担当教員研修会

08.13 沖縄戦継承の功績たたえ琉球新報特別賞受賞

08.22 第24回特別展「収集資料が語る『対馬丸』と『遺族たち』Part 2 －対馬丸船体発見から、対馬丸記念館開館までを新聞資料からたどる―」(～09.30)

10.19 奄美大島宇検村に慰霊碑建立実行委員会設立される

11.26 奄美大島調査、宇検村対馬丸慰霊碑調査(宇根一麿、平良啓子、平良次子)

12.09　内藤啓子、故大浦みずきオークション売り上げの一部を寄付

12.16　宇検村松井富彦副村長と藤貴文総務企画課主幹が宇検村対馬丸慰霊碑事前調査で来館

12.25　第28回特別展「第63回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」(～16.01.28)

［50］入館20万人達成個人及び団体(新里那々子・宮里未希教諭)と20万人記念証

2016　平成28

01.09　島尻安伊子視察

01.24　沖縄本島で初の雪(みぞれ)を名護市で観測

02.24　「対馬丸平和祈念事業協議会(仮称)」内閣府、沖縄県子ども生活福祉部、対馬丸記念会

03.01　入館20万人達成(開館11年6か月8日目)。20万人めは新里那々子(那覇市立宇栄原小学校)［写真50］

04.14　熊本地震、益城町で震度７を観測

04.23　鯉のぼり掲揚式

05.11　奥田多太行、奥田一雄船員手帳２冊寄贈

05.18　国立研究開発法人海洋研究開発機構よりドルフィン3K(対馬丸発見時の遠隔操作調査船の模型寄託を受け展示［写真51］

05.23　厚労省(オブザーバー)の三者による定例協議、事前打合せ

05.25　平成28年度第１回対馬丸平和祈念事業協議会幹事会

05.28　つしま丸児童合唱団団結式

06.19　米軍属による女性暴行・殺人事件に抗議の県民大会に6万5000人

06.20　安原和巳、生存者・安原秀典の短歌「幼な児の　親にはぐれて　海の底　安らかにあれ　対馬丸と共に」寄贈

06.23　つしま丸児童合唱団、平成28年沖縄全戦没者追悼式、献花式典において合唱

06.23　平和の詩朗読会2016。那覇青少年舞台プログラム

06.23　映像ライブラリ収集映像特別上映会

06.24　英国、国民投票でEU離脱決定

06.29　平成28年度第２回対馬丸平和祈念事業協議会幹事会

07.29　沖縄尚学高校生徒会、「ピース・ミュージック・コンサート」収益金を寄付

08.03　平成28年度第１回対馬丸平和祈念事業協議会

08.04　平成28年度第２回那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会

08.22　第26回特別展「奄美大島と対馬丸－いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる―」(～10.2)

10.19　平成28年度平和学習推進連携委員会。今年度の信任外部委員に那覇市教育委員会池原鉄指導主事と那覇中学校の富山仁志

11.02　平成28年度運営委員会

12.13　米軍普天間飛行場所属のMV-22オスプレイが名護市安部に墜落

［51］調査船の模型

2017　平成29

01.07　第27回特別展「第64回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」(～02.12)

01.18　平成28年度第２回対馬丸平和祈念事業協議会、東京会館にて

対馬丸企画展が開幕
生存、救助の証言や写真
慰霊碑建立を記念
宇検村
［52］南海日日新聞記事

［53］對馬丸慰霊之碑除幕式（碑文を朗読する地元久志小中学校の生徒）

［54］映像ブースリニューアル

［55］那覇市立泊小学校へ贈呈

［56］對馬丸慰霊之碑に献花する翁長知事

02.24　南城市、豊見城市、八重瀬町の教育委員会教育長訪問

03.01　対馬丸慰霊之碑建立記念企画展「奄美大島と対馬丸」。宇検村生涯学習センター「元気の出る館」にて（～03.31）［写真52］

03.01　平成28年度第２回平和学習推進連携委員会

03.03　八重瀬町立小中学校校長連絡会、当館で開催

03.06　南城市立小中学校校長会、当館で開催

03.19　宇検村「對馬丸慰霊之碑」竣工・除幕式［写真53］

03.28　政府、「働き方改革」実行計画を発表

04.15　つしま丸児童合唱団の髙里千穂子と花岡光が、那覇市子ども会育成連絡協議会表彰受賞

04.26　小桜の塔鯉のぼり掲揚式

05.11　平成29年度第１回那覇市内小中学校平和教育担当者研修会

05.27　平成29年度つしま丸児童合唱団団結式

06.21　平成29年度定時評議員会。評議員：上原清、野里洋、津嘉山朝祥、瑞慶山良和、上原廣保、高良桂子。理事：髙良政勝、外間邦子、渡口眞常、比嘉正詔、浦崎唯彦、嶋田玲子、平良次子、監事：渡名喜元嗣、謝花奈津子

06.21　第１回臨時理事会

06.23　平成29年度全沖縄戦没者追悼式

06.23　平和の詩朗読会2017

06　松浦浅吉調査のため、外間邦子と慶田盛さつきが愛知県名古屋市へ

06　映像ブースリニューアル［写真54］

07.02　原爆体験講話会

07.06　額装した「自分の番　命のバトン」を那覇市立泊小学校へ贈呈、他に若狭・天妃・開南・那覇・垣花・城岳の各小学校へ［写真55］

08.02　平成29年度第１回対馬丸平和祈念事業協議会

08.03　平成29年度那覇市及び浦添市小中学校合同平和教育研修会

08.11　第28回特別企画展「ヒロシマ・ナガサキ原爆パネル展―核兵器も戦争もない平和な世界を願って―」（～09.03）

08.19　福島瑞穂・社会党副党首視察

08.27　宇検村對馬丸慰霊之碑にて慰霊祭

09.12　江崎鐵磨・沖縄及び北方対策担当大臣視察

10.15　平成29年度那覇市戦没者追悼式

10.17　平成29年度第１回平和学習推進連携委員会

11.01　平成29年度特別展運営委員会

11.26　翁長雄志沖縄県知事、奄美・沖縄交流拡大事業キックオフイベント参加。奄美宇検村對馬丸慰霊之碑参拝［写真56］

12.07　上原清、援護事業功労厚生労働大臣表彰

12.07　日本平和博物館加盟館、フィールドワークで来館、視察

12.13　宜野湾市の小学校の運動場に普天間基地所属CH53E大型輸送ヘリの窓が落下

12.19　石井浩郎・参議院沖縄及び北方対策委員会委員長視察

12.23　第29回特別企画展「全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」（～01.28）

2018　平成30

02.26　外間邦子と嶋田玲子が奄美５市町村（奄美市、龍郷町、瀬戸内町、宇検村、大和村）訪問［写真57］

03.03　福井照（沖縄及び北方対策担当大臣）来館、視察

03.28　平成29年度第２回対馬丸平和祈念事業協議会

04.14　春山幸子、平良直美（つしま丸児童合唱団英語遊び指導者）、石川悠乃、上原一路、照屋優姫が那覇市子ども会育成連絡協議会表彰

04.28　鯉のぼり掲揚式

05.10　平成30年度第１回那覇市内全小中学校平和教育担当者研修

05.26　平成30年度つしま丸児童合唱団結団式

06.06　平成30年度第１回通常理事会。新館長に髙良政勝、事務局長に鉢嶺清典

06.18　成人年齢を18歳に引き下げる改正民法成立

06.20　平成30年度定時評議員会

06.23　平成30年度沖縄全戦没者追悼式

06.23　平和の詩朗読会2018

07.15　第１回対馬丸平和学習交流事業事前学習

07.28　島袋文雄、久場兼弘、阿嘉宗徹が那覇市旧八校校歌集CD寄贈［写真58］

08.02　平成30年度那覇市及び浦添市小中学校合同平和教育研修会

08.08　翁長雄志知事逝去

08.15　第30回特別展「かくして沖縄は戦場になった」（～09.09）

08.17　沖縄県主催第１回対馬丸平和学習交流事業

08.21　豊平峰雲（書家）、扁額「平和」を寄贈［写真59］

08.22　平成30年度対馬丸慰霊祭

08.22　広島比治山陸軍墓地内「船舶砲兵隊慰霊碑」にて慰霊祭［写真60］

08.25　学芸員の宇根一麿と嘉数聡が奄美大島追加調査（大和村今里、同名音、同戸円）。宇検村表敬訪問（～08.27）［写真61］

08.26　宇検村宇検区對馬丸慰霊祭

08.31　県、辺野古沿岸部の埋め立て承認撤回

09.08　悪石島慰霊祭

10.04　玉城デニー、県知事に就任

10.09　宮腰光寛（内閣府沖縄及び北方対策担当大臣）来館、視察

10.24　平成30年度平和学習推進連携員会

10.28　平成30年那覇市戦没者追悼式

12.07　日本平和博物館会議が沖縄県で開催

12.19　那覇市立上山中学校3年生が説明パネルの英訳文を寄贈

12.21　第31回特別展「第66回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」

12.26　一般財団法人那覇市垣花奉頌会が寄付

12.28　片野田隆紀一家、来館見学

この年、小桜の塔改修工事。手すり、転落防護柵、階段段差境界線設置

この年、小冊子「太平洋戦争時下の下鳥羽の記憶―対馬丸と西沢船長」寄贈［写真62］

［57］

［58］

［59］

［60］慰霊祭開会あいさつに立つ広島経済大学岡本貞雄教授（左）

［61］今里公民館で聴き取りの様子

［62］下鳥羽の記憶　表紙

[63]

[64] 生徒による英訳貼り付け作業

[65] 新作組踊「対馬丸」

[66]

[67] 吉永・坂本を囲んで

2019　平成31／令和元

01.14　記念館入口付近に絵画「対馬丸」(上田毅八郎画)パネル掲示

02.12　読谷村立古堅小学校6年生が、古堅小学校慰霊碑脇に桜を植樹［写真63］

02.20　令和元年度内閣府特別展運営委員会

02.24　県民投票で辺野古埋立て「反対」が７割に

03.01　那覇市立上山中3年生が対馬丸展示英訳に取り組む。英訳パネル展示［写真64］

04.27　鯉のぼり掲揚式

05.01　新元号「令和」施行

05.09　令和元年度第１回那覇市内小中学校平和教育担当者研修会

05.25　令和元年つしま丸児童合唱団結団式

06.23　令和元年度沖縄全戦没者追悼式

06.23　平和の詩朗読会2019

06.28　石坂美砂、チャリティ―公演収益金を寄付

07.21　第２回対馬丸平和学習交流事業事前学習

08.01　令和元年度第２回那覇市内小中学校平和教育担当者研修会

08.03　北谷町平和推進祈念・組踊上演300周年記念企画・対馬丸記念館開館15周年記念組踊「対馬丸」制作発表会

08.21　令和元年度悪石島慰霊祭

08.22　令和元年度対馬丸慰霊祭。新遺影掲示式。開館15周年記念表彰式

08.22　令和元年度船舶砲兵部隊慰霊祭

08.22　第32回特別展「対馬丸75年の想い　対馬丸撃沈～対馬丸記念館開館からそして現在」(～09.29)

08.24　第２回対馬丸平和学習交流事業

08.25　令和元年度宇検村慰霊祭

10.01　消費税が８％から10％へ

10.13　北谷町児童による新作組踊「対馬丸」公演　主催：北谷町自主文化事業実行委員会［写真65］

10.27　令和元年那覇市戦没者追悼式

10.31　首里城火災。正殿などを焼失

11.03　沖縄県功労者表彰式。平和・人権推進部門において、髙良政勝理事長が受賞

12.21　第33回特別展「第67回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」

12.26　つしま丸児童合唱団　沖縄県「ちゅらうちなー草の根平和賞」受賞［写真66］

2020　令和2

01.05　吉永小百合・坂本龍一チャリティーコンサート［写真67］

01.16　国内初の新型コロナウイルス感染者

01.19　北谷町児童による新作組踊「対馬丸」那覇市で再演　主催対馬丸記念館

01.22　令和元年度特別展運営委員会

02.14　県内初の新型コロナウイルス感染者。４月、緊急事態宣言

02.27　山田英生(山田養蜂場社長)より寄付金

02.28　広島経済大学岡本貞雄ゼミナールの調査研究発表会で「広島の対馬丸」を発表

03.11　WHO、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)を宣言

04.10　コロナ禍で開館以来初の長期休館（～05.20）
05.22　常設展示資料入れ替え、英訳文追加・作成
06.03　令和２年度第１回通常理事会
06.06　証言収録／語り部（髙良政勝代表理事）ビデオ撮影。名護市立大北小学校にて
06.30　中国で「国家安全維持法」施行。香港の民主化弾圧
07.30　令和２年度那覇市内小中学校平和教育担当者研修会
08.02　コロナ禍で２度目の長期休館（～09.06）
08.10　安次富長昭逝去
08.12　髙良政勝「未来に伝える沖縄戦」琉球新報紙に掲載
08.17　遺影の並び替え。親子や兄弟の遺影が隣り合うよう再掲示（～08.19）
08.21　新規遺影の掲示
08.22　令和２年度対馬丸慰霊祭
08.22　令和２年度船舶砲兵部隊慰霊祭。ネット中継［写真68］
08.22　令和２年度宇検村對馬丸慰霊之碑慰霊祭
08.22　令和３年度悪石島対馬丸慰霊祭
08.22　第34回特別展「―未来を奪われた子どもたち―石川・宮森小学校米軍ジェット機墜落事件写真展」（～09.22）。コロナ禍で休館中だが、特別展会場のみ開放
08.30　アフガン米軍撤退、タリバン政権に
09.23　令和２年度第１回対馬丸平和祈念事業協議会幹事会
10.17　戦の語り部功労者感謝状贈呈式。平良啓子、上原清、照屋恒、マリア宮城・バートラフ、髙良政勝ら生存者５人が受賞［写真69］
10.21　令和２年度第１回平和教育推進連携委員会
10.27　大城立裕逝去
11.24　上原一路（つしま丸児童合唱団ＯＧ）、第９回石橋湛山平和賞受賞［写真70］
11.25　令和２年度第１回対馬丸平和祈念事業協議会
12.06　那覇市立安謝小学校6年生が学習発表会で「伝えよう沖縄から平和を」を発表
12.16　城間幹子那覇市長表敬訪問
12.19　第35回対馬丸記念館特別展「第68回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」（～01.24）

［68］慰霊祭ネット中継

［69］琉球新報記事

［70］琉球新報記事

2021　令和3

01.29　一般社団法人那覇市垣花奉頌会より寄付金
02.01　ミャンマーで軍事クーデター
02.24　令和２年度第２回平和教育推進連携委員会
05.13　令和３年度那覇市内小中学校平和教育担当者研修会
05.24　コロナ禍で３度目の長期休館（～06.20）
07.26　「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」が世界遺産に
08.18　第36回特別展「沖縄原風景展～疎開前の暮らしと民俗～」（～09.20）
08.18　令和3年度対馬丸慰霊祭。コロナ禍により館の職員のみで実施。22日が旧盆ウークイと重なったため繰り上げて実施
08.18　遺影追加掲示
08.25　令和３年度悪石島慰霊祭

［71］

［72-1］

［72-2］説明パネル

［73］

［74］

［75］

08.26　東京オリンピック空手形男子で喜友名諒、沖縄県出身者として初の金メダル
08.29　令和３年度宇検村對馬丸慰霊之碑慰霊祭
08　公式ツイッター（現X）開設
08　ボーフィン記念館に対馬丸の説明パネル設置
08　紙芝居「２つのランドセル」「対馬丸へのいのり」完成
09.28　鈴木宗男参議院議員と下地幹雄衆議院議員視察
10.14　市制100周年を記念して、愛知県一宮市の葵公園に対馬丸に関する案内板が設置
10.～　小笠原諸島の海底火山の噴火により県内に大量の軽石が漂着
11.12　宇検村へ紙芝居を贈呈［写真71］
11.12　奄美市、龍郷町、大和村教育委員会表敬訪問
12.21　第37回特別展「第69回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」（～01.23）
12　一宮市平和環境学習ツアー、対馬丸記念館見学、小桜の塔参拝［写真72-1］
この年、ハワイのボーフィン記念館に対馬丸に関する説明パネル設置される［写真72-2］

2022　令和4

02.24　ロシアのウクライナ侵攻
04.02　つしま丸児童合唱団創立10周年記念発表会［写真73］
04.23　小桜の塔へ鯉のぼり掲揚
05.12　令和４年度那覇市内小中学校平和学習担当者研修会。共催：那覇市教育委員会
05.15　沖縄復帰50年
05.15　沖縄復帰50周年記念式典で、髙良政勝代表理事が県民代表あいさつ
06.23　那覇市青少年舞台プログラムによる劇やダンスの上演、RBCアナウンサー平和朗読会
06　犠牲者の生誕日掲示。１階常設展示室の平和の広場入口付近にパネル設置
07.13　那覇市立垣花小学校にて「対馬丸平和のモニュメント」除幕式。協力：全国郵便局長会沖縄地方会、那覇市立垣花小学校、那覇市立垣花小学校PTA、那覇市議会／協賛：那覇市垣花奉頌会［写真74］
08.10　デジタルサイネージ設置［写真75］
08.19　令和４年度新規追加掲示。犠牲者４人刻銘、遺影３人、刻銘修正２人、館内刻銘版の刻銘修正８人
08.22　令和４年度対馬丸慰霊祭。コロナ禍により館の職員のみで実施
08.23　悪石島対馬丸慰霊祭。悪石島対馬丸慰霊碑にて。主催：悪石島小中学校・島民の皆様
08.28　奄美大島宇検村の對馬丸慰霊之碑にて慰霊祭
09.08　エリザベス英女王、逝去
09.09　第38回特別展「比べてみよう！沖縄の疎開と本土の疎開」（～10.02）
09.29　生存者、元訓導で 語り部の糸数裕子逝去
10.22　髙良政勝代表理事　天皇皇后両陛下ご来県に伴いご歓談［写真76］
11.22　沖縄平和啓発プロモーション（沖縄県）の一環として生存者平良啓子の講話会が開催。モデレーターとして平良の娘、次子が参加
12.17　玉城デニー知事がプライベートで家族と来館

12.21　第39回特別展「第70回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール　那覇秀作展」(～01.25)

12.26　学童疎開体験事業実施。渡嘉敷村にて(～12.28)［写真77］

［76］

2023　令和5

03.29　那覇市の垣花奉頌会より寄付金

04.17　宮古島沖で陸自ヘリ事故

04.29　小桜の塔へ鯉のぼり掲揚

05.11　令和５年度那覇市内小中学校平和学習担当者研修会。共催：那覇市教育委員会

05.22　本村ツル(元ひめゆり平和祈念資料館館長)の遺言により寄付金

05.27　つしま丸児童合唱団結団式

06.10　令和５年度第１回通常理事会

06.23　令和５年沖縄全戦没者追悼式でつしま丸児童合唱団が３年ぶりに合唱

那覇青少年舞台プログラムによる平和劇の上演

06.24　令和5年度第１回評議員会

06.24　鳩山由紀夫元首相視察

06.29　LGBT法成立

07.27　令和５年度那覇市平和初任者研修会。共催：那覇市教育委員会

07.29　生存者で語り部の平良啓子逝去

08.20　小桜の塔の清掃。上山中学校剣道部がボランティア参加

08.21　悪石島対馬丸慰霊祭。悪石島対馬丸慰霊碑にて。主催：悪石島小中学校・島民の皆様

08.22　令和５年度対馬丸慰霊祭。小桜の塔にて

遺影追加掲示２人、小桜の塔と館内刻銘板の刻銘修正１人

第40回特別展「写真で見る(知る)戦争と子ども達～過去と未来を見つめて～」資料借用：石川文洋、沖縄県、沖縄県公文書館、那覇市歴史博物館、日本赤十字社沖縄県支部、ピース大阪(～09.22)

［77］

08.26　奄美大島宇検村で對馬丸慰霊祭。宇検村船越海岸「對馬丸慰霊之碑」にて。主催：宇検区

09.04　辺野古問題で最高裁判決。沖縄県の敗訴確定

09.20　語り部の認定式。花岡麗華が新語り部に［写真78］

09.22　RBCラジオ制作の「RBCiラジオスペシャル　ものが語る悲劇、対馬丸」が2023年日本民間放送連盟賞のラジオ報道部門で優秀賞を受賞

09.27　自見英子沖縄担当大臣視察

［78］

10.01　消費税のインボイス制度開始

11.11　那覇市戦没者追悼式で、つしま丸合唱団合唱

11.26　画家・黒田征太郎がつしま丸合唱団とワークショップ開催［写真79］

12.03　疎開体験事業事前研修。対馬丸記念館にて３回にわたり実施(09、16にも)

12.19　対馬丸平和祈念事業協議会。厚労省がウェブで参加

12.20　感想文集『対馬丸の記憶　第六集』発行

12.22　第41回特別展「第72回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール那覇秀作展」(～01.21)

［79］

[80]

[81]

[82]

[83]

[84]

[85] 平和継承プログラム参加者

12.23　ちゅらうちなー草の根平和貢献賞表彰式オープニングで、つしま丸合唱団と那覇少年少女合唱団が合唱［写真80］

12.27　疎開体験事業。本島内の小学校５、６年生、10人が参加。宮崎にて（～12.29）

12.30　小桜の塔すす払い

2024　令和6

01.01　能登半島地震

01.07　疎開体験事業事後研修。対馬丸記念館にて（21、28にも）

02.10　鯉のぼりセット２点の目録授与式。沖縄本島南地区郵便局長夫人会（伊志嶺悦子会長）より。ホテルコレクティブにて［写真81］

02.14　沖縄国際大学名誉教授石原昌家が家族とともに来館

02.14　館長に平良次子が就任

03.13　那覇市垣花奉頌会より寄付

03.23　第6回通常理事会

04.03　泊先覚顕彰会より寄付金

04.27　小桜の塔へ鯉のぼり掲揚

05.05　小桜の塔建立70年

05.23　令和６年度那覇市立小中学校平和教育担当者研修会

05.27　入館35万人記念セレモニー、35万人目の団体は那覇市のあじゃ保育園の園児たち［写真82］

05.27　泊こがね会（山田義浩会長）より寄付金。泊小学校モニュメント建立に活用

05.29　令和６年度第１回定例決算理事会

06.01　祈念シンポジウム「対馬丸から学ぶ子どもと平和～平和な未来をともに創るために～」県立博物館・美術館にて［写真83］

06.19　令和６年度定時評議員会

06.23　沖縄戦全戦没者追悼式。つしま丸児童合唱団が那覇少年少女合唱団、南風原町の合唱団とともに合唱

07.01　対馬丸記念会が「対馬丸事件の記憶を継承し平和教育に貢献」したとして沖縄タイムス賞社会活動部門を受賞［写真84］

07.03　日本銀行、20年ぶりに新紙幣発行

07.06　疎開体験事業を「対馬丸平和継承プログラム」に改称し、新規スタート。４回にわたり事前学習実施（21、08.04、10）［写真85］

07　那覇市立泊小学校に「平和のモニュメント」建立。除幕式。8.26［写真86］

07.26　パリオリンピック開幕

07.29　政府が「25年度に船体の水中検査を検討」との報道あり

08.13　対馬丸平和継承プログラム、奄美大島にて本研修（～08.15）

08.21　悪石島対馬丸慰霊祭

08.22　対馬丸記念館開館20周年

令和６年度対馬丸慰霊祭・記念式典・謝恩会開催。小桜の塔および企画展示室にて［写真87］

08.22　夜の慰霊祭。記念館屋上にて

08.22　第42回特別企画展「おかえりなさい！対馬丸の子どもたち～対馬丸記念館20年の歩み」開催。

08.24　奄美大島宇検村の對馬丸慰霊之碑にて慰霊祭

[86]

[87] 80年慰霊祭
①慰霊祭サテライト会場
②弔辞を述べる玉城知事
③対馬丸クインテット演奏
④感謝状授与(吉川由紀)
⑤夜の慰霊祭

対馬丸事件の伝承に携わった物故者のみなさま

安次富　長　昭	岡　本　貞　雄	小　堀　啓　介	當　眞　秀　夫	普久原　恒　勇
新　垣　ツ　ル	奥　田　一　雄	佐　藤　日　建	渡嘉敷　眞　睦	船　越　義　彰
新　崎　美津子	翁　長　雄　志	鮫　島　国　光	渡　口　眞　明	外　間　宏　榮
糸　数　昌　和	翁　長　　実	信ヶ原　千恵子	渡名喜　元　次	又　吉　治　子
糸　数　　武	親　泊　康　晴	島　　静　雄	中　島　高　男	松　浦　浅　吉
糸　数　裕　子	親　泊　良　子	島　袋　文　雄	仲宗根　善　尚	嶺　井　政　治
上　原　ハツ子	嘉　陽　安　男	謝　花　澄　子	仲　田　清一郎	宮　里　　繁
内　原　貞　子	河　合　　桂	新　里　清　篤	名　幸　芳　章	村　吉　政　行
浦　崎　康　華	儀　間　真　勝	杉　本　　寛	名　城　悦　子	山　崎　敏　夫
浦　崎　直　彦	喜屋武　盛　栄	平　良　啓　子	西　岡　利　美	山　田　　実
大　浦　みずき	喜屋武　盛　守	髙　良　千　代	橋　本　龍太郎	ゆたか　はじめ
大　島　　渚	草　葉　隆　円	髙　良　政　弘	長谷川　春　一	吉　田　董　男
大　城　立　裕	桑　原　幹　根	玉那覇　正　吉	浜　崎　盛　秀	琉　　智
岡　元　喜三郎	古　筆　愛　子	津波古　ヒ　サ	肥　後　政次郎	湧　川　祐　育

氏名漏れの故人、関係者には謹んでお詫び申し上げます

〈五十音順〉

『琉球新報』

対馬丸記念館関連掲載記事一覧（2004年～2024年）

〈沖縄戦60年〉対馬丸記念館きょう開館	2004年08月22日(日)
〈声〉敵潜水艦の経験/那覇市　幸地　努(73歳)	2004年08月22日(日)
〈沖縄戦60年〉「生き地獄」「皮剥げ恐ろしい」/対馬丸/当時の手紙、撃沈克明に/高良さん所持/記念館に展示へ	2004年08月22日(日)
疎開の惨劇　遺影訴え/対馬丸記念館撃沈の日開館/那覇市若狭	2004年08月23日(月)
〈沖縄戦60年〉記念館開館/「対馬丸の悲惨さ感じた」/展示見ながら涙をぬぐう姿	2004年08月23日(月)
2度と戦争起こさないで/悪石島小中学校の子どもたち/折り鶴2000羽奉納	2004年08月23日(月)
〈人工衛星〉	2004年08月23日(月)
〈沖縄戦60年〉沈む対馬丸　「助けて」の声今も/鮮明な記憶次代に/記念館開館に助言/元甲板員・中島高男さん	2004年08月23日(月)
〈社説〉対馬丸記念館/戦争継承の新たな起点に	2004年08月24日(火)
〈2005年度予算概算要求〉沖縄振興重点施策/戦後処理/語り部らに支援600万円/対馬丸平和祈念事業	2004年08月27日(金)
長田さんが100万円寄付/対馬丸記念館に	2004年08月28日(土)
残るは宿題　夏休み総仕上げ/あすから新学期/ノート手に図書館へ/対馬丸記念館゛取材゛も	2004年08月31日(火)
〈ひと〉同じような状態今も起きる/対馬丸記念館展示の準備に奔走した専門員　吉川　由紀(よしかわ　ゆき)さん	2004年09月03日(金)
〈声〉人類の幸せ切望/与那原町　瑞慶村智篤(80歳)	2004年09月06日(月)
基地は県外移設を/第61期新報女性サロン/小林照幸さん「沖縄」語る	2004年09月08日(水)
〈識者の見方・米軍ヘリ沖国大墜落事故〉亀井　淳・JCJ運営委員/ジャーナリズムの在り方/゛距離゛縮める努力を/座り込み触れない中央	2004年09月09日(木)
〈沖縄戦60年〉対馬丸記念館　開館から1ヵ月/犠牲者の遺影提供相次ぐ/継承の歩み　さらに/修学旅行の誘致も検討	2004年09月24日(金)
〈社説〉開館から1カ月/対馬丸学童の声に耳を	2004年09月26日(日)
〈声〉思いは熱く/浦添市　伊佐　幸子(地方公務員、55歳)	2004年09月30日(木)
〈黄金花表現の会〉10月作品	2004年10月06日(水)
平和を書に込め/対馬丸記念館で看板除幕	2004年10月14日(木)
平和への希望込め/コールマンさん英国から参加/対馬丸記念館で植樹	2004年10月17日(日)
〈声〉思い出される幼顔/那覇市　仲座　トシ(73歳)	2004年11月07日(日)
対馬丸資料収集へ/琉米歴史研/乗組員と接触も	2004年11月07日(日)
〈本BOOK〉対馬丸遭難の真相/當間　栄安著(琉球新報社・2400円)/戦争記録と鎮魂の書	2004年11月14日(日)
中南部視察し県内観光学ぶ/本部町飲食業組合	2004年11月16日(火)
〈声〉悲劇伝える貴重な施設/那覇市　宮城　朝教(67歳)	2004年11月18日(木)
公民館大会/「死んだ子の分まで」/高良氏、対馬丸で記念講演	2004年11月23日(火)
悲劇語る遺影　61枚追加/対馬丸記念館に遺族提供/「友達と一緒に掲げて」	2004年12月10日(金)
〈沖縄関係予算案〉戦後処理/不発弾対策に4億5千万円/本年度比5・8%減	2004年12月20日(月)
〈県内・ニュース回顧04〉5/対馬丸記念館/悲劇忘れず、と開館/平和学習の場として期待	2004年12月25日(土)
対馬丸記念会　訪米調査報告/「心の交流できたらいい」/生存者の上原清さん/元米潜水艦乗員と対面	2004年12月26日(日)
県福祉保健部　重大ニュース	2004年12月29日(水)
CD「御霊の叫び」贈呈/対馬丸記念館に名護市の安田さん/生存者の平良さんも感動	2005年02月08日(火)
原爆の恐ろしさ　知って/長崎の惨状撮影/那覇市、対馬丸記念館/石田壽写真展開幕	2005年03月01日(火)
〈論壇〉ゆたかはじめ/平和への祈り深めて/長崎原爆写真展に込めた思い	2005年03月07日(月)
〈特集・ぼくの意見わたしの主張〉戦争はぜったいしない/小6　中園　達之介(那覇市)	2005年03月24日(木)
対馬丸記念館の原爆展を紹介/沖縄大好き(OCN=後7・00)	2005年03月24日(木)
新たに遺影追加/23人分22枚/涙ぬぐう遺族ら/対馬丸記念館	2005年03月31日(木)
〈紙面批評・新報を読んで〉北原　秋一/継続したい「平和」取材/本源的な意味伝える報道を	2005年04月10日(日)
平和訴え23万本植樹へ/英国のコールマンさん/本島一周目指し6月来沖/実行委来月発足/県民に協力呼び掛け	2005年04月24日(日)
〈集音板〉	2005年05月08日(日)
稲嶺知事/平和の尊さ再認識/対馬丸記念館を初訪問	2005年05月08日(日)
小池百合子沖縄担当相/「海でも多くの犠牲が…」/対馬丸記念館を初訪問	2005年05月22日(日)
「沖縄の通貨」テーマに講演も/東京那覇会	2005年05月25日(水)
〈声〉対馬丸記念館を訪れて/那覇市　宮城　盛昌(74歳)	2005年06月07日(火)
〈声〉対馬丸記念館の異様な人/那覇市　与儀喜一郎(60歳)	2005年06月09日(木)
沖縄戦の新聞やパネル写真展示/慰霊の日前に北谷高	2005年06月22日(水)
戦後処理終わらず/基地解決が最大の課題	2005年06月23日(木)
〈戦後60年・伊波正夫君からの手紙〉安次富長昭/対馬丸の弟を気遣う/本人も沖縄戦で戦死	2005年06月23日(木)
戦後60年「慰霊の日」/全国の中高校に贈呈へ/「清ら島　沖縄」改訂版	2005年06月23日(木)
沖縄の負担軽減を強調/追悼式参列の小泉首相	2005年06月23日(木)
在沖基地/本土移転の困難さ強調/小泉首相　「移設先強く反対」	2005年06月24日(金)
小泉首相　一問一答	2005年06月24日(金)
〈社説〉戦没者追悼式/負担軽減こそが追悼だ	2005年06月24日(金)
〈沖縄戦60年〉慰霊の日/海に消えた"夢"託す/「対馬丸」犠牲者悼み特別展	2005年06月24日(金)
〈沖縄戦60年〉慰霊の日/予定より長く記念館を視察/小泉首相	2005年06月24日(金)
〈集音板〉	2005年06月26日(日)
各地で「慰霊の日」関連催し/小桜の塔で首相と交流/天妃小の児童ら/「平和の尊さ実感」と感激	2005年06月28日(火)
〈論壇〉平良　啓子/海鳴りは死者の戦争告発/対馬丸遭難生存者は訴える	2005年08月17日(水)
麦わら帽の少年　晴れ着姿の少女/対馬丸記念館/36人の遺影追加展示	2005年08月18日(木)
〈僕の主張・私の意見〉対馬丸記念館を訪ねて/小4　嘉陽 宗平(うるま市)	2005年08月21日(日)
〈あすの歴史〉8月22日(月)/沖縄	2005年08月21日(日)
「教育現場で活用してほしい」/対馬丸記念館1周年公式ガイドブック完成	2005年08月21日(日)
〈沖縄戦60年〉対馬丸記念館　開館1周年式典/慰霊祭　300人悲劇悼む	2005年08月23日(火)
〈声〉学童たちの遺品が語る/那覇市　勝連　朝昭(60歳)	2005年08月24日(水)
悲劇継承へ心砕く遺族/1周年迎えた対馬丸記念館/展示品充実など課題に	2005年08月24日(水)
〈06年度内閣府沖縄概算要求〉沖縄振興重点施策/戦後処理/不発弾対策　4億5500万円/対馬丸記念館/資料展示など支援	2005年08月29日(月)
戦争の恐怖　実体験/垣花小6年生/ことぶき山壕を見学	2005年09月20日(火)
ボーフィン号/浮上して対馬丸撃沈/琉米歴史研究会/米調査で判明と発表	2005年09月29日(木)
「対馬丸」題材　作曲CD贈る/記念館に歌手琉さん	2005年09月30日(金)
メンバー20人　研修で来県/東京那覇会	2005年10月02日(日)
〈インターンシップ・リポート〉1	2005年10月22日(土)
〈インターンシップ・リポート〉4	2005年10月27日(木)
平和学習の成果も披露/来間小中で学習発表会	2005年11月26日(土)
〈沖縄関係予算〉戦後処理/対馬丸平和事業も継続	2005年12月20日(火)
対馬丸記念館3万人目/修学旅行の内田優花さん	2006年01月13日(金)
石嶺小学校/平和の尊さ実感/学芸会で演劇「対馬丸」	2006年02月04日(土)
対馬丸記念館/「沖縄戦後の復興展」開幕/たくましさ伝える	2006年03月01日(水)
歴史　平和　足元から/高教組/モノレールで戦跡巡り	2006年05月05日(金)
市歴史博物館　7月8日開館/尚家遺産など一堂に/準備着々と	2006年05月06日(土)
〈声〉対馬丸も忘れないで/うるま市　上原　清(対馬丸記念会評議員、72歳)	2006年05月27日(土)
平和教育実践交流集会/身近な戦跡を教材に/「見慣れた場所から学べる」	2006年05月30日(火)
〈6月のこよみ〉	2006年06月01日(木)
〈社告〉対馬丸記念館　第5回企画展/沖縄戦後の復興Part2/～私たちはこのようにして立ち上がった～/21日(水)―8月30日(水)対馬丸記念館	2006年06月16日(金)
米軍パラシュートでドレス/戦後の歩み暮らしの目線で/対馬丸記念館で21日から企画展	2006年06月17日(土)
復興の足跡たどる/戦後資料200点を展示/企画展開幕/対馬丸記念館	2006年06月21日(水)
〈論壇〉島袋　常宏/「石垣島事件」/県出身戦犯の名誉回復を	2006年06月30日(金)
〈戦後61年の平和教育〉6/資料館では/事前学習で意識の差/体験語り継ぐ仕組み課題	2006年08月01日(火)
〈「対馬丸」の学童たちに捧げる企画展に寄せて〉安次富長昭/今年も巡り来た慰霊の夏/撃沈され同期生らが犠牲に	2006年08月07日(月)
対馬丸記念館で琉球舞踊を奉納/奄美からの豆記者	2006年08月08日(火)
〈論壇〉源河　圭一郎/学童疎開船「対馬丸」の悲劇/戦争に巻き込まれる不条理	2006年08月13日(日)
〈声〉深くとらえたい「戦争」/那覇市　宜野座智賀子(事務、30歳)	2006年08月20日(日)
対馬丸撃沈62年/友の魂背負い　悲劇語り継ぐ/生存者の上原清さん/10年かけ手記を出版/新たに遺影20人展示　記念館	2006年08月20日(日)
〈きょうの歴史〉8月22日(火)/沖縄	2006年08月22日(火)
62年、悲しみ癒えず/「対馬丸」悲劇の日に慰霊祭	2006年08月23日(水)
〈第42回琉球新報賞〉「沖縄」を心の支えに/独自の作風見いだす/文化・芸術功労/安次富　長昭氏(琉球大学名誉教授)	2006年09月23日(土)
〈本BOOK〉重みと説得力もつ挿絵/対馬丸　沈む/上原　清著(対馬丸記念会・1575円)	2006年10月22日(日)
〈インターンシップリポート〉1	2006年11月15日(水)
歌手の琉智さん30日コンサート/沖縄市・あしびなー	2007年03月14日(水)
〈人ピープル〉オオゴマダラの食草を植栽/27日に那覇市の旭が丘	2007年05月18日(金)
チョウの舞う街を/翔ばそう会/食草600本を植栽	2007年05月29日(火)
琉智さん/男と女テーマに新譜/きょう、うるま市で発表会	2007年07月29日(日)

平和祈る　歌声響く/対馬丸記念館で公演/いしがき児童合唱団　モデルの前で組曲披露	2007年08月12日(日)
〈論壇〉ゆたかはじめ/「対馬丸」小桜の学童たち/平和を願う慰霊の場所に	2007年08月16日(木)
平和の誓いチョウに乗せ/対馬丸慰霊祭　遺族ら鎮魂の祈り	2007年08月23日(木)
〈記者の余録〉63年分の涙/大田紗弓(社会部)	2007年09月02日(日)
〈視聴席〉盛会だった歌謡発表会/うるま市　長濱清信(69歳)	2007年10月11日(木)
「対馬丸」風化させず/監督や出演者　映画製作発表/疎開の子どもら描く	2007年11月08日(木)
「命の大切さ伝えたい」/12月8、9日　対馬丸の悲劇上映	2007年11月30日(金)
「知の拠点施設だ」/岸田沖縄相　県立博物館・美術館を視察	2007年12月16日(日)
対馬丸模型　記念館に/ザ・テラスホテルズが寄贈	2007年12月17日(月)
山田さん(岡山)/戦争の悲惨さ伝えてほしい/対馬丸記念館に100万寄付	2008年01月01日(火)
〈3月のこよみ〉	2008年03月01日(土)
コンサート来場呼び掛ける/対馬丸記念会会長	2008年03月01日(土)
対馬丸記念館に寄付/浦添市でチャリティーコンサート	2008年03月06日(木)
悲劇の史実　継ぐ若者/ピースメッセンジャー肝高/対馬丸題材に踊り、群読…　「命と平和」を発信/那覇市	2008年03月10日(月)
泊先覚顕彰会が那覇社協に20万/「社会福祉に役立てて」	2008年03月30日(日)
自作の仏画寄贈/対馬丸記念館に　神奈川の小林さん	2008年04月07日(月)
地域の路地を命名/若狭小　12ヵ所に看板設置	2008年04月22日(火)
対馬丸記念館へ　慈善収益金贈る/歌手の三枝万祐さん	2008年04月29日(火)
〈えんぴつ横丁〉	2008年06月02日(月)
対馬丸犠牲　33人の情報を/記念館　22日に卒業証書授与/当時・甲辰国民学校6年生	2008年08月14日(木)
〈論壇〉藏當慎也/舞台で伝える「対馬丸」の悲劇/記念館訪ね記憶の継承を	2008年08月16日(土)
対馬丸慰霊祭/児童遺族に卒業証書/甲辰国民学校　犠牲の6年生/20人が所在判明	2008年08月23日(土)
対馬丸記念館に民話集20冊寄贈/宮沢貞子さん	2008年09月16日(火)
対馬丸記念館に1000万寄付/山田養蜂場　「命の大切さ知る場」	2008年10月12日(日)
〈ティータイム〉新聞週間特集/新聞投稿に魅せられて/勝連朝昭	2008年10月15日(水)
国境越え　平和発信/PMKと元海兵隊員ネルソン氏/きょう舞台公演/東村	2008年10月26日(日)
〈声〉沖縄戦追体験し涙/川上喜智　41歳	2008年12月02日(火)
不発弾処理の利益、浄財に/ガマフヤー具志堅さん　対馬丸記念講座で強調	2008年12月08日(月)
「若い人に歴史伝えたい」/シュガーローフの会・具志堅代表/対馬丸記念館を訪問	2008年12月13日(土)
対馬丸描く映画「銀の鈴」/出演児童ら来県/記念館訪ね歴史追体験	2008年12月28日(日)
折りバラに平和託す/岡山・山陽中/対馬丸記念館に寄贈	2009年05月11日(月)
対馬丸の悲劇　映画に/「銀の鈴」　記念館で初公開	2009年05月24日(日)
対馬丸記念館改装へ/開館5年記念/学童疎開遺品「提供を」	2009年05月30日(土)
平和教育の今/劇通し人権学ぶ寄宮中	2009年06月21日(日)
平和教育の今/現在につなげたい　右傾化で難しい/教師に意欲と戸惑い	2009年06月21日(日)
「対馬丸」悲劇切々と/泊小で記念館・友寄さん講演	2009年06月22日(月)
大学生アンケート/識者分析・新城俊昭氏/意識高いが知識伴わず	2009年06月22日(月)
きょう皆既日食/県内各地で観測会	2009年07月22日(水)
犠牲者の魂　慰める歌声/いしがき児童合唱団/対馬丸記念館で平和コンサート	2009年08月02日(日)
〈論壇〉上原清/対馬丸沈没65年の祈り/シーサーを海に沈め鎮魂	2009年08月21日(金)
〈教えてニュース塾〉25/対馬丸沈没から65年/なぜ子どもが大勢犠牲になったの?/国策の学童疎開で乗船していた	2009年08月21日(金)
あす11年ぶり海上慰霊祭/対馬丸生存者	2009年08月21日(金)
〈きょうの歴史〉8月22日(土)/沖縄	2009年08月22日(土)
〈論壇〉金城泰子/あす「海のトランペット」演奏会/対馬丸の悲劇を歌う	2009年08月22日(土)
対馬丸撃沈　きょう65年	2009年08月22日(土)
対馬丸慰霊祭/語り継ぐ決意　新た/無念さ消えず/小桜の塔遺族ら400人参列	2009年08月23日(日)
対馬丸慰霊祭/進む高齢化、減る遺族/県民による“継承”必要	2009年08月26日(水)
〈論壇〉ゆたかはじめ/小桜学童の声が聞こえますか/神戸のメッセージ感じて	2009年08月28日(金)
〈僕の主張・私の意見〉いれいの日/浦添市立牧港小4年　仲里沙紀	2009年09月07日(月)
〈声〉「対馬丸」歌い継ごう/垣花譲二　60歳	2009年09月10日(木)
50周年で感謝状/若狭1丁目自治会が式典	2009年09月26日(土)
対馬丸記念館に収益10万円寄付/「海のトランペット」実委	2009年10月16日(金)
平和劇で命の重さ知る/自立支援施設・若夏学院の33人/地元の戦争を事前学習/来月発表会向け練習	2009年11月15日(日)
来月の平和劇に意欲/若夏学院　遺骨収集を見学	2009年11月21日(土)
故大浦さん思い届く/元宝塚　対馬丸記念会へ寄付	2010年02月21日(日)
「集団自決」記述3社に増/小学校教科書検定/軍関与には触れず/編集者　発達段階など挙げ	2010年03月31日(水)
県と協議会設置も　平野氏が検討意向/鳩山首相あす再来県	2010年05月22日(土)
首相、辺野古を提示/「普天間」で再来県/知事「極めて厳しい」/日米合意概要　県に説明/「断腸の思い」と謝罪	2010年05月24日(月)
鳩山首相、辺野古提示/首相と記者団　やりとり要旨/理解得るよう真摯に努力	2010年05月24日(月)
鳩山首相、辺野古提示/県選出・出身国会議員コメント	2010年05月24日(月)
首相　辺野古提示/ドキュメント	2010年05月24日(月)
首相、遭難船補償に言及	2010年05月24日(月)
首相　辺野古提示/完全な裏切り/「住民を振り回した揚げ句に」/「頭越し」に怒号	2010年05月24日(月)
戦争繰り返さないために/65年前の記憶継承へ追体験/美里高で学習発表	2010年06月27日(日)
「絶対戦争しないよ　約束するね」/対馬丸記念館で特別展/来館者の声3000点	2010年07月24日(土)
那覇市社協に招待券/玉城流翔節会が300枚	2010年07月25日(日)
「海のトランペット」コンサート15日開催/対馬丸記念館	2010年08月13日(金)
〈論壇〉照屋清美/対馬丸記念館の語ること/悲しみを知り、学ぶ平和	2010年08月17日(火)
対馬丸記念館/54人を追加刻銘	2010年08月19日(木)
対馬丸記念館　54人の名前刻む/13人の遺影も掲示	2010年08月20日(金)
重田氏が印税150万円寄付/県内外5機関・団体に	2010年08月21日(土)
犠牲者の追加刻銘終了/対馬丸記念会が発表	2010年08月21日(土)
〈週間ニュース〉8月14日―20日/県内	2010年08月22日(日)
〈きょうの歴史〉8月22日(日)/沖縄	2010年08月22日(日)
〈金口木舌〉	2010年08月23日(月)
鎮魂/66年　悲しみ今も/対馬丸慰霊祭	2010年08月23日(月)
鈴木氏実刑確定/沖縄問題に尽力/評価と冷静な反応交錯	2010年09月09日(木)
伊是名夏子さん3日に講座開催/対馬丸記念館で	2010年10月01日(金)
〈金口木舌〉	2010年10月07日(木)
鹿児島→対馬丸記念館/平和の結晶海越え/板金組合　銅製千羽鶴贈る	2010年11月16日(火)
「平和」の児童画展示/対馬丸記念館　世界18カ国から163点	2011年01月04日(火)
全国学生俳句大会　県勢2人特選/大見菜々美さん(真和志高)名嘉司央里さん(普天間高)/百合群舞　兵士撃ち合う　音止まず/立ち漕ぎで　夕立雲を　背負う坂	2011年02月04日(金)
子どもたちが描く「希望の絵」を展示/対馬丸記念館で特別展	2011年06月16日(木)
〈つなぐ記憶・沖縄戦66年〉対馬丸生存者　上原さん講話/金武中で平和学習	2011年06月30日(木)
対馬丸記念館支援「相談あれば聞く」/厚労相	2011年08月08日(月)
「対馬丸館」語り部養成講座/記憶継承へ30人認定	2011年08月09日(火)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2011年08月22日(月)
平和の尊さ　児童熱演/「命どぅ宝―対馬丸の悲劇」パレット市民劇場	2011年09月18日(日)
〈「対馬丸の悲劇」出演でハイタイ〉平和の尊さを実感/浦崎琉凜さん(9)	2011年09月20日(火)
「全員協議有効」報告へ/八重山教科書　県教委、文科相に/県議会	2011年10月07日(金)
母子支援の執行低迷/55%、県「需要増見込んだ」/県議会決算委	2011年10月23日(日)
「対馬丸記念館支援を」/与党県議団、知事に要請	2011年10月23日(日)
〈金口木舌〉	2011年11月08日(火)
沖縄戦認識など討議/日本平和博物館会議/9館、糸満で定例会	2011年11月18日(金)
対馬丸記念館/知事、補助に前向き/「県も応援したい」	2011年11月19日(土)
〈1月のこよみ〉	2012年01月01日(日)
〈論壇〉篠原武夫/八重山平和祈念館/管理運営に国の補助を	2012年06月02日(土)
平和願う歌声発信/対馬丸記念館　児童合唱団を結成	2012年06月12日(火)
台湾天国楽団　県内で演奏会/慰霊の日にメッセージ	2012年06月22日(金)
〈継承　次世代へ・戦後67年〉祈りの一日　各地で慰霊祭	2012年06月24日(日)
石坂美砂さん命の尊さ歌う/本部、母の思い継ぎ	2012年06月27日(水)
「国が祈念館運営を」/八重山戦争マラリア遺族会　石垣市に協力要請	2012年06月30日(土)
迫力の演奏に観客ら喝采/台湾天国楽団	2012年07月10日(火)
〈8月22日の対馬丸慰霊祭〉春山幸子/響け平和の歌声	2012年08月19日(日)
〈読んで学べるNIE〉疎開生活知って/那覇市で絵日記展	2012年08月19日(日)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2012年08月22日(水)
対馬丸沈没　きょう68年/生きた証しを/同級生証言で刻銘「友達と一緒に」	2012年08月22日(水)
対馬丸　悲劇忘れない/児童合唱団　鎮魂の歌声/慰霊祭　冥福祈る	2012年08月23日(木)
〈歴史さんぽ　歩く見る　琉球・沖縄〉24/高良由加利(沖縄歴史教育研究会)/鄭迥謝名親方利山顕彰碑(那覇市)/琉球に命ささげた政治家	2012年09月09日(日)
1000万円を寄付/山田養蜂社長　対馬丸記念会へ	2012年09月14日(金)
「対馬丸」組踊で描く/大城立裕さん作、11月上演/子どもの目で平和訴える	2012年09月23日(日)
〈社告〉新作組踊　海鳴りの彼方　対馬丸の子ら/11月11日琉球新報ホール	2012年10月02日(火)
〈新聞週間・私の一言〉高良政勝さん	2012年10月16日(火)
対馬丸　悲劇伝える/「海鳴りの彼方」来月11日上演　遺族ら稽古見学	2012年10月28日(日)

〈新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら」〉11日、那覇市泉崎琉球新報ホール	2012年11月08日(木)
〈新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら」〉座談会/児童の目で戦争描く/11日、那覇市泉崎　琉球新報ホール	2012年11月08日(木)
平和の尊さ　組踊で表現/海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～/子どもたち　主役熱演/残された者の心情描く	2012年11月11日(日)
ナントゥンス作り交流/長寿と健康祈願/若狭一丁目自治会	2013年01月15日(火)
〈歴史さんぽ　歩く見る　琉球・沖縄〉44/西銘章(沖縄歴史教育研究会)/小桜の塔(那覇市)/対馬丸の犠牲者祭る	2013年01月27日(日)
〈読んで広がるNIE〉「ふんばるガジュマル」命名/対馬丸「小桜の塔」　生存者に思い重ね	2013年04月07日(日)
〈りゅうPON!掲示板〉	2013年04月28日(日)
〈ジュニア通信員〉vol.147/つしま丸児童合唱団新聞/みんな仲良しが自慢	2013年05月05日(日)
〈読んで広がるNIE〉響け　慰霊の歌声/つしま丸合唱団　2年目の結団式	2013年06月02日(日)
〈戦後68年　次代へつなぐ〉継承、自分の方法で/沖縄戦・中高生座談会/参加者から提案続々	2013年06月17日(月)
〈戦後68年特別号〉考える、語り継ぐ/中高生座談会「語る・のこす・つなぐ平和」/継承へ決意新た	2013年06月19日(水)
〈戦後68年特別号〉今を見つめる/沖縄戦伝える資料館、戦跡/行って、学ぼう	2013年06月19日(水)
〈戦後68年　次代へつなぐ〉「対馬丸」6年生熱演/浦添小で平和集会	2013年06月23日(日)
戦中・戦後の沖縄知ろう/歴史から未来を考える	2013年06月23日(日)
〈戦後68年　次代へつなぐ〉慰霊の日/犠牲者への思い　詩や踊りで表現/「なは群星の会」	2013年06月24日(月)
残余財産45万円　対馬丸記念館へ/1フィート運動の会	2013年07月26日(金)
市教委と対馬丸記念会/平和学習どう進める/教員対象に初の研修会/市内全小中参加　課題も浮き彫り	2013年08月13日(火)
演劇通し、沖縄戦学ぶ/大阪府狭山とうるまの児童/17、18日勝連で公演	2013年08月17日(土)
〈論壇〉渡口眞常/対馬丸撃沈から69年/平和の大切さ、後世へ	2013年08月20日(火)
〈はと笛〉	2013年08月20日(火)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2013年08月22日(木)
きょう対馬丸慰霊祭/記念館で平和劇も	2013年08月22日(木)
〈社告〉りゅうちゃんからみんなへ/来月10日まで特別展「戦争と動物たち」	2013年08月25日(日)
「艦砲」歌碑で平和願う/北谷・栄口区が学習ツアー	2013年09月15日(日)
歌に託す平和　3合唱団交流/対馬丸コンサート	2013年09月15日(日)
新県立図書館の基本構想を確認/あり方検討委初会合	2013年09月21日(土)
〈新聞週間・私の一言〉宇根一磨さん	2013年10月18日(金)
ナントゥンスで交流/若狭一丁目が体験会	2014年01月20日(月)
支援会員を募集/対馬丸記念館	2014年03月04日(火)
天皇皇后、来県を検討/対馬丸慰霊記念館視察	2014年03月19日(水)
宮園ゆう子が対馬丸チャリティー公演	2014年04月01日(火)
コンサート売り上げ　対馬丸記念館へ寄付/歌手・宮園ゆう子さん	2014年05月04日(日)
平和願う思いこいのぼりに/きょう対馬丸「小桜の塔」建立60年/除幕式での掲揚再現	2014年05月05日(月)
小桜の塔/こいのぼり掲げ　祈り/対馬丸記念館　建立60年、当時を再現	2014年05月06日(火)
「必死に助け求めていた」/対馬丸遭難者　救援の杉本さん手記/11日記念館寄贈へ	2014年05月09日(金)
天皇ご夫妻の沖縄訪問/来月26、27日で調整	2014年05月10日(土)
対馬丸救助の手記、記念館に寄贈/戦争ない国　願い/高知の漁師　故杉本さん　妻、生存者と面談/「若い人に伝えて」	2014年05月12日(月)
〈ニュースあれこれ〉社会/救助(きゅうじょ)の手記(しゅき)、対馬丸記念館(つしままるきねんかん)へ	2014年05月18日(日)
〈声〉障がい負けず子育て/藤林清子　60歳	2014年05月29日(木)
新たな6人も平和願い歌う/「つしま丸合唱団」結団式	2014年06月01日(日)
元漁師の手記公開/対馬丸記念館　遭難者救出を記録	2014年06月02日(月)
両陛下　26日に来県	2014年06月06日(金)
〈高校生に伝える沖縄戦〉行ってみよう県内の資料館、戦跡/戦の実態深く知る	2014年06月09日(月)
対馬丸記念館訪問へ/ケネディ氏、米大使で初	2014年06月13日(金)
〈僕の主張・私の意見〉受け継がれる未来/那覇市立開南小6年渡辺進太郎	2014年06月14日(土)
両陛下来県で奉迎呼び掛け/実行委　26、27日	2014年06月19日(木)
〈語り継ぐ　戦後69年〉対馬丸の悲劇　再現/与勝高校表現同好会/体験や展示基に創作	2014年06月20日(金)
対馬丸館の訪問中止/慰霊の日、ケネディ大使	2014年06月22日(日)
「犠牲者を思うと天皇に会えない」/シンポで対馬丸生存者	2014年06月22日(日)
〈語り継ぐ　戦後69年〉犠牲者の面影しのぶ/対馬丸記念館　4人の遺影追加	2014年06月22日(日)
〈語り継ぐ　戦後69年〉慰霊の日　各地で取り組み/対馬丸記念館で平和劇と朗読会/なは群星の会	2014年06月25日(水)
〈経済短信〉「那覇まちま～い」で対馬丸と平和を考える一日	2014年06月26日(木)
両陛下がきょう来県/対馬丸記念館など視察	2014年06月26日(木)
両陛下が来県/戦没者墓苑を訪問、献花	2014年06月27日(金)
生存者ら思い複雑/両陛下きょう対馬丸記念館訪問/亡くなった子思うと会えない/戦争責任とは別、お迎えしたい	2014年06月27日(金)
「頑張ってください」/両陛下　摩文仁へ/遺族と言葉交わす	2014年06月27日(金)
対馬丸の犠牲者悼む/両陛下、記念館を訪問	2014年06月28日(土)
対馬丸生存者/「自分の小水飲み生き延びた」/凄絶な体験吐露/天皇陛下　救助なしに「なぜ」	2014年06月28日(土)
本村ツルさん元ひめゆり学徒(89)/「妹や弟思うと苦しい」/初めて船の状況知る	2014年06月28日(土)
「海鳴りの像」参拝かなわず/遺族会「等しく扱って」	2014年06月28日(土)
〈論壇〉宮城信夫/天皇陛下の抱いた“疑問”/対馬丸の真相解明を	2014年07月16日(水)
〈記者の窓〉かん口令/物言えぬ社会の前触れ/社会部　知花亜美	2014年07月27日(日)
〈対馬丸「天皇陛下ご質問」について〉當間栄安/杉本手記の“誤解”を解く	2014年08月03日(日)
〈声〉対馬丸事件の真相究明/名嘉原盛祥　84歳	2014年08月03日(日)
「対馬丸、知ってほしい」/生存者証言の映画完成/齋藤監督が自主製作	2014年08月07日(木)
〈社告〉対馬丸事件から70年、祈念対談　今、伝え継ぐ対馬丸/23日、那覇市民会館大ホール	2014年08月15日(金)
〈論壇〉高良政勝/対馬丸事件から70年/真実を未来に伝え継ぐ	2014年08月17日(日)
〈第31回本紙読者と新聞委員会〉沖縄の「主権」多面的に	2014年08月17日(日)
〈沖縄戦70年〉対馬丸撃沈事件/語り継ぐ　1661人の思い	2014年08月17日(日)
対馬丸犠牲者にエイサー奉納/記念館で平敷屋保存会	2014年08月18日(月)
対馬丸事件70年　大城立裕さんに聞く/子どもの悲劇伝える	2014年08月20日(水)
〈沖縄戦70年〉対馬丸、救命艇4隻のみ/きょう撃沈70年/内部構造メモ発見	2014年08月22日(金)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2014年08月22日(金)
〈沖縄戦70年〉1944年　対馬丸撃沈/砕かれた学童たちの未来	2014年08月22日(金)
〈沖縄戦70年〉きょう慰霊祭/那覇市の小桜の塔	2014年08月22日(金)
〈沖縄戦70年〉学童ら追悼　チョウに乗せ/平和願い　継承誓う/対馬丸撃沈70年　慰霊祭に450人	2014年08月23日(土)
〈沖縄戦70年〉「元気でいてくれた」/夫が救助、元学童と対面/杉本佐賀子さん(高知)/70年越し感謝受ける	2014年08月23日(土)
〈海の底の悲しみ〉6/第二部　対馬丸撃沈/「魚雷攻撃」最後の電文/元通信士　安原秀典さん(90)/過去思い「万感胸に」	2014年08月23日(土)
〈沖縄戦70年〉夜空に祈りの汽笛/追悼の集い　学童らへ折り鶴/対馬丸撃沈	2014年08月23日(土)
〈沖縄戦70年〉新聞記事や手記公開/対馬丸記念館で企画展	2014年08月23日(土)
〈沖縄戦70年〉対馬丸記念館・開館10年/高良政勝理事長に聞く/戦争の無益さ発信	2014年08月25日(月)
〈沖縄戦70年〉新たに遺影10枚追加/対馬丸記念館・開館10年/今も悔やむ母の死/「ほっとしている」寄贈の小波津さん	2014年08月25日(月)
〈沖縄戦70年〉対馬丸記念館/小中学校の利用低調/開館10年悲劇継承に課題	2014年08月25日(月)
対馬丸題材に本出版/入江幸子さん「悲劇伝えたい」	2014年08月26日(火)
〈海の底の悲しみ〉10/第二部　対馬丸撃沈/母と姉が犠牲　照屋恒さん(74)/失われた家族の記憶	2014年08月29日(金)
〈ニュースあれこれ〉社会/対馬丸記念館　見学呼び掛け	2014年08月31日(日)
〈こども新聞〉第17号/探そう沖縄　伝えよう未来へ/戦争の悲劇　二度と/対馬丸撃沈70年/1485人の命　犠牲に/生存者は厳しく口止め/記念館、平和伝える	2014年09月01日(月)
〈こども新聞〉第17号/記者紹介/わくわく沖縄　島の宝探し/わたしたち、取材で見つけました。	2014年09月01日(月)
対馬丸の体験学ぶ/那覇市教委　教員38人が平和学習	2014年09月19日(金)
〈僕の主張・私の意見〉対馬丸記念館を見学して/沖縄アミークス5年　金城達樹	2014年09月28日(日)
〈僕の主張・私の意見〉平和願いツル折る/沖縄アミークス5年伊波ここあ	2014年09月30日(火)
〈沖縄戦70年〉対馬丸引率　重荷背負い/母の思い知りたい/上野和子さん(栃木県)/県内関係者、知人と面会	2014年10月03日(金)
歌える幸せ感じて/対馬丸記念館　少年少女ら合唱公演	2014年10月21日(火)
県功労者に12氏/8部門、来月3日表彰式	2014年10月29日(水)
〈社説〉県功労者表彰/未来への羅針盤にしたい	2014年11月03日(月)
県功労者12氏表彰/発展へ活動継続誓う	2014年11月04日(火)
〈第4回しんぶん感想文コンクール　県知事賞作品紹介〉地域知り広がる世界	2014年11月14日(金)
宮森小映画が完成/齋藤監督「若い人、知って」	2014年12月12日(金)
遺影、新たに10人/対馬丸記念館　撃沈70年で注目	2014年12月26日(金)
〈声〉対馬丸記念館/久保佳恵　47歳	2015年01月08日(木)
〈ジュニア通信員〉vol.176/具志川東中学校新聞/伝統学び地元に誇り	2015年02月01日(日)
〈沖縄戦70年〉若者　熱く議論/「平和」「命の価値」とは/県内高校生イベント企画　対馬丸記念館案内も	2015年03月01日(日)
チョウ食草520本　旭ケ丘に15日植栽/翔ばそう会、参加者募集	2015年03月13日(金)

国際問題　解決探る/子供平和会議　高校生らが交流、討議	2015年03月20日(金)
チョウの楽園に/若狭住民ら、食草植える	2015年03月24日(火)
対馬丸の悲劇　伝える/女優・松木さん　体験者らに朗読、歌/本部	2015年04月06日(月)
〈記者席〉戦没者に思いはせ	2015年04月07日(火)
4・28県民集会/新基地拒む思い共有/「意思表示が大切」/慶田盛姉妹　初参加で現状知る	2015年04月30日(木)
〈沖縄戦70年〉生存者ら漂着　奄美・宇検村/「対馬丸」記憶継承へ/村史活用　村長が聞き取り	2015年05月10日(日)
〈りゅうPON!平和学習特別号〉行って見て感じる/戦跡・資料館で学ぼう	2015年05月19日(火)
〈NIE・教育に新聞を〉平和学習特別号りゅうPON!「つなぐバトン」/授業で活用を	2015年05月22日(金)
山口沖縄相が来県/きょう久米島など視察	2015年05月23日(土)
〈読んで広がるNIE〉「風化させてはいけない」/井山本因坊、山下九段　対馬丸記念館を訪問	2015年05月28日(木)
「対馬丸」講談に/20日、那覇市の記念館	2015年06月12日(金)
〈はと笛〉	2015年06月13日(土)
対馬丸　講談で伝える/旭堂南照さん　恩師と交流通し創作/記念館で県内初上演	2015年06月26日(金)
那覇巡りに夏限定コース/「まちまーい」参加募集	2015年06月27日(土)
事件の記憶　後世に/対馬丸記念館　証言収集に着手/展示への活用目指す	2015年07月20日(月)
〈ネットワーク〉いしがき少年少女合唱団コンサート/1日と3日、那覇と宜野湾市	2015年07月29日(水)
宇検に対馬丸慰霊碑/奄美　きょう洋上慰霊祭	2015年08月05日(水)
〈社告〉琉球新報特別賞/青春を語る会　対馬丸記念館/沖縄戦継承に尽力　13日に贈呈式	2015年08月09日(日)
〈社告〉琉球新報特別賞　あす贈呈式/平和の尊さ　後世に	2015年08月12日(水)
〈社告〉きょう贈呈式　琉球新報特別賞/「青春を語る会」　対馬丸記念館	2015年08月13日(木)
沖縄戦継承　功績たたえ/青春を語る会　対馬丸記念館/新報特別賞を贈呈	2015年08月14日(金)
対馬丸記念館で沖縄戦を学ぶ/松島小の教職員研修	2015年08月14日(金)
琉球新報特別賞/活動支えた非戦の信念	2015年08月14日(金)
〈社説〉新報特別賞/戦争体験継承を支えよう	2015年08月16日(日)
対馬丸記念館で少年少女が合唱/平和祈り石垣、兵庫から	2015年08月16日(日)
対馬丸遺影　新たに10人/同級生・山城さん(神奈川)　卒業写真を提供/「小桜の塔参りたい」	2015年08月20日(木)
対馬丸撃沈あす71年/母の胸で安らかに/野原さん　いとこ遺影に写真添え	2015年08月21日(金)
対馬丸撃沈あす71年/遺影10人分　追加展示/対馬丸記念館新たに2人刻銘	2015年08月21日(金)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2015年08月22日(土)
対馬丸撃沈71年/離れ離れの遺影「やっと一緒に」/比嘉さん家族、遺族が希望	2015年08月23日(日)
対馬丸撃沈71年/71年、遺影で“結婚”/比嘉さん　婚約者の名字に/遺族の豊里さん「同じになれて良かった」	2015年08月23日(日)
平和発信の公園へ/対馬丸記念館　「旭ケ丘」に構想/観光協会と協力　那覇巡りコースに	2015年08月28日(金)
16年度沖縄関係概算要求/4年連続　3000億超	2015年09月01日(火)
〈花ゆうな短歌会〉9月作品	2015年09月04日(金)
2万2000人国会包囲/新基地許さず　世代、立場超え/古里守る　心一つ	2015年09月13日(日)
沖縄からも参加　勇壮にエイサー/大阪・大正区で祭り	2015年09月19日(土)
16年度沖縄予算/一括交付金は減額	2015年12月25日(金)
〈ジュニア通信員〉vol.188/室川小学校新聞/学び、考え、平和発信	2016年01月31日(日)
入館20万人を突破/対馬丸記念館/新里さんらに記念証	2016年03月02日(水)
〈ジュニア通信員〉vol.191/沖縄カトリック中高新聞/輝く個性　広がる活躍	2016年03月06日(日)
〈りゅうちゃん募金〉	2016年03月26日(土)
悲惨な戦争伝えたい/父戦死の酒光さん　東京で展覧会	2016年05月03日(火)
〈読んで学べるNIE〉平和の尊さ　証言で学ぶ/対馬丸記念館親子平和学習/生存者が講話	2016年06月19日(日)
アミークス平和集会/小さくても平和の力に/物語通し、できること考察	2016年06月26日(日)
〈金口木舌〉天皇陛下の生前退位	2016年07月17日(日)
〈論壇〉新垣公子/来月、第2回日本国語教育学会沖縄大会/「学びをつなぐ」を提案	2016年07月31日(日)
「対馬丸の記憶」描く/都築さん　ガジュマル題材に	2016年08月05日(金)
陛下お気持ち表明/意向尊重望む声/皇室典範「改定を」/県民改憲論議、不安視も	2016年08月09日(火)
〈声〉対馬丸碑建立の支援/横田等　68歳	2016年08月14日(日)
主張ばかりでは衝突、犠牲は子どもに/平和への思い　花岡君作文に/22日、対馬丸慰霊祭で朗読	2016年08月18日(木)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2016年08月22日(月)
「沖縄戦　学習深めたい」/市内の教職員、平和教育研修/学童疎開の体験者ら講話	2016年08月23日(火)
対馬丸撃沈72年/平和願う心　次代へ/「全ての命　大切にする」/「皆の心　幸せであれ」/小桜の塔　慰霊祭に450人参列	2016年08月23日(火)
対馬丸撃沈72年/母の遺影　記念館に/沖縄市の仲間さん　涙声で「よかった」	2016年08月23日(火)
「奄美大島と対馬丸」展/記念館で10月2日まで	2016年08月25日(木)
〈「対馬丸」忘れまじ　漂流者を救った無人島〉下/中村喬次/46年ぶり親子で再訪	2016年08月26日(金)
鶴保沖縄相29日に来県/OISTなど視察	2016年08月27日(土)
〈Weekly〉押さえておきたいニュースまとめ読み！　琉球新報ウイークリー/毎週日曜掲載/2016.8.11－8.27掲載分	2016年08月28日(日)
「子の貧困取り組む」/鶴保沖縄相　酒税軽減延長も意欲	2016年08月31日(水)
対馬丸悲劇　次世代へ/宇検村長、記念館を見学/年内にも慰霊碑建立へ	2016年09月06日(火)
「奄美と対馬丸」特別展10日まで/那覇の記念館、延長開催	2016年10月03日(月)
迫力に満ちた朗読　平和の尊さ訴える/対馬丸記念会で講座	2016年11月22日(火)
「対馬丸の悲劇」熱演/西幼小で学習発表会/伊江	2016年12月18日(日)
対馬丸慰霊碑　3月完成/奄美・宇検　19日に除幕式/大島さんの詩刻む	2017年01月17日(火)
対馬丸慰霊碑に感謝/遺族、奄美・宇検自治会に	2017年02月01日(水)
「対馬丸の悲劇伝える」/奄美・宇検　慰霊碑建立で企画展	2017年03月20日(月)
奄美・宇検に対馬丸の碑/地元継承へ交流模索/建立きっかけ、沖縄と縁	2017年03月21日(火)
救助証言、対馬丸記念館に/大島さん　絶版の「宇検誌」寄贈	2017年03月22日(水)
〈奄美に刻む対馬丸　漂着の島の慰霊祭〉中村喬次/舟越浜にも生存者か/箝口令で真相見えず	2017年04月13日(木)
平和教育充実へ教員招き研修会/対馬丸記念館	2017年05月16日(火)
対馬丸へ歌声届け/那覇　児童合唱団が結団式	2017年05月29日(月)
〈キラリ☆イチオシ〉つしま丸児童合唱団/平和への願い響かせたい	2017年06月18日(日)
教員向け平和教育研修	2017年06月23日(金)
〈沖縄戦72年〉慰霊の日/対馬丸の悲哀を劇に/那覇の児童生徒熱演	2017年06月25日(日)
核なき世　強く訴え/県平和祈念資料館　ヒロシマ原爆展/被爆者の瀬越さん　投下後の惨状語る	2017年07月02日(日)
〈ジュニア通信員〉vol.200/沖縄アミークス新聞	2017年07月16日(日)
〈はと笛〉	2017年08月12日(土)
那覇、浦添の教員　共に平和教育学ぶ/対馬丸記念館で研修	2017年08月15日(火)
遺骨収集作業も体験/糸満　東京・創価高が沖縄研修	2017年08月16日(水)
対馬丸刻銘板を新装/記念館　1482人分、継ぐ思い新た	2017年08月18日(金)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2017年08月22日(火)
優しい母　生きた証し/平和願い託す写真/対馬丸撃沈きょう73年/沖縄市の金城さん　記念館に提供へ	2017年08月22日(火)
対馬丸撃沈73年/遺影8人新たに/友、家族共に　遺族安堵	2017年08月23日(水)
18年度沖縄概算要求/一括交付金　過去最低	2017年09月01日(金)
〈声〉対馬丸の悲劇/諸岡寛　60歳	2017年09月10日(日)
対馬丸記念館や空手会館を視察/江崎沖縄相が来県	2017年09月13日(水)
“戦争がない幸せ”実感/東洋英和女学院大　沖縄戦体験者に学ぶ/うるま・浜比嘉	2017年09月15日(金)
〈経済短信〉サンタへの手紙、きょう締め切り	2017年11月15日(水)
対馬丸撃沈　徳島大聞き取り/カラー化、遺影に命/島袋末さん　家族「身近になった」	2017年12月11日(月)
戦争体験継承に危機感/平和博物館会議　糸満で全国会議/学校教育が重要に	2017年12月15日(金)
〈声〉沖縄を訪ねて/水野愛子　22歳	2017年12月21日(木)
18年度沖縄予算/一括金　4年連続減	2017年12月23日(土)
援護事業功労者表彰/「尊い平和　継ぐ責務」/対馬丸生存、上原さん報告/「取り組み、今後も」	2017年12月23日(土)
渡嘉敷「集団自決」学ぶ/沖縄民医連が事務長研修	2018年03月26日(月)
〈最後の来県　天皇と沖縄のこころ〉下/祈る平和　次代へ/戦没者遺族ら　思い共に	2018年03月27日(火)
児童の成長願い　こいのぼり掲揚/那覇「小桜の塔」	2018年04月29日(日)
連載もの:〈沖縄戦73年〉対馬丸事件　忘れないで/教え子失った糸数さん(那覇市)/記念館に100万寄付	2018年05月10日(木)
対馬丸の悲劇、授業で生かす/記念館　53校教諭ら平和教育研修	2018年05月15日(火)
対馬丸交流事業　参加を呼び掛け/県、8月に宇検村訪問	2018年06月07日(木)
連載もの:〈沈黙に向き合う　沖縄戦聞き取り47年〉20/石原昌家/県立平和祈念資料館/正面に日の丸と銃器/にじむ皇軍賛美に批判	2018年06月21日(木)
鎮魂の校歌　学童に/島袋さん　8尋常小のCD制作/対馬丸記念館に贈呈	2018年07月30日(月)
沖縄戦学習　地域と連携/那覇・浦添の教員　平和教育を論議	2018年08月07日(火)
迫る平成最後の「終戦の日」/インタビュー/対馬丸生存者　高良政勝さん/平和への行動　継承を	2018年08月10日(金)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2018年08月22日(水)
対馬丸慰霊祭　広島で/広島経大　岡本ゼミ/沈没74年、船舶兵と共に	2018年08月22日(水)

ニュースの木	2018年08月26日(日)
南海日日新聞社提供/対馬丸の記憶、後世に/奄美・宇検で集落慰霊祭、村民献花/沖縄と交流に「意義」	2018年08月27日(月)
連載もの:〈地方をつなぐ〉信濃毎日新聞提供/対馬丸船長の無念伝え/長野出身・西沢さん　孫ら有志が特集誌に	2018年08月28日(火)
連載もの:〈声〉報復の連鎖断ち切る/大田美佐代　66歳	2018年08月31日(金)
対馬丸事件　継承誓う/鹿児島悪石島　慰霊祭で犠牲者鎮魂	2018年09月09日(日)
連載もの:〈象徴のうた　平成という時代〉13/永田和宏/対馬丸　53年ぶり発見/救助もせず逃げた護衛艦	2018年10月11日(木)
「対馬丸」海外に伝えたい/那覇・上山中3年生/同世代思い、記念館説明英訳	2018年12月12日(水)
対馬丸の歴史、英語で/上山中3年生　記念館に訳文を寄贈	2018年12月20日(木)
桜「平和の象徴に」/古堅小児童ら　対馬丸慰霊碑そばに植樹	2019年02月13日(水)
広島の学生ら50人　沖縄戦避難路歩む	2019年03月02日(土)
対馬丸記念館で英訳パネル設置/上山中生も参加	2019年03月05日(火)
連載もの:〈ジュニア通信員〉vol.207/古堅小学校新聞	2019年03月17日(日)
連載もの:〈石川文洋80歳　列島縦断あるき旅〉22/倉敷―三原/被災地で写真洗浄活動/「坂の町」、名画思い出す	2019年04月13日(土)
小桜の塔に平和の歌声/石嶺小児童　犠牲学童に2曲届ける	2019年04月16日(火)
連載もの:〈退位に思う〉平和の思い受け継いで/対馬丸記念会理事長　高良政勝	2019年04月22日(月)
「屈辱の日」67年/天皇制　揺れる心/両陛下の沖縄訪問/戦の記憶と重ね	2019年04月28日(日)
連載もの:〈平成の沖縄　基地・平和・いのち〉中/平和の拠点相次ぎ完成	2019年04月29日(月)
教員ら“対馬丸”学ぶ/記念館研修に50人参加	2019年05月21日(火)
連載もの:〈特別号　学ぶ平和〉行って見て感じる/悲劇の爪痕　身近に	2019年05月26日(日)
平和願い　歌声響かせる/つしま丸児童合唱団が結団式	2019年05月27日(月)
連載もの:〈カメラとお出かけほろほろ街(マーチ)♪〉Vol.23/那覇市久米・若狭周辺/歴史と甘味とオアシスと	2019年06月02日(日)
連載もの:〈けいざい風水〉クルーズ船寄港増の影響/市民生活との共存課題	2019年06月09日(日)
連載もの:〈石川文洋80歳　列島縦断あるき旅〉30/名護―北谷/悲劇の事件、語り継ぐ/広大な基地の存在に反発	2019年06月13日(木)
石坂美砂がコンサート/20日、パレット市民劇場	2019年06月18日(火)
連載もの:〈金口木舌〉平和を支える杖	2019年06月19日(水)
連載もの:〈金口木舌〉平和を支える杖	2019年06月19日(水)
佐々井僧侶が初来県/インドで人権活動/きょう浦添で講演	2019年06月30日(日)
対馬丸の悲劇、舞台に/小中高生　劇で平和の大切さ表現	2019年07月02日(火)
児童ら　対馬丸学ぶ/県の学習事業、30人参加	2019年07月22日(月)
連載もの:〈りゅうちゃんクイズ〉2988	2019年08月04日(日)
連載もの:〈りゅうちゃんクイズのこたえ〉2988	2019年08月04日(日)
対馬丸の悲劇　組踊に/北谷町文化事業　10月13日に上演	2019年08月04日(日)
連載もの:〈沖縄の針路〉疎開する学童を乗せた「対馬丸」撃沈を伝える外間邦子さん/辺野古、悲劇再び生む懸念	2019年08月17日(土)
連載もの:〈航跡・対馬丸撃沈75年〉1/お前だけ生きてうちの子は/大嶺正次郎さん(88)/遺族の目　避け続け	2019年08月18日(日)
漂流の苦しみ忘れない/対馬丸沈没75年　上原清さん(85)証言	2019年08月18日(日)
連載もの:〈航跡・対馬丸撃沈75年〉2/消えぬ自責の念/糸数裕子さん(94)/犠牲の教え子　枕元に立つ	2019年08月19日(月)
連載もの:〈航跡・対馬丸撃沈75年〉3/僚船の悲劇　衝撃今も/源河圭一郎さん(84)/医師として命向き合う	2019年08月20日(火)
連載もの:〈航跡・対馬丸撃沈75年〉4/語り継ぐ悲劇　決意新た/高良政勝さん(79)/生かされた命　気付き	2019年08月21日(水)
対馬丸撃沈75年/きょう那覇で慰霊祭/午前11時　小桜の塔	2019年08月22日(木)
教科書、2人の遺骨代わり/対馬丸撃沈75年/姉と兄犠牲　鹿児島の久保さん(那覇出身)/記念館に寄贈「平和ありがたさ感じて」	2019年08月22日(木)
連載もの:〈社説〉対馬丸撃沈75年/体験を継承し平和築こう	2019年08月22日(木)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2019年08月22日(木)
対馬丸記念館15年/非戦誓い、未来へ/「子の戦争」伝え続け/体験継承や運営に課題も	2019年08月22日(木)
対馬丸記念館15年/犠牲1484人　過半数児童/対馬丸　戦時遭難船で最多	2019年08月22日(木)
連載もの:〈航跡・対馬丸撃沈75年〉5/犠牲者の夢、胸に/渡口眞常さん(69)/目の前の平和　守り続ける	2019年08月22日(木)
戦の悲劇　二度と/対馬丸撃沈75年慰霊祭/平和誓い、冥福祈る	2019年08月23日(金)
対馬丸撃沈75年/悲しみ　忘れない/ようやく連れて来た/遺族の島袋さん　追加刻銘、ことし5人	2019年08月23日(金)
対馬丸慰霊祭/「奪われた命　胸に刻む」/吉永小百合さんメッセージ届く	2019年08月23日(金)
対馬丸慰霊祭/あの子思い　75年/「生きた」苦しみ深く/遺族「伝えることが務め」	2019年08月23日(金)
対馬丸撃沈75年/夜の汽笛　海へ祈り/被弾時刻に合わせ追悼集い	2019年08月23日(金)
連載もの:〈金口木舌〉対馬丸の子どもたち	2019年08月24日(土)
ニュースの木	2019年08月25日(日)
連載もの:〈声〉対馬丸記念館/金城正子　77歳	2019年09月01日(日)
連載もの:〈こども新聞〉第22号/こども記者感想	2019年09月02日(月)
連載もの:〈こども新聞〉第22号/社会/対馬丸　生存者の高良さん/荒れた海　筏で死ぬ思い/「父が命を守ってくれた」	2019年09月02日(月)
連載もの:〈こども新聞〉第22号/社会/対馬丸撃沈　忘れないで/那覇の記念館、悲劇伝える	2019年09月02日(月)
戦争の記憶継承へ　平和の礎など視察/世界各国博物館長ら23人	2019年09月11日(水)
対馬丸の悲劇　体験談に学ぶ/浜比嘉で東洋英和大生	2019年09月15日(日)
衛藤沖縄相、あす来県	2019年09月28日(土)
連載もの:〈社告〉吉永小百合・坂本龍一チャリティーコンサートin沖縄/「平和のために~海とぅ詩とぅ音楽とぅ」/1月5日(日)沖縄コンベンションセンター劇場棟	2019年09月30日(月)
平和紡ぐコンサート開催/来年1月宜野湾　吉永、坂本さん出演	2019年10月01日(火)
連載もの:〈落ち穂〉組踊「対馬丸」に挑む子どもたち/上地亜矢乃(公共施設ホールプランナー)	2019年10月05日(土)
連載もの:〈キラリ☆イチオシ〉「対馬丸」組踊で上演へ/忘れない75年前の悲しみ	2019年10月06日(日)
県功労者に10氏/10部門　来月3日表彰式	2019年10月25日(金)
〈ひやみかせ首里城再建募金〉	2019年11月16日(土)
平和な未来願い　相田作品を贈る/対馬丸記念館、古堅小に	2019年11月18日(月)
連載もの:〈社告〉対馬丸記念館開館15周年記念、組踊上演300周年記念企画　新作組踊「対馬丸」/2020年1月19日　琉球新報ホール	2019年12月06日(金)
〈組踊・対馬丸見て〉石坂美砂/継承することを痛感	2019年12月22日(日)
〈行か!ナビ　琉球新報社のイベント〉	2019年12月26日(木)
辺野古の話　直接聞きたい/坂本龍一さん　メッセージ	2019年12月29日(日)
連載もの:〈NIE・次世代から〉平和が一番大切/豊見城市立長嶺小6年　前底菜々美	2019年12月30日(月)
連載もの:〈沖縄戦75年〉沖縄から　平和の詩奏で/吉永小百合さん・坂本龍一さん　朗読、ピアノ共演	2020年01月06日(月)
「対馬丸」題材に　新作組踊を上演/19日、新報ホール	2020年01月09日(木)
連載もの:〈金口木舌〉「心のたんぽぽ」を広めたい	2020年01月11日(土)
寄稿　児童劇組踊「対馬丸」那覇公演を祝う/大城立裕/一生忘れがたい思い出に	2020年01月15日(水)
新作組踊「対馬丸」19日に那覇で上演/琉球新報ホール	2020年01月17日(金)
連載もの:〈沖縄戦75年〉対馬丸の悲劇　児童ら熱演/新作組踊那覇公演	2020年01月20日(月)
新作組踊「対馬丸」/犠牲者思い平和願う/児童ら反戦・鎮魂の心熱演	2020年01月22日(水)
対馬丸の悲劇を英訳/上山中3年生　記念館に説明文贈る	2020年02月11日(火)
平和の尊さ思い込め/吉永、坂本さん公演　4団体に寄付	2020年02月29日(土)
新型肺炎/各地で催し中止	2020年03月03日(火)
対馬丸記念会に140万円贈り支援/那覇市垣花奉頌会	2020年04月02日(木)
連載もの:〈沖縄戦を歩く~戦後75年〉1/海鳴の像・小桜の塔/海で亡くなった人々悼む	2020年04月05日(日)
新型コロナ/団体キャンセル100件超/平和学習　県内4施設休館	2020年04月09日(木)
首里杜館の全施設　コロナで臨時休館/対馬丸記念館は延長	2020年04月25日(土)
新型コロナ/県内施設休館	2020年05月09日(土)
対馬丸記念館あすから再開	2020年05月21日(木)
対馬丸記念館が刷新/展示入れ替えて再開	2020年05月23日(土)
連載もの:〈沖縄戦75年〉団体キャンセル290件超/沖縄戦3資料館　4月入館9割減	2020年05月24日(日)
連載もの:〈沖縄戦75年〉コロナ禍で継承模索/平和施設　感染防止へHP活用も	2020年05月24日(日)
連載もの:〈沖縄戦75年　戦争と平和を学ぶ特別号〉写真や映像でもっと詳しく/インターネットで学ぶ沖縄戦	2020年05月24日(日)
連載もの:〈沖縄戦75年　戦争と平和を学ぶ特別号〉戦争の実態学ぼう	2020年05月24日(日)
連載もの:〈沖縄戦75年〉対馬丸体験を映像収録/記念館、平和教育に活用	2020年06月07日(日)
連載もの:〈社説〉沖縄戦75年/体験継承し平和の構築を	2020年06月23日(火)
連載もの:〈沖縄戦75年〉慰霊の日/県民、各地で祈り	2020年06月24日(水)
連載もの:〈沖縄戦75年〉「慰霊の日」後世に/娘のため“平和ツアー”/観光バスガイド多和田貴野さん　糸満・祈念公園を案内	2020年06月25日(木)
連載もの:〈琉球歌壇〉631/文月抄/屋良健一郎・選	2020年07月25日(土)
新型コロナ　県内施設休館情報	2020年08月02日(日)
連載もの:〈未来に伝える沖縄戦〉272/故郷を離れて/高良政勝さん(80)/対馬丸乗船、家族9人失う/3日漂流、弱者が犠牲に	2020年08月12日(水)
安次富長昭さん死去/戦後沖縄美術界をけん引　90歳	2020年08月12日(水)
新型コロナ県内施設休館情報	2020年08月16日(日)
「犠牲者　家族一緒に」/対馬丸記念館　遺影並び替え	2020年08月20日(木)
対馬丸遺族　深い傷/妻子5人失い「絶望」/元佐敷村長　渡名喜元秀さん日記/あす撃沈76年　南城市資料編で公開	2020年08月21日(金)
対馬丸　あす撃沈76年/遺族、口閉ざした戦後/渡名喜さん無念胸に/息子や孫にも語らず	2020年08月21日(金)
対馬丸撃沈きょう76年	2020年08月22日(土)
連載もの:〈社説〉対馬丸の悲劇/子どもの未来　奪わない	2020年08月22日(土)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2020年08月22日(土)

宮森米機墜落きょう写真展/対馬丸記念館	2020年08月22日(土)
「父返して」癒えぬ喪失/対馬丸撃沈76年　知名さん　船ではぐれる	2020年08月22日(土)
犠牲1484人忘れない/対馬丸撃沈76年　コロナで慰霊祭縮小	2020年08月23日(日)
平和へ語り継ぐ/対馬丸慰霊祭　76年、遺族ら面影胸に	2020年08月23日(日)
対馬丸記念館6日から開館/コロナ臨時休館解除	2020年09月01日(火)
連載もの:〈NIE・次世代から〉戦争の怖さ伝えていく/宜野座村立松田小6年　大城吉平	2020年09月21日(月)
連載もの:〈僕の主張・私の意見〉戦争二度と繰り返さない/宜野座村立松田小6年　仲間一登	2020年09月22日(火)
市政功労、8人表彰/仲田幸子さん「本当の那覇人に」	2020年11月03日(火)
連載もの:〈2020年末回顧〉伝統芸能・洋舞・エンタメ/コロナ下　発信模索	2020年12月18日(金)
連載もの:〈沖縄この1年・2020〉3/沖縄戦75年/コロナが影、継承へ模索	2020年12月24日(木)
対馬丸記念館に140万円/垣花奉頌会が寄付	2021年01月29日(金)
連載もの:〈声〉船長らの行動は/山下幸雄　84歳	2021年02月20日(土)
連載もの:〈論壇〉高良政勝/対馬丸記念館、存続の危機/二度と沈めぬ　平和発信の場	2021年03月16日(火)
連載もの:〈記者席〉犠牲者に思い	2021年04月13日(火)
読谷村職労が記念館に30万	2021年04月15日(木)
連載もの:〈沖縄戦76年〉対馬丸記念館　来場8割減/「わたしたちは記念館を絶対つぶしてはならない」/高良理事長投稿、支援広がる	2021年04月15日(木)
対馬丸記念館支援へ/内閣府、存続向け県と協力	2021年04月26日(月)
連載もの:〈りゅうPON!平和学習特別号〉体験者の声/対馬丸沈没、家族9人失う/高良政勝さん(那覇市牧志出身)	2021年05月16日(日)
連載もの:〈りゅうPON!平和学習特別号〉インターネットで学ぶ沖縄戦/写真や映像でもっと詳く	2021年05月16日(日)
対馬丸記念館　コロナで休館/来月20日まで	2021年05月27日(木)
対馬丸記念会に寄付/国際ビル産業が20万円	2021年06月15日(火)
連載もの:〈沖縄戦76年〉対馬丸記念館に万羽鶴贈呈/鎮魂の祈り　鶴に/ウチナー芝居俳優　親泊良子さん(93)=那覇市/いとこ犠牲「胸裂ける思い」	2021年06月19日(土)
連載もの:〈金口木舌〉変わらない心	2021年06月22日(火)
対馬丸記念館　支援続く/平和希求、県内外から賛同者	2021年07月03日(土)
連載もの:〈沖縄戦77年〉「戦禍の苦しみ　知ってほしい」/対馬丸撃沈　紙芝居に/記念館　2年かけ制作/奄美・宇検住民の視点も	2021年08月03日(火)
連載もの:〈社告〉新報小中学生新聞りゅうPON!明日の紙面は/毎週日曜日発行	2021年08月14日(土)
子どもの戦争　紙芝居で伝える/対馬丸事件から77年	2021年08月15日(日)
対馬丸事件から77年/事実知り　平和な未来を	2021年08月15日(日)
連載もの:〈沖縄戦77年〉犠牲1484人追悼　平和継ぐ/対馬丸撃沈77年　規模縮小し慰霊祭	2021年08月19日(木)
連載もの:〈沖縄戦77年〉対馬丸慰霊祭/命の尊さ、知る機会に/コロナ禍も記念館存続願う	2021年08月19日(木)
連載もの:〈沖縄戦77年〉対馬丸慰霊祭/記念館　遺影5人追加/8~20歳、2組の兄妹も	2021年08月19日(木)
連載もの:〈沖縄戦77年〉対馬丸撃沈　きょう77年/生きた証し　残したい/照屋早智江さん(那覇市)　母のきょうだい、記念館へ写真	2021年08月22日(日)
連載もの:〈金口木舌〉情報化時代に戦争を伝える	2021年08月22日(日)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2021年08月22日(日)
連載もの:〈社説〉対馬丸撃沈77年/語り継ぐ責任を忘れない	2021年08月22日(日)
連載もの:〈沖縄戦77年〉「今ある命、平和な未来へ」/対馬丸記念館　外間、堀切さん/歴史伝える方法模索	2021年08月22日(日)
連載もの:〈沖縄戦77年〉沖縄原風景展　来月20日まで	2021年08月22日(日)
来年度沖縄予算概算要求/戦後処理/所有者不明土地　実態調査へ増額	2021年09月01日(水)
対馬丸記念館を鈴木宗男氏視察	2021年10月01日(金)
連載もの:〈つなぐ平和〉7/学童の集団疎開/親元離れ、見知らぬ土地へ	2021年10月10日(日)
対馬丸　劇通し平和発信/那覇青少年プログラム　48人が熱演	2021年10月26日(火)
対馬丸紙芝居　奄美の子へ/記念館　犠牲者弔った宇検に贈る	2021年11月14日(日)
連載もの:〈声〉戦後史を訪ねる/金城巌　73歳	2021年12月09日(木)
対馬丸記念館　臨時休館発表/きょうから20日まで	2022年01月12日(水)
連載もの:〈インフォメーション〉垣花奉頌会が140万円/対馬丸記念館運営に	2022年03月11日(金)
対馬丸記念碑設置へ/那覇・垣花小、遺族ら計画	2022年05月02日(月)
連載もの:〈復帰50年　1972~2022〉沖縄復帰50周年記念式典式辞・お言葉・あいさつ(全文)/県民代表あいさつ　高良政勝さん	2022年05月16日(月)
連載もの:〈沖縄戦77年〉対馬丸犠牲者　誕生日掲示/記念館「ありがとう」添え/歩んでいた人生感じて	2022年06月02日(木)
連載もの:〈海を越え、つながる輪―世界のウチナーンチュを知ろう―〉14/旧南洋群島/豊かな“もう一つの沖縄”	2022年06月05日(日)
国民保護計画試算/沖縄戦　対馬丸や南部撤退/疎開できず犠牲多数	2022年06月20日(月)
沖縄戦77年慰霊の日/核なき世界　沖縄から/高2上原さん条約批准求め署名集め	2022年06月24日(金)
連載もの:〈インフォメーション〉沖縄物産企業連合が対馬丸記念館に寄付/ひめゆり資料館や若梅会にも	2022年06月26日(日)
対馬丸の悲劇　講談で/宜野湾　旭堂さん、平和思い	2022年07月02日(土)
連載もの:〈子どもたちの意見〉平和と命/西原町立西原南小6年比嘉ゆりの	2022年07月13日(水)
〈りゅうPON!掲示板〉	2022年07月31日(日)
「対馬丸」児童ら歴史学ぶ/平和交流事業　奄美訪問前に研修/記念館で講話、思いはせ	2022年08月12日(金)
対馬丸　遺影3人追加	2022年08月20日(土)
連載もの:〈社告〉新報小中学生新聞りゅうPON!明日の紙面は/毎週日曜日発行	2022年08月20日(土)
対馬丸　遺影404人に/3人新たに追加　「生きた証し実感」	2022年08月20日(土)
連載もの:〈未来を拓く　9.11知事選〉知事選公開討論会/有権者の質問	2022年08月21日(日)
連載もの:〈ティータイム〉幸せに生きる意味問い直す/中川みどり	2022年08月21日(日)
平和の誓い　歌に込め/小桜の塔　つしま丸合唱団が追悼	2022年08月21日(日)
ハワイに対馬丸説明板/ボーフィン博物館　記憶継承願い	2022年08月21日(日)
平和への願い　歌に乗せ10年/遺族の思い継ぐ　つしま丸児童合唱団	2022年08月21日(日)
対馬丸沈没78年/忘れない　忘れさせない	2022年08月21日(日)
連載もの:〈金口木舌〉2つのランドセル	2022年08月22日(月)
連載もの:〈社説〉対馬丸撃沈78年/歴史学び悲劇繰り返さず	2022年08月22日(月)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2022年08月22日(月)
世界の子の平和願う/対馬丸撃沈78年で慰霊祭	2022年08月23日(火)
ニュースの木	2022年08月28日(日)
連載もの:〈声〉母子の疎開船/當眞嗣弘　79歳	2022年08月31日(水)
連載もの:〈検証・最後の官選知事　沖縄戦と「島守」の実相〉5/吉川由紀/「生きろ」でなく「黙れ」/対馬丸遺族苦しめた警察	2022年09月01日(木)
戦没者慰霊　折り鶴2万羽を奉納/東京・小野寺さん夫妻　県内8カ所に	2022年09月11日(日)
連載もの:〈声〉「次世代の声」に感動/中川みどり　54歳	2022年09月22日(木)
各地の学童疎開　写真資料で紹介/対馬丸記念館	2022年09月23日(金)
犠牲の子思い　編んだレース/対馬丸記念館が展示　引率教諭・糸数裕子さん追悼	2022年10月05日(水)
連載もの:〈りゅうPON!世界のウチナーンチュ特別号〉旧南洋群島/県系人の歩み/ステキな先輩!	2022年10月09日(日)
連載もの:〈論壇〉高良政勝/対馬丸事件と遺族高齢化/国、県の記念館運営願う	2022年10月19日(水)
連載もの:〈声〉「館内説明」勉強中/中川みどり　54歳	2022年10月22日(土)
「平和の大切さ　心に」/両陛下、即位後初の沖縄訪問	2022年10月23日(日)
炎天下　一人一人と対話/両陛下、沖縄戦遺族と交流	2022年10月23日(日)
「戦争と平和」考えて/対馬丸記念館　「疎開体験」児童募集	2022年10月30日(日)
連載もの:〈第7回世界のウチナーンチュ大会2022〉犠牲の親類に“対面”/ハワイ県系人　対馬丸記念館訪問	2022年11月01日(火)
連載もの:〈声〉「命どぅ宝」再確認/中川みどり　54歳	2022年11月07日(月)
連載もの:〈論壇〉伊波洋正/宮森ジェット機墜落　継承のために/幼稚園跡　要望通り利用を	2022年11月09日(水)
ハロウィーン各地で楽しく/宝箱探しに“挑戦”/つしま丸児童合唱団	2022年11月12日(土)
疎開なき　平和な世を/那覇の児童　沖縄戦学ぶ/対馬丸記念会　企画/初開催　館内見学、過酷さ体験研修も	2022年11月27日(日)
連載もの:〈声〉無理解反省したい/中川みどり　54歳	2022年12月19日(月)
県内戦跡巡り　沖縄戦学ぶ/阪急労組役員ら平和学習	2022年12月22日(木)
連載もの:〈声〉優しくなりたい/中川みどり　54歳	2023年01月05日(木)
連載もの:〈論壇〉津留一郎/県議会答弁から考える/「歴史教育」充実元年に	2023年01月10日(火)
眞榮城さん遺族　100万円/学童引率　対馬丸記念会に寄付	2023年01月20日(金)
連載もの:〈声〉見てほしい映画/中川みどり　54歳	2023年02月09日(木)
大浜さん、歌声に感涙/遺品のピアノ　対馬丸記念館に/児童「平和、歌い続ける」	2023年02月19日(日)
対馬丸と疎開、那覇の児童学ぶ/平和の意味考える	2023年02月19日(日)
子ども犠牲の戦争に「衝撃」/東大野球部　対馬丸記念館訪問	2023年03月01日(水)
第51回読者と新聞委員会/先生の窮状　改善後押しを	2023年03月07日(火)
連載もの:〈社告〉〈平和継承〉沖縄戦継承の語り部講座開校/4月から半年間	2023年03月24日(金)
教科書・軍命記述なし/戦の実相伝わらぬ/体験者、識者ら懸念	2023年03月29日(水)
連載もの:〈声〉謙虚に学びたい/中川みどり　54歳	2023年03月31日(金)
連載もの:〈インフォメーション〉対馬丸記念館に140万円/垣花奉頌会が寄付	2023年04月05日(水)
団員の卒業・進級祝う/つしま丸合唱団、決意新た	2023年04月05日(水)
連載もの:〈声〉「人々史観」に倣いたい/中川みどり　54歳	2023年04月19日(水)
GW　開幕/笑顔輝く　休日満喫	2023年04月30日(日)
連載もの:〈あの時、こう報じた―教訓を紡ぐ　琉球新報創刊130年〉3/戦争報道/偽り伝え　戦意高揚	2023年06月15日(木)
連載もの:〈声〉愚直に史実伝えたい/中川みどり　54歳	2023年06月21日(水)
対馬丸の悲劇「繰り返さない」/宜野湾/嘉数小、遺族招き平和集会	2023年06月26日(月)

韓国から追悼式参列/済州平和財団　「交流継続を」	2023年06月26日(月)
親子で「平和」考えよう/22日、対馬丸記念館で催し	2023年07月19日(水)
〈りゅう PON! 掲示板〉	2023年07月23日(日)
連載もの:〈死去〉平良啓子さん死去/88歳　対馬丸生還、語り部	2023年07月30日(日)
連載もの:〈死去〉平良啓子さん死去/「友への供養」惨劇語る	2023年07月30日(日)
連載もの:〈死去〉平良啓子さん死去/対馬丸継承の道しるべ/「戦争二度と」思い強く	2023年07月30日(日)
朗読劇で平和考える/那覇まちまーい親子プログラム	2023年07月31日(月)
連載もの:〈死去〉「平和学習の先駆者」/平良啓子さん　関係者ら弔問	2023年08月01日(火)
連載もの:〈声〉平良啓子さんの言葉/中川みどり　55歳	2023年08月09日(水)
ニュースの木	2023年08月13日(日)
連載もの:〈平和継承〉記録や遺品でつなぐ/対馬丸事件　故平良さんの記憶語る	2023年08月15日(火)
対馬丸撃沈　きょう79年	2023年08月22日(火)
連載もの:〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2023年08月22日(火)
悲劇「繰り返してはならぬ」/対馬丸撃沈79年　慰霊祭	2023年08月23日(水)
対馬丸慰霊祭/「記念館、国　県で運営を」/遺族ら高齢化、維持管理に課題	2023年08月23日(水)
対馬丸慰霊祭/大勢の犠牲者　伝えて/遺族・楠本さん　娘、孫と慰霊祭参列	2023年08月23日(水)
対馬丸撃沈79年/兄の遺影　新たに記念館に/供養し　心安らかに/久場さん、記念館を初訪問	2023年08月23日(水)
対馬丸撃沈79年/「戦争と子ども」記念館で写真展/来月22日まで	2023年08月23日(水)
対馬丸撃沈79年/兄の遺影　新たに記念館に/ようやく両親の元へ/嶋袋さん、写真に語りかけ	2023年08月23日(水)
対馬丸撃沈79年/幼い面影　悲しみ深く/遺族、戦争なき世界誓い	2023年08月23日(水)
連載もの:〈声〉「体験」残る記念館/渡慶次克紀　62歳	2023年09月03日(日)
連載もの:〈声〉非戦の意志再確認を/中川みどり　55歳	2023年09月03日(日)
新報学校新聞コンクール/3人に県知事賞/山内、東盛、松本さん	2023年09月17日(日)
自見沖縄相、初来沖/首里城や市場視察	2023年09月28日(木)
〈第18回琉球新報学校新聞コンクール・第25回沖縄県中学校社会科新聞コンクール〉紙面彩る感性/上位入賞者表彰式　14日琉球新報ホール	2023年10月11日(水)
興味や関心まとめ笑顔/新聞コンクール表彰式	2023年10月15日(日)
学童疎開、宮崎で追体験/対馬丸記念会　参加児童を募集	2023年11月13日(月)
対馬丸平和交流　研修成果を紹介/記念館、19日まで	2023年11月14日(火)
〈ティータイム〉ん？　その声は/比嘉義裕	2023年12月04日(月)
平和考える壁新聞展開催/対馬丸記念館、来月21日まで	2023年12月25日(月)
学童疎開の苦難追体験/県内児童、あす宮崎へ	2023年12月26日(火)
〈墓碑銘2023・県内〉上/沖縄ロックけん引　かっちゃん/琉球泡ガラス創作　稲嶺さん	2023年12月28日(木)
〈てぃーだ〉「再生」名刺に自分重ね/就労継続支援B型「ちぇんじ」池永豊彦さん	2024年01月13日(土)
〈声〉共感生む仕事が目標/中川みどり　55歳	2024年01月14日(日)
「戦争ない世界を」/宮崎で「学童疎開」追体験/児童らが研修成果発表	2024年01月29日(月)
南城市、展示在り方検討へ/アブチラガマ　専門家意見参考に	2024年01月31日(水)
ニュースの木	2024年02月04日(日)
痛み治療知る講座/17日、対馬丸記念館で	2024年02月10日(土)
対馬丸　惨劇伝えたい/記念館20年、支える会発足	2024年02月18日(日)
対馬丸記念会に140万円を寄付/那覇市垣花奉頌会	2024年03月14日(木)
卒業と進級を祝う会/つしま丸児童合唱団	2024年03月24日(日)
泊先覚顕彰会　100万円を寄付/対馬丸記念館20年	2024年04月14日(日)
〈声〉人ごとで終わらせない/中川みどり　55歳	2024年05月17日(金)
「対馬丸事件」80年でシンポ/来月1日、県博・美術館講堂	2024年05月17日(金)
〈沖縄戦79→80年〉泊小にも記念碑設置へ/地元住民、記念会に25万円寄付/対馬丸事件	2024年05月28日(火)
〈沖縄戦79→80年〉対馬丸記念館来場35万人/平和な世界に役立てたい	2024年05月28日(火)
県首脳・市長主要日程(1日)	2024年06月01日(土)
〈沖縄戦79→80年〉平和8博物館、連携へ/ひめゆり、対馬丸館長呼びかけ/来年にも「平和の集い」	2024年06月02日(日)
〈沖縄戦79→80年〉「対馬丸の願い」生かそう/那覇でシンポ	2024年06月02日(日)
〈うそっぱち〉対馬丸記念館　開館20年	2024年06月02日(日)
〈沖縄戦79→80年〉いかに平和を伝えるか/対馬丸記念会　記念館の役割議論	2024年06月02日(日)
ニュースの木	2024年06月02日(日)
〈沖縄戦79→80年〉小桜の塔に鎮魂の苗60本/那覇　南風原遺族会の赤嶺さん寄贈	2024年06月11日(火)
〈ティータイム〉宮城治夫/『悪石島』と平良啓子氏	2024年06月19日(水)
慰霊の日、北中城で演奏会/YUIKAさん「平和考えて」	2024年06月19日(水)
命の重み　演じて訴え/つしま丸合唱団が朗読劇	2024年06月23日(日)
対馬丸学び、平和を誓う/若狭小6年、小桜の塔訪問	2024年06月24日(月)
対馬丸　ハワイに伝える/オンライン交流　記念会、平和訴え	2024年06月25日(火)
〈沖縄戦79→80年〉詩と演劇で対馬丸描く/那覇、小中高生が参加	2024年06月28日(金)
対馬丸事件　思いつなぐ/つらさで話せなかった母/上野さん事件の体験、書籍に	2024年06月30日(日)
〈論壇〉中川みどり/悲しみ抱えつつ未来見つめる人たち/非戦の思想で事に当たろう	2024年07月07日(日)
〈沖縄戦80年〉児童、対馬丸の悲劇学ぶ/「つらい思い二度と」決意	2024年07月07日(日)
教育関係者向け沖縄戦野外学習/県主催、那覇・読谷で	2024年07月18日(木)
〈沖縄戦80年〉対馬丸　海中再調査へ/来年度　記念会「遺品引き揚げを」	2024年07月19日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸　海中再調査へ/技術進歩　詳細判明に期待/97年には船名撮影に成功	2024年07月19日(金)
〈社説〉対馬丸海中再調査へ/犠牲向き合い責任果たせ	2024年07月22日(月)
〈沖縄戦80年〉沖縄戦前に多くの犠牲/サイパン陥落、疎開学ぶ	2024年07月22日(月)
対馬丸の調査前向き/沖縄相　「遺品収集できれば」	2024年07月24日(水)
〈読書・BOOK〉蕾のままに散りゆけり　対馬丸から生還した教師の魂を娘が辿る/上野かずこ著　悠人書院・1980円/悲劇と苦悩と美化の是非	2024年07月28日(日)
「対馬丸事件」学ぶ/大宜味小で平和講演会	2024年07月28日(日)
〈子どもたちの意見〉平和な今に思うこと/宜野座村立松田小6年仲松小牧	2024年08月05日(月)
「不戦」児童ら船上の誓い/対馬丸慰霊祭	2024年08月14日(水)
対馬丸事件の絵本刊行/池澤夏樹さんと黒田征太郎さん/来月15、16日、那覇でトークイベント	2024年08月15日(木)
〈沖縄戦80年〉漂着の地、犠牲者悼み献花/対馬丸事件で県内児童	2024年08月15日(木)
〈海鳴りやまず　撃沈船舶と対馬丸80年〉1/語る　つらい記憶/軍事化の波　募る危機感/「戦争は嫌だ、叫びたい」	2024年08月16日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸事件「忘れない」/奄美訪問、児童ら帰県	2024年08月18日(日)
対馬丸　記録映画が完成/生存者の孫、寿大さん出演/口侵攻に危機感「風化防ぐ」	2024年08月18日(日)
〈マンガで伝える沖縄戦〉対馬丸記念館(上)/平良啓子さんの話/まんが・なかもとあやこ(2)	2024年08月18日(日)
〈マンガで伝える沖縄戦〉対馬丸記念館(上)/平良啓子さんの話/まんが・なかもとあやこ(1)	2024年08月18日(日)
〈沖縄戦80年〉対馬丸　遺影8人追加/合計414人　あす撃沈80年	2024年08月21日(水)
〈沖縄戦80年〉さまざま思い胸に/対馬丸遺影掲示	2024年08月21日(水)
〈海鳴りやまず　撃沈船舶と対馬丸80年〉5/調べた最期、闇のまま/嘉義丸と沈んだ養父/疎開した祖母も2カ月で病死	2024年08月21日(水)
対馬丸/きょう慰霊祭・式典	2024年08月22日(木)
県首脳・市長主要日程(22日)	2024年08月22日(木)
〈きょうの歴史〉8月22日/沖縄	2024年08月22日(木)
〈沖縄戦80年〉“新しい戦前”にしない/戦時撃沈船舶と対馬丸事件/戦の海へ　国策の犠牲に	2024年08月22日(木)
〈海鳴りやまず　撃沈船舶と対馬丸80年〉6/父、疎開認めたこと「後悔」/姉2人、命奪われ　母は仏前にランドセル	2024年08月22日(木)
〈沖縄戦80年〉対馬丸事件80年/記憶途絶えさせぬ/かん口令何のため/記念館20年「考える場に」	2024年08月22日(木)
〈沖縄戦80年〉対馬丸事件80年/「戦争だめ」伝えていく/生存者の語り部・照屋恒さん	2024年08月22日(木)
〈沖縄戦80年〉愚かな戦争二度と/対馬丸撃沈80年　慰霊祭あいさつ	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉水中調査、予算要求へ/自見氏「最終調整している」	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/平和への願い高らかに/児童合唱団「もう大丈夫だよ」	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/第2会場設置/遺族高齢化で暑さ対策	2024年08月23日(金)
〈特別評論〉対馬丸撃沈80年/教訓生かし悲鳴なき海に	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/23個人団体表彰/対馬丸記念会	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/「生きていたら94歳に」/弟失った金城さん	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/参加者の声	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/慰霊祭で無料公開/記念館20年の歩み、企画展	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/幼い面影忘れない/軍備強化に危機感/慰霊祭　遺族、子や孫と参列	2024年08月23日(金)
〈沖縄戦80年〉対馬丸撃沈80年/撃沈時刻合わせ黙とう/汽笛の音に継承誓う	2024年08月23日(金)
〈海鳴りやまず　撃沈船舶と対馬丸80年〉7/遺族会と行動を共に/生き残った者の務め/船体調査、記念館建設求める	2024年08月24日(土)
〈海鳴りやまず　撃沈船舶と対馬丸80年〉8/教え子亡くした曽祖母/平和をつないでいく/生き抜いたから私がいる	2024年08月25日(日)
〈マンガで伝える沖縄戦〉対馬丸記念館(下)/平良啓子さんの話/まんが・なかもとあやこ(2)	2024年08月25日(日)
〈マンガで伝える沖縄戦〉対馬丸記念館(下)/平良啓子さんの話/まんが・なかもとあやこ(1)	2024年08月25日(日)
〈沖縄戦80年〉対馬丸　悲劇歌い継ぐ/「海のトランペット」公演	2024年08月27日(火)
〈沖縄戦80年〉「死の海、想像できた」/児童ら　奄美研修振り返る	2024年08月27日(火)
来年度沖縄予算概算要求/142億円増、特定事業費最高	2024年08月31日(土)

2024年8月22日に開館20周年を迎えるにあたり、その前年の2023年５月に記念誌編集委員会を立ち上げ、発行予定を記念式典後の2024年10月を目標に制作がスタートしました。編集を編集事務所ヴァリエに委嘱し、通史編の執筆にとりかかりましたが、開館以来事務局組織が脆弱な状況で会務日誌などの日々の業務記録が無く、『対馬丸通信』と新聞報道をよりどころに、開館時より運営に携わる髙良代表理事、外間常務理事と私の3人で記憶のすり合わせを行い、通史編としてまとめることが出来ました。

「ひと、こと、もの」編の〈ひと〉の章では、対馬丸遭難者遺族会の結成時から、財団移行後に多大な貢献をされた方、あるいはその関係者の方に原稿を依頼しましたが、途中あの方にも、この方にもと当初想定していた人数を大幅に超え18人になりました。他にも当館にお寄せいただいたお気持ちを振り返っていただきたい方々はいらっしゃいましたが、諦めざるを得なかったのが少々心残りではあります。ご依頼に対して快く原稿をお寄せいただきましたみなさまに心よりお礼申し上げます。

編集作業の終盤で、対馬丸遭難者遺族会の初代会長を務められた浦崎康華さんの歌集『春夏秋冬』の存在を知り、〈ひと〉の章の末尾ではありますが、同歌集より、プロフィールと短歌をご紹介できたことがこの記念誌の一番の収穫かもしれません。

開館時の、今から20年前というのは写真がデジタルカメラへ移行した時期に当たり、フィルムカメラから、デジタルに変わった簡便さが枚数制限のない記録となり、残された写真の枚数が膨大な数にのぼりました。すべての写真を確認中に巻頭グラビアや通史に掲載するだけでは物足りなく思い、現在の職員や次の世代へ伝えることが、すべてのイベントを記憶している私の務めだと思い、年表にも写真を掲載することにしました。そのため確認作業に時間がかかり進行が随分と遅れてしまいましたが、掲載にこだわったことで、開館時にバイブルとして重宝した『あゝ学童疎開船対馬丸』のように、次世代が有効に活用できる記念誌になったのではないかと思っています。

具体的な作業では、対馬丸記念館の職員のみなさまに多忙な職務のかたわら資料収集、校正作業等多大なご協力を仰ぎ、おかげさまで素晴らしい記念誌となりました。感謝いたします。

原稿作成と進行管理の労を取っていただきました池宮照子様、十数回にわたった校正作業にお付き合いいただいた光文堂コミュニケーションズの石垣佐保子様に厚くお礼申し上げます。

大口寄付者の皆様や、遺族会並びに対馬丸のご協力者で故人となられた方のお名前が漏れていないか気がかりですが、もし漏れていましたら心よりおわび申し上げます。

約2年の長丁場となりましたが、私にとりましてもこの20年を振り返るよい機会となりました。本誌が、これからの当記念館の活動のバイブルとなるよう祈るばかりです。

2025年6月　慰霊の日を前にして

公益財団法人対馬丸記念会副代表理事
対馬丸記念館20周年記念誌編集委員編集長　**渡口 眞常**

対馬丸記念館20周年記念誌編集委員会

委 員 長　髙良政勝

編 集 長　渡口眞常

編集委員　外間邦子／嶋田玲子／平良次子／
大城喜代美／島袋貞治／池宮照子

校　　閲　田中佐知香／中川みどり

対馬丸記念館20周年記念誌

編　集／20周年記念誌編集委員会
委員長　髙良政勝

発　行／2025年3月31日

発行所／公益財団法人対馬丸記念会
〒900-0031
沖縄県那覇市若狭1-25-37
電話（098）941-3515　FAX（098）863-3683
Mail　info@tsushimamaru.or.jp